數人若ハ一人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産者ニ對シテ將來行フコトアルヘキ求償權ヲ有スル者ハ其ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ債權者カ其ノ債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ前項ノ求償權ヲ有スル者カ辨濟ヲ爲シタルトキハ其ノ辨濟ノ割合ニ應シテ債權者ノ權利ヲ取得ス

前二項ノ規定ハ擔保ヲ供シタル第三者カ破産者ニ對シテ將來行フコトアルヘキ求償權ニ付之ヲ準用ス

第二十七條　第二十四條、第二十五條及前條第一項第二項ノ規定ハ數人ノ保證人カ各自債務ノ一部ヲ負擔スヘキ場合ニ於テ其ノ負擔部分ニ付之ヲ準用ス

第二十八條　法人ノ債務ニ付其ノ債權者ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フ者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ法人ノ債權者ハ破産宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十九條　法人ノ債務ニ付其ノ債權者ニ對シテ有限ノ責任ヲ負フ者又ハ其ノ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ法人ノ債權者ハ有限ノ責任ヲ負フ者ニ對シテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス但シ法人ハ出資ノ請求ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第三十條　相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ財産ノ分離アリタルトキト雖相續債權者及受遺者ハ其ノ債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十一條　相續財産及相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續債權者及受遺者ハ其ノ債權ノ全額ニ付各破産財團ニ對シ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得民法第九百八十九條又ハ第九百九十一條ノ場合ニ於テ相續財産及前戸主、相續人及前戸主又ハ相續財産相續人及前戸主ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキ相續債權者ニ付亦同シ

第三十二條　前二條ノ場合ニ於テ破産ノ宣告ヲ受ケタル相續人カ限定承認ヲ爲シタルトキハ相續債權者及受遺者ハ相續人ノ固有財産ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ限定承認ノ效力ヲ有スル場合亦同シ

第三十三條　相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ハ其ノ被相續人ニ對スル債權及被相續人ノ債務消滅ノ爲ニ爲シタル出捐ニ付相續債權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第三十四條　相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ハ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス

第三十五條　相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第十三條ノ財産アルトキハ相續開始後ノ前戸主ノ債權者ハ債權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十六條　相續財産及前戸主ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第十三條ノ財産アルトキハ相續開始後ノ前戸主ノ債權者ハ債權ノ全額ニ付各破産財團ニ對シ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十七條　民法第九百八十九條又ハ第九百九十一條ノ場合ニ於テ相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ前戸主ハ將來行フコトアルヘキ求償權ノ全額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十六條第一項但書及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　左ニ揭クル請求權ハ之ヲ破産債權トセス但シ法人又ハ相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　破産宣告後ノ利息

二　破産宣告後ノ不履行ニ因ル損害賠償及違約金

三　破産手續參加ノ費用

四　罰金、科料、刑事訴訟費用、追徵金及過料

第三十九條　破産財團ニ屬スル財産ニ付一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル破産債權ハ他ノ債權ニ先ツ

第四十條　同一順位ニ於テ辨濟スヘキ債權ハ各其ノ債權額ノ割合ニ應シテ之ヲ辨濟ス

第四十一條　優先權カ一定ノ期間内ノ債權額ニ付存在スル場合ニ於テハ其ノ期間ハ破産宣告ノ時ヨリ遡リテ之ヲ計算ス

第四十二條　相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續債權者ノ債權ハ受遺者ノ債權又ハ相續開始後ノ前戸主ノ債權者ノ債權ニ先ツ

第四十三條　相續財産ニ對シ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル期間内ノ申立ニ因リ相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ノ債權ハ相續債權者及受遺者ノ債權ニ先チ相續財産ニ付テハ相續債權者及受遺者ノ債權ハ相續人ノ債權者ノ債權ニ先ツ

第四十四條　相續財産及相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債權者ノ債權ハ相續人ノ破産財團ニ付テハ相續債權者及受遺者ノ債權ニ先ツ

第四十五條　相續財産及前戸主ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續開始後ノ前戸主ノ債權者ノ債權ハ前戸主ノ破産財團ニ付テハ相續債權者ノ債權ニ先ツ

第四十六條　法人又ハ相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ債權額ト第十八條乃至第二十條ノ規定ニ依リテ定ル額トノ差額ノ請求權及第三十八條ニ揭クル請求權ハ法人ノ債權者又ハ相續債權者ノ他ノ債權ニ後ル

第四章　財團債權

第四十七條　左ニ揭クル請求權ハ之ヲ財團債權トス

一　破産債權者ノ共同ノ利益ノ爲ニスル裁判上ノ費用

二　國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依リ徵收スルコトヲ得ヘキ請求權但シ破産宣告後ノ原因ニ基ク請求權ハ破産財團ニ關シテ生シタルモノニ限ル

三　破産財團ノ管理、換價及配當ニ關スル費用

四　破産財團ニ關シ破産管財人ノ爲シタル行爲ニ因リテ生シタル請求權

五　事務管理又ハ不當利得ニ因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求權

六　委任終了又ハ代理權消滅ノ後急迫ノ必要ノ爲ニ爲シタル行爲ニ因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求權

七　第五十九條第一項ノ規定ニ依リ破産管財人カ債務ノ履行ヲ爲ス場合ニ於テ相手方カ有スル請求權

八　破産宣告ニ因リテ雙務契約ニ關シ解約ノ申入アリタル場合ニ於テ其ノ終了ニ至ル迄ノ間ニ生シタル請求權

九　破産者及之ニ扶養セラルル者ノ扶助料

第四十八條　破産管財人負擔附遺贈ノ履行ヲ受ケタルトキハ負擔ノ利益ヲ受クヘキ請求權ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テ之ヲ財團債權トス

第四十九條　財團債權ハ破産手續ニ依ラスシテ隨時之ヲ辨濟ス

第五十條　財團債權ハ破産財團ヨリ先ツ之ヲ辨濟ス

第五十一條　破産財團カ財團債權ノ總額ヲ辨濟スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ財團債權ノ辨濟ハ法令ニ定ムル優先權ニ拘ラス未タ辨濟セサル債權額ノ割合ニ應シテ之ヲ爲ス但シ財團債權ニ付存スル留置權、特別ノ先取特權、質權及抵當權ノ效力ヲ妨ケス

第四十七條第一號乃至第七號ノ財團債權ハ他ノ財團債權ニ先ツ

第五十二條　第十七條乃至第二十條、第二十二條及第二十三條第一項ノ規定ハ第四十七條第七號及第四十八條ニ規定スル財團債權ニ之ヲ準用ス

第五章　法律行爲ニ關スル破産ノ效力

第五十三條　破産者カ破産宣告ノ後破産財團ニ屬スル財産ニ關シテ爲シタル法律行爲ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

破産者カ破産宣告ノ日ニ於テ爲シタル法律行爲ハ破産宣告後ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第五十四條　破産宣告ノ後破産財團ニ屬スル財産ニ關シ破産者ノ法律行爲ニ因ラスシテ

權利ヲ取得スルモ其ノ取得ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ取得ニ之ヲ準用ス

第五十五條　不動産又ハ船舶ニ關シ破産宣告前ニ生シタル登記原因ニ基キ破産宣告ノ後爲シタル登記又ハ不動産登記法第二條第一號ノ規定ニ依ル假登記ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ登記權利者カ破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ爲シタル登記又ハ假登記ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ權利ノ設定、移轉又ハ變更ニ關スル登錄又ハ假登錄ニ付之ヲ準用ス

第五十六條　破産宣告ノ後其ノ事實ヲ知ラスシテ破産者ニ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得

破産宣告ノ後其ノ事實ヲ知リテ破産者ニ爲シタル辨濟ハ破産財團カ受ケタル利益ノ限度ニ於テノミ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得

第五十七條　爲替手形ノ振出人又ハ裏書人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ支拂人又ハ豫備支拂人カ其ノ事實ヲ知ラスシテ引受又ハ支拂ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ生シタル債權ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ小切手及金錢其ノ他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス

第五十八條　前三條ノ規定ノ適用ニ付テハ破産宣告ノ公告前ニ在リテハ其ノ事實ヲ知ラサリシモノト推定シ公告後ニ在リテハ其ノ事實ヲ知リタルモノト推定ス

第五十九條　雙務契約ニ付破産者及其ノ相手方カ破産宣告ノ當時未タ共ニ其ノ履行ヲ完了セサルトキハ破産管財人ハ其ノ選擇ニ從ヒ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ破産者ノ債務ヲ履行シテ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ相手方ハ破産管財人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ契約ノ解除ヲ爲スカ又ハ債務ノ履行ヲ請求スルカヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得破産管財人カ其ノ期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第六十條　前條ノ規定ニ依リ契約ノ解除アリタルトキハ相手方ハ損害ノ賠償ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

破産者ノ受ケタル反對給付カ破産財團中ニ現存スルトキハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ現存セサルトキハ其ノ價額ニ付財團債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第六十一條　取引所ノ相場アル商品ノ賣買ニ付一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ時期カ破産宣告後ニ到來スヘキトキハ契約ノ解除アリタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ損害賠償ノ額ハ履行地又ハ其ノ地ノ相場ノ標準ト爲ルヘキ地ニ於ケル同種ノ取引ニシテ同一ノ時期ニ履行スヘキモノノ相場ト賣買ノ代價トノ差額ニ依リテ之ヲ定ム

前條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル損害賠償ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ付取引所ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ其ノ定ニ從フ

第六十二條　第五十九條第二項ノ規定ハ民法第六百二十一條、第六百三十一條又ハ第六百四十二條第一項ノ規定ニ依リ相手方又ハ破産管財人カ有スル解除權ノ行使ニ付之ヲ準用ス

第六十三條　賃貸人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ借賃ノ前拂又ハ借賃ノ債權ノ處分ハ破産宣告ノ時ニ於ケル當期及次期ニ關スルモノヲ除クノ外之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得サルニ因リテ損害ヲ受ケタル者ハ其ノ損害ノ賠償ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

前二項ノ規定ハ地上權及永小作權ニ付之ヲ準用ス

第六十四條　破産者カ請負契約ニ因リ仕事ヲ爲ス義務ヲ負擔スルトキハ破産管財人ハ必要ナル材料ヲ供シ破産者ヲシテ其ノ仕事ヲ爲サシムルコトヲ得其ノ仕事カ破産者自ラ爲スコトヲ要セサルモノナルトキハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ破産者カ其ノ相手方ヨリ受クヘキ報酬ハ破産財團ニ屬ス

第六十五條　委任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ受任者カ破産宣告ノ通知ヲ受ケス且破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ委任事務ヲ處理シタルトキハ之ニ因リテ生シタル債權ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第六十六條　交互計算ハ當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ終了ス此ノ場合ニ於テハ各當事者ハ計算ヲ閉鎖シ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル請求權ハ破産者之ヲ有スルトキハ破産財團ニ屬シ相手方之ヲ有スルトキハ破産債權トス

第六十七條　數人共同シテ財産權ヲ有スル場合ニ於テ共有者ノ中破産ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ分割ヲ爲ササル定アルトキト雖破産手續ニ依ラスシテ其ノ分割ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ他ノ共有者ハ相當ノ償金ヲ拂ヒテ破産者ノ持分ヲ取得スルコトヲ得

第六十八條　民法第七百九十六條第二項第三項及第七百九十七條ノ規定ハ配偶者ノ財産ヲ管理スル者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ、同法第八百九十七條ノ規定ハ親權ヲ行フ者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條　破産財團ニ屬スル財産ニ關シ破産宣告ノ當時繫屬スル訴訟ハ破産管財人又ハ相手方ニ於テ之ヲ受繼クコトヲ得第四十七條第七號ニ揭クル請求權ニ關スル訴訟ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ訴訟費用ハ之ヲ財團債權トス

第七十條　破産債權ニ付破産財團ニ屬スル財産ニ對シ爲シタル強制執行、假差押又ハ假處分ハ破産財團ニ對シテハ其ノ效力ヲ失フ但シ強制執行ニ付テハ破産管財人ニ於テ破産財團ノ爲其ノ手續ヲ續行スルコトヲ妨ケス

前項但書ノ規定ニ依リ破産管財人カ強制執行ノ手續ヲ續行スルトキハ費用ハ之ヲ財團債權トシ強制執行ニ對スル第三者ノ異議ノ訴ニ付テハ破産管財人ヲ以テ被告トス

前二項ノ規定ハ一般ノ先取特權者カ破産財團ニ屬スル財産ニ對シ爲シタル競賣手續ニ之ヲ準用ス

第七十一條　破産財團ニ屬スル財産ニ對シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依リ滯納處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ破産ノ宣告ハ其ノ處分ノ續行ヲ妨ケス

破産財團ニ關スル事件ニシテ破産宣告ノ當時行政廳ニ係屬スルモノアルトキハ其ノ手續ハ受繼又ハ破産手續ノ解止ニ至ル迄之ヲ中斷ス

第六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六章　否認權

第七十二條　左ニ揭クル行爲ハ破産財團ノ爲之ヲ否認スルコトヲ得

一　破産者カ破産債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル行爲但シ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ノ當時破産債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

二　破産者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後ニ爲シタル擔保ノ供與、債務ノ消滅ニ關スル行爲其ノ他破産債權者ヲ害スル行爲但シ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキニ限ル

三　前號ノ行爲カ破産者ノ親族、戸主、家族又ハ同居者ヲ相手方トスルモノ但シ相手方カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

四　破産者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後又ハ其ノ前三十日内ニ爲シタル

擔保ノ供與又ハ債務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ破産者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ破産者ノ義務ニ屬セサルモノ但シ債權者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタルコト又ハ破産債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

五　破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後又ハ其ノ前六月内ニ爲シタル無償行爲及之ト同視スヘキ有償行爲

第七十三條　前條ノ規定ハ破産者ヨリ手形ノ支拂ヲ受ケタル者カ其ノ支拂ヲ受ケサレハ債務者ノ一人又ハ數人ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヘカリシ場合ニハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テ最終ノ償還義務者又ハ手形ノ振出ヲ委託シタル者カ振出ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキハ破産管財人ハ之ヲシテ破産者カ支拂ヒタル金額ヲ償還セシムルコトヲ得

第七十四條　支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後權利ノ設定、移轉又ハ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルニ必要ナル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ行爲カ權利ノ設定、移轉又ハ變更アリタル日ヨリ十五日ヲ經過シタル後惡意ニテ爲シタルモノナルトキハ之ヲ否認スルコトヲ得但シ登記及登錄ニ付テハ假登記又ハ假登錄アリタル後本登記又ハ本登錄ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ權利取得ノ效力ヲ生スル登錄ニ付之ヲ準用ス

第七十五條　否認セムトスル行爲ニ付執行力アル債務名義アルトキ又ハ其ノ行爲カ執行行爲ニ基クモノナルトキト雖之ヲ否認スルコトヲ妨ケス

第七十六條　否認權ハ訴又ハ抗辯ニ依リ破産管財人之ヲ行フ

第七十七條　否認權ノ行使ハ破産財團ヲ原狀ニ復セシム

第七十二條第五號ニ揭クル行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ相手方カ行爲ノ當時善意ナリシトキハ其ノ現ニ受クル利益ヲ償還スルヲ以テ足ル

第七十八條　破産者ノ行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ其ノ受ケタル反對給付カ破産財團中ニ現存スルトキハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ反對給付ニ因リテ生シタル利益カ現存スルトキハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

反對給付ニ因リテ生シタル利益カ現存セサルトキハ相手方ハ其ノ價額ノ償還ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得反對給付ノ價額カ現存スル利益ヨリ大ナル場合ニ於テ其ノ差額ニ付亦同シ

第七十九條　破産者ノ行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ相手方カ其ノ受ケタル給付ヲ返還シ又ハ其ノ價額ヲ償還シタルトキハ相手方ノ債權ハ之ニ因リテ原狀ニ復ス

第八十條　第七十二條、第七十三條及前二條ノ規定ハ相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ被相續人、相續人、相續財産ノ管理人及遺言執行者カ相續財産ニ關シテ爲シタル行爲竝前戸主カ第十三條ノ財産ニ關シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第八十一條　相續財産ニ對シ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ受遺者ニ對スル辨濟其ノ他債務ノ消滅ニ關スル行爲カ其ノ債權ニ先ツ債權ヲ有スル破産債權者ヲ害スルトキハ之ヲ否認スルコトヲ得

第八十二條　相續財産ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ第八十條ニ規定スル行爲カ否認セラレタルトキハ相續債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後否認セラレタル行爲ノ相手方ニ其ノ權利ノ價額ニ應シテ殘餘財産ヲ分配スルコトヲ要ス

第八十三條　左ノ場合ニ於テハ否認權ハ轉得者ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得

一　轉得者カ轉得ノ當時各其ノ前者ニ對スル否認ノ原因アルコトヲ知リタルトキ

二　轉得者カ破産者ノ親族、戸主、家族又ハ同居者ナルトキ但シ轉得ノ當時各其ノ前者ニ對スル否認ノ原因アルコトヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

三　轉得者カ無償行爲又ハ之ト同視スヘキ有償行爲ニ因リテ轉得シタル場合ニ於テ各其ノ前者ニ對シ否認ノ原因アルトキ

第七十七條第二項ノ規定ハ前項第三號ノ規定ニ依リ否認權ノ行使アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十四條　破産宣告ノ日ヨリ一年前ニ爲シタル行爲ハ支拂停止ノ事實ヲ知リタルコトヲ理由トシテ之ヲ否認スルコトヲ得ス

第八十五條　否認權ハ破産宣告ノ日ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス行爲ノ日ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第八十六條　民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ破産債權者ノ提起シタル訴訟カ破産宣告ノ當時繫屬スルトキハ其ノ訴訟手續ハ受繼又ハ破産手續ノ解止ニ至ル迄之ヲ中斷ス

第六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七章　取戻權

第八十七條　破産ノ宣告ハ破産者ニ屬セサル財産ヲ破産財團ヨリ取戻ス權利ニ影響ヲ及ホサス

第八十八條　破産宣告前破産者ニ財産ヲ讓渡シタル者ハ擔保ノ目的ヲ以テシタルコトヲ理由トシテ其ノ財産ヲ取戻スコトヲ得ス

第八十九條　賣主カ賣買ノ目的タル物品ヲ買主ニ發送シタル場合ニ於テ買主カ未タ代金ノ全額ヲ辨濟セス且到達地ニ於テ其ノ物品ヲ受取ラサル間ニ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賣主ハ其ノ物品ヲ取戻スコトヲ得但シ破産管財人カ代金ノ全額ヲ支拂ヒテ其ノ物品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ規定ハ第五十九條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第九十條　前條第一項ノ規定ハ物品買入ノ委託ヲ受ケタル問屋カ其ノ物品ヲ委託者ニ發送シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九十一條　破産者カ破産宣告前取戻權ノ目的タル財産ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ取戻權利者ハ反對給付ノ請求權ノ移轉ヲ請求スルコトヲ得破産管財人カ取戻權ノ目的タル財産ヲ讓渡シタル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テ破産管財人カ反對給付ヲ受ケタルトキハ取戻權者ハ破産管財人カ反對給付トシテ受ケタル財産ノ給付ヲ請求スルコトヲ得

第八章　別除權

第九十二條　破産財團ニ屬スル財産ノ上ニ存スル特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ目的タル財産ニ付別除權ヲ有ス

第九十三條　破産財團ニ屬スル財産ノ上ニ存スル留置權ニシテ商法ニ依ルモノハ破産財團ニ對シテハ之ヲ特別ノ先取特權ト看做ス

此ノ先取特權ハ他ノ特別ノ先取特權ニ後ル

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外留置權ハ破産財團ニ對シテハ其ノ效力ヲ失フ

第九十四條　數人共同シテ財産權ヲ有スル場合ニ於テ其ノ一人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ之ニ對シ共有ニ關スル債權ヲ有スル他ノ共有者ハ分割ニ因リテ破産者ニ歸スヘキ共有財産ノ部分ニ付別除權ヲ有ス

第九十五條　別除權ハ破産手續ニ依ラスシテ之ヲ行フ

第九十六條　別除權者ハ其ノ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサル債權額ニ付テノミ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ別除權ヲ抛棄シタル債權額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第九十七條　破産財團ニ屬セサル破産者ノ財産ノ上ニ特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサル債權額ニ付テノミ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得華族世襲財産ヲ差押フル權利ヲ有スル者及破産者カ更ニ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ前ノ破産ニ付破産債權ヲ有スル者亦同シ

前項ニ揭クル權利ヲ有スル者ニハ第二編中別除權ニ關スル規定ヲ準用ス

第九章　相殺權

第九十八條　破産債權者カ破産宣告ノ當時破産者ニ對シテ債務ヲ負擔スルトキハ破産手續ニ依ラスシテ相殺ヲ爲スコトヲ得

第九十九條　破産債權者ノ債權カ破産宣告ノ時ニ於テ期限附若ハ解除條件附ナルトキ又ハ第二十二條ニ揭クルモノナルトキト雖相殺ヲ爲スコトヲ妨ケス債務カ期限附若ハ條件附ナルトキ又ハ將來ノ請求權ニ關スルモノナルトキ亦同シ

第百條　停止條件附債權又ハ將來ノ請求權ヲ有スル者カ其ノ債務ヲ辨濟スル場合ニ於テハ後日相殺ヲ爲ス爲其ノ債權額ノ限度ニ於テ辨濟額ノ寄託ヲ請求スルコトヲ得

第百一條　解除條件附債權ヲ有スル者カ相殺ヲ爲ストキハ其ノ相殺額ニ付擔保ヲ供シ又ハ寄託ヲ爲スコトヲ要ス

第百二條　第十八條乃至第二十條、第二十二條及第二十三條ノ規定ハ破産債權者ノ債權ニ之ヲ準用ス

第百三條　破産債權者カ賃借人ナルトキハ破産宣告ノ時ニ於ケル當期及次期ノ借賃ニ付相殺ヲ爲スコトヲ得敷金アルトキハ其ノ後ノ借賃ニ付亦同シ

前項ノ規定ハ地代及小作料ニ付之ヲ準用ス

第百四條　左ノ場合ニ於テハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス

一　破産債權者カ破産宣告ノ後破産財團ニ對シテ債務ヲ負擔シタルトキ

二　破産者ノ債務者カ破産宣告ノ後他人ノ破産債權ヲ取得シタルトキ

三　破産者ノ債務者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リテ破産債權ヲ取得シタルトキ但シ其ノ取得カ法定ノ原因ニ基クトキ、債務者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リタル時ヨリ前ニ生シタル原因ニ基クトキ又ハ破産宣告ノ時ヨリ一年前ニ生シタル原因ニ基クトキハ此ノ限ニ在ラス

第二編　手續規定

第一章　總則

第百五條　破産事件ハ債務者カ營業者ナルトキハ其ノ主タル營業所ノ所在地、外國ニ主タル營業所ヲ有スルトキハ日本ニ於ケル主タル營業所ノ所在地、營業者ニ非サルトキ又ハ營業所ヲ有セサルトキハ其ノ普通裁判籍ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第百六條　相續財産ニ關スル破産事件ハ相續開始地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第百七條　前二條ノ規定ニ依ル管轄裁判所ナキトキハ財産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

債權ハ裁判上ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル地ヲ以テ其ノ所在地ト看做ス

前二項ノ規定ニ依リ二以上ノ裁判所カ管轄權ヲ有スルトキハ先ニ破産ノ申立アリタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第百八條　破産手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ民事訴訟法ヲ準用ス

第百九條　破産事件ニ關シテハ裁判所ハ互ニ法律上ノ輔助ヲ求ムルコトヲ得

第百十條　破産手續ニ關スル裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ破産事件ニ關シ必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第百十一條　破産手續ニ關スル裁判ハ職權ヲ以テ其ノ送達ヲ爲スコトヲ要ス

第百十二條　破産手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本編ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス

第百十三條　抗告裁判所ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス但シ裁判所ハ其ノ決定ヲ以テ直ニ效力ヲ生スヘキコトヲ定ムルコトヲ得

抗告裁判所ノ破産ノ宣告ハ前項ノ規定ニ拘ラス直ニ其ノ效力ヲ生ス

第百十四條　破産手續ニ關スル申立、陳述及抗告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第百十五條　本編ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ官報及登記事項ノ公告ヲ揭載スヘキ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス

公告ハ最終ノ揭載アリタル日ノ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第百十六條　裁判所ノ管轄内ニ前條第一項ノ新聞紙ナキトキハ公告ハ裁判所及破産者ノ營業所若ハ住所ノ所在地ノ出張所又ハ其ノ管轄内ノ市役所、町村役場若ハ之ニ準スヘキ公署ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ公告ハ揭示ノ日ヨリ三日ヲ經過シタル後其ノ效力ヲ生ス

第百十七條　本編ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百十八條　本編ノ規定ニ依リ公告ノ外送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ公告ハ一切ノ關係人ニ對スル送達ノ效力ヲ有ス

第百十九條　法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ遲滯ナク囑託書ニ破産決定書ノ謄本ヲ添附シテ破産ノ登記ヲ各營業所又ハ各事務所ノ所在地ノ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第百二十條　裁判所カ破産者ニ關スル登記アルコトヲ知リタルトキハ職權ヲ以テ遲滯ナク囑託書ニ破産決定書ノ謄本ヲ添附シテ破産ノ登記ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス破産財團ニ屬スル權利ニシテ登記シタルモノアルコトヲ知リタルトキ亦同シ

第百二十一條　前二條ノ規定ハ破産取消、破産廢止又ハ強制和議取消ノ決定カ確定シタル場合及破産終結ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス破産管財人カ破産ノ登記アリタル權利ヲ破産財團ヨリ抛棄シタル場合ニ於テ登記囑託ノ申立アリタルトキ亦同シ

第百二十二條　登記所カ前三條ノ規定ニ依リテ登記ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

第百二十三條　登記ノ原因タル行爲カ否認セラレタルトキハ破産管財人ハ否認ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス登記カ否認セラレタルトキ亦同シ

第百二十一條及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十四條　前四條ノ規定ハ破産財團ニ屬スル權利ニシテ登錄シタルモノニ之ヲ準用ス

第百二十五條　法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ法人カ設立又ハ目的タル事業ニ付官廳ノ許可アリタルモノナルトキハ裁判所ハ破産ノ宣告アリタル旨ヲ主務官廳ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ破産取消、破産廢止又ハ強制和議取消ノ決定カ確定シタル場合及破産終結ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二章　破産宣告

第百二十六條　債務者カ支拂ヲ爲スコト能ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス

債務者カ支拂ヲ停止シタルトキハ支拂ヲ爲スコト能ハサルモノト推定ス

第百二十七條　法人ニ對シテハ其ノ財産ヲ以テ債務ヲ完濟スルコト能ハサル場合ニ於テモ亦破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ存立中ノ合名會社及合資會社ニハ之ヲ適用セス

第百二十八條　[illegible]ト雖殘餘[illegible]

第百二十九條　[illegible]

第百三十條　[illegible]

第百三十一條　[illegible]四十一條[illegible]

スル辨濟カ未タ終了セサル間亦同シ

第百三十二條　債權者又ハ債務者ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

債權者カ破産ノ申立ヲ爲ストキハ其ノ債權ノ存在及破産ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第百三十三條　民法ニ依リテ設立シタル法人又ハ産業組合ニ對シテハ理事、合名會社合資會社又ハ株式合資會社ニ對シテハ無限責任社員、株式會社又ハ相互保險會社ニ對シテハ取締役ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ニ規定スル法人ニ對シテハ清算人モ亦破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三十四條　理事、無限責任社員、取締役又ハ清算人ノ全員カ破産ノ申立ヲ爲ササル場合ニ於テハ破産ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第百三十五條　前二條ノ規定ハ第百三十三條ニ規定スル法人以外ノ法人ニ之ヲ準用ス

第百三十六條　相續財産ニ對シテハ相續債權者及受遺者ノ外相續人、相續財産管理人及遺言執行者モ亦破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

相續財産管理人、遺言執行者又ハ限定承認若ハ財産分離アリタル場合ニ於テハ相續人カ相續財産ヲ以テ相續債權者及受遺者ニ對スル債務ヲ完濟スルコト能ハサルコトヲ發見シタルトキハ直ニ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス

相續人、相續財産管理人又ハ遺言執行者カ破産ノ申立ヲ爲ストキハ破産ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第百三十七條　破産申立ノ當時既ニ外國ニ於テ破産ノ宣告アリタルトキハ破産申立人ハ破産ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要セス

第百三十八條　破産申立人カ債權者ニ非サルトキハ申立ト同時ニ財産ノ概況ヲ示スヘキ書面竝債權者及債務者ノ一覽表ヲ提出スルコトヲ要ス申立ト同時ニ提出スルコト能ハサルトキハ爾後遲滯ナク之ヲ提出スルコトヲ要ス

第百三十九條　債權者カ破産ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ破産手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス豫納ナキトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

費用ノ豫納ニ關スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百四十條　破産申立人カ債權者ニ非サルトキハ破産手續ノ費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨ス破産申立人カ債權者ナル場合ニ於テ費用ノ豫納ナキニ拘ラス裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキ、豫納金カ不足ナルニ至リタルトキ及裁判所カ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百四十一條　破産決定書ニハ破産宣告ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十二條　裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ破産管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一　債權屆出ノ期間但シ其ノ期間ハ破産宣告ノ日ヨリ二週間以上四月以下ナルコトヲ要ス
二　第一回ノ債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ハ破産宣告ノ日ヨリ一月内ナルコトヲ要ス
三　債權調査ノ期日但シ其ノ期日ト債權屆出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス

前項第二號及第三號ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ妨ケス

第百四十三條　裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一　破産決定ノ主文
二　破産管財人ノ氏名及住所
三　前條ノ規定ニ依リ定メタル期間及期日
四　破産者ノ債務者及破産財團ニ屬スル財産ノ所持者ハ破産者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ其ノ財産ヲ交付スヘカラサル旨及債務ヲ負擔スルコト又ハ其ノ財産ヲ所持スルコト、所持者カ別除權ヲ有スルトキハ其ノ債權ヲ有スルコトヲ一定ノ期間内ニ破産管財人ニ屆出ツヘキ旨ノ命令

知レタル債權者、債務者及財産所持者ニハ前項ニ揭クル事項ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ第一項第二號乃至第四號ニ揭クル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一項第四號ノ屆出ヲ怠リタル者ハ之ニ因リテ破産財團ニ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第百四十四條　裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ檢事ニ通知スルコトヲ要ス

第百四十五條　裁判所カ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認ムルトキハ破産ノ宣告ト同時ニ破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破産決定ノ主文竝破産廢止ノ決定ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ破産廢止ノ決定ノ取消カ確定シタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス

第百四十六條　前條ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、産業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セス破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ豫納アリタル場合亦同シ

第百四十七條　破産者ハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ居住地ヲ離ルルコトヲ得ス

第百四十八條　裁判所ハ必要ト認ムルトキハ破産者ノ引致ヲ命スルコトヲ得

引致ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ爲ス

引致ニハ刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ヲ準用ス

第百四十九條　破産者カ逃走シ又ハ財産ヲ隱匿若ハ毀棄スル虞アルトキハ裁判所ハ其ノ監守ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス檢事ハ破産者ノ居住地ヲ管轄スル警察官署ニ命シテ監守ヲ執行セシム

第百五十條　監守ヲ命セラレタル破産者ハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ外人ト面接又ハ通信スルコトヲ得ス

第百五十一條　監守ノ必要カ止ミタルトキハ裁判所ハ破産者若ハ破産管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ監守ノ決定ヲ取消スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス檢事ハ警察官署ニ命シテ監守ヲ解カシム

第百五十二條　前五條ノ規定ハ破産者ノ法定代理人、理事及之ニ準スヘキ者竝支配人ニ付之ヲ準用ス相續財産ニ對スル破産ニ於テ相續人及前戸主竝其ノ法定代理人及支配人ニ付亦同シ

第百五十三條　破産者、其ノ代理人竝其ノ理事及之ニ準スヘキ者ハ破産管財人、監査委員又ハ債權者集會ノ請求ニ因リ破産ニ關シ必要ナル説明ヲ爲スコトヲ要ス相續財産ニ對スル破産ニ於テ相續人、前戸主、相續財産管理人、遺言執行者竝相續人及前戸主ノ代理人亦同シ

前項ノ規定ハ前ニ前項ニ規定スル資格ヲ有シタル者ニ之ヲ準用ス

第百五十四條　破産ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産宣告前ト雖債務者及第百五十二條ニ規定スル者ノ引致又ハ監守ヲ命スルコトヲ得

第百五十五條　破産ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産宣告前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産財團ニ關シ假差押、假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

第百五十六條　破産取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テハ裁判所ハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

第百四十三條第二項、第百四十四條、第百五十一條第二項、第百五十二條及第三百五十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三章　破産管財人

第百五十七條　破産管財人ハ裁判所之ヲ選任ス

第百五十八條　破産管財人ハ一人トス但シ裁判所必要ト認ムルトキハ數人ヲ選任スルコトヲ得

第百五十九條　裁判所ハ破産管財人ニ其ノ選任ヲ證スル書面ヲ交付スルコトヲ要ス

破産管財人ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ利害關係人ノ請求アルトキハ前項ノ書面ヲ示スコトヲ要ス

第百六十條　破産管財人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス

破産管財人カ其ノ任務ヲ辭セムトスルトキハ裁判所ニ申立ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十一條　破産管財人ハ裁判所ノ監督ニ屬ス

第百六十二條　破産財團ニ關スル訴訟ニ付テハ破産管財人ヲ以テ原告又ハ被告トス

第百六十三條　破産管財人數人アルトキハ共同シテ其ノ職務ヲ行フ但シ裁判所ノ許可ヲ得テ職務ヲ分掌スルコトヲ得

破産管財人數人アルトキハ第三者ノ意思表示ハ其ノ一人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ル

第百六十四條　破産管財人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ職務ヲ行フコトヲ要ス

破産管財人カ前項ノ注意ヲ怠リタルトキハ其ノ破産管財人ハ利害關係人ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第百六十五條　破産管財人ハ臨時故障アル場合ニ於テ其ノ職務ヲ行ハシムル爲自己ノ責任ヲ以テ豫メ代理人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ代理人ノ選任ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第百六十六條　破産管財人ハ費用ノ前拂及報酬ヲ受クルコトヲ得其ノ額ハ裁判所之ヲ定ム

第百六十七條　裁判所ハ債權者集會ノ決議若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産管財人ヲ解任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ破産管財人ヲ審訊スルコトヲ要ス

第百六十八條　破産管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ破産管財人又ハ其ノ相續人ハ遲滯ナク債權者集會ニ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

破産者、破産債權者又ハ後任ノ破産管財人カ債權者集會ニ於テ計算ニ付異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

破産管財人ハ利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲計算報告書及監査委員ノ意見書ヲ債權者集會ノ日ヨリ三日前ニ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第百六十九條　破産管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ破産管財人又ハ其ノ相續人ハ後任ノ破産管財人又ハ破産者カ財産ヲ管理スルコトヲ得ルニ至ル迄必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

第四章　監査委員

第百七十條　監査委員ヲ置クカ否ハ第一回ノ債權者集會ニ於テ之ヲ議決スルコトヲ要ス但シ後ノ債權者集會ニ於テ其ノ決議ヲ變更スルコトヲ得

第百七十一條　監査委員ハ三人以上トシ債權者集會ニ於テ之ヲ選任ス

監査委員ノ選任ノ決議ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第百七十二條　監査委員ノ職務ノ執行ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第百七十三條　各監査委員ハ何時ニテモ破産管財人ニ對シテ破産財團ニ關スル報告ヲ求メ又ハ破産財團ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第百七十四條　監査委員ハ何時ニテモ債權者集會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ監査委員ヲ解任スルコトヲ得

第百七十五條　第百六十四條及第百六十六條ノ規定ハ監査委員ニ之ヲ準用ス

第五章　債權者集會

第百七十六條　債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所之ヲ招集ス屆出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル破産債權者ノ申立アリタルトキ亦同シ

第百七十七條　債權者集會ノ期日及會議ノ目的タル事項ハ裁判所之ヲ公告スルコトヲ要ス

債權者集會ノ延期又ハ續行ニ付言渡アリタルトキハ送達又ハ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第百七十八條　債權者集會ハ裁判所之ヲ指揮ス

第百七十九條　債權者集會ノ決議ニハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ半額ヲ超ユル者ノ同意アルコトヲ要ス

債權者集會ノ決議ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得ス

第百八十條　前條ノ規定ニ依リ決議ヲ爲スコト能ハサルトキト雖議決スヘキ事項ニ付同意シタル者ノ債權額カ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破産債權者ノ總債權ノ半額ヲ超ユルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ決議アリタルモノト看做スコトヲ得

前項ノ決定ハ裁判所之ヲ公告スルコトヲ要ス其ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百八十一條　破産債權者ハ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第百八十二條　破産債權者ハ確定債權額ニ應シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

未確定債權、停止條件附債權、將來ノ請求權又ハ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ニ付破産管財人又ハ破産債權者ノ異議アルトキハ裁判所ハ議決權ヲ行ハシムヘキカ否及如何ナル金額ニ付之ヲ行ハシムヘキカヲ定ム

裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ何時ニテモ前項ノ規定ニ依ル決定ヲ變更スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル決定ハ其ノ言渡アリタルトキハ送達ヲ爲スコトヲ要セス其ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百八十三條　債權者集會ノ決議ハ之ヲ以テ監査委員ノ同意ニ代フルコトヲ得

債權者集會ノ決議カ監査委員ノ意見ト異ナルトキハ其ノ決議ニ從フ

第百八十四條　債權者集會ノ決議カ破産債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキハ裁判所ハ破産管財人、監査委員若ハ破産債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ決議ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得

議決權ヲ有[illegible]破産債權者カ前項ノ申立ヲ爲スニハ[illegible]疏明スルコトヲ要ス

第一項ノ規[illegible]リタルトキ[illegible]

第六章　破産財團ノ管理及換價

第百八十五條　破産管財人ハ就職ノ後直ニ破産財團ニ屬スル財産ノ占有及管理ニ著手スルコトヲ要ス

第百八十六條　破産管財人ハ必要ト認ムルトキハ裁判所書記、執達吏又ハ公證人ヲシテ破産財團ニ屬スル財産ニ封印ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ[illegible]調書ヲ作ル[illegible]

前項ノ規定[illegible]

第百八十七條　[illegible]ニ破産者ノ[illegible]署名捺印シ[illegible]記載スルコ[illegible]

第百八十八條　[illegible]所書記、執[illegible]産財團ニ屬[illegible]ルコトヲ要[illegible]トヲ要ス

第百八十九條　[illegible]對照表ヲ作[illegible]破産管財人[illegible]ニ署名捺印[illegible]要ス封印ニ[illegible]利害關係人[illegible]求ムルコト[illegible]

第百九十條　裁判所ハ通信官署又ハ公衆通信取扱所ニ對シ破産者ニ宛テタル郵便物又ハ電報ヲ破産管財人ニ配達スヘキ旨ヲ囑託ス

ルコトヲ要ス

破産管財人ハ其ノ受取リタル前項ノ郵便物又ハ電報ノ開披ヲ爲スコトヲ得

破産者ハ前項ノ郵便物又ハ電報ノ閲覽ヲ求メ且破産財團ニ關セサルモノノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第百九十一條 裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ破産管財人ノ意見ヲ聽キ前條第一項ノ囑託ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

破産取消若ハ破産廢止ノ決定カ確定シタルトキ又ハ破産終結ノ決定アリタルトキハ裁判所ハ前條第一項ノ囑託ヲ取消スコトヲ要ス

第百九十二條 第一回ノ債權者集會前ニ於テハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ破産者及之ニ扶養セラルル者ニ扶助料ヲ與ヘ又ハ破産者ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ノ保管方法ハ裁判所之ヲ定ム

第百九十三條 破産管財人ハ破産宣告ニ至リタル事情並破産者及破産財團ニ關スル經過及現狀ニ付第一回ノ債權者集會ニ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十四條 第一回ノ債權者集會ニ於テハ扶助料ノ給與、營業ノ廢止又ハ繼續及高價品ノ保管方法ニ付決議ヲ爲スコトヲ要ス

第百九十五條 破産管財人ハ別除權者ニ對シ其ノ權利ノ目的タル財産ヲ示スヘキコトヲ求ムルコトヲ得

破産管財人カ前項ノ財産ヲ評價セムトスルトキハ別除權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第百九十六條 一般ノ債權調査ノ終了前ニ於テハ破産管財人ハ破産財團ノ換價ヲ爲スコトヲ得ス一般ノ債權調査ノ終了前强制和議ノ提供アリタル場合ニ於テ其ノ落著ニ至ル迄亦同シ

破産財團ニ屬スル財産ニシテ遲滯ナク之ヲ換價スルニ非サレハ破産財團ニ損害ヲ生スル虞アルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ破産管財人其ノ換價ヲ爲スコトヲ得

第百九十七條 破産管財人左ニ揭クル行爲ヲ爲スニハ監査委員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ第七號乃至第十四號ニ揭クル行爲ニ付千圓以上ノ價額ヲ有スルモノニ關セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 不動産ニ關スル物權、登記スヘキ日本船舶及外國船舶ノ任意賣却
二 鑛業權、漁業權、特許權、意匠權、實用新案權及著作權ノ任意賣却
三 營業ノ讓渡
四 商品ノ一括賣却
五 借財
六 第九條第二項ノ規定ニ依ル相續抛棄ノ承認、第十條ノ規定ニ依ル包括遺贈抛棄ノ承認及第十一條第一項ノ規定ニ依ル特定遺贈ノ抛棄
七 動産ノ任意賣却
八 債權及有價證券ノ讓渡
九 第五十九條第一項ノ規定ニ依ル履行ノ請求
十 訴ノ提起
十一 和解及仲裁契約
十二 權利ノ抛棄
十三 財團債權、取戻權及別除權ノ承認
十四 別除權ノ目的ノ受戾

第百九十八條 第一回ノ債權者集會前ニ於テ前條ノ規定ニ依リ監査委員ノ同意ヲ要スル行爲ヲ爲スノ必要アルトキハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

監査委員ヲ置カサル場合ニ於テハ破産管財人ハ債權者集會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス但シ急迫ノ必要アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルヲ以テ足ル

第百九十九條 前二條ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ遲滯ノ虞アル場合ヲ除クノ外破産者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第二百條 破産管財人カ第百九十七條ニ揭クル行爲ヲ爲スニ付監査委員ノ同意ヲ得タルトキト雖裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ其ノ行爲ノ執行ノ中止ヲ命シ且其ノ行爲ニ關スル決議ヲ爲サシムル爲債權者集會ヲ招集スルコトヲ得

第二百一條 破産管財人カ第百九十六條乃至第百九十八條ノ規定ニ違反シ又ハ前條ノ規定ニ依ル執行中止ノ命令ニ違反シタルトキト雖之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百二條 第百九十七條第一號及第二號ニ揭クルモノノ換價ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ爲ス

第二百三條 破産管財人ハ民事訴訟法ニ依リ別除權ノ目的タル財産ノ換價ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別除權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ別除權者ノ受クヘキ金額カ未タ確定セサルトキハ破産管財人ハ代金ヲ別ニ寄託スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ別除權ハ代金ノ上ニ存ス

第二百四條 別除權者カ法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ別除權ノ目的ヲ處分スル權利ヲ有スルトキハ裁判所ハ破産管財人ノ申立ニ因リ別除權者カ其ノ處分ヲ爲スヘキ期間ヲ定ム

別除權者カ前項ノ期間內ニ處分ヲ爲ササルトキハ前項ノ權利ヲ失フ

第二百五條 破産管財人ハ債權者集會ノ定ムル所ニ依リ債權者集會又ハ監査委員ニ破産財團ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第二百六條 破産管財人カ其ノ寄託シタル貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ノ返還ヲ求ムルニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス但シ債權者集會ニ於テ別段ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ニ依ル

破産管財人カ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テ受寄者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ辨濟ハ其ノ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ破産管財人カ受寄者ヲシテ支拂其ノ他ノ給付ヲ爲サシムル爲證券ヲ發行スル場合ニ之ヲ準用ス

第二百七條 商法第九十二條ノ規定ハ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス相互保險會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ基金ノ支拂ニ付亦同シ

第二百八條 無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産管財人ハ損失分擔ノ割合ニ應シ會社ノ債務ヲ辨濟スルニ必要ナル金額ヲ社員ニ賦課スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ社員中ニ無資力者アルトキハ其ノ負擔スヘキ金額ハ他ノ社員之ヲ負擔ス

第二百九條 前條ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ第百八十九條第二項ノ規定ニ依リ財産目錄及貸借對照表ノ謄本ヲ裁判所ニ提出シタル後直ニ計算表ヲ作リ之ニ各社員ノ氏名、住所及負擔額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百十條 破産管財人ハ前條ノ計算表ニ主務官廳カ認證シタル定款ノ謄本ヲ添附シ之ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

破産ノ宣告ヲ受ケタル相互保險會社ニ關スル登記簿カ破産裁判所タル區裁判所ノ出張所ニ在ルトキハ登記所カ交付シタル社員名簿ノ謄本ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス

第二百十一條 前條ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ計算表ニ記載シタル社員ヲ呼出ス爲期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要ス

裁判所ハ利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲期日ヨリ三日前ニ計算表ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百十二條 裁判所ハ前條ノ期日ニ於テ相互保險會社ノ取締役、監査役、破産管財人及監査委員ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

社員ハ期日ニ於テ異議ヲ述フルコトヲ得

第二百十三條 裁判所ハ社員ノ異議ヲ理由アリトスルトキ其ノ他必要ト認ムルトキハ計算表ヲ更正シ又ハ破産管財人ヲシテ之ヲ更正セシメタル後計算表認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

計算表認可ノ決定ハ期日又ハ直ニ言渡シタル一週間內ノ期日ニ於テ之ヲ言渡スコトヲ要ス

計算表認可ノ決定書ハ利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲計算表ト共ニ之ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百十四條 第二百十一條第一項及前條第一項第二項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百十五條 計算表認可ノ決定アリタルトキハ破産管財人ハ遲滯ナク各社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

社員ニ對スル强制執行ハ執行文ヲ附シタル決定ノ正本及計算表ノ抄本ニ依リテ之ヲ爲ス

民事訴訟法第五百二十一條、第五百四十五條及第五百四十六條ノ規定ニ依ル訴ハ第二百四十五條ニ定ムル裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二百十六條 各社員ハ計算表認可ノ決定言渡ノ日ヨリ一月ノ不變期間內ニ破産管財人ニ對シ計算表ニ付異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

異議ノ訴ハ期日ニ於テ其ノ理由ヲ主張シタルトキ又ハ過失ナクシテ之ヲ主張スルコト能ハサリシコトヲ疏明スルニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第二百十七條 前條ノ異議ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス但シ訴訟ノ目的ノ價額カ區裁判所ノ權限ヲ超ユル場合ニ於テ本案ノ辯論前ニ當事者ノ申立アリタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

前項ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ抗告期間ハ決定言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ決定カ確定シタルトキハ事件ハ地方裁判所ニ繫屬ス此ノ場合ニ於テハ區裁判所ノ訴訟手續ニ關スル費用ハ之ヲ地方裁判所ノ訴訟手續ニ關スル費用ノ一部ト看做ス

第二百十八條 第二百十六條第一項ノ期間內ハ異議ノ訴ニ付口頭辯論ヲ開クコトヲ得ス

數個ノ訴ノ辯論及裁判ハ併合シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十九條 强制執行ノ停止及續行並執行處分ノ取消ニ付テハ民事訴訟法第五百四十七條及第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十條 異議ノ訴ニ付爲シタル判決ハ社員ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百二十一條 社員ノ無資力、異議ノ訴其ノ他ノ理由ニ因リ社員ニ對スル賦課ヲ必要トスルトキハ破産管財人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス

第二百二十二條 最後ノ配當ノ許可アリタルトキハ破産管財人ハ最後ノ計算表ヲ作ルコトヲ要ス

第二百二十三條 最後ノ計算表ニ依リ全部ノ辨濟ヲ爲スニ足ルヘキ金額ヲ得ルコト能ハサルトキハ破産管財人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ脫退シタル社員ニ對シテモ亦其ノ責任ノ限度內ニ於テ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二百二十四條 前十六條ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ産業組合其ノ他ノ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條 匿名組合契約カ營業者ノ破産ニ因リテ終了シタルトキハ破産管財人ハ匿名組合員カ負擔スヘキ損失ノ額ヲ限度トシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十六條 相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル後限定承認ヲ爲シタルトキ又ハ財産分離アリタルトキハ相續財産ノ處分ハ破産管財人之ヲ爲スコトヲ要ス限定承認又ハ財産分離アリタル後相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

破産管財人カ前項ノ處分ヲ終ヘタルトキハ殘餘財産ニ付破産財團ノ財産目錄及貸借對照表ヲ補充スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ包括受遺者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十七條 前條ノ規定ハ第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ限定承認ノ效力ヲ有スル場合ニ之ヲ準用ス

第七章 破産債權ノ屆出及調査

第二百二十八條 破産債權者ハ裁判所ノ定メタル期間內ニ其ノ債權ノ額及原因、一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アルトキハ其ノ權利ヲ裁判所ニ屆出テ且證據書類又ハ其ノ謄本若ハ抄本ヲ提出スルコトヲ要ス

別除權者ハ前項ニ規定スル事項ノ外別除權ノ目的及其ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ヲ屆出ツルコトヲ要ス

破産債權ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ第一項ニ規定スル事項ノ外裁判所、件名及番號ヲ屆出ツルコトヲ要ス

第二百二十九條 裁判所書記ハ債權表ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 債權者ノ氏名及住所
二 債權ノ額及原因
三 優先權アルトキハ其ノ權利
四 別除權者カ前條第二項ノ規定ニ依リテ屆出テタル債權額

裁判所書記ハ債權表ノ謄本ヲ破産管財人ニ交付スルコトヲ要ス

第二百三十條 債權ノ屆出ニ關スル書類及債權表ハ利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百三十一條 債權調査ノ期日ニ於テハ屆出アリタル各債權ニ付第二百二十九條第一項ニ揭クル事項ヲ調査ス

第二百三十二條 破産者ハ債權調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

屆出ヲ爲シタル破産債權者又ハ其ノ代理人ハ債權調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ得代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第二百三十三條 債權ノ調査ハ破産管財人出頭スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百三十四條 期間後ニ屆出アリタル債權ニ付テハ破産管財人及破産債權者ノ異議アル場合ヲ除クノ外債權調査ノ一般期日ニ於テ其ノ調査ヲ爲スコトヲ得

破産管財人又ハ破産債權者ノ異議アリタルトキハ裁判所ハ前項ノ債權ノ調査ヲ爲ス爲特別期日ヲ定ムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ費用ハ期間後ニ屆出ヲ爲シタル破産債權者ノ負擔トス

第二百三十五條 前條ノ規定ハ破産債權者カ屆出テタル事項ニ付屆出期間後他ノ破産債權者ノ利益ヲ害スヘキ變更ヲ加ヘタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十六條 第二百三十四條第二項ノ規定ハ破産債權者カ債權調査ノ一般期日後ニ債權ノ屆出ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十七條 債權調査ノ特別期日ヲ定ムル決定ハ之ヲ公告シ且破産管財人、破産者及屆出ヲ爲シタル破産債權者ニ之ヲ送達スルコトヲ要ス

第二百三十八條 前條ノ規定ハ債權調査ノ期日ノ變更並債權調査ノ延期及續行ニ之ヲ準用ス但シ言渡アリタルトキハ公告及送達ヲ爲スコトヲ要セス

第二百三十九條 前二條ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百四十條 債權調査ノ期日ニ於テ破産管財人及破産債權者ノ異議ナカリシトキハ債權ノ額及優先權ハ之ニ因リテ確定ス

破産者カ異議ヲ述ヘタル債權ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ債權者ハ破産者ヲ相手方トシテ之ヲ受繼クコトヲ得

第二百四十一條 裁判所ハ債權調査ノ結果ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス破産者ノ述ヘタル異議亦同シ

裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百四十二條 確定債權ニ付テハ債權表ノ記載ハ破産債權者ノ全員ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第二百四十三條 破産債權者カ債權調査ノ期日ニ出頭セサル場合ニ於テ其ノ債權ニ付異議アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ其ノ債權者ニ通知スルコトヲ要ス

第百十八條第一項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第二百四十四條 異議アル債權ニ付テハ其ノ債權者ハ異議者ニ對シ訴ヲ以テ其ノ債權ノ確定ヲ求ムルコトヲ得

異議者數人アルトキハ之ヲ共同被告トス破産者カ異議者ノ一人ナルトキ亦同シ

裁判所ハ債權者ニ其ノ債權ニ關スル債權表ノ抄本ヲ交付スルコトヲ要ス

第二百四十五條 債權確定ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス但シ訴カ地方裁判所ノ權限ニ屬スルトキハ破産裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第二百四十六條 異議アル債權ニ付破産宣告

ノ當時訴訟カ繫屬スル場合ニ於テ債權者カ其ノ債權ノ確定ヲ求メムトスルトキハ異議者ヲ相手方トシテ訴訟ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十七條　破產債權者ハ第二百四十一條第一項ノ規定ニ依リ債權表ニ記載シタル事項ニ付テノミ債權確定ノ訴ヲ提起シ又ハ第二百四十條第二項若ハ前條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受繼クコトヲ得

第二百四十八條　執行力アル債務名義又ハ終局判決アル債權ニ付テハ異議者ハ破產者カ爲スコトヲ得ヘキ訴訟手續ニ依リテノミ其ノ異議ヲ主張スルコトヲ得

第二百四十四條第二項、第三項、第二百四十六條及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十九條　裁判所ハ破產管財人又ハ破產債權者ノ申立ニ因リ債權ノ確定ニ關スル訴訟ノ結果ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第二百五十條　債權ノ確定ニ關スル訴訟ニ付爲シタル判決ハ破產債權者ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百五十一條　破產財團カ債權ノ確定ニ關スル訴訟ニ因リテ利益ヲ受ケタルトキハ異議ヲ主張シタル破產債權者ハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債權者トシテ訴訟費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第二百五十二條　債權ノ確定ニ關スル訴訟ノ目的ノ價額ハ配當ノ豫定額ヲ標準トシ受訴裁判所之ヲ定ム

第二百五十三條　公訴附帶ノ私訴ニ付テハ第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受繼キ、上訴ヲ爲シ又ハ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

公訴附帶ノ私訴ノ目的タル債權ニ付破產者カ異議者ノ一人ナル場合ニ於テハ之ヲ共同被告トスルコトヲ得ス

第二百五十四條　第三十八條第四號ニ揭クル請求權ニ付テハ國又ハ公共團體ハ遲滯ナク其ノ額及原因ヲ裁判所ニ屆出ツルコトヲ要ス

第二百四十一條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ屆出アリタル請求權ニ付之ヲ準用ス

第二百五十五條　前條第一項ノ規定ニ依リ屆出アリタル請求權ノ原因カ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘキ處分ナルトキハ裁判所ハ遲滯ナク其ノ請求權ノ額及原因ヲ破產管財人ニ通知スルコトヲ要ス

第二百四十八條乃至第二百五十條ノ規定ハ破產管財人カ異議ヲ主張スル場合ニ之ヲ準用ス

第八章　配當

第二百五十六條　一般ノ債權調查終了後ニ於テハ破產管財人配當スルニ適當ナル金錢アリト認ムル每ニ遲滯ナク配當ヲ爲スコトヲ要ス

第二百五十七條　破產管財人配當ヲ爲スニハ監查委員ノ同意、監查委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百五十八條　破產管財人ハ配當表ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一　配當ニ加フヘキ債權者ノ氏名及住所
二　配當ニ加フヘキ債權ノ額
三　配當スルコトヲ得ヘキ金額

配當ニ加フヘキ債權ハ優先權ノ有無ニ依リテ之ヲ區別シ優先權アルモノニ付テハ其ノ順位ニ從ヒテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百五十九條　破產管財人ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲配當表ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第二百六十條　破產管財人ハ配當ニ加フヘキ債權ノ總額及配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十一條　異議アル債權ニ付テハ債權者カ配當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間內ニ破產管財人ニ對シ其ノ債權ノ確定ニ關スル訴ノ提起又ハ訴訟ノ受繼ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其ノ配當ヨリ除斥セラル

第二百六十二條　別除權者カ前條ニ定ムル除斥期間內ニ破產管財人ニ對シ其ノ權利ノ目的ノ處分ニ著手シタルコトヲ證明シ且其ノ處分ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ヲ疏明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル

第二百六十三條　左ノ場合ニ於テハ破產管財人ハ直ニ配當表ヲ更正スルコトヲ要ス
一　債權表ヲ更正スヘキ事由カ除斥期間內ニ生シタルトキ
二　前二條ニ定ムル事項ノ證明及疏明アリタルトキ
三　別除權者カ除斥期間內ニ破產管財人ニ對シ其ノ權利抛棄ノ意思ヲ表示シ又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサリシ債權額ヲ證明シタルトキ

第二百六十四條　債權者ハ配當表ニ對シ除斥期間經過ノ後一週間內ニ限リ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

裁判所カ配當表ノ更正ヲ命シタルトキハ其ノ決定書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ備ヘ置クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ抗告期間ハ決定書ヲ備ヘタル日ヨリ之ヲ起算ス

第二百六十五條　破產管財人ハ前條第一項ニ定ムル期間經過シタル後、異議ノ申立アリタルトキハ其ノ決定アリタル後遲滯ナク配當率ヲ定メ配當ニ加フヘキ各債權者ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

配當率ヲ定ムルニハ監查委員ノ同意、監查委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百六十六條　解除條件附債權ヲ有スル者ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ配當ヲ受クルコトヲ得ス

第二百六十七條　强制和議ノ提供アリタルトキハ裁判所ハ破產管財人カ未タ配當率ノ通知ヲ發セサル場合ニ限リ提供者ノ申立ニ因リ其ノ配當ノ中止ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十八條　前條ノ規定ニ依リ配當ノ中止ヲ命シタル場合ニ於テ强制和議ノ提供ノ棄却若ハ其ノ不認可ノ決定カ確定シタルトキ又ハ債權者集會ニ於テ强制和議ヲ否決シタルトキハ裁判所ハ配當手續ヲ續行スヘキコトヲ命ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十九條　債權者ハ破產管財人ニ就キ配當ヲ受クルコトヲ要ス

破產管財人カ配當ヲ爲シタルトキハ債權表及債權ノ證書ニ配當シタル金額ヲ記入シ之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第二百七十條　第二百六十一條又ハ第二百六十二條ニ定ムル事項ヲ證明又ハ疏明セサルニ因リテ配當ヨリ除斥セラレタル債權者カ後ノ配當ニ關スル除斥期間內ニ其ノ證明又ハ疏明ヲ爲シタルトキハ前ノ配當ニ於テ受クヘカリシ額ニ付他ノ同順位ノ債權者ニ先チテ配當ヲ受クルコトヲ得

第二百七十一條　左ニ揭クル債權ニ對スル配當額ハ破產管財人之ヲ寄託スルコトヲ要ス
一　第二百四十四條、第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ異議アル債權ニ付訴ノ提起又ハ訴訟ノ受繼アリタルモノ
二　配當率ノ通知ヲ發スル前ニ訴願又ハ行政訴訟ノ落著セサル債權
三　第二百六十二條ノ規定ニ依リ別除權者カ疏明シタル債權額
四　停止條件附債權及將來ノ請求權
五　第二百六十六條ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セサル場合ニ於ケル解除條件附債權

第二百七十二條　破產管財人最後ノ配當ヲ爲スニハ監查委員ノ同意アリタルトキト雖裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十三條　最後ノ配當ニ關スル除斥期間ハ配當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間以上一月內ニ於テ裁判所之ヲ定ム此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百七十四條　最後ノ配當ニ在リテハ破產管財人ハ配當表ニ對スル異議落著ノ後遲滯ナク各債權者ニ對スル配當額ヲ定メ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百七十五條　停止條件附債權又ハ將來ノ請求權カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間內ニ之ヲ行使スルコトヲ得ルニ至ラサルトキハ其ノ債權者ハ配當ヨリ除斥セラル

第二百七十六條　解除條件附債權ノ條件カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間內ニ成就セサルトキハ第二百六十六條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其ノ效力ヲ失ヒ第二百七十一條第五號ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額ハ之ヲ其ノ債權者ニ支拂フコトヲ要ス第百一條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保又ハ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十七條　別除權者カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間內ニ破產管財人ニ對シ其ノ權利抛棄ノ意思ヲ表示セス又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサリシ債權額ヲ證明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル

第二百七十八條　第二百七十五條又ハ前條ノ規定ニ依リテ除斥セラレタル債權者ノ爲ニ寄託シタル金額ハ之ヲ他ノ債權者ニ配當スルコトヲ要ス第百條ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十九條　配當額ノ通知ヲ發スル前新ニ配當ニ充ツヘキ財產アルニ至リタルトキハ破產管財人ハ遲滯ナク配當表ヲ更正スルコトヲ要ス

第二百八十條　左ニ揭クル配當額ハ債權者ノ爲破產管財人之ヲ供託スルコトヲ要ス
一　第二百七十一條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ寄託シタル配當額
二　配當額ノ通知ヲ發スル前ニ異議ノ訴、訴願又ハ行政訴訟ノ落著セサル債權ニ對スル配當額
三　債權者カ受取ラサル配當額

第二百八十一條　計算報告ノ爲ニ招集シタル債權者集會ニ於テハ破產管財人カ價値ナキ爲換價セサリシ財產ノ處分ニ付決議ヲ爲スコトヲ要ス

第二百八十二條　債權者集會終結シタルトキハ裁判所ハ破產終結ノ決定ヲ爲シ且其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百八十三條　配當額ノ通知ヲ發シタル後新ニ配當ニ充ツヘキ相當ノ財產アルニ至リタルトキハ破產管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ追加配當ヲ爲スコトヲ要ス破產終結ノ決定アリタル後ト雖亦同シ

破產管財人追加配當ノ許可ヲ得タルトキハ遲滯ナク配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告シ且各債權者ニ對スル配當額ヲ定メ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第二百八十四條　追加配當ハ最後ノ配當ニ付作リタル配當表ニ依リテ之ヲ爲ス

第二百八十五條　破產管財人追加配當ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク計算報告書ヲ作リ之ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

第二百八十六條　配當率又ハ配當額ノ通知ヲ發スル前破產管財人ニ知レサル財團債權者ハ各配當ニ於テ配當スヘキ金額ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス

第二百八十七條　確定債權ニ付テハ破產者カ債權調查ノ期日ニ於テ其ノ債權ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシ場合ニ限リ債權表ノ記載ハ破產者ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

債權者ハ破產終結ノ後債權表ノ記載ニ基キテ强制執行ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百十五條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス

第二百八十八條　破產者カ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲債權調查ノ期日ニ出頭スルコト能ハサリシトキハ破產裁判所ニ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ破產者ノ異議アル債權ノ債權者ニ原狀回復ノ申立書ヲ送達スルコトヲ要ス

裁判所原狀回復ヲ許シタルトキハ破產者カ債權調查ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘタルト同一ノ效力ヲ生ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權表ニ異議ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

民事訴訟法第百七十五條及第百七十六條第二項ノ規定ハ第一項ニ定ムル原狀回復ニ付之ヲ準用ス

第二百八十九條　相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テ最後ノ配當ヨリ除斥セラレタル相續債權者及受遺者ハ殘餘財產ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第九章　强制和議

第二百九十條　破產者ハ何時ニテモ强制和議ノ提供ヲ爲スコトヲ得

第二百九十一條　强制和議ノ提供ハ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス

第二百九十二條　强制和議ノ提供ハ相續財產ニ在リテハ相續人之ヲ爲シ相續人數人アルトキハ其ノ一致アルコトヲ要ス

第二百九十三條　一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ヲ有スル者ハ强制和議ニ付テハ之ヲ破產債權者ト看做サス

第二百九十四條　强制和議ノ提供ヲ爲スニハ提供者ハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルトキハ其ノ擔保其ノ他强制和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス

第二百九十五條　强制和議ノ提供者ノ所在不明ナルトキ又ハ詐欺破產ノ公訴繫屬スルトキハ强制和議ヲ爲スコトヲ得ス詐欺破產ニ付有罪ノ判決確定シタルトキ亦同シ

第二百九十六條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破產管財人及監查委員ノ意見ヲ聽キ强制和議ノ提供ヲ棄却スルコトヲ得
一　債權者集會ニ於テ强制和議ヲ否決シタルコトアルトキ
二　强制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日公告後ニ其ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ
三　强制和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ
四　强制和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

第二百九十七條　裁判所强制和議ノ提供ヲ棄却セサル場合ニ於テ監查委員アルトキハ之ヲシテ意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

第二百九十八條　强制和議ノ提供ニ關スル書類及監查委員ノ意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第二百九十九條　强制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ハ其ノ決定公告ノ日ヨリ一月內ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ要ス

期日ニハ屆出ヲ爲シタル破產債權者、强制和議ノ提供者、强制和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他破產者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ破產債權者ノ爲ニ擔保ヲ供スル者、破產管財人及監查委員ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ニ規定スル者ニハ强制和議ノ條件及監查委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三百條　裁判所ハ强制和議ノ提供者及監查委員ノ申立ニ因リ强制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ヲ債權調查ノ一般期日ト併合スルコトヲ得

第三百一條　强制和議ノ提供者ハ期日ニ出頭シテ强制和議ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

强制和議ノ提供者又ハ其ノ代理人期日ニ出頭シテ强制和議ノ申立ヲ爲ササルトキハ其ノ提供ヲ撤回シタルモノト看做ス

第三百二條　强制和議ノ提供者ハ破產債權者ヲ利スル場合ニ限リ債權者集會ニ於テ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得

第三百三條　强制和議ハ一般ノ債權調查ノ終了前又ハ最後ノ配當ノ許可アリタル後ハ之ヲ決議スルコトヲ得ス

第三百四條　强制和議ノ條件ハ各破產債權者ニ付平等ナルコトヲ要ス但シ不利益ヲ受クル者ノ同意アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百五條　强制和議ノ提供者又ハ第三者カ强制和議ノ條件ニ依ラスシテ或破產債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル行爲ハ之ヲ無效トス

第三百六條　强制和議ヲ可決スルニハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破產債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ屆出ヲ爲シタル破產債權者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ同意アルコトヲ要ス

前項ノ債權額及總債權ノ計算ニ付テハ確定債權ニ在リテハ其ノ額ニ依リ其ノ他ノ債權

ニ在リテハ裁判所カ第百八十二條第二項ノ規定ニ依リ定メタル所ニ依ル

第三百七條　前條ニ規定スル條件ノ一カ成立シタルトキ又ハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破產債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ半額ニ超ユル者カ期日ノ續行ニ同意シタルトキハ裁判所ハ強制和議ノ提供者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ續行期日ヲ定メ之ヲ言渡スコトヲ要ス

第三百八條　強制和議ノ可決アリタルトキハ裁判所ハ其ノ期日又ハ直ニ言渡シタル期日ニ於テ強制和議ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

第二百九十九條第二項ニ規定スル者ハ強制和議ノ認否ニ付意見ヲ述フルコトヲ得

第三百九條　第二百三十八條但書及第二百三十九條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依リ期日ヲ定ムル決定ニ之ヲ準用ス

第三百十條　裁判所ハ左ノ場合ニ限リ破產債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

一　強制和議ノ手續又ハ決議カ法律ノ規定ニ反スル場合ニ於テ其ノ欠缺カ追完スヘカラサルモノナルトキ

二　第二百九十五條ニ規定スル事由カ強制和議ノ決議後ニ生シタルトキ

三　強制和議ノ決議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキ

四　強制和議ノ決議カ破產債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

議決權ヲ有セサリシ破產債權者カ前項ノ申立ヲ爲スニハ其ノ破產債權者タルコトヲ疏明スルコトヲ要ス

申立人ハ申立ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第三百十一條　法人カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ強制和議ノ可決アリタルトキハ社團法人ニ在リテハ定款ノ變更ニ關スル規定ニ從ヒ財團法人ニ在リテハ主務官廳ノ認可ヲ得テ法人ヲ繼續スルコトヲ得

第三百十二條　法人ヲ繼續スルカ否ノ定リタルトキ又ハ遲滯ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ其ノ法人ノ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議ノ認否ニ付決定ヲ爲ス爲期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ期日ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

法人ヲ繼續セサルトキ又ハ遲滯ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第三百十三條　相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續債權者ニ限リ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十四條　相續人ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テ限定承認又ハ財產分離アリタルトキハ相續人ノ債權者ニ限リ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十五條　相續財產及相續人又ハ前戶主ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人又ハ前戶主ノ強制和議ニ付テハ相續人ノ債權者又ハ前戶主ノ相續開始後ノ債權者ニ限リ之ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十六條　前三條ノ場合ニ於テハ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得サル破產債權者ノ債權ハ第三百六條第一項ノ總債權ニ之ヲ算入セス

第三百十七條　強制和議カ前條ノ破產債權者ノ正當ノ利益ヲ害スヘキトキハ裁判所ハ其ノ申立ニ因リ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三百十八條　強制和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且公告スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第三百十九條　議決權ヲ有セサリシ破產債權者カ強制和議認否ノ決定ニ對シテ不服ヲ申立ツルニハ其ノ破產債權者タルコトヲ疏明スルコトヲ要ス

第三百二十條　強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得サル破產債權者ハ強制和議不認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百二十一條　強制和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第三百二十二條　強制和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所書記ハ強制和議ノ條件ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第三百二十三條　強制和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ破產管財人ハ財團債權者及一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ヲ有スル者ノ確定債權ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

財團債權及一般ノ優先權アル債權ニシテ異議アルモノニ付テハ破產管財人ハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス破產管財人ニ對シ疏明アリタル一般ノ優先權アル債權ニ付亦同シ

第三百二十四條　第二百八十二條ノ規定ハ強制和議ノ認可ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十五條　破產財團ノ管理及處分ニ付テハ破產者ハ強制和議ニ定メタル制限ニ從フコトヲ要ス

第三百二十六條　強制和議ハ破產債權者ノ全員ノ爲且其ノ全員ニ對シテ效力ヲ有ス

強制和議ハ破產債權者カ破產者ノ保證人其ノ他破產者ト共ニ債務ヲ負擔スル者ニ對シテ有スル權利及破產債權者ノ爲ニ供シタル擔保ニ影響ヲ及ホサス

第三百二十七條　法人ノ債務ニ付責任ヲ負フ社員ハ破產債權者ニ對シ強制和議ノ定ムル限度ニ於テ其ノ責任ヲ負フ但シ強制和議ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第三百二十八條　確定債權ヲ有スル破產債權者ハ破產者カ債權調查ノ期日ニ於テ其ノ債權ニ對シ異議ヲ述ヘサリシ場合ニ限リ破產終結ノ後破產者、強制和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他破產者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ破產債權者ノ爲ニ擔保ヲ供シタル者ニ對シ債權表ノ記載ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得但シ民法第四百五十二條及第四百五十三條ノ適用ヲ妨ケス

第二百十五條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十九條　強制和議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキハ各破產債權者ハ強制和議ヲ以テ定メタル讓歩ヲ取消スコトヲ得但シ過失ニ因リ強制和議不認可ノ申立ヲ爲ササリシ破產債權者ハ此ノ限ニ在ラス

讓歩ノ取消權ハ破產債權者カ取消ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス強制和議認可ノ決定確定ノ時ヨリ二年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三百三十條　破產者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタルトキハ其ノ履行ヲ受ケサル破產債權者ハ強制和議ヲ以テ定メタル讓歩ヲ取消スコトヲ得

第三百三十一條　讓歩ノ取消ハ破產債權者カ強制和議ニ因リテ得タル權利ニ影響ヲ及ホサス

讓歩ノ取消ニ因リテ回復シタル債權額ニ付テハ破產債權者ハ強制和議ノ履行完了ノ後ニ非サレハ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス

第三百三十二條　破產者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタル場合ニ於テ屆出ヲ爲シタル破產債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

強制和議ノ定ムル所ニ從ヒ全部ノ履行ヲ受ケタル破產債權者ハ前項ノ申立ニ必要ナル員數ニハ之ヲ算入セス全部又ハ一部ノ履行ヲ受ケタル者ニ付テハ從前ノ破產債權ノ額ヨリ其ノ受ケタル額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ債權額トス

第一項ノ債權額及總債權ノ計算ニ付テハ第三百六條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三百三十三條　詐欺破產ニ付有罪ノ判決カ確定シタルトキハ裁判所ハ破產債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ有罪ノ判決確定前ト雖第百五十四條及第百五十五條ニ定ムル處分ヲ命スルコトヲ得

第三百三十四條　第三百三十一條第一項ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條　強制和議取消ノ決定カ確定シタルトキハ破產手續ヲ續行ス

第三百三十六條　第一編ノ規定ノ適用ニ付テハ強制和議ノ取消ハ之ヲ破產ノ宣告ト看做シ第三百三十二條ノ場合ニ在リテハ強制和議取消ノ申立、第三百三十三條ノ場合ニ在リテハ公訴ノ提起ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破產ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破產ノ申立ト看做ス

第三百三十七條　第百四十一條乃至第百四十六條及第百五十四條乃至第百五十六條ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ付之ヲ準用ス

破產手續續行ノ費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第三百三十八條　強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ニ付テハ從前ノ破產債權ノ額ヨリ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタル額ヲ控除シタルモノヲ以テ破產債權ノ額トス

第三百三十九條　從前ノ確定債權ニ付テハ破產債權者カ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタル額ノミヲ調查ス

第三百四十條　強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者カ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタルモノアルトキハ從前ノ破產債權ノ額ヲ以テ配當ニ加フヘキ債權ノ額ト看做シ破產財團ニ其ノ債權者カ受ケタルモノヲ加算シテ配當率ノ標準ヲ定ム但シ其ノ債權者ハ他ノ破產債權者カ自己ノ受ケタルモノト同一ノ割合ノ配當ヲ受クル迄ハ配當ヲ受クルコトヲ得ス

第三百四十一條　破產終結ノ後破產者カ強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ニ對シテ爲シタル擔保ノ供與ハ強制和議ノ取消ニ因リテ其ノ效力ヲ失フ

第三百四十二條　強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ハ從前ノ債權ニ付テハ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十三條　強制和議取消ノ申立及破產ノ申立アリタル場合ニ於テ裁判所カ其ノ一ニ付強制和議取消ノ決定又ハ破產ノ宣告ヲ爲シタルトキハ他ノ一ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル棄却ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十四條　第三百三十一條第一項及第三百三十八條乃至第三百四十一條ノ規定ハ強制和議ノ履行完了前ニ破產ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス第三百三十三條ノ規定ニ依リ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テ破產ノ宣告アリタルトキ亦同シ

第三百四十五條　相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人ハ強制和議ノ履行完了前其ノ固有財產ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財產ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但シ強制和議ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

民法第六百四十五條、第六百四十六條、第六百五十條第一項第二項及第千二十一條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百四十六條　第百三十一條ノ規定ハ相續財產ニ關スル強制和議取消ノ申立ニ之ヲ準用ス

第十章　破產廢止

第三百四十七條　破產者ハ債權屆出ノ期間內ニ屆出ヲ爲シタル總破產債權者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ同意ヲ爲ササル破產債權者ニ對シ他ノ破產債權者ノ同意ヲ得テ破產財團ヨリ擔保ヲ供シタルトキハ破產廢止ノ申立ヲ爲スコトヲ得

未確定債權ニ付其ノ債權者ノ同意ヲ必要トスヘキカ否ハ裁判所之ヲ定ム破產債權者ニ供スヘキ擔保カ相當ナルカ否ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十八條　法人カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ破產廢止ノ申立ヲ爲スニハ法人繼續ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三百十一條ノ規定ヲ準用ス

第三百四十九條　破產廢止ノ申立ヲ爲スニハ其ノ申立ニ必要ナル條件カ具備スルコトヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百五十條　裁判所ハ破產廢止ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百五十一條　破產債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間內ニ破產廢止ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間經過前ニ屆出ヲ爲シタル破產債權者モ亦異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百五十二條　裁判所ハ前條第一項ノ期間經過ノ後破產廢止ノ決定ヲ爲スニ必要ナル條件カ具備スルカ否ニ付破產者、破產管財人及異議ヲ申立テタル破產債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百五十三條　破產宣告ノ後裁判所カ破產財團ヲ以テ破產手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルトキハ破產管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破產廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權者集會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

前項ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、產業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セス破產手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ豫納アリタル場合亦同シ

第三百五十四條　裁判所カ破產廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百五十五條　破產廢止ノ決定カ確定シタルトキハ破產管財人ハ財團債權ノ辨濟ヲ爲シ異議アルモノニ付テハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五十六條　第二百九十一條及第二百九十二條ノ規定ハ破產廢止ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三百五十七條　第二百八十七條ノ規定ハ破產廢止ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一章　小破產

第三百五十八條　破產財團ニ屬スル財產ノ額カ一萬圓ニ滿タスト認ムルトキハ裁判所ハ破產ノ宣告ト同時ニ小破產ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ第百四十三條第一項ニ揭クル事項ノ外小破產決定ノ主文ヲ公告シ且同條第二項ノ書面ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百五十九條　裁判所破產手續中ニ破產財團ニ屬スル財產ノ額カ一萬圓ニ滿タサルコトヲ發見シタルトキハ小破產ノ決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ小破產ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判所ハ決定ノ主文ヲ公告シ且破產管財人、監查委員竝知レタル債權者及債務者ニ之ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三百六十條　裁判所破產手續中ニ破產財團ニ屬スル財產ノ額カ一萬圓以上ナルコトヲ發見シタルトキハ小破產取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三百六十一條　小破產ノ決定及小破產取消ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十二條　第一回ノ債權者集會ノ期日及債權調查ノ期日ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ併合スルコトヲ要ス

第三百六十三條　監查委員ハ之ヲ置カス

第三百六十四條　第一回ノ債權者集會、強制和議取消後ノ第一回ノ債權者集會竝債權調查、計算報告及強制和議ノ爲ニスル債權者集會ヲ除クノ外裁判所ノ決定ヲ以テ債權者集會ノ決議ニ代フ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十五條　配當ハ一回トシ最後ノ配當ニ關スル規定ニ依ル但シ追加配當ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三百六十六條　小破產手續ニ關スル公告ハ第百十六條ノ規定ニ依ル揭示ヲ爲スヲ以テ足ル

第三編　復權

第三百六十七條　破產者カ辨濟其ノ他ノ方法ニ因リ破產債權者ニ對スル債務ノ全部ノ免責ヲ得タルトキハ破產裁判所ハ破產者ノ申立ニ因リ復權ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

申立人ハ免責ヲ證スル書面ヲ提出スルコト

ヲ要ス

第三百六十八條　復權ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三百六十九條　裁判所ハ復權ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百七十條　破産債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ三月内ニ復權ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百七十一條　異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産者及異議ヲ申立テタル破産債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百七十二條　復權ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百七十三條　第百八條乃至第百十二條及第百十四條乃至第百十七條ノ規定ハ復權ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四編　罰則

第三百七十四條　債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス自己若ハ他人ノ利益ヲ圖リ又ハ債權者ヲ害スル目的ヲ以テ左ニ揭クル行爲ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ詐欺破産ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

一　破産財團ニ屬スル財産ヲ隱匿、毀棄又ハ債權者ノ不利益ニ處分スルコト

二　破産財團ノ負擔ヲ虛僞ニ增加スルコト

三　法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラス、之ニ財産ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サス又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

四　第百八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十五條　債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ニ揭クル行爲ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　浪費又ハ賭博其ノ他ノ射倖行爲ヲ爲シ因テ著ク財産ヲ減少シ又ハ過大ノ債務ヲ負擔スルコト

二　破産ノ宣告ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ著ク不利益ナル條件ニテ債務ヲ負擔シ又ハ信用取引ニ因リ商品ヲ買入レ著ク不利益ナル條件ニテ之ヲ處分スルコト

三　破産ノ原因タル事實アルコトヲ知ルニ拘ラス或債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル目的ヲ以テ爲シタル擔保ノ供與又ハ債務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ債務者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ債務者ノ義務ニ屬セサルモノ

四　法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラス、之ニ財産ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サス又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

五　第百八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加ヘ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀棄スルコト

第三百七十六條　債務者ノ法定代理人、理事及之ニ準スヘキ者竝支配人前二條ニ規定スル行爲ヲ爲シ債務者ニ對スル破産宣告確定シタルトキハ前二條ノ例ニ依ル相續財産ニ對スル破産ニ於テ相續人及前戸主竝其ノ法定代理人及支配人ニ付亦同シ

第三百七十七條　本法ニ依リ監守ヲ命セラレタル者逃走シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得スシテ外人ト面接若ハ通信シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

破産者裁判所ノ許可ヲ得スシテ居住地ヲ離レタルトキ罰前項ニ同シ

第三百七十八條　債務者及第三百七十六條ニ規定スル者ニ非スシテ第三百七十四條ニ規定スル行爲ヲ爲シタル者又ハ自己若ハ他人ヲ利スル目的ヲ以テ破産債權者トシテ虛僞ノ權利ヲ行ヒタル者ハ債務者ニ對スル破産宣告確定シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百七十九條　第三百七十四條、第三百七十五條及前條ノ規定ノ適用ニ付テハ強制和議ノ取消ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス

第三百八十條　破産管財人又ハ監査委員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス破産債權者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者債權者集會ノ決議ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第三百八十一條　破産管財人、監査委員、破産債權者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三百八十二條　第百五十三條ノ規定ニ依リ説明ノ義務アル者故ナク説明ヲ爲サス又ハ虛僞ノ説明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者破産裁判所ニ其ノ事實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附則

第三百八十三條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年十一月勅令第四百九十八號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行）

第三百八十四條　明治二十三年法律第三十二號商法第三編、同年法律第百一號及家資分散法ハ之ヲ廢止ス

第三百八十五條　民法施行法第二條第三條及非訟事件手續法第百五十二條第百五十三條ハ之ヲ削除シ刑法施行法第二十五條第一項第三號ハ之ヲ削ル

第三百八十六條　他ノ法令中身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完濟セサル者ニ關スル規定ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完濟セサル者及家資分散ノ宣告ヲ受ケ債務ヲ完濟セサル者ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ之ヲ破産者ト看做ス

第三百八十七條　本法施行前破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ支拂猶豫ノ許可若ハ假許可アリタルモノニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ明治二十三年法律第三十二號商法第千五十四條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

本法施行前ニ爲シタル家資分散又ハ支拂猶豫ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百八十八條　舊法ニ依リテ破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リテ復權ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ申立ハ其ノ事件ノ第一審裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百八十九條　他ノ法律ニ依リ法人ノ理事又ハ之ニ準スヘキ者カ其ノ法人ニ對シ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ要スル場合ニ於テモ和議ノ申立ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三百九十條　商法第四百五條ヲ左ノ如ク改ム

保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前項ノ規定ニ依リテ解除ヲ爲ササル保險契約ハ破産宣告ノ後三个月ヲ經過シタルトキハ其效力ヲ失フ

第三百九十一條　商法施行法中第百三十八條乃至第百四十五條及第百四十七條ヲ削リ「第百四十六條」ヲ「第百三十八條」ニ改メ同法ニ左ノ一條ヲ加フ

第百三十九條　商法施行條例ハ之ヲ廢止ス但シ同條例第二十一條乃至第二十三條及第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍其ノ效力ヲ有ス

●和議法

大正十一年四月
法律第七十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル和議法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

和議法

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ和議ト稱スルハ破産豫防ノ爲ニスル強制和議ヲ謂フ

第二條　和議手續ハ其ノ開始決定ノ時ヨリ效力ヲ生ス

第三條　破産法第百五條及第百七條ノ規定ハ和議事件ノ管轄ニ付之ヲ準用ス

第四條　破産法第八十七條、第八十八條、第八十九條及第九十一條ノ規定ハ和議ノ開始アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五條　破産法第九十八條乃至第百四條ノ規定ハ和議債權者ノ相殺權ニ付之ヲ準用ス

第六條　前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ和議開始ノ申立ハ之ヲ破産ノ申立ト看做シ和議ノ開始ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス

第七條　和議手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本法ニ特別ノ規定アル場合ニ限リ其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス

第八條　破産法第百十九條、第百二十條、第百二十二條及第百二十四條ノ規定ハ和議開始、和議開始決定取消又ハ和議廢止ノ決定アリタル場合及和議認否又ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ、申立ナキトキハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依ル登記又ハ登錄ノ囑託ハ破産ノ登記又ハ登錄ノ囑託ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十條　前條第一項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタルトキハ破産法第一編ノ適用ニ付テハ和議開始若ハ和議取消ノ申立又ハ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ和議申立人ノ行爲ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做シ和議ノ爲ニ生シタル債權及和議手續ノ費用ハ之ヲ財團債權トス

第十一條　破産法第二條、第三條、第百九條乃至第百十一條、第百十三條乃至第百十八條及第百二十五條ノ規定ハ和議ニ關シ之ヲ準用ス

和議手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ民事訴訟法ヲ準用ス

第二章　和議開始ノ申立

第十二條　破産ノ原因タル事實アル場合ニ於テハ債務者ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス

相續財産ニ付テハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　和議開始ノ申立ヲ爲スニハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルトキハ其ノ擔保其ノ他和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス

和議申立人ハ申立ト同時ニ財産ノ狀況ヲ示スヘキ明細書竝債權者及債務者ノ一覽表ヲ提出スルコトヲ要ス申立ト同時ニ提出スルコト能ハサルトキハ爾後遲滯ナク之ヲ提出スルコトヲ要ス

第十四條　和議開始ノ申立ヲ爲スニハ和議手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス

第十五條　和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條　破産ノ宣告アリタル後ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　和議開始ノ申立及破産ノ申立アリタルトキハ破産手續ハ之ヲ中止ス

第十八條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

一　破産回避ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキ

二　和議申立人ノ所在カ不明ナルトキ

三　詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アリト認ムルトキ

四　和議ノ條件カ法律ノ規定ニ反スルトキ

五　和議ノ條件カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

第十九條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

一　和議手續ノ費用ノ豫納ナキトキ

[illegible]

五　和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

第二十條　裁判所ハ和議開始ノ決定前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ債務者ノ財産ニ關シ假差押、假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十一條　裁判所ハ整理委員ヲ選任シ期間ヲ定メテ債務者ノ財産、帳簿及和議ノ條件ニ付必要ナル調査ヲ爲サシメ且和議ヲ開始スヘキカ否ニ付意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

整理委員ハ自己ノ責任ヲ以テ鑑定人ヲ選任スルコトヲ得

第二十二條　和議申立人ハ前條第一項ニ依ル調査ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條　破産法第百五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ整理委員ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條　重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ整理委員ヲ解任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ整理委員ヲ審訊スルコトヲ要ス

第二十五條　破産法第百五十九條乃至第百六十一條、第百六十四條乃至第百六十六條、第百六十九條及第百七十二條ノ規定ハ整理委員ニ之ヲ準用ス

第二十六條　和議開始決定書ニハ決定ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十七條　裁判所ハ和議開始ノ決定ト同時ニ管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一　債權屆出ノ期間但シ其ノ期間ハ決定ノ日ヨリ二週間以上二月以下ナルコトヲ要ス

二　債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ト債權屆出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス

和議開始ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　裁判所カ和議開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一　和議開始決定ノ主文

二　管財人ノ氏名及住所

三　債權屆出ノ期間及債權者集會ノ期日

知レタル債權者、和議申立人、管財人及整理委員ニハ前項ニ揭クル事項、和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ第一項第二號及第三號ニ揭クル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　裁判所カ和議開始決定取消ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條　和議開始ノ申立ニ關スル書類竝第二十一條ノ規定ニ依ル整理委員ノ調査書類及意見書ハ利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備ヘ置クコトヲ要ス

第三十一條　和議開始申立ノ時ヨリ決定ノ時迄ハ債務者ハ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條　和議ノ開始ハ債務者カ其ノ財産ヲ管理及處分スル權利ニ影響ヲ及ホサス但シ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ハ管財人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

通常ノ行爲ト雖管財人異議アルトキハ債務者ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

重要ナル行爲ニ付管財人カ第一項ノ規定ニ依リ同意ヲ爲スニハ整理委員ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三十三條　第三十一條又ハ前條第一項第二項ノ規定ニ反スル行爲ハ和議債權者ニ於テ之ヲ否認スルコトヲ得但シ相手方カ行爲ノ當時其ノ事實ヲ知リタルトキニ限ル

第三十四條　管財人ハ自ラ金錢ノ收支ヲ爲スヘキコトヲ債務者ニ請求スルコトヲ得

第三十五條　管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ債務者及之ニ扶養セラルル者ニ給スヘキ扶助料ノ額ヲ定ムルコトヲ得

第三十六條　管財人ハ何時ニテモ債務者ニ對シテ其ノ財産ニ關スル報告ヲ求メ又ハ債務者ノ財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

整理委員ハ何時ニテモ管財人ニ對シテ債務者ノ財産ニ關スル報告ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條　破産法第百五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ管財人又ハ債權者集會ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ管財人又ハ其ノ相續人ハ遲滯ナク裁判所ニ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第三十九條　第二十四條及破産法第百五十八條乃至第百六十一條第百六十三條乃至第百六十六條第百六十九條ノ規定ハ管財人ニ之ヲ準用ス

第四十條　和議手續中ハ和議債權ニ付債務者ノ財産ニ對シ强制執行、假差押又ハ假處分ヲ爲スコトヲ得ス

和議開始前和議債權ニ付債務者ノ財産ニ對シ爲シタル强制執行、假差押及假處分ハ和議手續中之ヲ中止ス

第三章　和議債權及其ノ屆出

第四十一條　債務者ニ對シ和議開始前ノ原因ニ基キテ生シタル財産上ノ請求權ハ之ヲ和議債權トス

第四十二條　一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債權ハ之ヲ和議債權トセス

第四十三條　破産ノ場合ニ於テ別除權ヲ行使スルコトヲ得ヘキ權利ヲ有スル者ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサル債權額ニ付和議債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第四十四條　左ニ揭クル請求權ハ之ヲ和議債權トセス

一　和議開始後ノ利息
二　和議開始後ノ不履行ニ因ル損害賠償及違約金
三　和議手續參加ノ費用
四　罰金、科料、刑事訴訟費用、追徵金及過料

前項ノ請求權ハ和議債權ニ後ル

第四十五條　破産法第十七條乃至第二十條、第二十二條乃至第二十七條及第二百二十八條乃至第二百三十條ノ規定ハ和議債權ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ和議ノ開始ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス

第四章　債權者集會

第四十六條　債權者集會ノ期日ニハ屆出ヲ爲シタル和議債權者、和議申立人及和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他債務者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ和議債權者ノ爲ニ擔保ヲ供スル者ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ニ規定スル者ニハ和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス但シ第二十八條第二項第三項ノ規定ニ依リ既ニ送達ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條　管財人及整理委員ハ屆出アリタル各債權ニ付債權者集會ニ於テ議決權ヲ行ハシムヘキカ否及如何ナル金額ニ付之ヲ行ハシムヘキカヲ調査スルコトヲ要ス

第四十八條　管財人及整理委員ハ債權者集會ニ於テ和議ノ開始ニ至リタル事情、債務者及其ノ財産ニ關スル經過及現狀竝前條ノ規定ニ依ル調査ノ結果ニ付報告ヲ爲シ且和議ノ條件ノ適否ニ關シ意見ヲ述フルコトヲ要ス

第四十九條　破産法第百八十二條第二項乃至第四項ノ規定ハ屆出アリタル債權ニ付第四十六條第一項ニ規定スル者、管財人又ハ整理委員ノ異議アル場合ニ之ヲ準用ス

破産法第百七十八條、第百八十一條、第二百三十八條但書、第三百一條、第三百二條、第三百六條及第三百七條ノ規定ハ債權者集會ニ付之ヲ準用ス

破産法第三百四條及第三百五條ノ規定ハ和議ニ付之ヲ準用ス

第五章　和議ノ認否

第五十條　債權者集會ニ於テ和議ヲ可決シタルトキハ裁判所ハ其ノ期日又ハ直ニ言渡シタル期日ニ於テ和議ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

第四十六條第一項ニ規定スル者、管財人及整理委員ハ和議ノ認否ニ付意見ヲ述フルコトヲ得

破産法第二百三十八條但書ノ規定ハ和議認否ノ期日ヲ定ムル決定ニ付之ヲ準用ス

第五十一條　裁判所ハ左ノ場合ニ限リ和議債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

一　和議ノ手續又ハ決議カ法律ノ規定ニ反スル場合ニ於テ其ノ欠缺カ追完スヘカラサルモノナルトキ
二　第十八條第二號又ハ第三號ニ規定スル事由アルトキ
三　和議ノ決議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキ
四　和議ノ決議カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

第五十二條　和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第五十三條　和議認否ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

破産法第三百十九條ノ規定ハ和議債權者ニ之ヲ準用ス

第五十四條　和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第五十五條　和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所書記ハ和議ノ條件ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第五十六條　和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ債務者ハ和議ノ爲ニ生シタル債權、和議手續ノ費用及一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債權ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ規定スル債權ニシテ異議アルモノニ付テハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス

第五十七條　破産法第三百二十五條乃至第三百二十七條及第三百四十二條ノ規定ハ和議ノ效力ニ付之ヲ準用ス

第五十八條　和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ第十七條ノ規定ニ依リ手續ヲ中止シタル破産ノ申立竝第四十條第二項ノ規定ニ依リ中止シタル强制執行、假差押及假處分ハ其ノ效力ヲ失フ

第六章　和議ノ廢止

第五十九條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

一　和議ノ可決前ニ和議ノ提供者カ其ノ提供ヲ撤回シタルトキ
二　債權者集會ノ第一期日ヨリ二月內ニ和議ヲ可決セサルトキ

第六十條　左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ管財人若ハ整理委員ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ債務者ヲ審訊スルコトヲ要ス

一　第二十條第一項第二項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ
二　債務者カ第三十一條又ハ第三十二條第一項第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
三　債務者カ第三十四條ノ規定ニ依ル請求アリタルニ拘ラス自ラ金錢ノ收支ヲ爲シタルトキ

第六十一條　裁判所カ和議廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第七章　讓步及和議ノ取消

第六十二條　破産法第三百二十九條乃至第三百三十一條ノ規定ハ和議ヲ以テ定メタル讓步ノ取消ニ之ヲ準用ス

第六十三條　債務者ニ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アルトキハ裁判所ハ和議債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第六十四條　破産法第三百三十二條第一項及第二項ノ規定ハ和議ノ取消ニ之ヲ準用ス

和議取消ノ申立ニ必要ナル債權額及總債權ノ計算ニ付テハ第四十八條ノ規定ニ依リテ定リタル債權額ニ依ル

第六十五條　和議ノ取消ハ和議債權者カ和議ニ因リテ得タル權利ニ影響ヲ及ホサス

第六十六條　裁判所カ和議取消申立棄却又ハ和議取消ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十七條　破産法第三百三十八條、第三百四十條及第三百四十一條ノ規定ハ第九條ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八章　罰則

第六十八條　整理委員又ハ管財人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス和議債權者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者債權者集會ノ決議ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第六十九條　整理委員、管財人又ハ和議債權者、其ノ代理人、理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第七十條　第二十三條又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ説明ノ義務アル者故ナク説明ヲ爲サス又ハ虛僞ノ説明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス和議申立人又ハ債務者第二十一條又ハ第三十六條ノ規定ニ依ル調査若ハ報告ヲ拒ミ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ罪ヲ犯シタル者和議裁判所ニ其ノ事實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年十一月勅令第四百九十八號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行）

和議手續參加ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

●朝鮮民事令中改正

大正十一年十二月
制令第十三號

朝鮮民事令中改正ノ件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮民事令中左ノ通改正ス

第一條中第十一號、第十二號及第十六號ヲ左ノ如ク改ム

十一　破産法
十二　和議法
十六　削除

第十一條　朝鮮人ノ親族及相續ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外第一條ノ法律ニ依ラス慣習ニ依ル但シ婚姻年齡、裁判上ノ離婚、認知、親權、後見、保佐人、親族會、相續ノ承認及財産ノ分離ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス

分家、絕家再興、婚姻、協議上ノ離婚、緣組及協議上ノ離緣ハ之ヲ府尹又ハ面長ニ屆出ツルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス但シ遺言ニ依ル緣組ニ付テハ其ノ屆出ハ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ其ノ效力ヲ生ス

第十一條ノ二　朝鮮人ノ戶籍ニ關シテハ第七條ノ規定ニ依ル

第十一條ノ三　戶籍事務ノ管掌ニ付テハ戶籍法第一條、第二條、第四條及第七條ノ規定ニ、戶籍ノ訂正ニ付テハ戶籍法第百六十四條及第百六十五條ノ規定ニ、戶籍事件ノ抗告ニ付テハ戶籍法第百六十九條乃至第百七十五條ノ規定ニ、過料ノ裁判ニ付テハ戶籍法第百七十九條ノ規定ニ依ル但シ戶籍法中市町村長トアルハ府尹又ハ面長ニ、市役所又ハ町村役場トアルハ府廳又ハ面事務所ニ、區裁判所トアルハ地方法院ニ該當ス

第十一條ノ四　戶籍事務ハ府廳又ハ面事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方法院ノ院長之ヲ監督ス

戶籍事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條ノ五　正當ノ理由ナクシテ期間內ニ爲スヘキ屆出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ十圓以下ノ過料ニ處ス

第十一條ノ六　朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ府尹又ハ面長カ戶籍事務ニ關シ期間ヲ定メテ屆出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其ノ期間內ニ屆出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處ス

第十一條ノ七　府尹又ハ面長ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處ス

一　正當ノ理由ナクシテ屆出又ハ申請ヲ受理セサルトキ
二　戶籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
三　正當ノ理由ナクシテ戶籍簿、除籍簿又ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ閱覽ヲ許シタル書類ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ
四　正當ノ理由ナクシテ戶籍若ハ除カレタル戶籍ノ謄本、抄本又ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ交付スヘキ證明書ノ交付ヲ爲ササルトキ
五　其ノ他戶籍事件ニ付職務ヲ怠リタルトキ

第十一條ノ八　戶籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付虛僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條ノ九　第十一條ノ三及第十一條ノ四ニ規定スルモノノ外戶籍簿、戶籍ノ記載手續、屆出其ノ他戶籍ニ關シ必要ナル事項ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依ル

第三十八條　削除

第七十二條中「及明治二十三年法律第三十二號第千十八條ノ規定ニ依ル競賣」ヲ削ル

第七十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

人事訴訟手續法第十條及第十一條ノ規定ハ人事ニ關スル訴訟ニシテ人事訴訟手續法ニ規定ナキモノニ付之ヲ準用ス

附　則

本令施行ノ期日ハ各條ニ付朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行前生シタル事項ニ付テハ民法施行法中離婚、相續ノ承認及財産ノ分離ニ關スル規定ヲ準用ス

●朝鮮民事令中改正規定施行期日

大正十一年十二月
總令第百五十二號

大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第一條、第三十八條及第七十二條ノ改正ニ關スル規定ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●同　上

大正十二年三月
總令第六十四號

大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ九及第七十三條第一項ノ改正ニ關スル規定ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　登記

●商業登記取扱規則中改正

大正十二年一月
總令第十四號

商業登記取扱規則中左ノ通改正ス

第二十四條第三項中「第百五十三條及」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

破産法第百二十二條及和議法第八條ノ規定ニ依ル登記ハ豫備欄ニ之ヲ爲スヘシ

第二十四條ノ二　擔保附社債信託法ニ依ル社債ノ登記ハ登記用紙中變更欄ニ之ヲ爲スヘシ

第二十四條ノ三　登記官吏カ擔保附社債信託法第百十五條ノ規定ニ依リ主務官廳ヨリ登記ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左ノ規定ニ從フヘシ

一　囑託カ信託會社ノ事業ノ停止ニ關スル場合ニ於テハ登記用紙中豫備欄ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ
二　囑託カ銀行事業ヲ兼ヌル信託會社ノ免許ノ取消ニ關スル場合ニ於テハ目的變更ノ登記ヲ爲スヘシ

三　囑託カ信託事業ヲ專業トスル信託會社ノ免許ノ取消ニ關スル場合ニ於テハ解散ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十三條中「第二百一條ノ二」ノ下ニ「及擔保附社債信託法第百十五條」ヲ加フ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●法人及夫婦財産契約登記取扱規則中改正

大正十二年一月　總令第十五號

法人及夫婦財産契約登記取扱規則中左ノ通改正ス

第九條中「第二十六條及第二十九條」ヲ「第二十四條第四項、第二十六條及第二十九條」ニ改ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●金融組合登記取扱規則中改正

大正十二年一月　總令第十六號

金融組合登記取扱規則中左ノ通改正ス

第九條中「第九條乃至第二十三條、」ノ下ニ「第二十四條第四項、」ヲ加フ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●不動産其ノ他登記簿ノ謄本、抄本ノ請求等ニ關スル手數料及私署證書確定日附ノ手數料ニ關スル件中改正

大正十二年三月　總令第四十二號

明治四十五年朝鮮總督府令第三十八號中左ノ通改正ス

第一條乃至第五條中「十錢」ヲ「十五錢」ニ、「五錢」ヲ「十錢」ニ、「五十錢」ヲ「一圓」ニ改ム

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三款　戸籍

●朝鮮戸籍令

大正十一年十二月　總令第百五十四號

朝鮮戸籍令左ノ通定ム

朝鮮戸籍令

第一章　總則

第一條　朝鮮人ノ戸籍ニ關シテハ朝鮮民事令ノ規定ニ依ルノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　地方法院支廳ノ一人ノ判事又ハ上席判事ハ地方法院長ノ命ヲ承ケ其ノ事務取扱區域内ニ於ケル戸籍事務ヲ監督ス

第二章　戸籍簿

第三條　戸籍ハ府又ハ面ノ區域内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付戸主ヲ本トシテ一戸毎ニ之ヲ編製ス

第四條　戸籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス

一ノ府又ハ面内ニ於ケル各區畫ノ順序ハ府尹又ハ面長之ヲ定ム

第五條　戸籍ハ正副二本ヲ設ク

正本ハ之ヲ府廳又ハ面事務所ニ備ヘ副本ハ監督裁判所之ヲ保存ス

第六條　新ニ戸籍ヲ編製シタルトキハ府尹又ハ面長ハ遲滯ナク其ノ副本ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

第七條　戸籍簿ハ事變ヲ避クル爲ニスル場合ヲ除クノ外府廳又ハ面事務所外ニ之ヲ持出スコトヲ得ス

第八條　戸籍簿ヲ閲覽シ又ハ戸籍ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

府尹又ハ面長ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ前二項ノ請求ヲ拒ムコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ請求者ニ告知スヘシ

謄本又ハ抄本ハ府尹又ハ面長之ヲ作リ原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ且之ニ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スヘシ

第九條　戸主相續、絶家其ノ他ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ其ノ戸籍ハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シ除籍簿トシテ之ヲ保存ス

第十條　第七條及第八條ノ規定ハ除籍簿及除カレタル戸籍ニ付之ヲ準用ス

第三章　戸籍ノ記載手續

第十一條　戸籍ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　戸主及家族ノ姓名及本貫竝前戸主ノ姓名

二　戸主ノ本籍

三　戸主又ハ家族カ朝鮮貴族ナルトキハ其ノ旨

四　戸主及家族ノ出生ノ年月日

五　戸主又ハ家族ト爲リタル原因及年月日

六　戸主及家族ノ實父母ノ姓名竝戸主及家族ト實父母トノ續柄

七　戸主又ハ家族カ養子ナルトキハ其ノ養親及實父母ノ姓名竝養子ト養親及實父母トノ續柄

八　戸主ト前戸主及家族ト戸主トノ續柄

九　家族ノ配偶者又ハ家族ヲ經テ戸主ト親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其ノ家族トノ續柄

十　他家ヨリ入リテ家族ト爲リタル者カ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スルトキハ其ノ續柄

十一　他家ヨリ入リテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其ノ原籍、原籍ノ戸主ノ姓名及其ノ戸主ト戸主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄

十二　後見人又ハ保佐人アル者ニ付テハ後見人又ハ保佐人ノ姓名、本籍竝其ノ就職及任務終了ノ年月日

十三　其ノ他戸主又ハ家族ノ身分ニ關スル事項

第十二條　戸主及家族ノ姓名ノ記載ハ左ノ順序ニ依ル

第一　戸主

第二　戸主ノ直系尊屬

第三　戸主ノ配偶者

第四　戸主ノ直系卑屬及其ノ配偶者

第五　戸主ノ傍系親及其ノ配偶者

第六　戸主ノ親族ニ非サル者

直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

戸籍ヲ編製シタル後家族ト爲リタル者ニ付テハ戸籍ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ

第十三條　戸籍ノ記載ハ届出、報告若ハ申請、證書若ハ航海日誌ノ謄本又ハ裁判ニ依リ之ヲ爲ス

第十四條　戸籍ニハ第十一條ニ掲クルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　届出又ハ申請ノ受附ノ年月日、事件ノ本人ニ非サル者ノ届出又ハ申請ニ係ル場合ニ於テハ届出人又ハ申請人ノ資格及姓名、他ノ府尹、面長又ハ官廳ヨリ届書又ハ申請書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ受附ノ年月日及發送者ノ職氏名

二　報告ノ受附ノ年月日及報告者ノ職氏名

三　證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ受附ノ年月日及證書又ハ航海日誌ノ作製者竝謄本ノ發送者ノ職氏名

四　戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及裁判所ノ名稱

第十五條　府尹又ハ面長カ届書、報告書其ノ他ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類ニ受附ノ番號及年月日ヲ記載スヘシ

本籍地ノ府尹又ハ面長ハ前項ノ手續ヲ爲シタル後遲滯ナク戸籍ノ記載ヲ爲スヘシ

第十六條　戸主相續、戸主相續回復其ノ他戸主ノ變更ヲ生スヘキ事項ニ付届出又ハ申請アリタルトキハ其ノ届出又ハ申請及前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ依リテ新戸籍ヲ編製スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ之ヲ抹消スヘシ

第十七條　一戸ノ全員又ハ一戸内ノ一人若ハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ記載シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スヘシ

除籍セラルヘキ者ノ本籍カ他ノ府又ハ面ニ轉屬スル場合ニ於テハ前項ノ手續ハ入籍ノ

通知ヲ受ケタル後之ヲ爲スヘシ但シ入籍地ノ府尹又ハ面長カ届出ヲ受理シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第十八條　戸籍ノ記載ヲ爲スニハ字畫ヲ明瞭ニシ略字又ハ符號ヲ用ウヘカラス

年月日ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ文字ヲ用ウヘシ

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ府尹又ハ面長之ニ認印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ尙明カニ讀得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第十九條　戸籍ノ記載ヲ爲ス毎ニ府尹又ハ面長ハ其ノ文末ニ認印スヘシ

第二十條　戸籍用紙中ノ一部分ヲ用ヰ盡シタルトキハ掛紙ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府尹又ハ面長ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スヘシ

第二十一條　届出事件ノ本人ノ本籍カ一ノ府又ハ面ヨリ他ノ府又ハ面ニ轉屬スル場合ニ於テハ届出ヲ受理シタル府尹又ハ面長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後遲滯ナク届書ノ一通ヲ他ノ府尹又ハ面長ニ送付スヘシ

第二十二條　前條ノ場合ヲ除クノ外他ノ府尹又ハ面長カ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ必要アル場合ニ於テハ届出ヲ受理シタル府尹又ハ面長ハ遲滯ナク届書ノ一通ヲ他ノ府尹又ハ面長ニ送付スヘシ

第二十三條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付届出ヲ受理シタル後其ノ者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨又ハ其ノ者カ本籍ヲ有スルニ至リタル旨ノ届出アリタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ハ其ノ届書及前ニ受理シタル届書ニ之ヲ適用ス

第二十四條　前三條ノ規定ハ届書ニ非サル書面ニ依リ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ府尹又ハ面長ハ其ノ受附ケタル書面ノ謄本ヲ作リ之ヲ送付スヘシ

第二十五條　届出事件ノ本人ノ本籍カ他ノ府又ハ面ニ轉屬スル場合ニ於テハ入籍地ノ府尹又ハ面長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後除籍地ノ府尹又ハ面長ニ入籍ノ通知ヲ爲スヘシ但シ入籍地ノ府尹又ハ面長カ届出ヲ受理シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ府尹又ハ面長カ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第二十六條　戸籍ノ記載手續ヲ完了シタルトキハ届書其ノ他受理シタル書類ハ本籍人及非本籍人ニ區別シ本籍人ニ關スルモノハ戸籍編綴ノ順序ニ從ヒテ之ヲ編綴シ非本籍人ニ關スルモノハ事件ノ種類ニ依リ各別ニ之ヲ編綴シ且各目錄ヲ附スヘシ

戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付受理シタル書類ハ之ヲ合綴シ且目錄ヲ附スヘシ

第二十七條　前條第一項ノ書類ハ一月毎ニ遲滯ナク之ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

第二十八條　戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノ又ハ其ノ記載ニ錯誤若ハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ府尹又ハ面長ハ遲滯ナク届出人又ハ届出事件ノ本人ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ但シ其ノ錯誤又ハ遺漏カ府尹又ハ面長ノ過誤ニ出テタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ通知ヲ爲シタルモ戸籍訂正ノ申請ヲ爲ス者ナキトキハ府尹又ハ面長ハ監督裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ得前項但書ノ場合亦同シ

裁判所其ノ他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ其ノ職務上戸籍ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク届出事件ノ本人ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第二十九條　同一ノ事件ニ付數人ノ届出義務者ヨリ各別ニ届出アリタル場合ニ於テ後ニ受理シタル届出ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シタルトキハ前ニ受理シタル届出ニ基キ其ノ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘシ

第三十條　行政區畫又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ハ訂正セラレタルモノト看做ス但シ其ノ記載ヲ更正スルコトヲ妨ケス

地番號ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ヲ更正スヘシ

第三十一條　府又ハ面ノ區域ノ變更アリタルトキハ戸籍及之ニ關スル書類ハ之ヲ當該府又ハ面ニ引繼クヘシ

第三十二條　第二十一條乃至第二十四條及第二十五條第一項ノ規定ハ共通法第三條ノ規定ニ依リテ朝鮮ノ家ヲ去リタル者及他ノ地域ノ家ヲ去リテ朝鮮ノ家ニ入リタル者ノ戸籍ノ記載手續ニ付之ヲ準用ス

第四章　届出

第一節　通則

第三十三條　届出ハ届出事件ノ本人ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十四條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付届出アリタル後其ノ者ノ本籍カ分明ト爲リタルトキ又ハ其ノ者カ本籍ヲ有スルニ至リタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ届出事件ヲ表示シテ届出ヲ受理シタル府尹又ハ面長ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三十五條　届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十六條　届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名、捺印スヘシ

一　届出事件

二　届出ノ年月日

三　届出人ノ出生ノ年月日及本籍

届出事件ニ因リ届出事件ノ本人ニ隨ヒテ家ヲ去リ、他家ニ入リ其ノ他身分ニ變更ヲ生スル者アル場合ニ於テハ届書ニ其ノ者ノ姓名、出生ノ年月日及本籍竝身分變更ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十七條　届出人ト届出事件ノ本人ト異ルトキハ届書ニ其ノ續柄ヲ記載スヘシ

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ姓名及届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スヘシ

第三十八條　届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス但シ出生、死亡其ノ他單純ノ事實ニ關スル届出ハ未成年者又ハ禁治産者亦之ヲ爲スコトヲ得

親權ヲ行フ者又ハ後見人カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　届出ヲ爲スヘキ者ノ姓名、出生ノ年月日及本籍

二　無能力ノ原因

三　届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人ナルコト

第三十九條　無能力者カ其ノ法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付テハ無能力者之ヲ届出ツヘシ

禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出事件ノ性質及效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スルコトヲ證スヘキ診斷書ヲ添附スヘシ

第四十條　届出ニ證人ヲ要スル場合ニ於テハ證人ハ届書ニ出生ノ年月日及本籍ヲ記載シテ署名、捺印スヘシ

第四十一條　届出人、届出事件ノ本人又ハ證人カ本籍ニ在ラサルトキハ届書ニ其ノ所在ヲ記載スヘシ

第四十二條　届書ニ記載スヘキ事項ニシテ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ但シ府尹又ハ面長ハ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

第四十三條　届書ニハ本令其ノ他ノ法令ニ定メタル事項ノ外戸籍ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナルモノハ之ヲ記載スヘシ

第四十四條　第十八條第一項及第三項ノ規定ハ届書ニ付之ヲ準用ス

第四十五條　二以上ノ府廳又ハ面事務所ニ於テ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ府廳又ハ面事務所ノ數ト同數ノ届書ヲ提出スヘシ

本籍地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ前項ノ規定ニ依ルモノノ外尙一通ノ届書ヲ提出スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ相當ト認ムルトキハ府尹又ハ面長ハ届書ノ謄本ヲ作リ之ヲ以テ届書ニ代フルコトヲ得

第四十六條　口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出

人ハ府廳又ハ面事務所ニ出頭シ届書ニ記載スヘキ事項ヲ陳述スヘシ

府尹又ハ面長ハ届出人ノ陳述ヲ筆記シ届出ノ年月日ヲ記載シテ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ其ノ書面ニ署名、捺印セシムヘシ

届出人カ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ以テ届出ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　届出事件ニ付戸主、父母、後見人、親族會其ノ他ノ者ノ同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ届書ニ其ノ同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ同意又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其ノ旨ヲ附記シ署名、捺印セシムルヲ以テ足ル

届出事件ニ付官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第四十八條　届書ニ關スル規定ハ第四十六條第二項及前條第一項ノ書面ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　外國ニ在ル朝鮮人カ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ本令ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタルトキハ府尹又ハ面長ニ届出ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十條　外國ニ在ル朝鮮人ハ其ノ國ノ方式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ一月内ニ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ其ノ證書ノ謄本ヲ提出スヘシ

前項ノ手續ヲ爲スコト能ハサルトキハ一月内ニ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ證書ノ謄本ヲ發送スヘシ

第五十一條　届出期間ハ届出事件發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ裁判カ送達又ハ交付前確定シタルトキハ其ノ送達又ハ交付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第五十二條　府尹又ハ面長カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ届出義務者ニ對シ其ノ期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ府尹又ハ面長ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第二十八條第二項ノ規定ハ前二項ノ催告ヲ爲スコト能ハサル場合及催告ヲ爲スモ届出ヲ爲ササル場合ニ、同條第三項ノ規定ハ裁判所其ノ他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十三條　府尹又ハ面長カ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ届書ニ欠缺アル爲戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサルトキハ届出義務者ヲシテ其ノ追完ヲ爲サシムヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第五十四條　届出期間經過後ノ届出ト雖府尹又ハ面長ハ之ヲ受理スヘシ

第五十五條　届出人ハ届出ノ受理又ハ不受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得但シ受理ノ證明書ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料ヲ納付スヘシ

利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ第二十六條ノ書類ノ閲覽ヲ請求シ又ハ其ノ書類ニ記載シタル事項ニ付證明書ヲ請求スルコトヲ得

第八條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

利害關係人ハ特別ノ理由アル場合ニ限リ第二十七條ノ書類ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條　届出人其ノ他ノ者カ署名、捺印スヘキ場合ニ於テ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ姓名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ姓名ヲ代署セシメ拇印スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ書面ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第二節　出生

第五十七條　出生ノ届出ハ十四日内ニ之ヲ爲スヘシ

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　子ノ姓名、本貫及男女ノ別
二　子カ私生子又ハ庶子ナルトキハ其ノ旨
三　出生ノ年月日時及場所
四　父母ノ姓名、本籍及職業
五　子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ姓名及本籍
六　子カ一家ヲ創立スルトキハ其ノ旨竝創立ノ原因及場所

第五十八條　出生ノ届出ハ出生地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十九條　汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ到著地ニ於テ届出ヲ爲スコトヲ得

第六十條　嫡出子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ母之ヲ爲スヘシ

庶子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母之ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘキ者カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲クル者ハ其ノ順序ニ從ヒ届出ヲ爲スヘシ

第一　戸主
第二　同居者
第三　分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆
第四　分娩ヲ介抱シタル者

第六十一條　嫡出子否認ノ訴ヲ提起シタルトキト雖出生ノ届出ヲ爲スヘシ

第六十二條　航海中ニ出生アリタルトキハ船長ハ二十四時内ニ第五十七條第二項ニ掲クル事項ヲ航海日誌ニ記載シテ署名、捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタル後船舶カ朝鮮ノ港ニ著シタルトキハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其ノ地ノ府尹又ハ面長ニ發送スヘシ

第六十三條　病院、監獄其ノ他ノ公設所ニ於テ出生アリタル場合ニ於テ父母共ニ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ公設所ノ長又ハ管理人届出ヲ爲スヘシ

第六十四條　出生ノ届出前ニ子カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ出生ノ届出ヲ爲スヘシ

第六十五條　棄兒ヲ發見シタル者又ハ棄兒發見ノ申告ヲ受ケタル警察官ハ二十四時内ニ其ノ旨ヲ府尹又ハ面長ニ申出ツヘシ

前項ノ申出アリタルトキハ府尹又ハ面長ハ姓名ヲ命シ本籍ヲ定メ且附屬品、發見ノ場所、年月日時其ノ他ノ狀況及姓名、男女ノ別、出生ノ推定年月日竝本籍ヲ調書ニ記載スヘシ其ノ調書ハ之ヲ届書ト看做ス

第六十六條　父又ハ母カ棄兒ヲ引取ルトキハ一月内ニ第五十七條第二項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シ且戸籍ノ訂正ヲ申請スヘシ

第六十七條　第六十五條第一項又ハ前條ノ手續ヲ爲ス前ニ棄兒カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第三節　認知

第六十八條　私生子認知ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　子ノ姓名、男女ノ別、出生ノ年月日及本籍
二　死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日
三　父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ姓名及本籍竝父ノ職業
四　子カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名、本籍及戸主ト子トノ續柄

第六十九條　胎内ニ在ル子ヲ認知スル場合ニ於テハ届書ニ其ノ旨、母ノ姓名及本籍ヲ記載シ認知者ノ本籍地ニ於テ之ヲ届出ツヘシ

第七十條　父カ庶子出生ノ届出ヲ爲シタルトキハ其ノ届出ハ認知届出ノ效力ヲ有ス民法第八百三十六條第二項ノ規定ニ依リ嫡出子タルヘキ者ニ付父母カ嫡出子出生ノ届出ヲ爲シタルトキ亦同シ

第七十一條　認知ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第六十八條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第七十二條　遺言ニ依ル認知ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ其ノ就職ノ日ヨリ十日内ニ認知ニ關スル遺言ノ謄本又ハ遺言アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附シ第六十八條又ハ第六十九條ノ規定ニ從ヒ其ノ届出ヲ爲スヘシ

第七十三條　認知セラレタル胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ出生届出義務者ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十四日内ニ認知ノ届出地ニ於テ其ノ旨ヲ届出ツヘシ但シ遺言執行者カ前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者其ノ届出ヲ爲スヘシ

第七十四條　第四十六條第三項ノ規定ハ第六十八條及第六十九條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第四節　養子緣組

第七十五條　緣組ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ姓名、本貫、出生ノ年月日、本籍及職業
二　養子ノ實父母ノ姓名及本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名、本籍及戸主トノ續柄
四　新ニ家ヲ立テタル者カ養子ト爲ルトキハ其ノ旨

前項ノ届出ハ當事者雙方及成年ノ證人二人以上ヨリ之ヲ爲スヘシ

第七十六條　父母其ノ他ノ者カ養子ト爲ルヘキ者ニ代リテ緣組ノ意思ヲ表示シタル場合又ハ死後養子ノ場合ニ於テハ届出ハ其ノ意思表示ヲ爲シタル者又ハ養子ノ選定ヲ爲シタル者之ヲ爲スヘシ

第七十七條　遺言ニ依ル緣組ニ付テハ遺言執行者及養子ト爲ルヘキ者ハ遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯ナク緣組ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ緣組ニ關スル遺言ノ謄本又ハ遺言アリタルコトヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スヘシ

第七十八條　緣組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第七十九條　第四十六條第三項ノ規定ハ緣組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第五節　養子離緣

第八十條　離緣ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ姓名、本貫、本籍及職業
二　養子ノ實父母ノ姓名及本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍
四　養子ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ姓名及本籍
五　養子カ一家ヲ創立スルトキハ其ノ旨竝創立ノ原因及場所但シ實家ヲ再興スルトキハ其ノ旨及再興ノ場所

第七十五條第二項ノ規定ハ前項ノ届出ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ届出ヲ爲シタル後養子カ復籍スヘキ家ノ絶家ニ因リ一家ヲ創立シタルコトヲ知リタルトキハ十日内ニ絶家ノ戸主ノ姓名、本籍及絶家ノ年月日ヲ届書ニ記載シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第八十一條　父母其ノ他ノ者カ養子ニ代リテ離緣ノ協議ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其ノ協議ヲ爲シタル者之ヲ爲スヘシ養親カ死亡シタル後離緣ヲ爲ス場合ニ於ケル届出ニ付亦同シ

第八十二條　離緣ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第八十條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第八十三條　第四十六條第三項ノ規定ハ第八十條第一項及第八十一條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節　婚姻

第八十四條　婚姻ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ姓名、本貫、出生ノ年月日、本籍及職業
二　父母ノ姓名及本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名、本籍及戸主トノ續柄
四　招壻ナルトキハ其ノ旨

當事者ノ一方カ婚家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲クル事項ノ外實家ノ戸主ノ姓名及本籍ヲ記載スヘシ

第七十五條第二項ノ規定ハ第一項ノ届出ニ付之ヲ準用ス

第八十五條　婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ招壻ノ場合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ届出ヲ爲スヘシ

第八十六條　第四十六條第三項ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節　離婚

第八十七條　離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ姓名、本貫、本籍及職業
二　父母ノ姓名及本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍
四　婚家ヲ去ル者ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ姓名及本籍
五　婚家ヲ去ル者カ一家ヲ創立スルトキハ其ノ旨竝創立ノ原因及場所但シ實家ヲ再興スルトキハ其ノ旨及再興ノ場所

第七十五條第二項ノ規定ハ前項ノ届出ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ届出ヲ爲シタル後婚家ヲ去リタル者カ復籍スヘキ家ノ絶家ニ因リ一家ヲ創立シタルコトヲ知リタルトキハ十日内ニ絶家ノ戸主ノ姓名、本籍及絶家ノ年月日ヲ届書ニ記載シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第八十八條　離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ前條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第八十九條　第四十六條第三項ノ規定ハ第八十七條第一項ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節　親權及後見

第九十條　父カ親權又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ母其ノ權利ヲ行フトキハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第九十一條　失權宣告取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ其ノ届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第九十二條　後見開始ノ届出ハ後見人其ノ就職ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　後見人及被後見人ノ姓名、出生ノ年月日及本籍
二　被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍
三　後見開始ノ原因及年月日
四　後見人就職ノ年月日

第九十三條　後見人更迭ノ場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第九十四條　遺言ニ依ル後見人指定ノ場合ニ於テハ指定ニ關スル遺言ノ謄本又ハ遺言アリタルコトヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スヘシ

後見人選任ノ場合ニ於テハ選任ヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スヘシ

第九十五條　後見終了ノ届出ハ後見人十日内ニ之ヲ爲スヘシ

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　被後見人ノ姓名及本籍
二　後見終了ノ原因及年月日

第九十六條　後見ニ關スル届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ後見人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第九十七條　後見人ニ關スル本節ノ規定ハ保佐人ニ付之ヲ準用ス

第九節　死亡及失踪

第九十八條　死亡ノ届出ハ届出義務者カ死亡ノ事實ヲ知リタル日ヨリ七日内ニ診斷書若ハ檢案書又ハ檢視調書ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　死亡者ノ姓名、本籍及職業
二　死亡ノ年月日時及場所
三　死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及戸主ト死亡者トノ續柄

第九十九條　左ニ掲クル者ハ其ノ順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲スヘシ但シ順序ニ拘ラス届出ヲ爲スコトヲ得

第一　戸主
第二　同居者
第三　家主、地主又ハ家屋若ハ土地ノ管理人

第百條　死亡ノ届出ハ死亡地ニ於テ之ヲ爲ス

コトヲ得

第百一條 水難、火災其ノ他ノ事變ニ因リ死亡シタル者アル場合ニ於テハ其ノ取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘシ

第百二條 死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滯ナク監獄所在地ノ府尹又ハ面長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者ノ引取人ナキ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ報告書ニ診斷書又ハ檢案書ヲ添附スヘシ

第百三條 前二條ノ報告書ニハ第九十八條第二項ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

第百四條 死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合ニ於テハ警察官ハ檢視調書ヲ作リ之ヲ添附シテ遲滯ナク死亡地ノ府尹又ハ面長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘシ

死亡者ノ本籍地分明ナルニ至リ又ハ死亡者ヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ報告スヘシ

第一項ノ報告アリタル後第九十九條第一號及第二號ニ掲クル者カ死亡者ヲ認識シタルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スヘシ

第百五條 第五十九條、第六十二條及第六十三條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ付之ヲ準用ス

第百六條 失踪宣告ノ届出ハ其ノ宣告ヲ請求シタル者裁判ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 失踪者ノ姓名及本籍
二 民法第三十條ニ定ムル期間滿了ノ日
三 失踪者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及戸主ト失踪者トノ續柄

第十節 戸主相續

第百七條 戸主相續ノ届出ハ戸主ト爲リタル者相續ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一月内ニ之ヲ爲スヘシ

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 戸主相續ノ原因及戸主ト爲リタル年月日
二 前戸主ノ姓名及前戸主ト戸主トノ續柄

戸主ト爲リタル者カ外國ニ在ル場合ニ於テハ三月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足ル

第百八條 戸主相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スヘシ

第百九條 前二條ノ届出ハ被相續人ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十一節 親族入籍

第百十條 戸主カ他家ニ在ル自己又ハ家族ノ親族ヲ家族ト爲サムト欲スルトキハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

一 入籍スヘキ者ノ姓名、本貫及出生ノ年月日
二 入籍スヘキ家ノ戸主又ハ家族ト入籍スヘキ者トノ續柄
三 入籍スヘキ者ノ原籍ノ戸主ノ姓名、本籍及其ノ戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第十二節 分家及絶家

第百十一條 分家ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 本家ノ戸主ノ姓名、本籍及其ノ戸主ト分家ノ戸主トノ續柄
二 分家ノ戸主及家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ姓名及本籍

第百十二條 絶家ノ家族ハ絶家ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ一家創立ノ届出ヲ爲スヘシ

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 絶家ノ戸主ノ姓名及本籍
二 絶家ノ原因及年月日

第百十三條 絶家再興ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 絶家ノ戸主ノ姓名及本籍
二 絶家ノ年月日
三 絶家ノ戸主ト再興ヲ爲ス者トノ續柄
四 再興ヲ爲ス者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍

第十三節 改名、族稱ノ得喪及襲爵

第百十四條 改名ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 變更前ノ名
二 變更シタル名
三 許可ノ年月日

第百十五條 新ニ朝鮮貴族ニ列セラレタル者ハ十日内ニ辭令書ノ謄本ヲ添附シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 族稱
二 族稱取得ノ原因
三 辭令ノ年月日

第百十六條 爵ヲ襲キタル者ハ辭令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ其ノ謄本ヲ添附シ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

届書ニハ辭令ノ年月日ヲ記載スヘシ

第百十七條 朝鮮貴族ノ族稱ヲ喪失シタル場合ニ於テハ戸主ハ十日内ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

届書ニハ族稱喪失ノ原因及年月日ヲ記載スヘシ

第百十八條 前條ノ規定ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ喪失シタル場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ本人ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第十四節 轉籍及就籍

第百十九條 轉籍セムト欲スルトキハ新本籍ヲ届書ニ記載シ戸主其ノ旨ヲ届出ツヘシ

他ノ府又ハ面ニ轉籍スル場合ニ於テハ戸籍ノ謄本ヲ届書ニ添附スヘシ

第百二十條 轉籍ノ届出ハ轉籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百二十一條 本籍ヲ有セサル者ハ其ノ就籍セムト欲スル地ヲ管轄スル裁判所ノ許可ヲ得テ十日内ニ就籍ノ届出ヲ爲スヘシ

届書ニハ第十一條ニ掲クル事項ノ外就籍許可ノ年月日ヲ記載スヘシ

第百二十二條 就籍ノ届出ハ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百二十三條 就籍許可ノ裁判ヲ得タル者カ就籍ノ届出ヲ爲ササルトキハ戸主之ヲ爲スヘシ

第百二十四條 第百二十一條ノ規定ハ確定判決ニ因リテ就籍ノ届出ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ判決ノ謄本ヲ届書ニ添附スヘシ

第五章 戸籍ノ訂正

第百二十五條 戸籍ノ訂正ニ付許可ノ裁判アリタルトキハ一月内ニ其ノ謄本ヲ添附シ訂正ノ申請ヲ爲スヘシ

第百二十六條 確定判決ニ因リ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘキトキハ訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一月内ニ判決ノ謄本ヲ添附シ訂正ノ申請ヲ爲スヘシ

第百二十七條 第三十三條、第三十五條乃至第三十九條、第四十一條乃至第四十八條及第五十一條乃至第五十六條ノ規定ハ戸籍訂正ノ申請ニ付之ヲ準用ス

附 則

第百二十八條 本令ハ大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ九ノ改正ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

民籍法、明治四十四年朝鮮總督府令第百四十八號及大正十年朝鮮總督府令第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第百二十九條 本令施行前生シタル事項ノ申告又ハ届出ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

第百三十條 本令ノ規定ハ前條ノ申告又ハ届出及本令施行前ノ申告又ハ届出其ノ他ノ事由ニ因リ戸籍ノ記載手續ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニ亦之ヲ適用ス

第百三十一條 本令施行前共通法第三條ノ規定ニ依リ朝鮮ノ家ヲ去リ又ハ他ノ地域ノ家ヲ去リテ朝鮮ノ家ニ入リタル場合ニ於テ民籍法又ハ戸籍法ニ從ヒ申告又ハ届出アリタルモノニ付テハ府尹又ハ面長ハ本令ノ定ムル所ニ準シ入籍、除籍其ノ他ノ手續ヲ爲スヘシ

當事者、戸主其ノ他ノ利害關係人ハ當事者ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ其ノ申告又ハ届出アリタル旨ヲ申出ツヘシ

第百三十二條 從前ノ規定ニ依ル民籍ハ本令ニ依ル戸籍トシテ其ノ效力ヲ有ス

第百三十三條 府尹又ハ面長ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ從前ノ規定ニ依リ全戸除籍シタルモノヲ除クノ外前條ノ規定ニ依ル民籍ノ副本ヲ作リ之ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

●戸籍法

大正三年三月
法律第二十六號
（改正 大正一〇、四第四八號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル戸籍法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

戸籍法

第一章 戸籍事務ノ管掌
第二章 戸籍簿
第三章 戸籍ノ記載手續
第四章 届出
第一節 通則
第二節 出生
第三節 認知
第四節 養子縁組
第五節 養子離縁
第六節 婚姻
第七節 離婚
第八節 親權及ヒ後見
第九節 隱居
第十節 死亡及ヒ失踪
第十一節 家督相續
第十二節 推定家督相續人ノ廢除
第十三節 家督相續人ノ指定
第十四節 入籍、離籍及ヒ復籍拒絶
第十五節 廢家及ヒ絶家
第十六節 分家及ヒ廢絶家再興
第十七節 國籍ノ得喪
第十八節 氏名、族稱ノ變更及ヒ襲爵
第十九節 轉籍及ヒ就籍
第五章 戸籍ノ訂正
第六章 抗告
第七章 罰則
附則

戸籍法

第一章 戸籍事務ノ管掌

第一條 戸籍ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス

第二條 市町村長ハ自己又ハ自己ト家ヲ同シクスル者ニ關スル戸籍事件ニ付キ其職務ヲ行フコトヲ得ス

第三條 戸籍事務ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戸籍事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條 市町村長カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ市町村長ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス

第五條 市制第六條及ヒ第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ本法中市、市長及ヒ市役所ニ關スル規定ハ區、區長及ヒ區役所ニ之ヲ準用ス

第六條 市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ本法中市町村、市町村長及ヒ市役所竝ニ町村役場ニ關スル規定ハ之ニ相當スル地區、吏員及ヒ公署ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スル吏員ナキ地ニ在リテハ其地ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其代理者ヲ定ム

第七條 第二條及ヒ第四條ノ規定ハ戸籍事務ヲ管掌スル吏員ノ代理者ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ニ依リテ納付スル手數料ハ之ヲ市町村ノ收入トス

手數料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 戸籍簿

第九條 戸籍ハ市町村ノ區域内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ戸主ヲ本トシテ一戸毎ニ之ヲ編製ス

第十條 戸籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス

一ノ市町村内ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二個以上ノ區畫アル場合ニ於テハ其區畫ノ順序ハ市町村長之ヲ定ム

第十一條 戸籍ハ正副二本ヲ設ク

正本ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備ヘ副本ハ監督區裁判所之ヲ保存ス

第十二條 新ニ戸籍ヲ編製シタルトキハ市町村長ハ遲滯ナク其副本ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第十三條 戸籍簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外市役所又ハ町村役場外ニ之ヲ持出スコトヲ得ス

第十四條 戸籍簿ヲ閲覽シ又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

市町村長ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ前二項ノ請求ヲ拒ムコトヲ得此場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス

謄本又ハ抄本ハ市町村長之ヲ作リ原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ且之ニ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第十五條 戸籍簿ノ全部若クハ一部カ滅失シタルトキ又ハ滅失ノ虞アルトキハ司法大臣ハ其再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命ス但滅失ノ場合ニ於テハ其旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第十六條 家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ其戸籍ハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シ除籍簿トシテ之ヲ保存ス

除籍簿ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第十七條 第十三條乃至第十五條ノ規定ハ除籍簿及ヒ除カレタル戸籍ニ之ヲ準用ス

第三章 戸籍ノ記載手續

第十八條 戸籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 戸主、前戸主及ヒ家族ノ氏名
二 戸主ノ本籍
三 戸主カ華族又ハ士族ナルトキハ其族稱
四 家族カ戸主ト族稱ヲ異ニスルトキハ其族稱
五 戸主及ヒ家族ノ出生ノ年月日
六 戸主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日
七 戸主竝ニ家族ノ實父母ノ氏名及ヒ戸主竝ニ家族ト實父母トノ續柄
八 戸主又ハ家族カ養子ナルトキハ其養親竝ニ實父母ノ氏名及ヒ養子ト養親竝ニ實父母トノ續柄
九 戸主ト前戸主及ヒ家族トノ續柄
十 家族ノ配偶者又ハ家族ヲ經テ戸主ト親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其家族トノ續柄
十一 他家ヨリ入リテ家族ト爲リタル者カ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スルトキハ其續柄
十二 他家ヨリ入リテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其原籍、原籍ノ戸主ノ氏名及ヒ其戸主ト戸主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄
十三 後見人又ハ保佐人アル者ニ付テハ後見人又ハ保佐人ノ氏名、本籍及ヒ其就職竝ニ任務終了ノ年月日
十四 其他戸主又ハ家族ノ身分ニ關スル事項

第十九條 戸主及ヒ家族ノ氏名ノ記載ハ左ノ順序ニ依ル

第一 戸主
第二 戸主ノ直系尊屬
第三 戸主ノ配偶者
第四 戸主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者
第五 戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者
第六 戸主ノ親族ニ非サル者

直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

戸籍ヲ編製シタル後家族ト爲リタル者ニ付テハ戸籍ノ末尾ニ記載スルコトヲ要ス

第二十條 戸籍ノ記載ハ届出、報告、申請若クハ請求、證書若クハ航海日誌ノ謄本又ハ裁判ニ依リ之ヲ爲ス

第二十一條 戸籍ニハ第十八條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日、事件ノ本人ニ非サル者ノ届出又ハ申請ニ係ル場合ニ於テハ届出人又ハ申請人ノ資格及ヒ氏名、他ノ市町村長又ハ官廳ヨリ届書又ハ申請書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其受附ノ年月日及ヒ發送者ノ職氏名
二 報告又ハ請求ノ受附ノ年月日及ヒ報

告者又ハ請求者ノ職氏名

三　證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ受附ノ年月日及ヒ證書又ハ航海日誌ノ作製者竝ニ謄本發送者ノ職氏名

四　戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十二條　市町村長カ屆書、報告書其他ノ書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

本籍地ノ市町村長ハ前項ノ手續ヲ爲シタル後遲滯ナク戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條　家督相續、家督相續回復其他戸主ノ變更ヲ生スヘキ事項ニ付キ屆出、申請又ハ請求アリタルトキハ其屆出、申請又ハ請求及ヒ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ依リテ新戸籍ヲ編製スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ之ヲ抹消スルコトヲ要ス

家督相續人カ胎兒ナルトキハ其出生ノ記載ヲ爲スマテハ前二項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ヲ抹消シ家督相續人カ胎兒ナル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十四條　復籍拒絕ノ屆出アリタルトキハ復籍拒絕者ノ戸籍ニ屆出ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後新戸籍ヲ編製スルトキハ之ニ復籍拒絕ニ關スル事項ヲ移記スルコトヲ要ス

復籍ヲ拒絕セラレタル者カ死亡シ其他復籍スルコトナキニ至リタルトキハ復籍拒絕ニ關スル事項ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十五條　家督相續人指定ノ屆出アリタルトキハ其指定ヲ爲シタル者ノ戸籍ニ屆出ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十六條　離籍又ハ廢家ニ因ル除籍ノ手續ハ離籍セラレタル者ノ一家創立又ハ廢家ヲ爲ス者ノ入籍ノ手續アリタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條　一戸ノ全員又ハ一戸內ノ一人若クハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ記載シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルコトヲ要ス

除籍セラルヘキ者ノ本籍カ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ前項ノ手續ハ入籍ノ通知ヲ受ケタル後之ヲ爲スコトヲ要ス但入籍地ノ市町村長カ屆出ヲ受理シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ一家創立ノ屆出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條　戸籍ノ記載ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用井ス字畫明瞭ナルコトヲ要ス

年月日ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ文字ヲ用ウルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ市町村長之ニ認印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ明カニ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

第二十九條　戸籍ノ記載ヲ爲ス每ニ市町村長ハ其文末ニ認印スルコトヲ要ス

第三十條　戸籍用紙中ノ一部分ヲ用井盡シタルトキハ掛紙ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ市町村長ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第三十一條　屆出事件ノ本人ノ本籍カ一ノ市町村ヨリ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ屆出ヲ受理シタル市町村長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後遲滯ナク屆書ノ一通ヲ他ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第三十二條　前條ノ場合ヲ除ク外他ノ市町村長カ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ必要アル場合ニ於テハ屆出ヲ受理シタル市町村長ハ遲滯ナク屆書ノ一通ヲ他ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第三十三條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付キ屆出ヲ受理シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨又ハ其者カ本籍ヲ有スルニ至リタル旨ノ屆出アリタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ハ其屆書及ヒ前ニ受理シタル屆書ニ付キ之ヲ適用ス

第三十四條　前三條ノ規定ハ屆書ニ非サル書面ニ因リ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ市町村長ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作リ其謄本ヲ送付スルコトヲ要ス

第三十五條　屆出事件ノ本人ノ本籍カ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ入籍地ノ市町村長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後除籍地ノ市町村長ニ入籍ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス但入籍地ノ市町村長カ屆出ヲ受理シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ市町村長カ一家創立ノ屆出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條　戸籍ノ記載手續ヲ完了シタルトキハ屆書其他受理シタル書類ハ本籍人及ヒ非本籍人ニ區別シ本籍人ニ關スルモノハ戸籍編綴ノ順序ニ從ヒテ之ヲ編綴シ非本籍人ニ關スルモノハ事件ノ種類ニ依リ各別ニ之ヲ編綴シ且各目錄ヲ附スルコトヲ要ス

戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ受理シタル書類ハ之ヲ合綴シ且目錄ヲ附スルコトヲ要ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ受理シタル書類亦同シ

第三十七條　前條第一項ノ書類ハ一个月每ニ遲滯ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第三十八條　第三十六條ノ書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條　戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノナルコト又ハ其記載ニ錯誤若クハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ市町村長ハ遲滯ナク屆出人又ハ屆出事件ノ本人ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス但其錯誤又ハ遺漏カ市町村長ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ通知ヲ爲シタルモ戸籍訂正ノ申請ヲ爲ス者ナキトキハ市町村長ハ監督區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ得前項但書ノ場合亦同シ

裁判所其他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ其職務上戸籍ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク屆出事件ノ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第四十條　同一ノ事件ニ付キ數人ノ屆出義務者ヨリ各別ニ屆出アリタル場合ニ於テ後ニ受理シタル屆出ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シタルトキハ前ニ受理シタル屆出ニ基キ其戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ要ス

第四十一條　行政區畫又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ハ訂正セラレタルモノト看做ス但其記載ヲ更正スルコトヲ妨ケス

地番號ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ヲ更正スルコトヲ要ス

第四十二條　市町村ノ區域ノ變更アリタルトキハ戸籍及ヒ之ニ關スル書類ハ之ヲ當該市町村ニ引繼クコトヲ要ス

第四十二條ノ二　第三十一條乃至第三十四條及ヒ第三十五條第一項ノ規定ハ共通法第三條ノ規定ニ依リテ內地ノ家ヲ去リタル者及ヒ他ノ地域ノ家ヲ去リテ內地ノ家ニ入リタル者ノ戸籍ノ記載手續ニ付キ之ヲ準用ス

第四章　屆出

第一節　通則

第四十三條　屆出ハ屆出事件ノ本人ノ本籍地又ハ屆出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十四條　日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル屆出ハ其寄留地又ハ屆出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

所在地ノ市町村長カ屆書ヲ受理シタルトキハ之ヲ寄留地ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第四十五條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付キ屆出アリタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタルトキ又ハ其者カ本籍ヲ有スルニ至リタルトキハ屆出人又ハ屆出事件ノ本人ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ屆出事件ヲ表示シテ屆出ヲ受理シタル市町村長ニ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

第四十六條　屆出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　屆書ニハ左ノ事項ヲ記載シ屆出人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一　屆出事件

二　屆出ノ年月日

三　屆出人ノ出生ノ年月日及ヒ本籍

屆出事件ニ因リ屆出事件ノ本人ニ隨ヒテ家ヲ去リ、他家ニ入リ其他身分ニ變更ヲ生スル者アル場合ニ於テハ屆書ニ其者ノ氏名、出生ノ年月日竝ニ本籍及ヒ身分變更ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十八條　屆出人ト屆出事件ノ本人ト異ナルトキハ屆書ニ其續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

屆出人カ家族ナルトキハ屆書ニ戸主ノ氏名及ヒ屆出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十九條　屆出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ屆出義務者トス但出生、死亡其他單純ノ事實ニ關スル屆出ハ未成年者又ハ禁治產者モ亦之ヲ爲スコトヲ得

親權ヲ行フ者又ハ後見人カ屆出ヲ爲ス場合ニ於テハ屆書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　屆出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍

二　無能力ノ原因

三　屆出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人ナルコト

第五十條　無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付テハ無能力者之ヲ屆出ツルコトヲ要ス

禁治產者カ屆出ヲ爲ス場合ニ於テハ屆書ニ屆出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スルコトヲ證スヘキ診斷書ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十一條　證人ヲ要スル事件ノ屆出ニ付テハ證人ハ屆書ニ出生ノ年月日及ヒ本籍ヲ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

第五十二條　屆出人、屆出事件ノ本人又ハ證人カ本籍ニ在ラサルトキハ屆書ニ其所在ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十三條　屆書ニ記載スヘキ事項ニシテ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但市町村長ハ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル屆書ヲ受理スルコトヲ得ス

第五十四條　屆書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ノ外戸籍ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナルモノハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十五條　第二十八條第一項及ヒ第三項ノ規定ハ屆書ニ之ヲ準用ス

第五十六條　二箇所以上ノ市役所又ハ町村役場ニ於テ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ市役所又ハ町村役場ノ數ト同數ノ屆書ヲ提出スルコトヲ要ス

本籍地外ニ於テ屆出ヲ爲ストキハ前項ノ規定ニ依ルモノノ外尙ホ一通ノ屆書ヲ提出スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テ相當ト認ムルトキハ市町村長ハ屆書ノ謄本ヲ作リ之ヲ以テ屆書ニ代フルコトヲ得

第五十七條　口頭ヲ以テ屆出ヲ爲スニハ屆出人ハ市役所又ハ町村役場ニ出頭シ屆書ニ記載スヘキ事項ヲ陳述スルコトヲ要ス

市町村長ハ屆出人ノ陳述ヲ筆記シ屆出ノ年月日ヲ記載シテ屆出人ニ讀聞カセ且屆出人ヲシテ其書面ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

屆出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ以テ屆出ヲ爲スコトヲ得

第五十八條　屆出事件ニ付キ戸主、父母、後見人、親族會其他ノ者ノ同意、承諾又ハ承認ヲ要スルトキハ屆書ニ其同意、承諾又ハ承認ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス但同意、承諾又ハ承認ヲ爲シタル者ヲシテ屆書ニ其旨ヲ附記シ署名、捺印セシムルヲ以テ足ル

屆出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ屆書ニ許可書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十九條　屆書ニ關スル規定ハ第五十七條第二項及ヒ前條第一項ノ書面ニ之ヲ準用ス

第六十條　外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ屆出ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　外國ニ在ル日本人カ其國ノ方式ニ從ヒ屆出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ一个月內ニ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ提出スルコトヲ要ス

大使、公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ一个月內ニ本籍地ノ市町村長ニ證書ノ謄本ヲ發送スルコトヲ要ス

第六十二條　大使、公使又ハ領事ハ前二條ノ規定ニ依リ受理シタル書類ヲ一个月內ニ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日內ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第六十三條　屆出期間ハ屆出事件發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ裁判カ送達又ハ交付前確定シタルトキハ其送達又ハ交付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十四條　市町村長カ屆出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ屆出義務者ニ對シ其期間內ニ屆出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

屆出義務者カ前項ノ期間內ニ屆出ヲ爲ササルトキハ市町村長ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條第二項ノ規定ハ前二項ノ催告ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ催告ヲ爲スモ屆出ヲ爲ササル場合ニ、同條第三項ノ規定ハ裁判所其他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ屆出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　市町村長カ屆出ヲ受理シタル場合ニ於テ屆書ニ欠缺アル爲メ戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサルトキハ屆出義務者ヲシテ其追完ヲ爲サシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十六條　市町村長ハ屆出期間經過後ノ屆出ト雖モ之ヲ受理スルコトヲ要ス

第六十七條　屆出人ハ屆出ノ受理又ハ不受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得但受理ノ證明書ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要ス

利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ第三十六條ノ書類ノ閱覽ヲ請求シ又ハ其書類ニ記載シタル事項ニ付キ證明書ヲ請求スルコトヲ得

第十四條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

利害關係人ハ特別ノ理由アル場合ニ限リ第三十七條ノ書類ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條　屆出人其他ノ者カ署名、捺印スヘキ場合ニ於テ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ拇印スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ書面ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第二節　出生

第六十九條　出生ノ屆出ハ十四日內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　子ノ氏名及ヒ男女ノ別

二　子カ私生子又ハ庶子ナルトキハ其旨

三　出生ノ年月日時及ヒ場所

四　父母ノ氏名、本籍及ヒ職業

五　子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

六　子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所

七　日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第七十條　出生ノ屆出ハ出生地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十一條　汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ到著地ニ於テ屆出ヲ爲スコトヲ得

第七十二條　嫡出子出生ノ屆出ハ父之ヲ爲シ父カ屆出ヲ爲スコト能ハサル場合又ハ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ屆出ハ父之ヲ爲シ私生子出生ノ屆出ハ母之ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘキ者カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一　戸主

第二　同居者

第三　分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四　分娩ヲ介抱シタル者

第七十三條　嫡出子否認ノ訴ヲ提起シタルトキト雖モ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十四條　民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出ハ母之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條　航海中ニ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ第六十九條第二項ニ掲ケタル事項ヲ航海日誌ニ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ發送シ大使、公使又ハ領事ハ一个月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第七十六條　病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ出生アリタル場合ニ於テ父母共ニ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ公設所ノ長又ハ管理人届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條　出生ノ届出前ニ子カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條　棄兒ヲ發見シタル者又ハ棄兒發見ノ申告ヲ受ケタル警察官ハ二十四時内ニ其旨ヲ市町村長ニ申出ツルコトヲ要ス

前項ノ申出アリタルトキハ市町村長ハ氏名ヲ命シ本籍ヲ定メ且附屬品、發見ノ場所、年月日時其他ノ狀況及ヒ氏名、男女ノ別、出生ノ推定年月日竝ニ本籍ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス其調書ハ之ヲ届書ト看做ス

第七十九條　父又ハ母カ棄兒ヲ引取ルトキハ一个月内ニ第六十九條第二項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シ且戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第八十條　第七十八條第一項又ハ前條ノ手續ヲ爲ス前ニ棄兒カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ其手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三節　認知

第八十一條　私生子認知ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　子ノ氏名、男女ノ別、出生ノ年月日及ヒ本籍

二　死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日

三　父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名竝ニ本籍及ヒ父ノ職業

四　子カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主ト子トノ續柄

第八十二條　胎内ニ在ル子ヲ認知スル場合ニ於テハ届書ニ其旨、母ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載シ認知者ノ本籍地ニ於テ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八十三條　父カ庶子出生ノ届出ヲ爲シタルトキハ其届出ハ認知届出ノ效力ヲ有ス民法第八百三十六條第二項ノ規定ニ依リ嫡出子タルヘキ者ニ付キ父母カ嫡出子出生ノ届出ヲ爲シタルトキ亦同シ

第八十四條　認知ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第八十一條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十五條　遺言ニ依ル認知ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添附シ第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ從ヒテ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條　認知セラレタル胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十四日内ニ認知ノ届出地ニ於テ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス但遺言執行者カ前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條　第五十七條第三項ノ規定ハ第八十一條及ヒ第八十二條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第四節　養子緣組

第八十八條　緣組ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍及ヒ職業

二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄

婚家又ハ養家ヨリ更ニ緣組ニ因リテ他家ニ入ル者ニ付テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外實家ノ戸主、前養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條　配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十條　民法第八百四十三條ノ規定ニ依リテ緣組ノ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其承諾ヲ爲シタル者之ヲ爲スコトヲ得

第九十一條　民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ緣組ノ届出ヲ爲ストキハ緣組ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第九十二條　緣組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十三條　緣組取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名及ヒ本籍

二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍

三　養子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

四　養子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

五　裁判確定ノ日

第九十四條　第五十七條第三項ノ規定ハ緣組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第五節　養子離緣

第九十五條　離緣ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、本籍及ヒ職業

二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

四　養子ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

五　養子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第九十六條　民法第八百六十二條第二項ノ規定ニ依リテ離緣ノ協議ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其協議ヲ爲シタル者之ヲ爲スコトヲ得

第九十七條　民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リテ離緣ヲ爲ス場合ニ於テハ養子其届出ヲ爲スコトヲ得

第九十八條　離緣ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第九十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十九條　第五十七條第三項ノ規定ハ第九十五條乃至第九十七條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節　婚姻

第百條　婚姻ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍及ヒ職業

二　父母ノ氏名及ヒ本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄

四　入夫婚姻又ハ壻養子緣組ナルトキハ其旨

五　入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ルトキハ其旨

當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外實家ノ戸主、養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百一條　婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻又ハ壻養子緣組ノ場合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二條　第九十三條ノ規定ハ婚姻取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ裁判確定ノ後遲滯ナク戸籍記載ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第百三條　第五十七條第三項ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節　離婚

第百四條　離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、本籍及ヒ職業

二　父母ノ氏名及ヒ本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

四　婚家ヲ去ル者ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

五　家ヲ去ル者カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第百五條　離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六條　第五十七條第三項ノ規定ハ第百四條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節　親權及ヒ後見

第百七條　父カ親權又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ母其權利ヲ行フトキハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八條　第九十三條第一項ノ規定ハ失權宣告取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ届書ニ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百九條　後見開始ノ届出ハ後見人其就職ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　後見人及ヒ被後見人ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍

二　被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

三　後見開始ノ原因及ヒ年月日

四　後見人就職ノ年月日

第百十條　後見人更迭ノ場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第百十一條　遺言ニ依ル後見人指定ノ場合ニ於テハ指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

後見人選任ノ場合ニ於テハ選任ヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百十二條　後見終了ノ届出ハ後見人十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　被後見人ノ氏名及ヒ本籍

二　後見終了ノ原因及ヒ年月日

第百十三條　前四條ノ届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ後見人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十四條　後見人ニ關スル本節ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

第九節　隱居

第百十五條　隱居ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　隱居者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍

二　家督相續人ノ氏名、出生ノ年月日竝ニ本籍及ヒ家督相續人ト隱居者トノ續柄

三　隱居ノ原因

第十節　死亡及ヒ失踪

第百十六條　死亡ノ届出ハ届出義務者カ死亡ノ事實ヲ知リタル日ヨリ七日内ニ診斷書若クハ檢案書又ハ檢視調書ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　死亡者ノ氏名、本籍及ヒ職業

二　死亡ノ年月日時及ヒ場所

三　死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ戸主ト死亡者トノ續柄

第百十七條　左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス但順序ニ拘ハラス届出ヲ爲スコトヲ得

第一　戸主

第二　同居者

第三　家主、地主又ハ家屋若クハ土地ノ管理人

第百十八條　死亡ノ届出ハ死亡地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百十九條　水難、火災其他ノ事變ニ因リ死亡シタル者アル場合ニ於テハ其取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十條　死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滯ナク監獄所在地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ報告書ニ診斷書又ハ檢案書ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條　前二條ノ報告書ニハ第百十六條第二項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十二條　死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合ニ於テハ警察官ハ檢視調書ヲ作リ之ヲ添附シテ遲滯ナク死亡地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ死亡者ヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滯ナク其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第一項ノ報告アリタル後第百十七條第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル者カ死亡者ヲ認識シタルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十三條　第七十一條、第七十五條及ヒ第七十六條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百二十四條　失踪宣告ノ届出ハ其宣告ヲ請求シタル者裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　失踪者ノ氏名及ヒ本籍

二　民法第三十條ニ定メタル期間滿了ノ日

三　失踪者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ戸主ト失踪者トノ續柄

第十一節　家督相續

第百二十五條　家督相續ノ届出ハ[illegible]タル者[illegible]内ニ之ヲ[illegible]テ戸主ト[illegible]

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　[illegible]年月日

二　前戸主ノ氏名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄

戸主ト爲リタル者カ外國ニ在ル場合ニ於テハ三个月内ニ[illegible]

第百二十六條　選定ニ因リテ家督相續人ト爲リタル者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ選定ヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百二十七條　家督相續人カ胎兒ナルトキハ母ハ相續[illegible]ヨリ一个月内ニ[illegible]届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　家督相續人カ胎兒ナルコト

二　家督相續開始ノ原因及ヒ年月日

三　前戸主ノ氏名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄

第百二十五條第三項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百二十八條　前條ノ届出ヲ爲シタル後胎兒

カ死體ニテ生レタルトキハ母ハ一个月内ニ醫師又ハ産婆ノ檢案書ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

母カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ家督相續人ハ分娩ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十九條　家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第百二十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百三十條　第百二十五條及ヒ前三條ノ届出ハ被相續人ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二節　推定家督相續人ノ廢除

第百三十一條　推定家督相續人廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　廢除セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍
二　廢除ノ原因
三　裁判確定ノ日

第百三十二條　廢除取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　廢除セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍
二　裁判確定ノ日

第十三節　家督相續人ノ指定

第百三十三條　家督相續人指定ノ届書ニハ指定セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十四條　家督相續人指定取消ノ届書ニハ指定家督相續人ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十五條　遺言ニ依ル家督相續人ノ指定又ハ指定取消ノ場合ニ於テハ指定又ハ指定取消ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百三十六條　指定家督相續人カ死亡シタルトキハ指定者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第十四節　入籍、離籍及ヒ復籍拒絶

第百三十七條　民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ家族ト爲ラント欲スル者ハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
二　入籍スヘキ家ノ戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄
三　原籍ノ戸主ノ氏名、本籍及ヒ其戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第百三十八條　民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ家族ト爲サント欲スル者ハ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ前條ニ揭ケタル事項ノ外入籍スヘキ者ノ氏名及ヒ出生ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十九條　戸主カ其家族ヲ離籍セント欲スルトキハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　離籍セラルヘキ者ノ氏名
二　離籍ノ原因

第百四十條　離籍ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　離籍者ノ氏名及ヒ本籍
二　離籍者ト離籍セラレタル者トノ續柄
三　離籍ノ原因及ヒ年月日

第百四十一條　戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マント欲スルトキハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　復籍ヲ拒マルヘキ者ノ氏名及ヒ本籍
二　復籍ヲ拒マルヘキ者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名
三　復籍拒絶ノ原因

第百四十二條　復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因リテ一家ヲ創立シタル者カ縁組若クハ婚姻ノ取消又ハ離縁若クハ離婚ノ届書ニ其場所ヲ記載セサリシトキハ一家創立ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　復籍拒絶者又ハ廢絶家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
二　復籍拒絶ノ原因及ヒ年月日又ハ廢絶ノ年月日

第十五節　廢家及ヒ絶家

第百四十三條　廢家ヲ爲サント欲スル者ハ其者カ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス但家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ非サルトキハ其旨ヲ届書ニ記載スルコトヲ要ス

第百四十四條　絶家ノ家族ハ絶家ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　絶家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
二　絶家ノ原因及ヒ年月日

第十六節　分家及ヒ廢絶家再興

第百四十五條　分家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　本家ノ戸主ノ氏名、本籍及ヒ其戸主ト分家ノ戸主トノ續柄
二　民法第七百四十三條第二項ノ規定ニ依リ分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其氏名及ヒ出生ノ年月日
三　分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名及ヒ本籍

第百四十六條　廢絶家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ事項ヲ届書ニ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一　廢絶家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
二　廢絶ノ年月日
三　廢絶家ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄
四　再興ヲ爲ス者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

第十七節　國籍ノ得喪

第百四十七條　外國人カ養子縁組又ハ婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ縁組又ハ婚姻ノ届書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十八條　外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知ノ届書ニ子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

認知者カ父ナルトキハ届書ニ母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十九條　歸化ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　歸化ヲ爲シタル者ノ原國籍
二　父母ノ氏名及ヒ國籍
三　許可ノ年月日
四　歸化ヲ爲シタル者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其氏名、出生ノ年月日及ヒ其者ト歸化人トノ續柄

歸化ヲ爲シタル者ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得セサルトキハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十條　國籍喪失ノ届出ハ戸主又ハ家督相續人其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　國籍喪失者ノ氏名及ヒ本籍
二　國籍喪失ノ原因及ヒ年月日
三　新ニ國籍ヲ取得シタルトキハ其國籍

第百五十一條　國籍喪失者カ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ其者カ陸海軍ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義務ナキコトヲ證スヘキ書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

國籍喪失者カ日本ノ官職ヲ帶ヒタル者ナルトキハ其官職ヲ失ヒタルコトヲ證スヘキ書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百五十二條　國籍回復ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日
二　國籍回復前ニ有セシ國籍
三　許可ノ年月日
四　國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキハ其氏名、出生ノ年月日及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄

第百四十九條第三項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

第十八節　氏名、族稱ノ變更及ヒ襲爵

第百五十三條　氏名變更ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　變更前ノ氏名
二　變更シタル氏名
三　許可ノ年月日

第百五十四條　新ニ華族ニ列セラレ又ハ士族ニ編入セラレタル者ハ十日内ニ辭令書又ハ許可書ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　新舊族稱
二　族稱變更ノ原因
三　辭令又ハ許可ノ年月日

第百五十五條　爵ヲ襲キタル者ハ辭令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ其謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ辭令ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十六條　華族又ハ士族ノ族稱ヲ喪失シタル場合ニ於テハ戸主ハ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ族稱喪失ノ原因及ヒ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十七條　前條ノ規定ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ喪失シタル場合ニハ之ヲ適用セス此場合ニ於テハ裁判所ハ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第十九節　轉籍及ヒ就籍

第百五十八條　轉籍セント欲スルトキハ新本籍ヲ届書ニ記載シ戸主其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

他ノ市町村ニ轉籍スル場合ニ於テハ戸籍ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百五十九條　轉籍ノ届出ハ轉籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百六十條　本籍ヲ有セサル者ハ其就籍セント欲スル地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ十日内ニ就籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ第十八條ニ揭ケタル事項ノ外就籍許可ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六十一條　就籍ノ届出ハ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百六十二條　就籍許可ノ裁判ヲ得タル者カ就籍ノ届出ヲ爲ササルトキハ戸主之ヲ爲ス

第百六十三條　第百六十條ノ規定ハ確定判決ニ因リテ就籍ノ届出ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ判決ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第五章　戸籍ノ訂正

第百六十四條　戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノナルコト又ハ其記載ニ錯誤若クハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ利害關係人ハ其戸籍ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

第百六十五條　届出ニ因リ效力ヲ生スヘキ行爲ニ付キ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後其行爲ノ無效ナルコトヲ發見シタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ前條ノ區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

第百六十六條　前二條ノ許可ノ裁判アリタルトキハ一个月内ニ其謄本ヲ添附シ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第百六十七條　確定判決ニ因リ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘキトキハ訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一个月内ニ判決ノ謄本ヲ添附シ訂正ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ判決確定ノ後遲滯ナク戸籍ノ訂正ヲ請求スルコトヲ要ス

第百六十八條　第四十三條、第四十六條乃至第五十二條乃至第五十九條及第六十三條乃至第六十八條ノ規定ハ戸籍訂正ノ申請ニ之ヲ準用ス

第六章　抗告

第百六十九條　戸籍事件ニ付キ市町村長ノ處分ヲ不當トスル者ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第百七十條　抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告狀ヲ提出シテ之ヲ爲ス

抗告狀ニハ届書又ハ申請書及ヒ關係書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十一條　抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ市町村長ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス

第百七十二條　市町村長ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ書類ヲ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第百七十三條　裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ市町村長ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ市町村長及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第百七十四條　裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百七十五條　抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第七章　罰則

第百七十六條　正當ノ理由ナクシテ期間内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ十圓以下ノ過料ニ處ス

第百七十七條　第六十四條ノ規定ニ依リ市町村長カ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其期間内ニ届出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處ス

第百七十八條　市町村長ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處ス

一　正當ノ理由ナクシテ届出又ハ申請ヲ受理セサルトキ
二　戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
三　正當ノ理由ナクシテ戸籍簿、除籍簿又ハ第三十六條ノ書類ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ
四　正當ノ理由ナクシテ戸籍若クハ除カレタル戸籍ノ謄本、抄本又ハ第六十七條ノ證明書ヲ交付セサルトキ
五　其他戸籍事件ニ付キ職務ヲ怠リタルトキ

第百七十九條　過料ノ裁判ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第百八十條　戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ虚僞ノ届出ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ虚僞ノ届出ヲ爲シタル者亦同シ

附　則

第百八十一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百八十二條　本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百八十三條　本法ノ規定ハ本法施行前ノ届出其他ノ事由ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第百八十四條　舊法ノ規定ニ依ル戸籍ハ本法ノ規定ニ依ル戸籍トシテ其效力ヲ有ス但本法ノ規定ニ依リ戸籍ニ記載スヘキ事項ニシテ舊法ノ規定ニ依ル戸籍ニ記載ナキモノハ身分登記ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ得

司法大臣ハ前項ノ規定ニ拘ハラス本法ノ規定ニ依リ戸籍ヲ改製スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第百八十五條　舊法ノ規定ニ依リテ改製セサリシ戸籍ハ司法大臣ノ命スル所ニ依リ本法ノ規定ニ依リテ之ヲ改製スルコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ從前ノ戸籍ニ依リ其事實ヲ知ルコト能ハサルモノハ其記載ヲ省クコトヲ得

第百八十六條　身分登記簿及ヒ舊法ニ保存期間ノ定アル帳簿竝ニ書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

（大正三年勅令第百二十一號ヲ以テ大正四年一月一日ヨリ施行）

附則（大正十年四月法律第四十八號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●朝鮮戸籍令施行手續

大正十二年三月
總訓第十五號

朝鮮戸籍令施行手續左ノ通定ム

朝鮮戸籍令施行手續

第一條　戸籍用紙ハ强靱ナル美濃紙ヲ用ヰ附録第一號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　戸籍カ數葉ニ渉ルトキハ職印ヲ以テ毎葉ノ綴目ニ契印スヘシ

從前ノ規定ニ依ル民籍ノ用紙ヲ用ヰ盡シタルトキハ前條ノ戸籍用紙ヲ用ヰテ其ノ記載ヲ繼續スヘシ

第三條　戸籍簿ニハ附録第二號樣式ニ依ル表紙ヲ附スヘシ

戸籍簿ハ之ヲ分册スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ表紙ニ番號ヲ記載シ地區ニ依リテ分册シタルトキハ其ノ地區ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第四條　除籍簿ハ年毎ニ之ヲ別册トシ其ノ表紙ニ「大正何年除籍簿」ト記載スヘシ

前條ノ規定ハ除籍簿ニ付之ヲ準用ス

府尹又ハ面長ハ相當ト認ムルトキハ數箇年ノ除籍簿ヲ合綴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更ニ表紙ヲ附シ「（自大正何年至大正何年）除籍簿綴」ト記載スヘシ

第五條　戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ府尹又ハ面長ハ遲滯ナク其ノ戸籍ノ副本ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

第六條　裁判所カ前條ノ規定ニ依リテ送付ヲ受ケタル副本ハ府又ハ面ノ區別ニ從ヒ之ヲ編綴シ除籍簿ノ副本トシテ之ヲ保存スヘシ

第四條ノ規定ハ前項ノ帳簿ニ付之ヲ準用ス

第七條　府尹又ハ面長ハ戸籍簿及除籍簿ニ付各別ニ見出帳ヲ調製シ之ニ戸主ノ姓名及本籍ヲ記載スヘシ

前項ノ記載ハ戸主ノ姓ノ（イ）（ロ）（ハ）順ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

第八條　府尹又ハ面長ハ届書其ノ他ノ書類ヲ受理シ又ハ其ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ書類ニ受附ノ番號及年月日ノ外本籍人及非本籍人ノ區別ニ從ヒ受附ノ順序ニ依リ種類番號ヲ記載スヘシ

府尹又ハ面長ハ朝鮮戸籍令第二十八條第二項又ハ第五十二條第三項ノ規定ニ依リ監督裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正又ハ記載ヲ爲ストキハ前項ニ掲クル事項ハ許可書ニ之ヲ記載スヘシ

第九條　事件ノ種類ハ朝鮮戸籍令第四章第二節乃至第十四節ニ掲クル事件ノ區別ニ從ヒテ之ヲ定ムヘシ

届出ノ追完、戸籍ノ訂正竝朝鮮戸籍令第八十條第三項及第八十七條第三項ノ規定ニ依ル一家創立ノ届出ニ關スル書類ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラス別ニ一ノ種目ヲ定ムヘシ

第十條　府尹又ハ面長ハ附録第三號樣式ニ依リ毎年受附帳ヲ調製シ其ノ年内ニ受理シタル事件ニ付受附ノ順序ニ從ヒ件名、届出事件ノ本人ノ姓名及本籍、受附ノ番號及月日竝種類番號ヲ記載スヘシ

受附番號及種類番號ハ毎年之ヲ更新スヘシ

第十一條　戸籍ノ副本又ハ届書其ノ他書類若ハ其ノ謄本ノ送付ハ送付スヘキ書類ニ發送ノ年月日及發送者ノ職氏名ヲ記載シテ之ヲ爲スヘシ

第十二條　戸籍ノ記載ハ附録第一號樣式附屬雛形ニ定ムル相當欄ニ之ヲ爲スヘシ

直系尊屬、直系卑屬若ハ傍系親ノ間ニ在リテ親等ノ同シキ者又ハ戸主ノ親族ニ非サル者ハ親族順位ニ依リ親族順位ノ同シキ者ハ出生ノ前後ニ依リテ之ヲ記載スヘシ

事項欄ノ記載ハ附録第四號記載例ニ從ヒ事件毎ニ行ヲ更メテ之ヲ爲スヘシ

第十三條　婚姻及離婚ニ關スル事項ハ夫及妻ノ事項欄ニ之ヲ記載スヘシ

第十四條　新ニ戸籍ヲ編製スルトキハ戸主及家族ノ身分ニ關スル事項ニシテ基本タル戸籍ニ記載シタルモノハ之ヲ新戸籍ニ記載スヘシ

第十五條　朝鮮戸籍令第百十九條第二項ノ場合ニ於テハ届書ニ添附シタル戸籍ノ謄本ニ記載シタル事項ハ婚姻其ノ他ノ事由ニ因ル除籍者ニ關スルモノヲ除クノ外之ヲ轉籍地ノ戸籍ニ記載スヘシ

第十六條　本籍地變更ノ後原籍地ノ府尹又ハ面長カ受理シタル届書其ノ他ノ書類ハ之ヲ新本籍地ノ府尹又ハ面長ニ送付シ其ノ書類ニ依リテ爲シタル戸籍ノ記載ハ之ヲ抹消シ且其ノ事由ヲ戸籍ニ記載スヘシ

新本籍地ノ府尹又ハ面長カ前項ノ書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ依リテ戸籍ノ記載ヲ爲スヘシ

第十七條　離緣又ハ離婚ニ因リ實家ニ復籍シタル者ニ付テハ戸籍ニ離緣又ハ離婚ニ關スル事項ノ外實家ノ戸籍又ハ除カレタル戸籍ニ基キ其ノ者ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スヘシ但シ實家ノ本籍地ノ府廳又ハ面事務所ニ保存スル戸籍及除カレタル戸籍ニ記載ナキ事項ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　前條ノ規定ハ緣組又ハ婚姻ノ無效其ノ他ノ事由ニ因リ戸籍ノ記載ヲ回復スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルニハ附録第五號樣式ニ依リ之ヲ朱抹スヘシ

第二十條　戸籍ノ訂正ヲ爲スニハ訂正ノ趣旨及事由ヲ記載シ附録第六號樣式ニ依リ訂正スヘキ記載ヲ朱抹スヘシ

第二十一條　行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ更正ヲ爲スニハ事項欄ニ更正ノ事由ヲ記載シ附録第七號樣式ニ依リ更正スヘキ事項ノ記載ヲ訂正スヘシ

行政區畫又ハ土地ノ名稱ヲ更正スル場合ニ於テハ戸籍簿ノ表紙ニ記載シタル名稱ヲ更正シ表紙ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第二十二條　府尹又ハ面長ノ代理者戸籍ノ記載ヲ爲ストキハ其ノ文末ニ代理資格ヲ記載シテ認印スヘシ

第二十三條　朝鮮戸籍令第二十七條ノ書類ニシテ非本籍人ニ關スルモノハ其ノ書類ヲ受理シタル府廳又ハ面事務所ノ區別ニ從ヒ年毎ニ各別ニ之ヲ編綴スヘシ但シ分綴スルコトヲ妨ケス

第二十四條　朝鮮戸籍令第二十六條第二項ノ書類ハ年毎ニ各別ニ之ヲ編綴スヘシ但シ分綴スルコトヲ妨ケス

第二十五條　裁判所ハ新戸籍ノ副本及第五條ノ戸籍ノ副本ノ送付ヲ受ケタルトキハ前ニ送付ヲ受ケタル戸籍ノ副本ハ其ノ戸籍ニ關スル届書其ノ他ノ書類ト共ニ別ニ編綴シ之ヲ廢書簿ト爲スヘシ但シ第六條ノ帳簿ニ編綴スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　府又ハ面ノ區域ノ變更アリタル場合ニ於テ戸籍及之ニ關スル書類ノ引繼完了シタルトキハ引繼ヲ受ケタル府尹又ハ面長ハ其ノ旨ヲ監督裁判所ニ報告スヘシ

府又ハ面ノ區域ノ變更ニ因リ裁判所ノ管轄又ハ事務取扱區域ニ變更ヲ生シタルトキハ舊管轄又ハ事務取扱區域内ノ本籍人ノ戸籍及除カレタル戸籍ノ副本竝之ニ關スル書類ハ新ニ管轄シ又ハ事務ヲ取扱フ裁判所ニ之ヲ引繼クヘシ

第二十七條　戸籍簿及届書其ノ他ノ書類ハ鎖鑰アル書箱ニ藏メ其ノ保存ヲ嚴ニシ倚倉庫アルトキハ倉庫ニ藏置スヘシ

第二十八條　事變ヲ避クル爲戸籍簿又ハ除籍簿ヲ府廳又ハ面事務所外ニ持出シタルトキハ府尹又ハ面長ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ監督裁判所ニ報告スヘシ

第二十九條　戸籍簿又ハ除籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ府尹又ハ面長ハ遲滯ナク其ノ事由、年月日、帳簿ノ名稱、册數其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ監督裁判所ニ申報スヘシ

監督裁判所前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ必要ナル調査ヲ爲シタル後其ノ再製又ハ補完ノ方法ヲ具シテ朝鮮總督ニ具申スヘシ

第三十條　戸籍簿又ハ除籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失スル虞アルトキハ前條ノ例ニ準シ申報及具申ヲ爲スヘシ

第三十一條　戸籍簿、除籍簿又ハ届書其ノ他ノ書類ノ閲覽ハ係員ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第三十二條　戸籍又ハ除カレタル戸籍ノ謄本又ハ抄本ハ原本ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作ルヘシ

謄本又ハ抄本ニハ其ノ記載ニ接續シテ附録第八號書式ニ依リ附記ヲ爲スヘシ

謄本又ハ抄本カ數葉ニ渉ルトキハ職印ヲ以テ毎葉ノ綴目ニ契印スヘシ

前項ノ規定ハ謄本又ハ抄本ニ掛紙ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　前條第二項及第三項ノ規定ハ府尹又ハ面長ノ作ルヘキ届書其ノ他ノ書類ノ謄本ニ付之ヲ準用ス

第三十四條　朝鮮戸籍令第八條第三項ノ規定ニ依ル告知ノ書面ハ附録第九號書式ニ依リテ之ヲ作ルヘシ

第三十五條　届出又ハ申請ノ受理又ハ不受理ノ證明書ハ附録第十號書式ニ依リ届書、申請書其ノ他ノ書類ニ記載シタル事項ノ證明書其ノ他法令ノ規定ニ依リテ交付スヘキ戸籍ニ關スル證明書ハ附録第十一號書式ニ依リテ之ヲ作ルヘシ但シ府尹又ハ面長ハ證明ヲ求ムル事項ヲ記載シタル書面又ハ其ノ符箋ニ證明ノ趣旨及年月日ヲ記載シテ署名、捺印シ之ヲ以テ證明書ニ代フルコトヲ得

符箋ニ依リテ前項ノ證明ヲ爲ス場合ニ於テハ職印ヲ以テ接目ニ契印スヘシ

第三十六條　府尹又ハ面長カ届出、申請又ハ其ノ追完ヲ怠リタル者ニ對シ朝鮮戸籍令第五十二條、第五十三條又ハ第百二十七條ノ規定ニ依リ爲スヘキ催告ハ附録第十二號書式ニ依リ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條　府尹又ハ面長ハ届出、申請又ハ其ノ追完ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ届出事件ヲ具シ其ノ旨ヲ管轄裁判所ニ通知スヘシ

第三十八條　同一ノ府又ハ面ニ於テ二以上ノ戸籍ニ記載スヘキ事項ニ付テハ監督裁判所ハ其ノ戸籍ト同數ノ届書又ハ申請書ヲ提出セシムヘキコトヲ府尹又ハ面長ニ命スルコトヲ得但シ府尹又ハ面長ハ受理シタル届書又ハ申請書ノ謄本ヲ作リ之ヲ以テ届書又ハ申請書ニ代フルコトヲ得

前項ノ書類ハ朝鮮戸籍令第二十七條ノ規定ニ從ヒ之ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

第三十九條　戸籍竝之ニ關スル帳簿及書類ノ保存期間ハ後三條ノ定ムル所ニ依ル

第四十條　除籍簿及其ノ副本ノ保存期間ハ五十年トス

朝鮮戸籍令第二十六條第二項ノ書類ノ保存期間ハ十年、同第二十七條ノ書類ニシテ非本籍人ニ關スルモノノ保存期間ハ三年トス

前二項ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條　受附帳ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ五年トス

第四十二條　廢書簿ノ保存期間ハ第五條ノ規定ニ依リ戸籍ノ副本ノ送付アリタル翌年ヨリ三年トス

第四十三條　朝鮮戸籍令第百三十三條ノ規定ニ依ル民籍ノ副本ハ新戸籍ノ副本ノ送付アル迄之ヲ保存スヘシ

第四十四條　前條ニ掲クルモノヲ除クノ外朝鮮戸籍令施行前ノ帳簿及書類ノ保存期間ハ左ノ區別ニ依ル

一　除籍簿　五十年
二　申告書　五年
三　其ノ他ノ書類　三年

前項ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第四十五條　府尹又ハ面長ハ保存期間ヲ經過シタル帳簿又ハ書類ヲ廢棄セムトスルトキハ目錄ヲ作リ監督裁判所ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ朝鮮戸籍令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附録目錄

第一號　戸籍ノ樣式
　附屬　雛形
第二號　戸籍簿表紙ノ樣式
第三號　受附帳ノ樣式
第四號　戸籍記載例
第五號　戸籍ノ抹消ノ樣式
　第一　全部抹消
　第二　一部抹消
第六號　戸籍ノ訂正ノ樣式
　第一　全部ノ訂正
　第二　一部ノ訂正
第七號　本籍ノ更正ノ樣式
第八號　謄本又ハ抄本ノ附記ノ樣式
第九號　告知書ノ書式
第十號　受理又ハ不受理ノ證明書ノ書式
第十一號　記載事項證明書ノ書式
第十二號
　第一　届出又ハ申請ノ催告狀ノ書式
　第二　同追完ノ催告狀ノ書式
　第三　同第二回以後ノ催告狀ノ書式

附錄第一號樣式

横五寸
竪八寸

表　裏

本籍

前戸主

戸主
前戸主トノ續柄
父
母
本貫
出生

父
母
本貫
出生

父
母
本貫
出生

父
母
本貫
出生

父
母
本貫
出生

二寸三分

表　裏

父
母
本貫
出生

父
母
本貫
出生

父
母
本貫
出生

父
母
本貫
出生

父
母
本貫
出生

父
母
本貫
出生

附錄第一號樣式附屬雛形

注意（本雛形ハ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ相當欄及特殊ノ記載例ヲ示スニ止マル）

本籍　京城府鳳翼洞百一番地
朱　禮智洞一番地

大正拾貳年七月九日前戸主李丙煥死亡ニ因リ戸主相續屆出同月拾五日受附㊞
京城府鳳翼洞百一番地ニ轉籍屆出大正拾貳年拾壹月參日受附㊞
朴春卿ト婚姻屆出大正拾貳年拾貳月五日受附㊞

大正拾參年四月八日午後拾壹時京城府鳳翼洞百一番地ニ於テ死亡戸主李圭徹屆出同月九日受附㊞

忠淸南道公州郡鷄龍面敬天里三番地戸主朴泳根長女大正拾貳年拾貳月五日李圭徹ト婚姻屆出同日入籍㊞

慶尙南道東萊郡東萊面溫泉里五番地ニ於テ出生父李圭徹屆出大正拾四年壹月四日東萊郡東萊面長李溫性受附同月六日送付入籍㊞
趙薰淑ト婚姻屆出大正四拾年壹月拾日平壤府尹大江淸澄受附同月拾四日送付㊞

慶尙南道晉州郡晉州面平安洞八番地戸主吳梅春二女吳娥眉私生子大正拾五年九月八日私生子認知ノ裁判確定親權ヲ行フ母吳娥眉屆出同月拾日受附入籍㊞
大正四拾貳年九月八日時不詳京畿道高陽郡漢芝面西氷庫里漢江ニ於テ水難ニ因リ死亡龍山警察署長警視赤木守衞報告同月拾日受附㊞

前戸主　李丙煥

戸主
前戸主トノ續柄　亡李丙煥長男
父　亡李丙煥
母　劉彩鳳
長男
本貫　咸興
李圭徹
出生　光武六年貳月六日

母
父　亡劉興基
母　亡任正姬
長女
本貫　江陵
朱　朱
劉彩鳳
出生　開國四百八拾六年八月拾五日

妻
父　朴泳根
母　崔月峯
長女
本貫　密陽
朴春卿
出生　光武拾年五月四日

長男
父　李圭徹
母　朴春卿
長男
本貫
容鎭
出生　大正拾四年壹月壹日

庶子男
父　李圭徹
母　吳娥眉
庶子男
本貫
朱　朱
台鎭
出生　大正拾五年六月八日

印　職

京城府鳳翼洞百一番地ニ於テ出生母朴春卿屆出大正拾八年參月拾四日受附入籍㊞
京畿道開城郡松都面滿月町十五番地金鍾箕ト婚姻屆出大正參拾五年拾壹月貳日開城郡松都面長人見參太郎受附同月參日送付除籍㊞

養父京畿道高陽郡延禧面水色里百五十番地戸主李大武ト協議離緣屆出大正拾八年四月貳日高陽郡延禧面長都夏淳受附同月四日送付復籍㊞
京城府仁義洞三十六番地ニ分家屆出大正四拾年五月貳日受附除籍㊞

大正拾八年四月四日夫李圭泰復籍シタルニ付共ニ入籍㊞
大正四拾年五月貳日夫李圭泰分家ニ付共ニ除籍㊞

平壤府鏡齋里五番地戸主（實家戸主黃海道延白郡銀川面凝川里百八十三番地趙德順）大正四拾年壹月拾日李容鎭ト婚姻屆出同月拾四日入籍㊞

平壤府鏡齋里五番地ニ於テ出生父李容鎭母趙薰淑屆出大正四拾年貳月壹日受附入籍㊞
大正四拾年拾壹月五日父李容鎭親權喪失ノ裁判確定ニ因リ母趙薰淑親權ヲ行フ旨屆出同月拾壹日受附㊞

京城府忠信洞六拾七番地ニ於テ出生同居者安憙淵屆出大正四拾年參月六日受附入籍㊞
大正四拾年五月貳日父李圭泰分家ニ付共ニ除籍㊞

長女
父　李圭徹
母　朴春卿
長女
本貫
朱　朱
鳳琴
出生　大正拾八年參月拾日

弟
父　亡李丙煥
母　亡劉彩鳳
二男
本貫
朱　朱
圭泰
出生　光武拾年貳月拾日

弟ノ妻
父　亡金敬煥
母　宋貞順
三女
本貫　金海
家族トノ續柄　弟李圭泰妻
朱　朱
金光淑
出生　隆熙參年九月九日

子婦
父　趙德順
母　吳貞子
長女
本貫　豐穰
家族トノ續柄　長男李容鎭妻
趙薰淑
出生　大正拾九年七月八日

孫
父　李容鎭
母　趙薰淑
長女
本貫
淑子
出生　大正參拾九年拾貳月貳拾八日

姪
父　李圭泰
母　金光淑
長男
本貫
朱　朱
春鎔
出生　大正四拾年參月五日

印

全羅北道全州郡全州面多佳町二十五番地戸主李世鎭二男李容鎭ト養子緣組同人竝緣組承諾者李世鎭及妻柳在華届出大正四拾貳年四月貳日受附入籍㊞

父　李世鎭　二男
母　柳在華
養親　李容鎭　養子
本貫
孫
泳烈
出生　大正四拾壹年七月拾日

京城府梨花洞七番地戸主張蘭植二女張英子京城府凰翼洞百一番地ニ於テ庶子出生父李台鎭届出大正四拾貳年七月貳拾五日受附入籍㊞
大正四拾貳年九月八日親權ヲ行フ父死亡シタルニ因リ後見開始同日後見人戸主李圭徹就職ニ付届出同月拾貳日受附㊞
大正四拾貳年拾月拾參日親權ヲ行フ者アルニ至リタルニ因リ後見終了届出同月拾五日受付㊞
大正五拾五年壹月八日許可ニ因リ其ノ名ヲ海榮ト改名届出同月拾日受附㊞

父　李台鎭　庶子男
母　張英子
本貫
孫
泳植（朱）海榮
出生　大正四拾貳年六月貳拾日

京城府梨花洞七番地戸主張蘭植二女親族入籍戸主李圭徹届出大正四拾貳年拾月拾參日受附㊞

父　張蘭植　二女
母　金美玉
本貫　德水
家族トノ續柄　孫李海榮母
張英子
出生　大正拾四年壹月五日

父
母
本貫
出生

父
母
本貫
出生

父
母
本貫
出生

附錄第二號樣式　戸籍簿表紙

（何冊ノ内第一）

戸籍簿（副本）

（地區ノ名稱）

何府廳（又ハ面事務所）

附錄第三號樣式　受附帳（用紙美濃紙）

大正何年

戸籍受附帳

何府廳（又ハ面事務所）

受附番號	種類番號		件名	受附月日	届出事件本人ノ姓名	本籍	備考
	本籍人	非本籍人					

附錄第四號　戸籍記載例

（事例括弧内ノ記載ハ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ事項欄ヲ示ス）

出生

一　子ノ本籍地ニ於テ届出テタル嫡出子出生ニ關スル記載（子ノ事項欄）
京城府仁義洞壹番地ニ於テ出生父李圭徹届出大正拾貳年七月壹日受附入籍㊞

二　子ノ出生地ニ於テ同居者ヨリ届出テタル庶子出生ニ關スル記載（同上）
忠淸南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴泳根長女朴春卿慶尙南道東萊郡東萊面溫泉里六番地ニ於テ庶子出生同居者金華山届出大正拾貳年七月四日東萊郡東萊面長李溫性受附同月六日送付入籍㊞

三　私生子カ一家ヲ創立スル場合ニ其ノ本籍地ニ於テ母ノ後見人ヨリ届出テタル私生子出生ニ關スル記載（同上）
忠淸南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴泳根妹朴紅霞京城府内資洞七番地ニ於テ私生子出生母朴紅霞後見人朴泳根届出大正拾貳年七月六日受附母ノ家ニ入ルコトヲ得サルニ因リ一家創立㊞

四　非本籍府尹ノ送付ニ係ル航海日誌ノ謄本ニ依ル嫡出子出生ニ關スル記載（同上）
元山港ヨリ釜山港ニ向ケ航海中ノ船舶金剛丸内ニ於テ出生船長大原平吉ノ作成發送ニ係ル航海日誌ノ謄本大正拾貳年七月八日釜山府尹磯邊靜雄受附同月拾貳日送付入籍㊞

五　子ノ出生地ニ於テ公設所ノ長ヨリ届出テタル嫡出子出生ニ關スル記載（同上）
京城府苑南洞壹番地朝鮮總督府醫院ニ於テ出生同院長大井惠届出大正拾貳年七月拾日京城府尹國府政雄受附同月拾參日送付入籍㊞

六　棄兒發見ニ關スル記載（同上）
大正拾貳年七月參日一家創立同日附京城府尹國府政雄調書ニ依リ記載㊞

七　棄兒引取ニ因ル戸籍ノ訂正（同上）
大正拾貳年拾月五日父京城府仁義洞壹番地李圭徹引取戸籍訂正申請同月七日受附本戸籍ヲ抹消ス㊞

八　私生子認知ノ效力ヲ生セシムル目的ヲ以テ婚姻中父母共ニ届出テタル嫡出子出生ニ關スル記載（同上）
京城府仁義洞壹番地ニ於テ出生父李圭徹母朴春卿届出大正拾貳年七月參日受附入籍㊞

九　名未定ノ子ノ出生ニ關スル記載（同上）
京城府仁義洞壹番地ニ於テ出生名未定分娩ヲ介抱シタル者安順子届出大正拾貳年七月四日受附入籍㊞

十　前例ニ付子ノ名ノ追完ニ關スル記載（同上）
父李圭徹子ノ名追完届出大正拾貳年七月拾日受附㊞

認知

一　私生子認知ノ届出ニ因リ子カ父ノ家ニ入ル場合ニ於ケル認知ニ關スル記載（父ノ戸籍中子ノ事項欄）
忠淸南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴泳根長女朴春卿私生子父李圭徹認知届出大正拾貳年七月拾壹日受附入籍㊞

二　除籍地ノ府尹又ハ面長カ他ノ府又ハ面ニ在ル父ノ家ニ入ルヘキ私生子認知ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於ケル認知ニ關スル記載及入籍通知ニ因リテ爲ス除籍（原籍戸籍中子ノ事項欄）
父京城府仁義洞壹番地李圭徹認知届出大正拾貳年七月拾壹日受附㊞同月拾六日入籍通知ニ因リ除籍㊞

三　死亡シタル子カ認知セラレ其ノ者ノ子カ認知者タル祖父ノ家ニ入ル場合ニ於ケル認知ニ關スル記載（祖父ノ戸籍中孫ノ事項欄）
忠淸南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴泳根姪亡父李重喆祖父李圭徹認知届出大正拾貳年七月拾六日受附入籍㊞

四　裁判ニ因ル認知ニ關スル記載（父ノ戸籍中子ノ事項欄）
忠淸南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴春卿私生子大正拾貳年七月七日私生子認知ノ裁判確定親權ヲ行フ母朴春卿届出同月拾壹日受附入籍㊞

五　遺言ニ依ル認知ニ關スル記載（同上）
忠淸南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴春卿私生子父亡李圭徹認知遺言執行者李容鎭届出大正拾貳年七月八日受附入籍㊞

六　妻ノ實家ニ在ル私生子ノ認知届出ニ因リ子カ父ノ家ニ入ル場合ニ於ケル認知ニ關スル記載（同上）
忠淸南道公州郡鷄龍面敬天里五番地戸主朴泳根孫妻朴春卿私生子父李圭徹認知届出大正拾貳年七月貳拾日受附入籍㊞

七　父ノ家ニ入ルコトヲ得サル私生子ノ認知ニ關スル記載（私生子ノ事項欄）
父京城府仁義洞壹番地李圭徹認知届出大正拾貳年七月拾四日受附㊞

養子緣組

一　本籍地ヲ同シクスル當事者カ本籍地ニ於テ届出テタル養子緣組ニ因ル入籍（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
京城府忠信洞八番地戸主李世鎭二男李容鎭ト養子緣組届出大正拾貳年七月貳日受附入籍㊞

二　同上除籍（實家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
京城府仁義洞一番地李容鎭ト養子緣組届出大正拾貳年七月貳日受附除籍㊞

三　本籍地ヲ異ニスル當事者カ養親ノ所在地ニ於テ届出テタル養子緣組ニ因ル入籍（養家ノ戸籍中

養子ノ事項欄）
京畿道開城郡松都面滿月町十五番地戸主李世鎭二男李容鎭ト養子緣組屆出大正拾貳年七月貳日仁川府尹中川清明受附同月五日送付入籍㊞

四　同上除籍（實家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
京城府仁義洞一番地李容鎭ト養子緣組屆出大正拾貳年七月貳日仁川府尹中川清明受附同月五日送付㊞同月七日入籍通知ニ因リ除籍㊞

五　夫ノ緣組ニ因リ之ニ隨ヒテ養家ニ入ル妻ノ入籍（養家ノ戸籍中妻ノ事項欄）
大正拾貳年七月貳日夫李泳烈養子緣組ニ因リ夫ト共ニ入籍㊞

六　同上除籍（原籍ノ戸籍中妻ノ事項欄）
大正拾貳年七月貳日夫李泳烈養子緣組ニ因リ夫ト共ニ除籍㊞

七　養子ニ代リ父母カ承諾ヲ爲ス養子緣組ニ關スル記載（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
京城府忠信洞八番地戸主李世鎭二男李容鎭ト養子緣組同人竝緣組承諾者李世鎭及妻柳在華屆出大正拾貳年七月貳日受附入籍㊞

八　死後養子緣組ニ關スル記載（同上）
京城府忠信洞八番地戸主李世鎭二男戸主趙薰淑ノ亡夫李容鎭ト養子緣組養子選定者趙薰淑ト共ニ屆出大正拾貳年七月貳日受附入籍㊞

九　遺言ニ依ル養子緣組ニ關スル記載（同上）
京城府忠信洞八番地戸主李世鎭二男亡李容鎭ト養子緣組遺言執行者趙薰淑ト共ニ屆出大正拾貳年七月貳日受附入籍㊞

十　緣組屆出ノ不受理ニ對スル抗告ニ付テノ裁判ニ依ル記載（同上）
京城府忠清洞八番地李世鎭二男李容鎭ト養子緣組大正拾貳年七月貳日屆出右不受理ニ對スル抗告ニ付同月貳拾日京城地方法院ニ於テ受理ヲ命シタル裁判同月貳拾壹日受附入籍㊞

十一　新ニ家ヲ立テタル者カ養子ト爲リタル場合ニ於ケル緣組ニ關スル記載（同上）
京城府忠信洞八番地戸主李容鎭ト養子緣組屆出大正拾貳年七月貳日受附入籍㊞

十二　同上除籍（實家ノ戸籍中戸主ノ事項欄）
京城府仁義洞一番地李容鎭ト養子緣組屆出大正拾貳年七月貳日受附家ノ消滅ニ因リ本戸籍ヲ抹消ス㊞

十三　同上戸主ニ隨ヒテ其ノ養家ニ入ル子ノ除籍（同子ノ事項欄）
大正拾貳年七月貳日父李泳烈養子緣組ニ付共ニ除籍㊞

離緣

一　實家ト養家ト本籍地ヲ同シクスル場合ニ於ケル協議離緣ニ因ル養子ノ除籍（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
養父李容鎭ト協議離緣屆出大正拾貳年七月參日受附除籍㊞

二　同上ノ復籍（實家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
養父京城府仁義洞一番地戸主李圭徹長男李容鎭ト協議離緣屆出大正拾貳年七月參日受附復籍㊞

三　養子ニ隨ヒテ養家ヲ去ル者ノ除籍（養家ノ戸籍中養家ヲ去ル者ノ事項欄）
大正拾貳年七月參日夫李泳烈離緣ニ付共ニ除籍㊞

四　同上入籍（養子ノ入リタル家ノ戸籍中共ニ入リタル者ノ事項欄）
大正拾貳年七月參日夫李泳烈復籍シタルニ付共ニ入籍㊞

五　實家ノ本籍地外ニ於テ屆出テタル協議離緣ニ因ル復籍（實家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
養父京城府仁義洞一番地戸主李圭徹長男李容鎭ト協議離緣屆出大正拾貳年七月參日仁川府尹中川清明受附同月五日送付復籍㊞

六　養子ニ代リ父母カ承諾ヲ爲ス離緣ニ因ル除籍（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
養父李容鎭ト協議離緣同人竝離緣協議者李世鎭及妻柳在華屆出大正拾貳年七月參日受附除籍㊞

七　養親ノ死亡後ニ爲ス離緣ニ因ル除籍（同上）
養父李容鎭死亡後協議離緣協議者趙薰淑ト共ニ屆出大正拾貳年七月參日受附除籍㊞

八　裁判上ノ離緣ニ因リ養子ノ除籍（同上）
大正拾貳年七月參日離緣ノ裁判確定養父李容鎭屆出同月拾日受附㊞同月拾參日入籍通知ニ因リ除籍㊞

九　協議離緣一家創立ニ關スル記載（創立シタル家ノ戸籍中戸主ノ事項欄）
養父京城府仁義洞一番地戸主李圭徹長男李容鎭ト協議離緣屆出大正拾貳年七月參日京城府尹國府政雄受附同月五日送付實家絶家ニ付一家創立㊞

十　同上除籍（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
養父李容鎭ト協議離緣屆出大正拾貳年七月參日受附實家絶家ニ付仁川府花平里七番地ニ一家創立㊞同月六日入籍通知ニ因リ除籍㊞

十一　離緣及離緣ノ後養家ノ本籍地ニ於テ屆出テタル一家創立ニ關スル記載（創立シタル家ノ戸籍中戸主ノ事項欄）
養父京城府仁義洞一番地戸主李圭徹長男李容鎭ト協議離緣屆出大正拾貳年七月參日京城府尹國府政雄受附實家絶家ニ付一家創立屆出同月貳拾九日同府尹國府政雄受附同年八月壹日送付㊞

十二　同上除籍（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
養父李容鎭ト協議離緣屆出大正拾貳年七月參日受附㊞實家絶家ニ付仁川府花平里七番地ニ一家創立屆出同月貳拾九日受附㊞同年八月參日入籍通知ニ因リ除籍㊞

十三　離緣及離緣ノ後實家ノ本籍地ニ於テ屆出テタル一家創立ニ關スル記載（創立シタル家ノ戸籍中戸主ノ事項欄）
養父京城府仁義洞一番地戸主李圭徹長男李容鎭ト協議離緣屆出大正拾貳年七月參日京城府尹國府政雄受附同月參拾壹日送付實家絶家ニ付一家創立屆出同月貳拾五日開城郡松都面長人見參太郎受附同月參拾壹日送付㊞

十四　同上除籍（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
養父李容鎭ト協議離緣屆出大正拾貳年七月參日受附㊞實家絶家ニ付仁川府花平里七番地ニ一家創立屆出同月貳拾五日開城郡松都面長人見參太郎受附同月貳拾九日送付㊞同年八月壹日入籍通知ニ因リ除籍㊞

十五　離緣及實家再興ニ因ル除籍（同上）
養父李容鎭ト協議離緣屆出大正拾貳年七月參日受附實家絶家ニ付仁川府花平里七番地ニ再興㊞同月五日入籍通知ニ因リ除籍㊞

婚姻

一　夫ニ付婚姻ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
趙薰淑ト婚姻屆出大正拾貳年七月貳日受附㊞

二　婚姻ニ因ル妻ノ入籍（婚家ノ戸籍中妻ノ事項欄）
京畿道高陽郡漢芝面漢江里六番地戸主趙德順二女大正拾貳年七月貳日李容鎭ト婚姻屆出同日入籍㊞

三　同上除籍（實家ノ戸籍中妻ノ事項欄）
京城府仁義洞一番地李容鎭ト婚姻屆出大正拾貳年七月貳日京城府尹國府政雄受附同月四日送付除籍㊞

四　婚姻證書ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
マリヤ、ベルナールト婚姻大正拾貳年七月貳日何國何職何某婚姻證書作製右謄本提出同月拾日同國駐在大使大和武雄受附同年九月貳拾日送付㊞

五　妻ニ付招壻ニ關スル記載（妻ノ事項欄）
李明鎭ト婚姻（招壻）屆出大正拾貳年七月貳日受附㊞

六　招壻ニ因ル夫ノ入籍（婚家ノ戸籍中夫ノ事項欄）
京城府仁義洞一番地戸主李圭徹三男大正拾貳年七月貳日趙薰淑ト婚姻（招壻）屆出同日入籍㊞

七　同上夫ノ除籍（夫ノ實家ノ戸籍中夫ノ事項欄）
京畿道高陽郡漢芝面漢江里六番地趙薰淑ト婚姻（招壻）屆出大正拾貳年七月貳日高陽郡漢芝面長郭斗榮受附同月五日送付除籍㊞

八　父ノ家ニ在ル庶子カ父母ノ婚姻ニ因リ嫡出子ノ身分取得ニ關スル記載（嫡出子ノ身分ヲ取得シタル者ノ事項欄）
大正拾貳年七月貳日父李容鎭母趙薰淑ノ婚姻ニ因リ嫡出子ト爲ル㊞

九　本籍不明ノ夫カ婚姻ヲ爲シタル後本籍分明ノ屆出ヲ爲シタル場合ニ於ケル夫ニ付テノ記載（夫ノ事項欄）
趙薰淑ト婚姻屆出大正拾貳年七月貳日高陽郡漢芝面長郭斗榮受附李明鎭本籍分明屆出同年九月八日同面長宋昌禮受附同月拾日送付㊞

十　同上妻ノ入籍（婚家ノ戸籍中妻ノ事項欄）
京畿道高陽郡漢芝面漢江里六番地戸主趙德順二女大正拾貳年七月貳日李明鎭ト婚姻屆出同年九月拾日入籍㊞

十一　同上除籍（實家ノ戸籍中妻ノ事項欄）
本籍不明李明鎭ト婚姻屆出大正拾貳年七月貳日受附㊞李明鎭本籍京城府仁義洞一番地分明屆出同年九月八日受附㊞同月拾貳日入籍通知ニ因リ除籍㊞

十二　婚家ヨリ更ニ婚姻ニ因リ他家ニ入ル場合ニ於ケル妻ノ入籍（婚家ノ戸籍中妻ノ事項欄）
京城府仁義洞一番地戸主李圭徹亡弟李圭泰ノ妻（實家戸主全羅南道濟州島右面西歸里五番地金敬煥）大正拾貳年七月貳日洪鍾聲ト婚姻屆出同日入籍㊞

十三　婚家ノ戸主ト爲レル女カ更ニ婚姻ニ因リ他家ニ入ル場合ニ於ケル妻ノ入籍（同上）
京城府黃金町三丁目百三番地戸主（實家戸主黃海道延白郡銀川面凝川里百八十三番地朴炳日）大正拾貳年七月貳日洪鍾聲ト婚姻屆出同日入籍㊞

離婚

一　夫ニ付協議離婚ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
妻趙薰淑ト協議離婚屆出大正拾貳年七月參日受附㊞

二　協議離婚ニ因ル妻ノ除籍（妻ノ事項欄）
大正拾貳年七月參日夫李容鎭ト協議離婚屆出㊞同月六日入籍通知ニ因リ除籍㊞

三　同上復籍（實家ノ戸籍中妻ノ事項欄）
夫京城府仁義洞一番地戸主李圭徹長男李容鎭ト協議離婚屆出大正拾貳年七月參日京城府尹國府政雄受附同月四日送付復籍㊞

四　夫ニ付裁判上ノ離婚ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
大正拾貳年七月參日離婚ノ裁判確定夫李容鎭屆出同月拾壹日受附㊞

五　裁判上ノ離婚ニ因ル妻ノ除籍（妻ノ事項欄）
大正拾貳年七月參日離婚ノ裁判確定㊞同月拾四日入籍通知ニ因リ除籍㊞

六　同上復籍（實家ノ戸籍中妻ノ事項欄）
大正拾貳年七月參日離婚ノ裁判確定夫京城府仁義洞一番地戸主李圭徹長男李容鎭屆出同月拾壹日京城府尹國府政雄受附同月拾貳日送付復籍㊞

七　婚姻入籍後實家カ轉籍シタル場合ニ於ケル離婚ニ因ル妻ノ除籍（妻ノ事項欄）
大正拾貳年七月參日夫李容鎭ト協議離婚屆出京畿道水原郡水原面南昌里九番地戸主趙德順方ヘ復籍㊞同月六日入籍通知ニ因リ除籍㊞

親權及後見

一　親權（管理權）ノ喪失ニ關スル記載（子ノ事項欄）
大正拾貳年七月壹日父李容鎭親權（管理權）喪失ノ裁判確定ニ因リ母趙薰淑親權（管理權）ヲ行フ旨屆出同月八日受附㊞

二　失權宣告ノ取消ニ關スル記載（同上）
大正拾貳年七月貳日失權宣告取消ノ裁判確定訴提起者李台鎭屆出同月八日受附㊞

三　後見ノ開始ニ關スル記載（無能力者ノ事項欄）
大正拾貳年七月拾日親權ヲ行フ母財產ノ管理ヲ辭シタルニ因リ後見開始同月參拾日後見人京城府臥龍洞八十三番地李圭泰就職ニ付屆出同年八月五日受附㊞

四　後見人ノ更迭ニ關スル記載（同上）
大正拾貳年七月八日後見人李圭泰辭任同月拾五日京畿道高陽郡漢芝面漢江里六番地趙德順就職ニ付更迭屆出同月拾九日受附㊞

五　後見ノ終了ニ關スル記載（同上）
大正拾貳年七月五日被後見人成年ニ達シタルニ付後見終了屆出同月八日受附㊞

六　保佐人ニ關スル記載（同上）
大正拾貳年七月壹日準禁治產宣告ノ效力發生同月參拾日保佐人京城府仁義洞一番地李圭徹就職ニ付屆出同月參拾壹日受附㊞

七　保佐人ノ任務終了ニ關スル記載（同上）
大正拾貳年七月貳日準禁治產宣告取消ノ裁判確定ニ因リ保佐人ノ任務終了屆出同月八日受附㊞

死亡及失踪

一　本籍地ニ於テ届出テタル死亡ニ關スル記載（死亡者ノ事項欄）
大正拾貳年七月八日午後拾壹時京城府鳳翼洞百壹番地ニ於テ死亡戸主李圭徹届出同月九日受附㊞

二　水難ニ付取調官廳ノ報告ヲ受ケタル場合ニ關スル記載（同上）
大正拾貳年七月八日時不詳京畿道高陽郡漢芝面西氷庫里漢江ニ於テ水難ニ因リ死亡龍山警察署長警視赤木守衞報告同月拾壹日受附㊞

三　在監中ノ死亡ニ關スル記載（同上）
大正拾貳年七月八日午後三時京畿道高陽郡龍江面孔德里一番地京城監獄ニ於テ死亡典獄山路改造報告同月拾日高陽郡龍江面長權世益受附報告書謄本同月拾四日送付㊞

四　本籍姓名不明ノ死亡者ニ付本籍姓名ノ報告アリタル場合ニ關スル記載（同上）
大正拾貳年七月八日午前拾壹時京城府惠化洞七番地先道路ニ於テ本籍姓名不詳ノ者死亡ニ付東大門警察署長警視市井明光ノ報告同日京城府尹國府政雄受附同警察署長警視水野彈正ノ死亡者ノ本籍姓名ノ報告同年八月貳日同府尹國府政雄受附兩報告書謄本同月七日送付㊞

五　死亡ニ關シ職權ヲ以テ爲ス記載（同上）
大正拾貳年七月日時及場所不詳死亡届出ヲ爲ス者ナキニ付大正拾貳年九月壹日京城地方法院ノ許可ニ因リ同月六日除籍㊞

六　失踪ニ關スル記載（失踪者ノ事項欄）
大正拾貳年七月八日失踪宣告大正拾貳年貳月七日死亡ト看做サル右本人妻崔新月届出大正拾貳年七月拾五日受附㊞

戸主相續

一　戸主死亡ニ因ル相續ニ關スル記載（新戸籍中戸主ノ事項欄）
大正拾貳年七月九日前戸主李丙煥死亡ニ因リ戸主相續届出同月拾五日受附㊞

二　前戸主ノ戸籍ノ抹消（前戸主ノ事項欄）
大正拾貳年七月拾五日李圭徹ノ戸主相續届出アリタルニ因リ本戸籍ヲ抹消ス㊞

三　死後養子緣組ニ因ル相續ニ關スル記載（新戸籍中戸主ノ事項欄）
大正拾貳年七月貳日前戸主趙薰淑ノ前戸主亡夫李容鎭ト死後養子緣組ニ因リ戸主相續親權ヲ行フ養母趙薰淑届出同月五日受附㊞

四　戸主相續ノ回復ニ付新戸籍ノ記載（同上）
大正拾貳年七月九日前戸主李丙煥死亡ニ因リ戸主相續大正拾參年四月八日戸主相續回復ノ裁判確定届出同月拾日受附㊞

五　戸主相續回復ノ場合ニ於テ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ノ抹消（戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ事項欄）
大正拾參年四月拾日李圭徹ノ戸主相續回復届出アリタルニ因リ本戸籍ヲ抹消ス㊞

親族入籍

一　家族ノ親族ノ入籍ニ關スル記載（入リタル家ノ戸籍中入籍者ノ事項欄）
京城府梨花洞七番地戸主張蘭植二女親族入籍戸主李圭徹届出大正拾貳年七月拾參日受附㊞

二　同上除籍（去リタル家ノ戸籍中入籍者ノ事項欄）
京城府仁義洞壹番地李圭徹家ニ親族入籍戸主李圭徹届出大正拾貳年七月拾參日受附除籍㊞

分家及絶家

一　分家ニ因ル新戸籍ノ記載（戸主ノ事項欄）
京城府鳳翼洞百壹番地戸主李圭徹姪分家届出大正拾貳年七月五日受附㊞

二　分家ノ戸主ニ隨ヒテ其ノ家ニ入ル者ノ入籍（新戸籍中入籍者ノ事項欄）
大正拾貳年七月五日父李春鎔分家ニ付共ニ入籍㊞

三　分家者ノ除籍（本家戸籍中分家戸主ノ事項欄）
京城府忠信洞貳番地ニ分家届出大正拾貳年七月五日受附除籍㊞

四　分家ノ戸主ニ隨ヒテ其ノ家ニ入ル者ノ除籍（同入籍者ノ事項欄）
大正拾貳年七月五日父李春鎔分家ニ付共ニ除籍㊞

五　絶家ニ關スル記載（最終戸主ノ事項欄）
戸主相續人ナキニ因リ絶家李圭泰届出大正拾貳年七月壹日受附㊞

六　絶家ニ因ル一家創立ニ關スル記載（一家創立者ノ事項欄）
京城府鳳翼洞百壹番地戸主李圭徹弟大正九年五月拾五日李圭徹死亡戸主相續人ナキニ付絶家ニ因リ一家創立届出大正拾貳年七月壹日受附㊞

七　絶家ノ家族ノ一家創立ニ因ル除籍（絶家ノ戸籍中家族ノ事項欄）
京城府孝悌洞五拾參番地ニ於テ一家創立届出大正拾貳年七月壹日受附除籍㊞

八　職權ヲ以テスル絶家ノ戸籍ノ抹消（最終戸主ノ事項欄）
相續人ナキニ因リ絶家大正拾貳年八月壹日京城地方法院ノ許可ニ因リ同月參日本戸籍ヲ抹消ス㊞

九　絶家再興ニ因ル新戸籍ノ記載（戸主ノ事項欄）
京城府鳳翼洞百壹番地戸主李圭徹弟絶家李圭範家再興届出大正拾貳年七月壹日受附㊞

十　絶家再興者ノ除籍（去リタル家ノ戸籍中再興者ノ事項欄）
京城府臥龍洞八拾參番地ニ於テ絶家李圭範家再興届出大正拾貳年七月壹日受附除籍㊞

改名、族稱ノ得喪及襲爵

一　改名ニ關スル記載（名ヲ變更シタル者ノ事項欄）
大正拾貳年七月八日許可ニ因リ其ノ名海榮ヲ泳植ト改名届出同月拾日受附㊞

二　族稱取得ニ關スル記載（朝鮮貴族ニ列セラレタル者ノ事項欄）
大正拾貳年七月壹日朝鮮貴族ニ列セラル右届出同月八日受附㊞

三　襲爵ニ關スル記載（爵ヲ襲キタル者ノ事項欄）
大正拾貳年七月拾壹日襲爵仰付ラル右届出同月拾五日受附㊞

四　處刑ニ因ル族稱喪失ニ關スル記載（族稱喪失者ノ事項欄）
大正拾貳年七月七日京城地方法院ニ於テ懲役ノ刑ニ處セラレ朝鮮貴族ノ族稱喪失右同法院ノ報告同月拾參日受附㊞

轉籍及就籍

一　他ノ府又ハ面ヨリノ轉籍ニ關スル記載（新戸籍中戸主ノ事項欄）
京畿道高陽郡延禧面新村里六番地ヨリ轉籍届出大正拾貳年七月貳日受附入籍㊞

二　他ノ府又ハ面ニ轉籍ノ場合ニ關スル記載（原戸籍中戸主ノ事項欄）
京城府松月洞百參番地ニ轉籍届出大正拾貳年七月貳日京城府尹國府政雄受附同月五日送付全戸除籍㊞

三　同一府、面内ニ於ケル轉籍ニ關スル記載（戸主ノ事項欄）
京城府鳳翼洞百壹番地ニ轉籍届出大正拾貳年七月參日受附㊞

四　本籍地ニ於ケル土地ノ名稱及地番號ノ更正ニ關スル記載（同上）
大正拾貳年七月貳拾壹日土地ノ名稱及地番號變更ニ付本籍欄中「黃金町參丁目百參番地」ヲ「永樂町壹丁目九拾六番地」ニ更正㊞

五　就籍ニ關スル記載（就籍者ノ事項欄）
大正拾貳年七月拾七日京城地方法院春川支廳ノ就籍許可ノ裁判ニ因リ戸主李鳳九届出同月貳拾壹日受附就籍㊞

戸籍ノ訂正

一　許可ノ裁判ニ因ル出生ノ日ノ訂正（子ノ事項欄）
大正拾貳年七月六日京城地方法院ノ許可ノ裁判ニ因リ父李圭泰戸籍訂正申請同月拾日受附出生ノ日ヲ「拾日」ト訂正ス㊞

二　朝鮮戸籍令第二十九條ノ規定ニ依ル出生ノ日ノ訂正（同上）
同居者金華山出生届出大正拾貳年七月四日東萊郡東萊面長李溫性受附同月六日送付出生ノ日ヲ「貳日」ト訂正ス㊞

三　養子緣組無效ノ確定判決ニ因ル戸籍ノ訂正（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
大正拾貳年七月六日確定京城地方法院ノ養子緣組無效ノ判決ニ因リ養父李容鎭戸籍訂正申請同月拾日受附㊞同月拾四日入籍通知ニ因リ除籍㊞

四　同上（實家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
大正拾貳年七月六日確定京城地方法院ノ養子緣組無效ノ判決ニ因リ養父李容鎭戸籍訂正申請同月拾日京城府尹國府政雄受附同月拾四日送付入籍㊞

五　緣組無效ニ付許可ノ裁判ニ依ル戸籍ノ訂正（養家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
緣組無效ニ付大正拾貳年七月六日京城地方法院ノ許可ノ裁判ニ因リ李容鎭戸籍訂正申請同月拾日受附㊞同月拾四日入籍通知ニ因リ除籍㊞

六　同上（實家ノ戸籍中養子ノ事項欄）
緣組無效ニ付大正拾貳年七月六日京城地方法院ノ許可ノ裁判ニ因リ李容鎭戸籍訂正申請同月拾日京城府尹國府政雄受附同月拾四日送付入籍㊞

七　失踪宣告取消ノ確定判決ニ因ル戸籍ノ訂正（戸主ノ名義ヲ有シタル者ノ戸籍中戸主ノ事項欄）
大正拾貳年七月六日確定京城地方法院ノ失踪宣告取消ノ判決ニ因リ妻朴春卿戸籍訂正申請同月拾日受附本戸籍ヲ抹消ス㊞

八　同上（失踪宣告ヲ取消サレタル者ノ事項欄）
大正拾貳年七月六日確定京城地方法院ノ失踪宣告取消ノ判決ニ因リ妻朴春卿戸籍訂正申請同月拾日受附㊞

九　職權ヲ以テスル戸籍ノ訂正（訂正スヘキ記載アル者ノ事項欄）
戸主トノ續柄ノ記載ニ錯誤アルモ戸籍訂正ノ申請ヲ爲ス者ナキニ付大正拾貳年七月六日京城地方法院ノ許可ニ因リ同月拾日其ノ續柄ヲ「弟」ト訂正ス㊞

附錄第五號樣式　戸籍ノ抹消
第一　全部抹消

本籍　京城府鳳翼洞百一番地　朱印　除籍

（略）
大正拾六年七月拾五日李容鎭ノ戸主相續届出アリタルニ因リ本戸籍ヲ抹消ス㊞

（略）

（略）

（略）

前戸主　李丙煥

戸主　前戸主トノ續柄　亡李丙煥長男　父　亡李丙煥　母　劉彩鳳　長男　本貫　咸興　朱　朱　李圭徹　出生　光武六年貳月六日

母　父　亡劉興基　母　亡任正姬　長女　本貫　江陵　朱　朱　劉彩鳳　出生　開國四百八拾六年八月拾五日

妻　父　朴泳根　母　崔月峯　長女　本貫　密陽　朱　朱　朴春卿　出生　光武拾年五月四日

長男　父　李圭徹　母　朴春卿　長男　本貫　朱　朱　容鎭　出生　大正拾四年壹月壹日

庶子男　父　李圭徹　母　吳娥眉　庶子男　本貫　朱　朱　台鎭　出生　大正拾五年六月八日

第二　一部抹消

本籍　京城府鳳翼洞百一番地

前戸主　李丙煥

（略）

（略）

大正拾貳年七月八日午後拾壹時京城府鳳翼洞百一番地ニ於テ死亡戸主李圭徹届出同月九日受附㊞

戸主

前戸主トノ續柄　亡李丙煥長男

父　亡李丙煥　母　劉彩鳳　長男　本貫　成興

李圭徹

出生　光武六年貳月六日

母

父　亡劉興基　母　亡任正姬　長女　本貫　江陵

朱　朱

~~劉彩鳳~~

出生　開國四百八拾六年八月拾五日

父　母　本貫　出生

父　母　本貫　出生

父　母　本貫　出生

附錄第六號様式　戸籍ノ訂正

第一　全部ノ訂正

本籍　京城府仁義洞三十六番地　朱印　抹消

前戸主

朱　~~京城府鳳翼洞百一番地戸主李圭徹弟分家届出大正四拾壹年五月貳日受附㊞~~

朱　~~金光淑ト婚姻届出大正四拾壹年貳月貳拾八日濟州島右面長鄭永珉受附同年參月貳日送付㊞~~

大正四拾六年六月貳日確定京城地方法院ノ分家無效ノ判決ニ因リ本家戸主李圭徹戸籍訂正申請同月五日受附本戸籍ヲ抹消ス㊞

~~（略）~~

（略）

（略）

戸主

前戸主トノ續柄

父　亡李丙煥　母　亡劉彩鳳　二男　本貫　成興

朱　朱

~~李圭泰~~

出生　光武拾年貳月拾日

妻

父　金敬煥　母　宋貞順　三女　本貫　金海

朱　朱

~~金光淑~~

出生　隆熙參年九月九日

長男

父　李圭泰　母　金光淑　長男　本貫

朱　朱

~~春鎔~~

出生　大正四拾貳年參月五日

二男

父　李圭泰　母　金光淑　二男　本貫

朱　朱

~~仁鎔~~

出生　大正四拾參年四月拾五日

子婦

家族トノ續柄　長男李春鎔妻

父　曹仁麒　母　朴泰白　三女　本貫　全州

朱　朱

~~曹清姬~~

出生　大正四拾六年貳月八日

第二　一部ノ訂正

本籍　京城府仁義洞三十六番地

前戸主

（略）

朱　~~金光淑ト婚姻届出大正四拾壹年貳月貳拾八日濟州島右面長鄭永珉受附同年參月貳日送付㊞~~

朱　~~全羅南道濟州島右面回歸里五番地戸主金敬煥三女大正四拾壹年貳月貳拾八日李圭泰ト婚姻届出同年參月貳日入籍㊞~~

婚姻無效ニ付大正四拾參年七月六日京城地方法院ノ許可ノ裁判ニ因リ李圭泰戸籍訂正申請同月拾八日受附㊞同月貳拾參日入籍通知ニ因リ除籍㊞

（略）

大正四拾貳年五月拾日京城地方法院ノ許可ノ裁判ニ因リ父李圭泰ノ戸籍訂正申請同月拾貳日受附名ヲ「春鎔」ト訂正ス㊞

戸主

前戸主トノ續柄

父　亡李丙煥　母　亡劉彩鳳　二男　本貫　成興

李圭泰

出生　光武拾年貳月拾日

妻

父　金敬煥　母　宋貞順　三女　本貫　金海

朱　朱

~~金光淑~~

出生　隆熙參年九月九日

長男

父　李圭泰　母　金光淑　長男　本貫

春鎔

朱　~~春鏞~~

出生　大正四拾貳年參月五日

父　母　本貫　出生

父　母　本貫　出生

附錄第七號様式　本籍ノ更正

本籍　京城府黄金町三丁目百三番地

朱　永樂町一丁目九十六番地

前戸主　李丙煥

（略）

大正拾貳年九月八日土地ノ名稱及地番號變更ニ付本籍欄中「黄金町三丁目百三番地」ヲ「永樂町一丁目九十六番地」ニ更正ス㊞

戸主

前戸主トノ續柄　亡李丙煥長男

父　亡李丙煥　母　劉彩鳳　長男　本貫　成興

李圭徹

出生　光武六年貳月六日

父　母　本貫　出生

父　母　本貫　出生

父　母　本貫　出生

附錄第八號書式

右謄（抄）本ハ戸籍（除籍）ノ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

附錄第九號書式

告知書

大正何年何月何日ノ請求ニ係ル戸籍簿（除籍簿）ノ閲覧（戸籍又ハ除籍ノ謄本又ハ抄本ノ交付）ハ左ノ理由ニ依リ許可難致候

一、、、、、、、、、、、

右及告知候也

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

姓　名　殿

附錄第十號書式

一何何届書（申請書）　何通

届出（申請）事項ノ要旨

事件本人　本籍　姓　名

右年月日附届出（申請）ハ年月日受理シタルコト（左ノ事由ニ依リ受理セサリシコト）ヲ證明ス

（一、、、、、、、、、、、）

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

附錄第十一號書式

何何届書

事件本人　本籍　姓　名

證明ヲ求ムル事項　何何

右ノ事項ハ届書ニ記載アルコトヲ證明ス

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

附錄第十二號書式

第一

催告狀

何何ノ届出（申請）可相成之處未タ其ノ手續無之ニ付來ル何月何日迄ニ右届出（申請）可相成此段及催告候也

追テ右期間內ニ手續無之ニ於テハ過料ニ處セラルルコトアヘキニ付及注意候

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

本籍（所在）
姓　名　殿

第二

追完催告狀

大正何年何月何日何何届ハ何何ノ欠缺アル爲戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサルニ付何月何日迄ニ追完可相成此段及催告候也

追テ右期間內ニ追完ノ手續無之ニ於テハ過料ニ處セラルルコトアルヘキニ付及注意候

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

本籍（所在）
姓　名　殿

第三

催告狀（第二回以後）

何年何月何日附ヲ以テ何月何日迄ニ何何届（申請）（又ハ其ノ追完）ヲ爲スヘキ旨及催告候處未タ其ノ手續無之ニ付來ル何月何日迄ニ右届出（申請）（又ハ其ノ追完）可相成更ニ及催告候也

追テ右期間內ニ手續無之ニ於テハ過料ニ處セラルルコトアルヘキニ付及注意候

大正何年何月何日

何府尹（又ハ面長）　氏　名　職印

本籍（所在）
姓　名　殿

●朝鮮戸籍手數料規則

大正十一年十二月
總令第百五十六號

朝鮮戸籍手數料規則左ノ通定ム

朝鮮戸籍手數料規則

第一條　戸籍簿、除籍簿又ハ朝鮮戸籍令第二十六條ノ書類ノ閲覧ニ付テノ手數料ハ一回ニ付十錢トス

第二條　戸籍又ハ除カレタル戸籍ノ謄本又ハ抄本ノ交付ニ付テノ手數料ハ一枚ニ付十錢トス一枚ニ滿タサルトキ亦同シ

第三條　届出若ハ申請ノ受理又ハ朝鮮戸籍令第二十六條ノ書類ニ記載シタル事項ノ證明書ノ交付ニ付テノ手數料ハ一件ニ付十錢トス

第四條　官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ以テ戸籍簿若ハ除籍簿ノ閲覧又ハ戸籍若ハ除カレタル戸籍ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料及郵送料ヲ要セス

第五條　第一條乃至第三條ノ手數料ハ之ヲ府又ハ面ノ收入トス

附　則

本令ハ大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ九ノ改正ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●府尹又ハ面長ノ管掌スル戸籍事務ノ費用負擔ニ關スル件

大正十二年三月
總令第四十三號

府尹又ハ面長ノ管掌スル戸籍事務ノ費用負擔ニ關スル件左ノ通定ム

朝鮮民事令ニ依リ府尹又ハ面長ノ管掌スル戸籍事務ノ爲要スル費用ハ府又ハ面ノ負擔トス

附　則

本令ハ大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ九ノ改正ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二章　刑事

●朝鮮刑事令中改正

大正十一年十二月
制令第十四號

朝鮮刑事令中改正ノ件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮刑事令中左ノ通改正ス

第一條中第八號乃至第十三號ヲ左ノ如ク改ム

八　海底電信線保護萬國聯合條約罰則

九　刑事訴訟法

十　外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法

十一　刑事訴訟費用法

第二條中「覆審法院檢事長、」ノ下ニ「控訴院檢事ノ職務ハ覆審法院檢事、」ヲ加フ

第三條　刑法第七十五條、第七十六條及朝鮮總督府裁判所令第三條第三項ノ規定ハ王族ニ付之ヲ準用ス

第五條第一項第四號ヲ削ル

第八條　削除

第九條　刑事訴訟法第八十二條中二十里トアルハ八里、五里トアルハ三里トス

第十條　刑事訴訟法ニ依リ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘキ場合ニ於テハ府官吏、府面吏員又ハ二人以上ノ相當ナル者ヲシテ立會ハシムヘシ

第十一條　削除

第十二條　檢事ハ刑事訴訟法ニ規定スル場合ノ外事件禁錮以上ノ刑ニ該リ急速ノ處分ヲ要スルモノト思料スルトキハ公訴ノ提起前ニ限リ押收、搜索、檢證及被疑者ノ勾引、被疑者若ハ證人ノ訊問、鑑定、通譯又ハ翻譯ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ檢事ニ許シタル處分ハ司法警察官亦之ヲ爲スコトヲ得

刑事訴訟法第八十七條第一項、第八十八條及第百三十一條ノ規定ハ前二項ノ被疑者ノ勾引ニ、刑事訴訟法第一編第十三章乃至第十五章中檢事又ハ司法警察官ノ爲ス處分ニ關スル規定ハ前二項ノ證人ノ訊問、鑑定、通譯又ハ翻譯ノ處分ニ付之ヲ準用ス

第十三條　司法警察官ハ前條第二項ノ規定ニ依リ被疑者ヲ訊問シタル後刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アリト思料スルトキハ十日ヲ超エサル期間之ヲ留置スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ留置期間內ニ書類及證據物ト共ニ被疑者ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ハ司法警察官カ刑事訴訟法第百二十七條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ訊問シ禁錮以上ノ刑ニ該ルモノト思料スル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　檢事ハ第十二條ニ規定スル處分ヲ他ノ檢事又ハ司法警察官ニ命令シ又ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ處分ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ又ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官他ノ司法警察官ノ命令又ハ囑託ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ刑事訴訟法第百二十八條ノ規定ニ準シ之ヲ命令シ又ハ囑託シタル司法警察官ニ被疑者ヲ送致スヘシ

第十五條　檢事ハ第十二條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ訊問シタル後刑事訴訟法第九十條第一項ニ規定スル原由アリト思料スルトキハ之ヲ勾留スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ刑事訴訟法第九十一條及第百三十一條ノ規定ヲ準用ス

檢事前項ノ規定ニ依リ被疑者ヲ勾留シタル場合ニ於テ十日內ニ公訴ヲ提起セサルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

檢事被疑者ヲ勾留シタルトキハ更ニ刑事訴訟法第二百五十五條ノ規定ニ依リ勾留ヲ請求スルコトヲ得ス

第十六條　刑事訴訟法第百十三條中二月トアルハ三月トス

第十七條　裁判所又ハ豫審判事ハ必要ト認ムルトキハ司法警察官ヲシテ檢證ヲ爲サシメ又ハ鑑定ヲ命セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑑定ニ付テハ刑事訴訟法第一編第十四章中司法警察官ノ爲ス處分ニ關スル規定ヲ準用ス

第十八條　削除

第十九條　削除

第二十條　削除

第二十一條　削除

第二十一條ノ二ヲ削ル

第二十二條　削除

第二十三條　通譯官、通譯生又ハ書記ヲ通事又ハ翻譯人ト爲ス場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要セス

第二十四條　職權ヲ以テ附スヘキ辯護人ハ辯護士又ハ司法官試補ニ非サル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二十五條　刑事訴訟法第三百三十四條ノ規定ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ限リ之ヲ適用ス

第二十六條　判事單獨ニテ有罪ノ言渡ヲ爲シタル判決ニ付テハ證據ニ關スル理由ヲ省略スルコトヲ得

刑事訴訟法第三百六十一條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第二十七條　檢事又ハ辯護人ハ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ必要トスルトキハ其ノ訊問ヲ裁判長ニ請求スヘシ

第二十八條　削除

第二十九條　削除

第三十條　削除

第三十一條　刑事訴訟法第四百二十二條中五十日トアルハ三十五日トス

第三十二條　削除

第三十三條　削除

第三十四條　削除

第三十五條　削除

第三十六條　削除

第三十七條　略式命令ヲ受ケタル者ハ正式裁判ノ請求ヲ拋棄スルコトヲ得

第三十八條　刑事訴訟法第五百四十五條中市町村長トアルハ府尹又ハ面長トス

第三十九條　朝鮮民事令第二條乃至第四條、第六條、第九條、第十六條、第十七條、第三十二條及第四十一條ノ規定ハ刑事ニ付之ヲ準用ス但シ朝鮮民事令第二條中前條並同令第三條、第四條、第六條及第十六條中第一條トアルハ本令第一條ニ該當ス

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行前言渡シタル闕席判決ニ對スル故障ハ從前ノ規定ニ依リ之ヲ拋棄シ又ハ之ヲ取下クルコトヲ得

本令施行前申立アリタル上告ニ付テハ仍從前ノ第三十一條乃至第三十七條ノ規定ニ依ル

●刑事訴訟法

大正十一年五月
法律第七十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事訴訟法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

刑事訴訟法

第一編　總則

第一章　裁判所ノ管轄

第一條　裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所、居所若ハ現在地ニ依ル

帝國外ニ在ル帝國艦船內ニ於テ犯シタル罪

ニ付テハ前項ニ規定スル地ノ外其ノ艦船ノ本籍若ハ船籍ノ所在地又ハ犯罪後其ノ艦船ノ繫泊シタル地ニ依ル

第二條　事物管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄スルコトヲ得

第三條　事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件上級裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第四條　事物管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件各別ニ上級裁判所及下級裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ下級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得

第五條　土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル裁判所併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得

第六條　土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ其ノ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ

第七條　事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ各裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テ各裁判所ノ決定一致セサルトキハ各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ事件ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

第八條　數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

一　一人數罪ヲ犯シタルトキ
二　數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ
三　數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ
四　數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虚偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第九條　同一事件事物管轄ヲ異ニスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十條　同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十一條　裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十二條　訴訟手續ハ管轄違ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

第十三條　裁判所ハ管轄權ヲ有セサルトキト雖急速ヲ要スル場合ニ於テハ事實發見ノ爲必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十四條　檢事ハ左ノ場合ニ於テ關係アル第一審裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

一　裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所ノ定ラサルトキ
二　管轄違ヲ言渡シタル確定裁判アリタル事件ニ付他ニ管轄裁判所ナキトキ

第十五條　法律ニ依ル管轄裁判所ナキトキ又ハ之ヲ知ルコト能ハサルトキハ檢事總長ハ大審院ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

第十六條　檢事ハ左ノ場合ニ於テ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

一　管轄裁判所又ハ裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リ定メタル裁判所ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ
二　被告人ノ地位、地方ノ民心、訴訟ノ狀況其ノ他ノ事情ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル虞アルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ被告人亦管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十七條　犯罪ノ性質、被告人ノ地位、地方ノ民心其ノ他ノ事情ニ因リ管轄裁判所ニ於テ審判ヲ爲ストキハ公安ヲ害スル虞アリト認ムル場合ニ於テハ檢事總長ハ大審院ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

第十八條　管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

檢事前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

第十九條　檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第二十條　檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付第十六條第一項第二號ニ規定スル事由ノ爲管轄移轉ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ速ニ請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日内ニ管轄裁判所ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十一條　被告人管轄移轉ノ請求書ヲ差出スニハ事件ノ繫屬スル裁判所ヲ經由スヘシ

前項ノ裁判所請求書ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

檢事ハ請求書ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第二十二條　豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求アリタルトキハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第二章　裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

第二十四條　判事ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

一　判事被害者ナルトキ
二　判事私訴當事者ナルトキ
三　判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ配偶者、四親等内ノ血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戸主若ハ家族ナルトキ親族關係ノ止ミタル後亦同シ
四　判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ
五　判事事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ
六　判事事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ
七　判事事件ニ付檢事又ハ司法警察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ
八　判事事件ニ付豫審終結決定若ハ前審ノ裁判又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルトキ但シ受託判事トシテ關與シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　判事職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキトキ又ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキハ檢事、被告人又ハ私訴當事者之ヲ忌避スルコトヲ得

辯護人ハ被告人ノ爲忌避ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第二十六條　事件ニ付請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトシテ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ原由アリシコトヲ知ラサリシトキ又ハ忌避ノ原由其ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　合議裁判所ノ判事ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲シ豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ニ對スル忌避ノ申立ハ忌避スヘキ判事ニ之ヲ爲スヘシ

忌避ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ原由ヲ示スヘシ

忌避ノ原由及前條但書ノ事實ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日内ニ書面ヲ以テ之ヲ疏明スヘシ

忌避セラレタル判事ハ第二十八條第四項但書及第二十九條ノ場合ヲ除クノ外忌避ノ申立ニ對シ意見書ヲ差出スヘシ

第二十八條　合議裁判所ノ判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所決定ヲ爲スヘシ

忌避セラレタル判事ハ前項ノ決定ニ關與スルコトヲ得ス

第一項ノ裁判所忌避セラレタル判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近上級裁判所決定ヲ爲スヘシ

豫審判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所、區裁判所判事忌避セラレタルトキハ管轄地方裁判所決定ヲ爲スヘシ但シ忌避セラレタル判事忌避ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ其ノ決定アリタルモノト看做ス

第二十九條　訴訟ヲ遲延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルコト明白ナル忌避ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用セス第二十六條又ハ第二十七條第二項第三項ノ規定ニ違反シテ爲シタル忌避ノ申立ヲ却下スル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ忌避セラレタル豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ハ忌避ノ申立ヲ却下スル裁判ヲ爲スコトヲ得

第三十條　忌避ノ申立アリタルトキハ前條ノ場合ヲ除クノ外訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　忌避ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　忌避ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ第二十四條各號ノ一ニ該當スル者アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十七條第四項及第二十八條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　判事忌避セラルヘキ原由アリト思料スルトキハ回避スヘシ

回避ノ申立ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ規定ハ回避ニ付之ヲ準用ス

第三十四條　前二條ノ決定ハ之ヲ送達セス

第三十五條　本章ノ規定ハ第二十四條第八號ノ規定ヲ除クノ外裁判所書記ニ之ヲ準用ス

豫審判事又ハ受命判事ニ附屬スル裁判所書記ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ附屬スル判事ニ之ヲ爲スヘシ

決定ハ裁判所書記所屬ノ裁判所之ヲ爲スヘシ但シ第二十九條第二項ノ裁判ハ裁判所書記ノ附屬スル判事之ヲ爲スコトヲ得

第三章　訴訟能力

第三十六條　被告人法人ナルトキハ其ノ代表者訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

數人共同シテ法人ヲ代表スル場合ト雖訴訟行爲ニ付テハ各自之ヲ代表ス

第三十七條　刑法第三十九條乃至第四十一條ノ例ヲ用ヰサル罪ニ該ル事件ニ付被告人意思能力ヲ有セサルトキハ其ノ法定代理人訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

第三十八條　前二條ノ規定ニ依リ被告人ヲ代表スル者ナキトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ特別代理人ヲ選任スヘシ

特別代理人ハ被告人ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲ス者アルニ至ル迄其ノ任務ヲ行フ

第四章　辯護及輔佐

第三十九條　被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬及配偶者竝被告人ノ屬スル家ノ戸主ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

第四十條　辯護人ハ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ

裁判所又ハ豫審判事ノ許可ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得

第四十一條　辯護人ノ選任ハ審級毎ニ之ヲ爲スヘシ

豫審中爲シタル辯護人ノ選任ハ第一審ノ公判ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第四十二條　辯護人ノ選任ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四十三條　第三百三十四條又ハ第三百三十五條ノ規定ニ依リ附スヘキ辯護人ハ裁判所所在地ニ在ル辯護士又ハ司法官試補ノ中ヨリ裁判長之ヲ選任スヘシ

被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十四條　辯護人ハ被告事件公判ニ付セラレタル後裁判所ニ於テ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閲覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

豫審ニ於テハ辯護人ノ立會フコトヲ得ヘキ豫審處分ニ關スル書類及證據物ヲ閲覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

辯護人ハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ證據物ヲ謄寫スルコトヲ得

第四十五條　被告事件公判ニ付セラレタル後ニ於テハ辯護人ト勾留ヲ受ケタル被告人トノ接見及信書ノ往復ヲ禁スルコトヲ得ス

第四十六條　辯護人ハ別段ノ規定アル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及夫竝被告人ノ屬スル家ノ戸主ハ被告事件公判ニ付セラレタル後何時ニテモ輔佐人ト爲ルコトヲ得

輔佐人タラントスル者ハ審級毎ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

輔佐人ハ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ獨立シテ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五章　裁判

第四十八條　判決ハ口頭辯論ニ基キ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

決定ハ公判廷ニ於テ申立ニ因リ之ヲ爲ストキハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽キ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得

決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四十九條　裁判ニハ理由ヲ附スヘシ但シ上訴ヲ許ササル決定又ハ命令ニ付テハ理由ヲ附セサルコトヲ得

第五十條　裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本[illegible]ノ規定ア[illegible]シ

第五十一條　裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲ス

判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

第五十二條　檢事ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　被告人其ノ他訴訟關係人ハ其ノ費用ヲ以テ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第六章　書類

第五十四條　訴訟ニ關スル書類ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判所書記之ヲ作成スヘシ

第五十五條　訴訟ニ關スル書類ハ公判ノ開廷前ニ於テハ之ヲ公ニスルコトヲ得ス

第五十六條　被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘ

シ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問及供述

二　證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閲覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ供述者增減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第五十七條　檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作リ之ヲ調書ニ添附スヘシ

第五十八條　前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ裁判所取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時ヲモ記載スヘシ

第五十九條　裁判所書記ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記ノ行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フヘシ

第六十條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手續ヲ記載スヘシ

一　公判ヲ爲シタル裁判所及年月日

二　判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名竝被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名

三　被告人出頭セサリシトキハ其ノ旨

四　公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由

五　被告事件ノ陳述及公判開延中口頭ノ起訴アリタルトキハ其ノ要旨

六　辯論ノ要旨

七　第五十六條第二項ニ揭クル事項

八　朗讀シ又ハ要旨ヲ告ケタル書類

九　被告人ニ示シタル書類及證據物

十　公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收

十一　裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

十二　被告人若ハ辯護人最終ニ陳述シタルコト又ハ被告人若ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘタルコト

十三　判決其ノ他ノ裁判ノ宣告ヲ爲シタルコト

第六十一條　公判調書ニ付テハ第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要セス

供述者ノ請求アルトキハ裁判所書記ヲシテ其ノ供述ニ關スル部分ヲ讀聞カサシメ增減變更ノ申立アリタルトキハ其ノ供述ヲ記載セシムヘシ

第六十二條　公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日内ニ之ヲ整理スヘシ

第六十三條　公判調書ニハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第六十四條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

第六十五條　辯護人ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ速記者ヲシテ公判ニ於ケル被告人又ハ證人ノ供述ヲ筆記セシムルコトヲ得

第六十六條　裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得

第六十七條　裁判書ハ判事之ヲ作ルヘシ

第六十八條　裁判書ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能ハサルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ判事署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第六十九條　裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ヲ受クル者ノ氏名、年齡、職業及住居ヲ記載スヘシ裁判ヲ受クル者法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所ヲ記載スヘシ

判決書ニハ前項ニ規定スル事項ノ外公判ニ關與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載スヘシ

第七十條　裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ原本又ハ謄本ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第七十一條　官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ

書類ニハ每葉ニ契印スヘシ

第七十二條　官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄スヘカラス插入、削除又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ削除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第七十三條　官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第七十四條　官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名スルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代書セシメ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ拇印スヘシ

他人ヲシテ代書セシメタル場合ニ於テハ代書シタル者其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第七章　送達

第七十五條　被告人、私訴當事者、代理人、辯護人又ハ輔佐人ハ書類ノ送達ヲ受クル爲書面ヲ以テ其ノ住居又ハ事務所ヲ裁判所ニ届出ツヘシ裁判所所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ者ト連署シタル書面ヲ以テ之ヲ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル届出ハ同一ノ地ニ在ル各審級ノ裁判所ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ在監者ニ之ヲ適用セス

送達ニ付テハ送達受取人ハ之ヲ本人ト看做シ其ノ住居又ハ事務所ハ之ヲ本人ノ住居ト看做ス

第七十六條　住居、事務所又ハ送達受取人ヲ届出ツヘキ者其ノ届出ヲ爲ササルトキハ裁判所書記ハ書類ヲ郵便ニ付シテ其ノ送達ヲ爲スコトヲ得

前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十七條　檢事ニ對スル送達ハ書類ヲ檢事局ニ送付シテ之ヲ爲スヘシ

第七十八條　被告人ノ住居、事務所及現在地知レサルトキハ公示送達ヲ爲スコトヲ得

被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル場合ニ於テ他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條　公示送達ハ裁判所ノ命シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類又ハ其ノ抄本ヲ裁判所ノ揭示場ニ公示シテ之ヲ爲スヘシ

公判ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ裁判所書記召喚狀ヲ裁判所ノ揭示場ニ公示シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ揭載シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ揭載シタル日ヨリ三十日、其ノ他ノ公示送達ハ揭示場ニ公示ヲ始メタル日ヨリ七日ノ期間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第八十條　書類ノ送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス但シ司法警察官ノ發スル書類ノ送達ニ付テハ裁判所書記ニ屬スル職務ハ司法警察官之ヲ行ヒ執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察吏之ヲ行フ

第八章　期間

第八十一條　期間ノ計算ニ付テハ時ヲ以テスルモノハ卽時ヨリ之ヲ起算シ日、月又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス但シ時效期間ノ初日ハ時間ヲ論セス一日トシテ之ヲ計算ス

月及年ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算ス

期間ノ末日日曜日、一月一日二日四日、十二月二十九日三十日三十一日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セス但シ時效期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條　法定ノ期間ハ訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ海陸路二十里每ニ一日ヲ加フ其ノ距離又ハ端數二十里ニ滿タサルモ五里以上ナルトキハ一日ヲ加フ但シ海路ハ二海里ヲ一里トシテ之ヲ計算ス

前項ノ規定ハ宣告シタル裁判ニ對スル上訴ノ提起期間ニハ之ヲ適用セス

外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲ニハ特ニ期間ヲ定ムルコトヲ得

第九章　被告人ノ召喚、勾引及勾留

第八十三條　裁判所公訴ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ召喚スヘシ

第八十四條　被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人ヨリ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出頭シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

受訴裁判所ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ニ對シテハ監獄官吏ニ通知シテ之ヲ召喚スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人監獄官吏ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

第八十五條　召喚ニ因リ出頭シタル被告人ハ速ニ之ヲ訊問スヘシ

被告人裁判所構内ニ在ルトキハ召喚ヲ爲ササル場合ニ於テモ之ヲ訊問スルコトヲ得

第八十六條　被告人再度ノ召喚ヲ受ケ故ナク出頭セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第八十七條　左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

一　被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

二　被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ

三　被告人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ

五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ前項第一號ノ場合ヲ除クノ外被告人ヲ勾引スルコトヲ得ス但シ前條及第百六條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第八十八條　被告人ノ勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第八十九條　勾引シタル被告人ハ裁判所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ之ヲ訊問スヘシ其ノ時間内ニ勾留狀ヲ發セサルトキハ被告人ヲ釋放スヘシ

第九十條　第八十七條ノ規定ニ依リ被告人ヲ勾引スルコトヲ得ヘキ原由アルトキハ之ヲ勾留スルコトヲ得

被告人ノ勾留ハ第八十五條又ハ前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ被告人逃亡シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

被告人監獄ニ在ルトキハ第一項ノ原由ナシト雖之ヲ勾留スルコトヲ得

第九十一條　被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第九十二條　被告人ヲ勾留シタル場合ニ於テハ其ノ身體及名譽ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第九十三條　裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第八十三條乃至第九十一條ニ規定スル處分ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十四條　裁判長ハ被告人ノ現在地ノ豫審判事若ハ區裁判所判事、法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢事又ハ司法警察官ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

囑託又ハ移送ヲ受ケタル官署ハ勾引狀ヲ發スヘシ

第九十五條　被告人ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ裁判長ハ檢事長ニ被告人ノ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ記載シタル書面ヲ送付シ其ノ搜查及勾引ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事長ハ其ノ管内ノ檢事ヲシテ勾引狀ヲ發シ搜查及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第九十六條　前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リテ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間内ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ

被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セラレタル裁判所ニ送致スヘシ此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第九十七條　召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名及住居ヲ記載シ裁判長又ハ受命判事之ニ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住居分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ

召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時、場所及召喚ニ應セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ

裁判長第九十三條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九十八條　前條第一項及第二項ノ規定ハ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ勾引狀ニ囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名及囑託ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

第九十九條　召喚狀ハ之ヲ送達ス

第百條　勾引狀又ハ勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ司法警察官吏之ヲ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ監獄官吏之ヲ執行ス

檢事ノ指揮ニ依リ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テハ之ヲ發シタル官署ハ其ノ原本ヲ檢事ニ送付スヘシ

第百一條　勾引狀ハ數通ヲ作リ之ヲ司法警察官吏數人ニ交付スルコトヲ得

第百二條　司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ勾引狀ノ執行ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

第百三條　勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル裁判所ニ引致スヘシ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付テハ之ヲ發シタル官署ニ引致スヘシ

勾留狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ

第百四條　勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ其ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第百五條　軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ廳舍若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ外ニ在リテ現ニ勤務ニ從事スル軍人、軍屬又ハ陸軍海軍所屬ノ學生生徒ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

第百六條　裁判長ハ必要アルトキハ指定ノ場所ニ被告人ノ出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得被告人正當ノ事由ナクシテ之ヲ肯セサルトキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ其ノ場所ニ引致シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第百七條　勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護送スル場合ニ於テ必要アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ

第百八條　勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

第百九條　勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ之ヲ差出スヘシ

勾引狀ノ執行ニ關スル書類ヲ受取リタル檢事其ノ他ノ官署ハ被告人ノ引致セラレタル年月日時ヲ勾引狀ニ記載スヘシ

第百十條　檢事ハ裁判所ノ同意ヲ得テ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得

第百十一條　勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍內ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得勾引狀ニ因リ監獄ニ留置セラレタル被告人亦同シ

第百十二條　裁判所ハ罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡ヲ圖ル虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類其ノ他ノ物ヲ檢閲シ、其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得但シ糧食ハ其ノ授受ヲ禁シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

裁判所檢閲ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢事之ヲ爲スコトヲ得

第百十三條　勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得

第百十四條　勾留ノ原由消滅シタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ

第百十五條　勾留セラレタル被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、配偶者、被告人ノ屬スル家ノ戶主若ハ辯護人ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第百十六條　保釋ノ請求アリタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得

第百十七條　保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ納メシメタル後之ヲ執行スヘシ

檢事ハ保釋請求者ニ非サル者ヲシテ保證金ヲ納メシムルコトヲ得

檢事ハ有價證券又ハ裁判所ノ管轄地內ニ住居シ保證金ヲ納ムルニ十分ナル資産ヲ有スル者ノ差出シタル保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得

保證書ニハ保證金額及何時ニテモ其ノ保證金ヲ納ムヘキ旨ヲ記載スヘシ

第百十八條　裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留セラレタル被告人ヲ親族其ノ他ノ者ニ責付シ又ハ被告人ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

責付ヲ爲スニハ被告人ノ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニテモ召喚ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ノ書面ヲ差出サシムヘシ

第百十九條　被告人逃亡シタルトキ、逃亡スル虞アルトキ、召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキ、罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ又ハ住居ノ制限ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得

保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スルコトヲ得

保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタル後執行ノ爲召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス又ハ逃亡シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

第百二十條　勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留狀ノ效力消滅シタルトキハ檢事ハ沒取ニ係ラサル保證金ヲ還付スヘシ

第百二十一條　上訴提起期間內又ハ上訴中ノ事件ニ付勾留ノ期間ヲ更新シ、勾留ヲ取消シ又ハ保釋ヲ爲シ、責付ヲ爲シ、勾留ノ執行停止ヲ爲シ若ハ之ヲ取消スヘキ場合ニ於テ訴訟記錄原裁判所ニ在ルトキハ原裁判所其ノ決定ヲ爲スヘシ

第百二十二條　豫審判事ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第百二十三條　左ノ場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢事ハ勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

一　被疑者定リタル住居ヲ有セサルトキ
二　現行犯人其ノ場所ニ在ラサルトキ
三　現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ
四　既決ノ囚人又ハ本法ニ依リ拘禁セラレタル者逃亡シタルトキ
五　死體ノ檢證ニ因リ犯人ヲ發見シタルトキ
六　被疑者常習トシテ强盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノナルトキ

第百二十四條　檢事又ハ司法警察官吏其ノ職務ヲ行フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ犯人其ノ場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラサルトキ又ハ第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一　檢事ハ司法警察官吏ニ犯人ノ逮捕ヲ命スヘシ必要アル場合ニ於テハ自ラ之ヲ逮捕スルコトヲ得
二　司法警察官ハ直ニ犯人ヲ逮捕シ又ハ其ノ逮捕ヲ司法警察吏ニ命スヘシ
三　司法警察吏ハ命令ヲ待タスシテ直ニ犯人ヲ逮捕スヘシ

第百二十五條　現行犯人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト雖之ヲ逮捕スルコトヲ得

犯人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ司法警察官吏ニ引渡スヘシ

第百二十六條　司法警察吏現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘシ

司法警察吏犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得

第百二十七條　司法警察官現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リ又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取リタルトキハ卽時訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ遲クトモ四十八時間內ニ書類及證據物ト共ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

第百二十八條　司法警察吏檢事若ハ司法警察官ノ命令ニ因リ現行犯人ヲ逮捕シ又ハ司法警察官檢事ノ命令ニ依リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラス速ニ之ヲ命令シタル檢事又ハ司法警察官ニ引致スヘシ

第百二十九條　檢事現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リ又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取リタルトキハ遲クトモ二十四時間內ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スル場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾留狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ勾留狀ヲ發シ速ニ公訴ヲ提起シ又ハ書類及證據物ト共ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

檢事他ノ檢事ヨリ被疑者ヲ受取リタルトキハ前項ノ手續ニ準シ處分スヘシ但シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

檢事他ノ檢事ノ囑託ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ第一項ノ手續ニ依ラス速ニ之ヲ囑託シタル檢事ニ送致スヘシ

第百三十條　現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トス

兇器贓物其ノ他ノ物ヲ所持シ、誰何セラレテ逃走シ犯人トシテ追呼セラレ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ現行犯人其ノ場所ニ在リタルモノト看做ス

第百三十一條　第九十七條、第九十八條及第百條乃至第百十條ノ規定ハ第百二十三條及第百二十九條ノ勾引又ハ勾留ニ付之ヲ準用ス

第百三十二條　五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル罪ノ現行犯ニ付テハ犯人ノ住居若ハ氏名分明ナラサル場合又ハ犯人逃亡スル虞アル場合ニ限リ第百二十四條乃至前條ノ規定ヲ適用ス

第十章　被告人訊問

第百三十三條　被告人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキコトヲ確ムルニ足ルヘキ事項ヲ訊問スヘシ

第百三十四條　被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告ケ其ノ事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ否ヲ問フヘシ

第百三十五條　被告人ニ對シテハ丁寧深切ヲ旨トシ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第百三十六條　被告人ヲ訊問スルトキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

第百三十七條　事實發見ノ爲必要アルトキハ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

第百三十八條　被告人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムルコトヲ得

第百三十九條　本章ノ規定ハ被疑者ヲ訊問スル場合ニ之ヲ準用ス但シ司法警察官訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

第十一章　押收及搜索

第百四十條　裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外證據物又ハ沒收スヘキ物ト思料スルモノアルトキハ之ヲ差押フヘシ

裁判所ハ差押フヘキ物ヲ指定シ所有者、所持者又ハ保管者ニ其ノ物ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第百四十一條　裁判所ハ被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ對シテ發シタル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當セサル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノハ被告事件ニ關係アリト思料スルニ足ルヘキ狀況アルモノニ限リ之ヲ差押ヘ又ハ提出セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ發信人又ハ受信人ニ通知スヘシ但シ通知ニ因リ審理ヲ妨クル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百四十二條　被告人其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ハ之ヲ領置スルコトヲ得

第百四十三條　裁判所ハ必要アルトキハ被告人ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ付テハ押收スヘキ物ノ存在ヲ認知スルニ足ルヘキ狀況アル場合ニ限リ搜索ヲ爲スコトヲ得

婦女ノ身體ノ搜索ニ付テハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百四十四條　搜索ニ付テハ祕密ヲ保チ且搜索ヲ受クル者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第百四十五條　搜索ヲ爲シタル場合ニ於テ證據物又ハ沒收スヘキ物ナキトキハ搜索ヲ受ケタル者ノ請求ニ因リ其ノ旨ノ證明書ヲ交付スヘシ

第百四十六條　押收又ハ搜索ニ付テハ鎖鑰又ハ封緘ノ開披其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得押收物ニ付亦同シ

第百四十七條　軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十八條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ所持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮內大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計檢査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者其ノ保管又ハ所持スル物ニ付前項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十九條　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、産婆、辯護士、辯護人、辨理士、公證人、宗教若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲保管又ハ所持スル物ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付差押ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百五十條　裁判所ハ押收スヘキ物又ハ搜索スヘキ場所、身體若ハ物ヲ指定シタル命令狀ヲ發シ司法警察官ヲシテ押收又ハ搜索ヲ爲サシムルコトヲ得

命令狀ニハ押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第百五十一條　司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ被告事件ニ關スル他ノ證據物ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スルコトヲ得

第百五十二條　司法警察官前二條ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲シタルトキハ檢事ヲ經由シテ之ニ關スル書類及押收物ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第百五十三條　裁判所押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假ニ之ヲ押收シテ檢事ニ送付スルコトヲ得

檢事前項ノ規定ニ依リ押收シタル物ヲ留置スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ還付スヘシ

第百五十四條　押收又ハ搜索ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ爲スヘキ地ノ豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限ヲ有スル他ノ官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限ヲ有スル他ノ官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命判事又ハ受託官署ノ爲ス押收又ハ搜索ニ付テハ裁判所ノ爲ス押收又ハ搜索ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第百四十一條第三項ノ通知ハ裁判所之ヲ爲スヘシ

第百五十五條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ニ入ルコトヲ得ス

猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ前項ニ規定スル制限[illegible]テハ其ノ[illegible]

日沒前押收又ハ搜索ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第百五十六條　左ノ場所ニ於テ押收又ハ搜索ニ付テハ前條第一項ノ制限ニ依ルコトヲ要セス

一　賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラルルモノト認ムヘキ場所
二　旅店、飮食店其ノ他夜間ト雖公衆ノ出入スルコトヲ得ル場所但シ公開シタル時間內ニ限ル

第百五十七條　公務所又ハ軍用ノ廳舍若ハ艦船ノ內ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲スニハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ

前項ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ノ內ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲スニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ若此等ノ者ヲ立會ハシムルコト能ハサルトキハ鄰人又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第百五十八條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ押收又ハ搜索ニ立會フコトヲ得但シ拘禁セラレタル被告人ハ此ノ限ニ在ラス

押收又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ被告人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第百五十九條　押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ前條ノ規定ニ依リ其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六十條　押收又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六十一條　押收又ハ搜索ノ處分中ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルコトヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ禁止ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分終ル迄之ヲ留置スルコトヲ得

第百六十二條　押收又ハ搜索ノ處分ヲ中止スル場合ニ於テ必要アルトキハ其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ

第百六十三條　押收ヲ爲シタル場合ニ於テ所有者、所持者若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ品目ヲ記載シタル調書又ハ目錄ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スヘシ

第百六十四條　押收物ニ付テハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

運搬又ハ保管ニ不便ナル押收物ニ付テハ看守者ヲ置キ又ハ所有者其ノ他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

危險ヲ生スル虞アル押收物ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第百六十五條　沒收スルコトヲ得ヘキ押收物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ賣却シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第百六十六條　押收物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待タス檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

押收物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スルコトヲ得

第百六十七條　押收シタル贓物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルトキニ限リ被告事件ノ終結ヲ待タス檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第百六十八條　押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

第百六十九條　豫審判事ハ押收及搜索ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス

第百七十條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官押收ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ押收物ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ第百六十四條第二項又ハ第三項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

第百七十一條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得

第百七十二條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官吏ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ犯人ヲ逮捕スル爲搜索ヲ爲スコトヲ得檢事又ハ司法警察官吏現行犯人ヲ逮捕スル爲追行シタル場合ニ於テ犯人人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ逃入リタルトキ亦同シ

第百七十三條　司法警察官吏勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テ必要アルトキハ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ入リ搜索ヲ爲スコトヲ得

第百七十四條　第百四十條乃至第百四十九條、第百五十三條、第百五十五條乃至第百五十七條及第百六十一條乃至第百六十七條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外檢事又ハ司法警察官ノ爲ス押收又ハ搜索ニ付之ヲ準用ス

第百四十六條、第百四十七條、第百五十五條乃至第百五十七條及第百六十一條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外司法警察吏ノ爲ス搜索ニ付之ヲ準用ス

第百七十二條ノ搜索ヲ爲ス場合及第百二十三條第三號乃至第六號ノ規定ニ依リ發シタル勾引狀ヲ執行スル爲前條ノ搜索ヲ爲ス場合ニ於テハ第百五十七條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス

第十二章　檢證

第百七十五條　裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ檢證ヲ爲スヘシ

第百七十六條　檢證ニ付テハ身體ノ檢査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘、物ノ毀壞其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體ノ檢査ハ一定ノ證跡ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

婦女ノ身體ヲ檢査スル場合ニ於テハ醫師又ハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テハ禮意ヲ失ハサルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知スヘシ

第百七十七條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス但シ日出後ニ於テハ檢證ノ目的ヲ達スルコト能ハサル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日沒前檢證ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第百五十六條ニ規定スル場所ニ付テハ第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第百七十八條　第百四十七條、第百五十四條、第百五十七條乃至第百六十二條及第百六十八條ノ規定ハ檢證ニ付之ヲ準用ス

第百七十九條　豫審判事ハ檢證ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス

第百八十條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第百八十一條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ檢證ヲ爲スコトヲ得

第百八十二條　變死者又ハ變死ノ疑アル死體アルトキハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事檢視ヲ爲スヘシ

前項ノ處分ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得

檢事ハ司法警察官ヲシテ前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十三條　第百四十七條、第百五十七條、第百六十一條、第百六十二條、第百七十六條及第百七十七條ノ規定ハ檢事又ハ司法警察官ノ爲ス檢證ニ付之ヲ準用ス

第十三章　證人訊問

第百八十四條　裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第百八十五條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ知得タル事實ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス

但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮內大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計檢査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、敎育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者前項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス

第百八十六條　左ニ揭クル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一　被告人ノ配偶者、四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者

二　被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人

三　被告人ヲ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス者

共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ前項ノ關係アル者ト雖他ノ共同被告人ノミニ關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十七條　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、辨理士、公證人、宗敎若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付證言ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十八條　證言ヲ爲スニ因リ自己又ハ自己ト第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者刑事訴追ヲ受クル虞アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得

現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ起訴セラレ未タ確定判決ヲ經サルトキ亦前項ニ同シ

第百八十九條　證書ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ疏明スヘシ但シ前條ノ場合ニ於テハ其ノ事由ノ相違ナキ旨ノ宣誓ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得

證言ヲ拒ム者之ヲ拒ム事由ヲ疏明スルコト能ハサルトキ又ハ宣誓ヲ爲ササルトキハ決定ヲ以テ其ノ申立ヲ却下スヘシ

第百九十條　召喚ヲ受ケタル證人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處シ且出頭セサルニ因リ生シタル費用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百九十一條　召喚ニ應セサル證人ニ對シテハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第百九十二條　第八十四條及第九十九條ノ規定ハ證人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

第百九十三條　第八十八條、第百條乃至第百五條及第百九條ノ規定ハ證人ノ勾引ニ付之ヲ準用ス

第百九十四條　證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ其ノ氏名及住居、被告人ノ氏名竝被告事件ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

召喚狀ニハ出頭スヘキ年月日時及場所竝出頭セサルトキハ過料ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

召喚狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少クトモ二十四時間ノ猶豫ヲ存スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百九十五條　證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告クヘシ

第百九十六條　證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百九十七條　宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十八條　宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默祕セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ但シ訊問後宣誓ヲ爲ス場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默祕セス又何事ヲモ附加セサリシコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

第百九十九條　宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前僞證ノ罰ヲ告クヘシ

第二百條　證人ノ宣誓ハ各別ニ之ヲ爲サシムヘシ

第二百一條　證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ

一　十六歲未滿ノ者

二　宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者

三　現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者

四　第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニシテ證言ヲ拒マサルモノ

五　第百八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者

六　被告人ノ雇人又ハ同居人

前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス

第一項ニ揭クル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百二條　證人ノ供述證人若ハ之ト第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ノ恥辱ニ歸シ又ハ其ノ財產上ニ重大ナル損害ヲ生スル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百三條　證人ハ各別ニ之ヲ訊問スヘシ後ニ訊問スヘキ證人在廷スルトキハ退廷ヲ命スヘシ

第二百四條　事實發見ノ爲必要アルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

第二百五條　證人ニハ訊問事項ニ付連絡シタル供述ヲ爲サシムヘシ

必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ其ノ眞否ヲ判斷スル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘシ

第二百六條　證人ニハ其ノ實驗シタル事實ニ因リ推測シタル事項ヲ供述セシムルコトヲ得

前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百七條　第八十五條、第百三十六條及第百三十八條ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ準用ス

第二百八條　證人ハ必要アル場合ニ於テハ裁判所外ニ之ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百九條　親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ其ノ現在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

帝國議會ノ議員議會ノ開會中開會地ニ滯在スルトキハ其ノ滯在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

第二百十條　證人正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ百圓以下ノ過料ニ處ス第百八十九條第一項但書ノ場合ニ於テ虛僞ノ宣誓ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百十一條　裁判所ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第二百十二條　裁判所外ニ於テ證人ヲ訊問スヘキトキハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ證人ノ現在地ノ豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第百九十條及第二百十條ノ決定ハ裁判所亦之ヲ爲スコトヲ得

第二百十三條　豫審判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第二百十四條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ第百八十四條乃至第二百十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ第百八十四條乃至第二百十一條ノ

規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第二百十五條　檢事又ハ司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二百十六條　司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

第二百十七條　第二百十四條ノ規定ニ依リ證人ヲ過料ニ處シ又ハ之ニ賠償ヲ命スヘキトキハ證人ノ現在地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ

第二百十八條　證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四章　鑑定

第二百十九條　裁判所ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第二百二十條　鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スヘキコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

第二百二十一條　鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ依リ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ

鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

鑑定書ヲ差出シタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ說明ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十二條　裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ裁判所外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコトヲ得

被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付必要アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メ病院其ノ他ノ相當ノ場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得

第二百二十三條　鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ身體ヲ檢査シ、死體ヲ解剖シ又ハ物ヲ毀壞スルコトヲ得

第百七十六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十四條　鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閱覽シ若ハ謄寫シ又ハ被告人若ハ證人ノ訊問ニ立會フコトヲ得

鑑定人ハ被告人若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ此等ノ者ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得

第二百二十五條　裁判所ハ部員ヲシテ鑑定ニ付必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得但シ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二百二十六條　裁判所ハ鑑定ヲ十分ナラストスルトキハ鑑定人ヲ增加シ又ハ他ノ鑑定人ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十七條　檢事及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得

第百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十八條　第十三章ノ規定ハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外鑑定ニ付之ヲ準用ス但シ檢事及司法警察官ハ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十九條　鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ノ外鑑定料及立替金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十條　裁判所ハ官署又ハ公署ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得

第二百二十一條乃至第二百二十三條及第二百二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ第二百二十一條第三項ノ規定ニ依ル鑑定書ノ說明ハ官署又ハ公署ノ指定シタル者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第二百三十一條　特別ノ智識ニ因リ知得タル過去ノ事實ニ付其ノ事實ヲ知リタル者ヲ訊問スル場合ニハ本章ノ規定ニ依ラス第十三章ノ規定ヲ適用ス

第十五章　通譯

第二百三十二條　國語ニ通セサル者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ

第二百三十三條　聾者又ハ啞者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十四條　國語ニ非サル文字又ハ符號ハ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

第二百三十五條　裁判所ハ官署又ハ公署ニ翻譯ヲ囑託スルコトヲ得

第二百三十六條　第十四章ノ規定ハ通譯及翻譯ニ付之ヲ準用ス

第十六章　訴訟費用

第二百三十七條　刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ヲシテ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムヘシ

被告人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタル費用ハ刑ノ言渡ヲ爲ササル場合ト雖被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百三十八條　共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百三十九條　告訴又ハ告發ニ因リ公訴ノ提起アリタル事件ニ付被告人無罪又ハ免訴ノ裁判ヲ受ケタル場合ニ於テ告訴人又ハ告發人ニ故意又ハ重大ナル過失アルトキハ其ノ者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十條　親告罪ニ付告訴ノ取消アリタル場合ニ於テハ告訴人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十一條　檢事ニ非サル者上訴ノ取下ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ上訴ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ取下ケタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ再審ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十二條　裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ其ノ裁判ヲ爲スヘシ此ノ裁判ニ對シテハ本案ノ裁判ニ付上訴アリタルトキニ限リ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二百四十三條　裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ニ非サル者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ別ニ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十四條　裁判ニ因ラスシテ訴訟手續終了スル場合ニ於テ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ最終ニ事件ノ繫屬シタル裁判所職權ヲ以テ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十五條　訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ執行ノ指揮ヲ爲スヘキ檢事之ヲ定ム

第二編　第一審

第一章　搜査

第二百四十六條　檢事犯罪アリト思料スルトキハ犯人及證據ヲ搜査スヘシ

第二百四十七條　警視總監、地方長官及憲兵司令官ハ各其ノ管轄區域內ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スルニ付地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス但シ東京府知事ハ此ノ限ニ在ラス

第二百四十八條　左ニ揭クル者ハ檢事ノ輔佐トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スヘシ

一　廳府縣ノ警察官

二　憲兵ノ將校、准士官及下士

第二百四十九條　左ニ揭クル者ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ司法警察吏トシテ搜査ノ補助ヲ爲スヘシ

一　巡査

二　憲兵卒

第二百五十條　前三條ニ規定スル者ノ外勅令ヲ以テ司法警察官吏ヲ定ムルコトヲ得

第二百五十一條　森林、鐵道其ノ他特別ノ事項ニ付司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百五十二條　第十一條第一項ノ規定ハ檢事及司法警察官吏ノ爲ス搜査ニ付之ヲ準用ス

第二百五十三條　搜査ニ付テハ祕密ヲ保チ被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ

注意スヘシ

第二百五十四條　搜査ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得但シ强制ノ處分ハ別段ノ規定アル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

搜査ニ付テハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十五條　檢事搜査ヲ爲スニ付强制ノ處分ヲ必要トスルトキハ公訴ノ提起前ト雖押收、搜索、檢證及被疑者ノ勾留、被疑者若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ其ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

第二百五十六條　判事前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ

第二百五十七條　第二百五十五條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ勾留シタル事件ニ付十日內ニ公訴ヲ提起セサルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放スヘシ

第二百五十五條ノ規定ニ依リ押收ヲ爲シタル事件ニ付公訴ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ檢事ハ速ニ押收物ヲ還付スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ公訴ノ時效完成スルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得

第二百五十八條　犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百五十九條　祖父母又ハ父母ニ對シテハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二百六十條　被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死亡シタルトキハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族又ハ兄弟姉妹ハ告訴ヲ爲スコトヲ得但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セス

第二百六十一條　被害者ノ法定代理人被疑者ナルトキ、被疑者ノ配偶者ナルトキ又ハ被疑者ノ四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十二條　死者ノ名譽ヲ毀損シタル罪ニ付テハ死者ノ親族、遺族又ハ後裔ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

名譽ヲ毀損シタル罪ニ付被害者告訴ヲ爲サスシテ死亡シタルトキ亦前項ニ同シ但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第二百六十三條　親告罪ニ付告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ナキ場合ニ於テハ管轄裁判所ノ檢事ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

第二百六十四條　刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ婚姻解消シ又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタル後ニ非サレハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス再ヒ婚姻ヲ爲シ又ハ離婚ノ訴ヲ取下ケタルトキハ告訴ヲ取消シタルモノト看做ス

第二百六十五條　親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知リタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定シタル日ヨリ六月內ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ナシ

第二百六十六條　告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者數人アル場合ニ於テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他ノ者ニ對シ其ノ效力ヲ及ホサス

第二百六十七條　告訴ハ第二審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求ニ之ヲ準用ス

第二百六十八條　親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對シテ爲シタル告訴又ハ其ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

前項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求又ハ其ノ取消ニ之ヲ準用ス

刑法第百八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シテ告訴又ハ其ノ取消アリタルトキハ他ノ者ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

第二百六十九條　何人ト雖犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スコトヲ得

官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スヘシ

第二百七十條　第二百五十九條ノ規定ハ告發ニ付之ヲ準用ス

第二百七十一條　告訴ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得告訴ノ取消ニ付亦同シ

第二百七十二條　告訴又ハ告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘシ

第二百七十三條　檢事又ハ司法警察官口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ調書ニ付之ヲ準用ス

第二百七十四條　司法警察官告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第二百七十五條　第二百七十二條、第二百七十三條及前條ノ規定ハ告訴又ハ告發ノ取消ニ付之ヲ準用ス

第二百七十六條　第二百七十二條、第二百七十三條及第二百七十四條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ準用ス

第二百七十七條　犯罪ニ關シ匿名ノ申告又ハ風說アル場合ニ於テハ特ニ其ノ出所ニ注意シ虛實ヲ探査スヘシ

第二章　公訴

第二百七十八條　公訴ハ檢事之ヲ行フ

第二百七十九條　犯人ノ性格、年齡及境遇並犯罪ノ情狀及犯罪後ノ情況ニ因リ訴追ヲ必要トセサルトキハ公訴ヲ提起セサルコトヲ得

第二百八十條　公訴ハ檢事ノ指定シタル被告人以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ホサス

第二百八十一條　時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完成ス

一　死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三　長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四　長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年

五　長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

六　刑法第八十五條ノ罪ニ付テハ一年

七　拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第二百八十二條　二以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二以上ノ主刑中其ノ一ヲ科スヘキ罪ニ付テハ其ノ重キ刑ニ從ヒ前條ノ規定ヲ適用ス

第二百八十三條　刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スヘキ場合ニ於テハ加重又ハ減輕セサル刑ニ從ヒ第二百八十一條ノ規定ヲ適用ス

第二百八十四條　時效ハ犯罪行爲ノ終リタル時ヨリ進行ス

共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行爲ノ終リタル時ヨリ總テノ共犯ニ對シテ時效ノ期間ヲ起算ス

第二百八十五條　時效ハ公訴ノ提起、公判若ハ豫審ノ處分又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル判事ノ處分ニ因リ中斷ス但シ其ノ手續無效ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル前項ノ處分ニ因ル時效ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百八十六條　時效ハ中斷ノ事由終了シタル時ヨリ更ニ進行ス

第二百八十七條　時效ハ第三百五條第一項第二號ノ規定ニ依リ豫審手續ヲ停止シ又ハ第三百五十二條ノ規定ニ依リ公判手續ヲ停止シタル期間內ハ進行セス

第二百八十八條　公訴ノ提起ハ豫審又ハ公判ヲ請求スルニ依リテ之ヲ爲ス

第二百八十九條　[illegible]付テハ罰[illegible]調ヲ爲スコトヲ得

第二百九十條　公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

豫審ノ請求ハ急速ヲ要スル場合ニ限リ口頭又ハ電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルトキハ之ヲ調書ニ記載シ豫審判事裁判所書記ト共ニ

署名捺印スヘシ

公判開廷中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ發見シ公判ヲ請求スル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九十一條　公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及罪名ヲ示スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徴表ヲ以テスヘシ

第二百九十二條　公訴ハ豫審終結決定又ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

公訴ノ取消ハ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二百九十三條　檢事事件其ノ所屬裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料スルトキハ書類及證據物ト共ニ其ノ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スヘシ

前項ノ場合ニ於テ被疑者ニ對シ勾留ヲ繼續スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ

第二百九十四條　告訴ニ係ル事件ニ付公訴ヲ提起シ又ハ之ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ告訴人ニ通知スヘシ公訴ヲ取消シ又ハ事件ヲ他ノ裁判所ノ檢事若ハ相當官署ニ送致シタルトキ亦同シ

第三章　豫審

第二百九十五條　豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付スヘキカ否ヲ決スル爲必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ其ノ目的トス

豫審判事ハ公判ニ於テ取調ヘ難シト思料スル事項ニ付亦取調ヲ爲スヘシ

第二百九十六條　豫審ニ於テハ取調ノ祕密ヲ保チ被告人其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第二百九十七條　豫審判事豫審中共犯アルコト又ハ他ノ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス豫審ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

豫審判事前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

第二百九十八條　檢事前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ豫審ヲ請求スヘキモノト思料スルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

豫審判事檢事ヨリ豫審ヲ請求セサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間内ニ豫審ノ請求ナキトキハ前條ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得ス被疑者ヲ勾留シタルトキハ釋放ノ決定ヲ爲シ押收シタル物アルトキハ還付ノ決定ヲ爲スヘシ

第二百九十九條　豫審判事ハ豫審處分ニ付其ノ裁判所ノ豫審判事ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

第三百條　豫審判事ハ被告人ヲ訊問スヘシ

豫審判事ハ被告人ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百一條　豫審判事ハ豫審終結前被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル原由ヲ告知シ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二條　豫審判事公判ニ於テ召喚シ難シト思料スル證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ檢事及辯護人ハ其ノ訊問ニ立會フコトヲ得

第百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百三條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ豫審中何時ニテモ必要トスル處分ヲ豫審判事ニ請求スルコトヲ得

檢事ハ豫審ノ進行ヲ妨ケサル限リ書類及證據物ヲ閲覽スルコトヲ得

辯護人ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閲覽スルコトヲ得

第三百四條　豫審判事ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百五條　豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

一　被告人ノ所在分明ナラサルトキ

二　被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ

前項ノ決定ハ之ヲ送達セス

第三百六條　豫審判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ書類及證據物ヲ檢事ニ送付シテ其ノ意見ヲ求ムヘシ

第三百七條　檢事豫審判事ノ取調十分ナラスト思料スルトキハ事項ヲ指示シテ取調ヲ請求スルコトヲ得

豫審判事檢事ノ請求ニ應シタルトキハ更ニ其ノ取調ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ請求ニ應セサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三百八條　檢事前二條ノ規定ニ依リ書類及證據物ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ意見ヲ付シテ之ヲ豫審判事ニ還付スヘシ

第三百九條　被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百十條　豫審判事ハ其ノ所屬裁判所ノ管内ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十一條　豫審判事ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十二條　公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ被告事件ヲ公判ニ付スル言渡ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ

第三百十三條　被告事件罪ト爲ラス又ハ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百十四條　左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　確定判決ヲ經タルトキ

二　犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三　大赦アリタルトキ

四　時效完成シタルトキ

五　法令ニ於テ刑ヲ免除スルトキ

第三百十五條　左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ

二　第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

三　公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ

四　公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ

五　告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

六　公訴ノ取消アリタルトキ

七　被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ

八　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

九　公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無效ナルトキ

第三百十六條　第三百九條及第三百十三條乃至前條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十七條　免訴ノ決定確定シタルトキハ左ノ場合ニ限リ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得

一　新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキ

二　決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ決定ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對スル公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ決定ヲ爲シタル豫審判事其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

第三百十八條　免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ豫審判事ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ

亦同シ

第三百十九條　免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付押收物アルトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス但シ必要アル場合ニ於テハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第四章　公判

第一節　公判準備

第三百二十條　裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ

第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ

第三百二十一條　第一回ノ公判期日ト被告人ニ對スル召喚狀ノ送達トノ間ニハ少クトモ三日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

被告人異議ナキトキハ前項ノ猶豫期間ヲ存セサルコトヲ得

第三百二十二條　裁判長ハ公判期日ヲ變更スルコトヲ得

公判期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

第三百二十三條　裁判所ハ第一回ノ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前被告人ノ訊問ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

檢事及辯護人ハ前項ノ訊問ニ立會フコトヲ得

訊問ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ之ヲ檢事及辯護人ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二十四條　裁判所ハ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前證據物若ハ證據書類ノ提出ヲ命シ又ハ證人、鑑定人、通事若ハ翻譯人ニ對シ召喚狀ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ召喚狀ヲ發シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ

檢事、被告人又ハ辯護人ハ第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ爲スヘシ

第三百二十五條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ公判期日前證據物又ハ證據書類ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ得

第三百二十六條　裁判所ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ公判期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ公判期日前之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十七條　裁判所ハ公判期日前鑑定若ハ翻譯ヲ爲サシメ又ハ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲スコトヲ得

第三百二十八條　裁判所ハ公判期日前公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二節　公判手續

第三百二十九條　公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲スヘシ

公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク

第三百三十條　被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外開廷スルコトヲ得ス

第三百三十一條　罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人ハ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得但シ裁判所ハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第三百三十二條　被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但シ之ニ看守者ヲ附スルコトヲ得

第三百三十三條　被告人ハ裁判長ノ許可アルニ非サレハ退廷スルコトヲ得ス

裁判長ハ被告人ヲシテ在廷セシムル爲相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百三十四條　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ辯護人ナクシテ開廷スルコトヲ得ス但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

第三百三十五條　左ノ場合ニ於テ辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スルコトヲ得

一　被告人二十歲未滿又ハ七十歲以上ナルトキ

二　被告人婦女ナルトキ

三　被告人聾者又ハ啞者ナルトキ

四　被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルトキ

五　其ノ他必要ト認ムルトキ

第三百三十六條　事實ノ認定ハ證據ニ依ル

第三百三十七條　證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

第三百三十八條　被告人訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

檢事又ハ辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

被告人ハ必要トスル事項ニ付共同被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ請求スルコトヲ得

第三百三十九條　裁判長ハ證人其ノ他ノ者被告人又ハ或傍聽人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキハ其ノ供述中之ヲ退廷セシムルコトヲ得被告人他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ被告人ヲ退廷セシメタル場合ニ於テ共同被告人、證人其ノ他ノ者ノ供述終リタルトキハ被告人ヲ入廷セシメ供述ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十條　證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

單ニ風說又ハ素行ヲ記載シタル書類ニシテ人ノ名譽ヲ毀損スル虞アルモノハ之ヲ朗讀スルコトヲ得ス

前項ノ書[illegible]ヲ解セサ[illegible]

第三百四十一條　證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ

證據物中[illegible]ハ被告人[illegible]告クヘシ

第三百四十二條[illegible]提出シタ[illegible]テ之ヲ取[illegible]百二十八[illegible]タルモノ[illegible]ナキモノ[illegible]得

第三百四十三條　被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　供述者死亡シタルトキ

二　疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト能ハサルトキ

三　訴訟關係人異議ナキトキ

區裁判所[illegible]限ニ依ル[illegible]

第三百四十四條[illegible]ヲ以テ之[illegible]新期日ノ[illegible]ル證據調[illegible]

第三百四十五條[illegible]十三條ノ[illegible]ノ要旨ヲ[illegible]

前項ノ陳[illegible]據調ヲ爲[illegible]

第三百四十六條[illegible]シタルト[illegible]リ他ノ證[illegible]

第三百四十七條[illegible]調ヲ終ヘ[illegible]

問フヘシ

裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告クヘシ

第三百四十八條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ裁判長ノ處分ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ前項ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘシ

第三百四十九條　證據調終リタル後檢事ハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第三百五十條　裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得

第三百五十一條　裁判所ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ部員ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

檢事及辯護人ハ前項ノ取調ニ立會フコトヲ得

受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第三百五十二條　被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ノ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ但シ無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ事由明白ナル場合ニ於テハ被告人ノ出頭ヲ待タス直ニ其ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

被告人疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出頭スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三百三十一條ノ規定ニ依リ代理人ヲシテ出頭セシメタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第三百五十三條　開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

第三百五十四條　開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三節　公判ノ裁判

第三百五十五條　被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百五十六條　地方裁判所ハ其ノ管內ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス但シ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル區裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第三百五十七條　裁判所ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

管轄違ノ申立ハ被告事件ニ付供述ヲ爲シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

管轄違ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百五十八條　被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ第三百五十九條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ

刑ノ執行猶豫ハ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百五十九條　被告事件ニ付刑ヲ免除スルトキハ判決ヲ以テ其ノ旨ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十條　有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

第三百六十一條　區裁判所ニ在リテハ上訴ノ申立ナキ場合又ハ判決宣告ノ日ヨリ七日內ニ判決書ノ謄本ノ請求ナキ場合ニ於テ判決主文竝罪ト爲ルヘキ事實ノ要旨及適用シタル罰條ヲ公判調書ニ記載セシメ之ヲ以テ判決書ニ代フルコトヲ得

第三百六十二條　被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十三條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　確定判決ヲ經タルトキ

二　犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三　大赦アリタルトキ

四　時效完成シタルトキ

第三百六十四條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ

二　第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

三　公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ

四　公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ

五　告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

六　公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無效ナルトキ

第三百六十五條　左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　公訴ノ取消アリタルトキ

二　被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ

三　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百六十六條　被告人陳述ヲ肯セス、許可ヲ受ケスシテ退廷シ又ハ秩序維持ノ爲裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十七條　罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十八條　辯論終結ノ後ハ被告人出頭セスト雖宣告ニ依リ判決ヲ告知ス

第三百六十九條　有罪ノ判決ヲ告知スル場合ニハ被告人ニ對シ上訴期間及上訴申立書ヲ差出スヘキ裁判所ヲ告知スヘシ

第三百七十條　裁判長ハ判決ノ告知ヲ爲シタル後被告人ニ對シ將來ヲ戒ムル爲適當ナル訓諭ヲ爲スコトヲ得

第三百七十一條　無罪、免訴、刑ノ免除、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違、罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百七十二條　押收シタル物ニ付沒收ノ言渡ナキトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百七十三條　押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルモノハ之ヲ被害者ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ

贓物ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ交付ノ請求アリタルトキハ前項ノ例ニ依ル

假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ナキトキハ還付ノ言渡アリタルモノトス

前三項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第三百七十四條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル區裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十五條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三編　上訴

第一章　通則

第三百七十六條　上訴ハ檢事又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十七條　檢事又ハ被告人ニ非サル者ニシテ決定ヲ受ケタルモノハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十八條　被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

第三百七十九條　原審ニ於ケル代理人又ハ辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第三百八十條　上訴ハ裁判ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ部分ヲ限ラサルトキハ裁判ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス

第三百八十一條　上訴ノ提起期間ハ裁判告知ノ日ヨリ進行ス

第三百八十二條　檢事、被告人又ハ第三百七十七條ニ規定スル者ハ上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第三百七十八條ニ規定スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十三條　第三百七十八條ニ規定スル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第三百八十四條　上訴拋棄ノ申立ハ原裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

上訴取下ノ申立ハ上訴裁判所ニ之ヲ爲スヘシ訴訟記錄ヲ上訴裁判所又ハ上訴裁判所檢事ニ送付スル前上訴ノ取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ原裁判所ニ差出スコトヲ得

第三百八十五條　上訴ノ拋棄又ハ取下ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ申立ヲ調書ニ記載スヘシ

第三百八十六條　上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ其ノ事件ニ付更ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十七條　第三百七十六條乃至第三百七十九條ノ規定ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル者自己又ハ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ上訴ノ提起期間內ニ上訴ヲ爲スコト能ハサリシトキハ原裁判所ニ上訴權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三百八十八條　上訴權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル日ヨリ上訴ノ提起期間ニ相當スル期間內ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

上訴權回復ノ原由タル事實ハ之ヲ疏明スヘシ

上訴權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原裁判所ニ上訴ノ申立書ヲ差出スヘシ

第三百八十九條　原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ上訴權回復ノ請求ヲ許スヘキカ否ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十條　上訴權回復ノ請求アリタルトキハ原裁判所ハ前條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

第三百九十一條　監獄ニ在ル被告人上訴ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ヲ經由シテ申立書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ上訴ノ提起期間內ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ニ差出シタルトキハ上訴ノ提起期間內ニ上訴ヲ爲シタルモノト看做ス

被告人自ラ申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ之ヲ代書シ又ハ所屬吏員ヲシテ之ヲ代書セシムヘシ

監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ原裁判所ニ申立書ヲ送付シ且之ヲ受取リタル年月日時ヲ通知スヘシ

第三百九十二條　前條ノ規定ハ監獄ニ在ル被告人上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三百九十三條　上訴、上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求アリタルトキハ裁判所書記ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知スヘシ

第二章　控訴

第三百九十四條　控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十五條　控訴ノ提起期間ハ七日トス

第三百九十六條　控訴ヲ爲スニハ申立書ヲ第一審裁判所ニ差出スヘシ

第三百九十七條　控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ第一審裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十八條　前條ノ場合ヲ除クノ外第一審裁判所ハ訴訟記錄及證據物ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ控訴裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

控訴裁判所ノ檢事ハ訴訟記錄及證據物ヲ其ノ裁判所ニ送付スヘシ

被告人監獄ニ在ルトキハ第一審裁判所ノ檢事ハ被告人ヲ控訴裁判所所在地ノ監獄ニ移スヘシ

第三百九十九條　控訴裁判所ノ檢事ハ辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

第四百條　控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘシ

第四百一條　控訴裁判所ハ前條及第四百二條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第一審裁判所不法ニ管轄ヲ認メタル場合ニ於テ控訴裁判所其ノ事件ニ付第一審ノ管轄權ヲ有スルトキハ第一審ノ判決ヲ爲スヘシ

第四百二條　第一審裁判所不法ニ管轄違ヲ言渡シ又ハ公訴ヲ棄却シタルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘシ

第四百三條　被告人控訴ヲ爲シ又ハ被告人ノ爲控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百四條　被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ更ニ期日ヲ定ムヘシ被告人正當ノ理由ナクシテ其ノ期日ニ出頭セサルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百五條　控訴裁判所ハ判決書ニ第一審判決ニ示シタル事實及證據ヲ引用スルコトヲ得

第四百六條　第三百六十五條ノ規定ニ該當スル事件ニ付第一審裁判所公訴ヲ棄却セサリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百七條　第二編第三章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外控訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第三章　上告

第四百八條　上告ハ第二審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百九條　第四百十二條乃至第四百十五條ニ規定スル場合ヲ除クノ外法令ノ違反ヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百十條　左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一　法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

二　職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ判事審判ニ關與シタルトキ

三　判事偏頗ノ虞アリトシテ忌避セラレ其ノ忌避ノ申立理由アリト認メラレタルニ拘ラス審判ニ關與シタルトキ

四　審理ニ關與セサリシ判事判決ニ關與シタルトキ

五　不法ニ管轄又ハ管轄違ヲ認メタルトキ

六　不法ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ

七　審判ノ公開ニ關スル規定ニ違反シタル

トキ

八　別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被告人出頭スルコトナクシテ審判ヲ爲シタルトキ

九　公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ

十　法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル事件ニ付辯護人出頭スルコトナクシテ審理ヲ爲シタルトキ

十一　不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタルトキ

十二　檢事ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタルトキ

十三　法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシトキ

十四　公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササリシトキ

十五　公判ニ於テ爲シタル異議ノ申立ニ付決定ヲ爲ササリシトキ

十六　法律ニ依リ公判手續ヲ停止シ又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ更新セサリシトキ

十七　被告人又ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘサリシトキ

十八　審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又ハ審判ノ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ

十九　判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

二十　判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルトキ

二十一　判決書ニ判事ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ

第四百十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

第四百十二條　刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十三條　再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ該ル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十四條　重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十五條　判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十六條　左ノ場合ニ於テハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　判決ニ依リ定リタル被告事件ノ事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

二　判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トスルトキ

第四百十七條　第一審ノ判決ニ對スル上告ハ控訴ノ申立アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ取下又ハ控訴棄却ノ裁判アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百十八條　上告ノ提起期間ハ五日トス

第四百十九條　上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外原裁判所ハ訴訟記錄ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

上告裁判所ノ檢事ハ訴訟記錄ヲ其ノ裁判所ニ送付スヘシ

第四百二十二條　上告裁判所ハ遲クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ五十日前ニ其ノ期日ヲ上告申立人及對手人ニ通知スヘシ

最初ニ公判期日ヲ定ムル前辯護人ノ選任アリタルトキハ前項ノ通知ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

第四百二十三條　上告申立人ハ遲クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前ニ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十四條　上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

附帶上告ハ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四百二十五條　上告趣意書ニハ上告ノ理由ヲ明示スヘシ

訴訟手續ノ法令ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ

第四百十二條及第四百十四條ノ場合ニ於テハ訴訟記錄及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現ハレサル事實ヲ援用スルコトヲ得ス

第四百十三條ノ場合ニ於テハ事實ヲ表示シ其ノ證據ヲ差出スヘシ

第四百二十六條　上告裁判所上告趣意書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ對手人ニ送達スヘシ

第四百二十七條　上告申立人期間内ニ上告趣意書ヲ差出ササルトキハ上告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百二十八條　上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ答辯書ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得

檢事對手人ナルトキハ重要ト認ムル上告ノ理由ニ付答辯書ヲ差出スヘシ

上告裁判所答辯書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ上告申立人ニ送達スヘシ上告申立人辯護人ヲ選任シタルトキハ其ノ送達ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

第四百二十九條　裁判長ハ部員ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ檢閲シテ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得

第四百三十條　上告審ニ於テハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得ス

第四百三十一條　上告審ニ於テハ被告人ノ爲ニスル辯論ハ辯護人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ第四百四十四條第一項ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百三十二條　公判期日ニハ受命判事ハ辯論前報告書ヲ朗讀スヘシ

檢事及辯護人ハ上告趣意書ニ基キ辯論ヲ爲スヘシ

第四百三十三條　辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ法律ニ依リ辯護人ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除クノ外檢事ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十四條　上告裁判所ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限リ調査ヲ爲スヘシ

裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及判決ニ依リ定リタル事實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ

第二審判決ニ對スル上告事件ニ於テハ第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ニ付職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條　上告裁判所ハ裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續竝第四百十三條ニ規定スル事由ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四百三十六條　第一審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ第四百三十四條第一項及第二項ノ調査ヲ爲シタルトキハ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十七條　第二審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ先ツ上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反及第四百十五條ニ規定スル事由ニ付

調査ヲ爲スヘシ

第四百三十八條　不法ニ管轄若ハ管轄違ヲ認メ又ハ公訴ヲ受理シ若ハ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキ場合ニ於テハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十九條　事實ノ確定ニ影響ヲ及ホササル法令ノ違反又ハ判決アリタル後刑ノ廢止若ハ大赦アリタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀シ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ第四百十三條又ハ第四百十四條ニ規定スル事由ニ因ル檢事ノ上告ナキトキハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十條　事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキ法令ノ違反ヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十一條　前三條ノ場合ヲ除クノ外上告裁判所ハ第四百三十七條ノ調査ヲ終ヘタル後第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ヲ調査スヘシ

第四百四十二條　上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ナキコト明白ナリト認ムルトキハ其ノ點ニ付辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百四十三條　上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十四條　上告裁判所事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡シタルトキハ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲スヘシ

公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスル事項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四百四十五條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百四十六條　上告理由ナキトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百四十七條　上告理由アルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百四十八條　前條ノ規定ニ依リ原判決ヲ破毀スルトキハ第四百四十九條及第四百五十條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十九條　不法ニ管轄違ヲ言渡シ又ハ公訴ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ原裁判所ニ差戻スヘシ但シ必要アルトキハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

第四百五十條　不法ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄控訴裁判所又ハ管轄第一審裁判所ニ移送スヘシ

第四百五十一條　被告人ノ利益ノ爲ニ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ破毀ノ理由上告ヲ爲シタル共同被告人ニ共通ナルトキハ其ノ共同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百五十二條　被告人上告ヲ爲シ又ハ被告人ノ爲ニ上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百五十三條　判決書ニハ上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ヲ記載スヘシ

第四百五十四條　原裁判所不法ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲ササリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

第四百五十五條　第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告ノ審判ニ付之ヲ準用シ第四百四十四條ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ニ於テハ尚本編第二章ノ規定ヲ準用ス

第四章　抗告

第四百五十六條　抗告ハ特ニ卽時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ノ外裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百五十七條　裁判所ノ管轄又ハ訴訟手續ニ關シ判決前ニ爲シタル決定ニ對シテハ特ニ卽時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ヲ除クノ外抗告ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ勾留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル決定及鑑定ノ爲ニスル被告人ノ留置ニ關スル決定ニ付之ヲ適用セス

第四百五十八條　抗告ハ卽時抗告ヲ除クノ外何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ原決定ヲ取消スモ實益ナキニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百五十九條　卽時抗告ノ提起期間ハ三日トス

第四百六十條　抗告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

原裁判所抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ更正スヘシ抗告ノ全部又ハ一部ヲ理由ナシトスルトキハ申立書ヲ受取リタル日ヨリ三日内ニ意見書ヲ附シテ之ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

第四百六十一條　抗告ハ卽時抗告ヲ除クノ外裁判ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ抗告ノ裁判アルマテ執行ヲ停止スルコトヲ得

抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ裁判ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百六十二條　卽時抗告ノ提起期間内及其ノ申立アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス

第四百六十三條　原裁判所必要ト認ムルトキハ訴訟記錄及證據物ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

抗告裁判所ハ訴訟記錄及證據物ノ送付ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十四條　抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百六十五條　抗告裁判所ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ事實ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四百六十六條　抗告ノ手續其ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ抗告理由ナキトキハ抗告ヲ棄却スヘシ

抗告理由アルトキハ原決定ヲ取消シ必要アル場合ニ於テハ更ニ裁判ヲ爲スヘシ

第四百六十七條　抗告裁判所ノ決定ハ之ヲ原裁判所ニ通知スヘシ

第四百六十八條　第四百六十三條及前條ノ規定ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付之ヲ準用ス

第四百六十九條　抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ揭クル抗告ニ付テノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

一　公判ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル抗告

二　控訴ノ申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

三　再審ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

四　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル決定ニ對スル抗告

五　裁判ノ疑義又ハ刑ノ執行ノ異議ニ付テノ決定ニ對スル抗告

六　證人、鑑定人、通事、翻譯人其ノ他ノ者ノ受ケタル決定ニ對スル抗告

第四百七十條　裁判長、受命判事又ハ豫審判事左ニ揭クル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ不服アル者ハ判事所屬ノ裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

一　忌避ノ申立ヲ却下スル裁判

二　勾留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル裁判

三　鑑定ノ爲被告人ノ留置ヲ命スル裁判

四　證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對シテ過料又ハ費用ノ賠償ヲ命スル裁判

區裁判所判事前項第一號ノ裁判ヲ爲シ又ハ受託判事トシテ前項第二號乃至第四號ノ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ハ其ノ裁判アリタル日ヨリ三日内ニ之ヲ爲

スヘシ

前項ノ請求期間内及其ノ請求アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス

第四百七十一條　檢事ノ爲シタル勾留、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ檢事所屬ノ裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

司法警察官ノ爲シタル押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ司法警察官ノ職務執行地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十二條　前二條ニ規定スル請求ヲ爲スニハ請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百七十三條　第四百六十一條、第四百六十三條、第四百六十四條、第四百六十六條及第四百六十七條ノ規定ハ第四百七十條又ハ第四百七十一條ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十四條　第四百七十條及第四百七十一條ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得但シ第四百七十條第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四編　大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

第四百七十五條　裁判所構成法第五十條第二號ニ揭クル大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付テハ檢事總長搜査ヲ爲スヘシ

第四百七十六條　控訴院、地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付搜査ヲ爲スヘシ

第四百七十七條　第二百四十七條、第二百四十八條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察官ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付搜査ヲ爲スヘシ

第二百四十九條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察吏ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ搜査ノ補助ヲ爲スヘシ

第四百七十八條　檢事又ハ司法警察官大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ直ニ檢事總長ニ報告スヘシ急速ヲ要スル場合ニ於テハ報告前搜査ニ付必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四百七十九條　檢事總長搜査ヲ爲シタル後大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ豫審ヲ請求スヘシ

第四百八十條　檢事總長ハ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ト牽連スル他ノ事件ニ付併セテ豫審ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十一條　大審院ハ檢事總長ノ請求ニ因リ前條ノ規定ニ依リ豫審ヲ請求シタル事件ヲ管轄地方裁判所ノ豫審判事ニ移送スルコトヲ得

第四百八十二條　大審院長ヨリ豫審ヲ命セラレタル判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ意見書ヲ添ヘ書類及證據物ヲ大審院ニ送付スヘシ

第四百八十三條　大審院ハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ左ノ區別ニ從ヒ決定ヲ爲スヘシ

一　被告事件公判ニ付スヘキモノト認ムルトキハ公判ヲ開始スル決定

二　被告事件下級裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認ムルトキハ管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ移送スル決定

三　被告事件前二號ノ規定ニ該當セサル場合ニ於テハ第三百十三條乃至第三百十五條ノ規定ニ準シ免訴シ又ハ公訴ヲ棄却スル決定

第四百八十四條　第二編ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ付之ヲ準用ス

第五編　再審

第四百八十五條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得

一　原判決ノ憑據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ僞造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ

二　原判決ノ憑據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ飜譯確定判決ニ因リ虛僞ナリシコト證明セラレタルトキ

三　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル

四　原判決ノ憑據ト爲リタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定裁判ニ因リ變更セラレタルトキ

五　特許權、實用新案權、意匠權又ハ商標權ヲ害シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付其ノ權利ノ無效ノ審決確定シタルトキ又ハ無效ノ判決アリタルトキ

六　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ヲ言渡シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

七　原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル裁判所其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

第四百八十六條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、刑ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付刑ノ免除ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決又ハ不法ニ公訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　前條第一號、第二號、第四號又ハ第七號ニ規定スル原由アルトキ

二　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル者無罪又ハ相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ受ケタル後裁判上又ハ裁判外ニ於テ其ノ事實ヲ陳述シタルトキ

三　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル者刑ノ免除若ハ免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ受ケタル後裁判上又ハ裁判外ニ於テ其ノ原由ナカリシコトヲ陳述シタルトキ

第四百八十七條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ控訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二　原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

第一審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ控訴棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十八條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　第四百三十五條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二　原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

第一審又ハ第二審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ上告棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十九條　第四百八十五條乃至前條ノ規定ニ從ヒ確定判決ニ因リ犯罪ノ證明セラレタルコトヲ再審ノ原由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ證據ナキノ理由ニ因リ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百九十條　再審ノ請求ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外原判決ヲ爲シタル裁判所之ヲ管轄ス

第四百九十一條　判決ノ一部第二審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ控訴裁判所之ヲ管轄ス

判決ノ一部上告審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審又ハ第二審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ上告裁判所之ヲ管轄ス

第四百九十二條　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ左ニ揭クル者之ヲ爲スコトヲ得

一　管轄裁判所ノ檢事

二　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者

三　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人及夫

四　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在ル場合ニ於テハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族及兄弟姉妹

第四百八十五條第七號、第四百八十七條第二號又ハ第四百八十八條第二號ニ規定スル原由ニ因ル再審ノ請求ニシテ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスルモノハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ行爲罪ヲ犯スニ至ラシメタル場合ニ於テハ檢事ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ管轄裁判所ノ檢事之ヲ爲スコトヲ得第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第四百九十三條　檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル辯護人ノ選任ハ再審ノ判決アル迄其ノ效力ヲ有ス

第四百九十四條　再審ノ請求ハ刑ノ執行終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルトキト雖之ヲ爲スコトヲ得

第四百九十五條　第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ判決確定後公訴ノ時效期間ニ相當スル期間ヲ經過シタル後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第四百九十六條　再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ管轄裁判所ノ檢事ハ再審ノ請求ニ付テノ決定アル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百九十七條　再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本、證據書類及證據物ヲ添ヘ之ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百九十八條　再審ノ請求ハ之ヲ取下クルコトヲ得

再審ノ請求ヲ取下ケタル者ハ同一ノ原由ニ因リ更ニ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百九十九條　第三百八十五條、第三百九十一條及第三百九十三條ノ規定ハ再審ノ請求又ハ其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第五百條　第四百九十一條第一項ノ場合ニ於テ第一審裁判所控訴裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ控訴裁判所ニ送致スヘシ

第四百九十一條第二項ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所上告裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ上告裁判所ニ送致スヘシ

第五百一條　第一審ノ確定判決ト控訴ヲ棄却シタル確定判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ

第五百二條　第一審又ハ第二審ノ確定判決ト上告ヲ棄却シタル判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ

第五百三條　再審ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ再審ノ原由ニ付事實ノ取調ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ其ノ取調ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第五百四條　再審ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第五百五條　再審ノ請求ヲ理由ナシトスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

前項ノ決定アリタルトキハ同一ノ原由ニ因リ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六條　再審ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ再審開始ノ決定ヲ爲スヘシ

再審開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定ヲ以テ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第五百七條　第五百一條ノ場合ニ於テ第一審裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第五百八條　第五百二條ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第五百九條　再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス場合ニ於テハ請求ヲ爲シタル者及其ノ對手人ノ意見ヲ聽クヘシ第四百九十二條第一項第三號ニ揭クル者請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ尚有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ意見ヲ聽クヘシ

第五百十條　第五百四條、第五百五條、第五百六條第一項、第五百七條又ハ第五百八條ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百十一條　裁判所ハ再審開始ノ決定確定シタル事件ニ付テハ第五百條、第五百七條及第五百八條ノ場合ヲ除クノ外其ノ審級ニ從ヒ更ニ審判ヲ爲スヘシ

第五百十二條　死亡者又ハ回復ノ見込ナキ心神喪失者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ公判ヲ開カス檢事及辯護人ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ再審ノ請求ヲ爲シタル者辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在リテ回復ノ見込ナキニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條ノ規定ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ辯護人ヲ附スル場合ニ之ヲ準用ス

第五百十三條　第四百八十六條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第五百十四條　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第五百十五條　有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキハ官報及新聞紙ニ揭載シテ其ノ判決ヲ公示スヘシ

第六編　非常上告

第五百十六條　判決確定後其ノ事件ノ審判法令ニ違反シタルコトヲ發見シタルトキハ檢事總長ハ大審院ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條　非常上告ヲ爲スニハ其ノ理由ヲ記載シタル申立書ヲ大審院ニ差出スヘシ

第五百十八條　公判期日ニハ檢事ハ申立書ニ基キ陳述ヲ爲スヘシ

第五百十九條　非常上告ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第五百二十條　非常上告ヲ理由アリトスルトキハ左ノ區別ニ從ヒ判決ヲ爲スヘシ

一　原判決法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル部分ヲ破毀ス但シ原判決被告人ノ爲不利益ナルトキハ之ヲ破毀シ被告事

件ニ付判決ヲ爲ス

二　訴訟手續法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル手續ヲ破毀ス

第五百二十一條　非常上告ノ判決ハ前條第一號但書ノ規定ニ依リ爲シタルモノヲ除クノ外其ノ效力ヲ被告人ニ及ホサス

第五百二十二條　第四百三十四條第一項及第四百三十五條ノ規定ハ非常上告ニ付之ヲ準用ス

第七編　略式手續

第五百二十三條　區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公判前略式命令ヲ以テ罰金又ハ科料ヲ科スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ沒收ヲ科シ其ノ他附隨ノ處分ヲ爲スコトヲ得

略式命令ハ被告人ニ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲ス

裁判所書記本人ニ謄本ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第五百二十四條　略式命令ノ請求ハ公訴ノ提起ト同時ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五百二十五條　前條ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件略式命令ヲ爲スコトヲ得ス又ハ之ヲ爲スコトヲ相當ナラスト思料スルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ

第五百二十六條　裁判書ニハ罪ト爲ルヘキ事實、適用シタル法令、科スヘキ刑及附隨ノ處分竝謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日內ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ示スヘシ

第五百二十七條　略式命令ヲ爲シタルトキハ檢事ニ裁判書ノ謄本ヲ送達スヘシ

第五百二十八條　略式命令ヲ受ケタル者ハ謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日內ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得

正式裁判ノ請求ハ略式命令ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ正式裁判ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

第五百二十九條　第三百八十七條乃至第三百九十條ノ規定ハ正式裁判ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第五百三十條　正式裁判ノ請求ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

第五百三十一條　正式裁判ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

正式裁判ノ請求ヲ適法トスルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ略式命令ニ拘束セラルルコトナシ

第五百三十二條　正式裁判ノ請求ニ因リ判決ヲ爲シタルトキハ略式命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第五百三十三條　略式命令ハ正式裁判ノ請求期間ノ經過又ハ其ノ請求ノ取下ニ因リ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ス正式裁判ノ請求ヲ棄却スル裁判確定シタルトキ亦同シ

第八編　裁判ノ執行

第五百三十四條　裁判ハ確定シタル後之ヲ執行ス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五百三十五條　裁判ノ執行ハ其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス但シ其ノ性質上裁判所又ハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事ノ爲スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

上訴ノ裁判又ハ上訴ノ取下ニ因リ下級裁判所ノ裁判ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ上訴裁判所ノ檢事其ノ執行ヲ指揮ス但シ訴訟記錄下級裁判所ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス

第五百三十六條　裁判執行ノ指揮ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ之ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ但シ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ヲ除クノ外裁判書ノ原本、謄本若ハ抄本又ハ調書ノ謄本若ハ抄本ニ認印シテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百三十七條　二以上ノ主刑ノ執行ハ罰金及科料ヲ除クノ外其ノ重キモノヲ先ニス但シ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百三十八條　死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命令ニ依ル

第五百三十九條　死刑ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ檢事ハ速ニ訴訟記錄ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第五百四十條　司法大臣死刑ノ執行ヲ命シタルトキハ五日內ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ

第五百四十一條　死刑ノ執行ハ檢事及裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲スヘシ

檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ニ非サレハ刑場ニ入ルコトヲ得ス

第五百四十二條　死刑ノ執行ニ立會ヒタル裁判所書記ハ執行始末書ヲ作リ檢事及監獄ノ長ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

第五百四十三條　死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス

前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ痊癒又ハ分娩ノ後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百四十四條　懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第五百四十五條　前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ檢事ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ監護義務者又ハ市町村長ニ引渡シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムルコトヲ得

刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ留置シ其ノ期間ヲ刑期ニ算入ス

第五百四十六條　懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付左ニ揭クル事由アルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一　刑ノ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スルトキ又ハ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ
二　七十歲以上ナルトキ
三　受胎後百五十日以上ナルトキ
四　分娩後六十日ヲ經過セサルトキ
五　刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不利益ヲ生スル虞アルトキ
六　祖父母又ハ父母七十歲以上又ハ癈篤疾ニシテ侍養ノ子孫ナキトキ
七　其ノ他重大ナル事由アルトキ

第五百四十七條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者拘禁中ニ非サルトキハ檢事ハ執行ノ爲之ヲ召喚スヘシ召喚ニ應セサルトキハ逮捕狀ヲ發スヘシ

第五百四十八條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキハ檢事ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ發セシムルコトヲ得

第五百四十九條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ檢事ハ檢事長ニ人相書ヲ送付シ其ノ逮捕ヲ請求スルコトヲ得

請求ヲ受ケタル檢事長ハ其ノ管內ノ檢事ヲシテ逮捕狀ヲ發シ逮捕ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第五百五十條　逮捕狀ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ氏名、住居、年齡、刑名、刑期其ノ他逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢事又ハ司法警察官之ニ記名捺印スヘシ

必要アル場合ニ於テハ逮捕狀ニ人相書ヲ添附スヘシ

第五百五十一條　逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百五十二條　逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百五十三條　罰金、科料、沒收、追徵、過料、沒取、訴訟費用又ハ費用賠償ノ裁判ハ檢事ノ命令ニ因リ之ヲ執行ス此ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ裁判ノ執行ニ付テハ民事訴訟法ヲ準

用シ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第五百五十四條　沒收又ハ租稅其ノ他ノ公課若ハ專賣ニ關スル法令ノ規定ニ依リ言渡シタル罰金若ハ追徵ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者判決確定後死亡シタル場合ニ於テハ相續財產ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ死亡ニ非サル事由ニ因リ相續開始シタルトキハ罰金、沒收又ハ追徵ハ相續財產ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

第五百五十五條　法人ニ對シ罰金、科料、沒收又ハ追徵ヲ言渡シタル場合ニ於テ其ノ判決確定後合併ニ因リ法人消滅シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ニ對シテ執行ヲ爲スコトヲ得

第五百五十六條　上訴申立後ノ未決勾留ノ日數ハ左ノ例ニ依リ之ヲ本刑ニ通算ス

一　檢事ノ上訴ナルトキハ勾留日數ノ全部
二　檢事ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ勾留日數ノ全部

前項ノ規定ニ依ル通算ニ付テハ未決勾留一日ヲ刑期ノ一日又ハ金額ノ一圓ニ折算ス

上告裁判所原判決ヲ破毀シタル後ノ未決勾留ハ上告中ノ未決勾留日數ニ準シ之ヲ通算ス

第五百五十七條　沒收物ハ檢事之ヲ處分スヘシ

第五百五十八條　沒收ノ執行後三月內ニ權利ヲ有スル者ヨリ沒收物ノ交付ヲ請求シタルトキハ檢事ハ破壞又ハ廢棄スヘキ物ヲ除クノ外之ヲ交付スヘシ

沒收物ヲ處分シタル後前項ノ請求アリタル場合ニ於テハ檢事ハ公賣ニ因リテ得タル代價ヲ交付スヘシ

第五百五十九條　僞造又ハ變造ニ係ル物ヲ返還スル場合ニ於テハ僞造又ハ變造ノ部分ヲ其ノ物ニ表示スヘシ

僞造又ハ變造ニ係ル物押收セラレサルトキハ之ヲ提出セシメテ前項ニ規定スル手續ヲ爲スヘシ但シ其ノ物公務所ニ屬スルトキハ僞造又ハ變造ノ部分ヲ公務所ニ通知シテ相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第五百六十條　押收物ノ還付ヲ受クヘキ者ノ所在不明ナル爲又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢事ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

公告ヲ爲シタル時ヨリ六月內ニ還付ノ請求ナキトキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス

前項ノ期間內ト雖價値ナキ物ハ之ヲ廢棄シ保管ニ不便ナル物ハ之ヲ公賣シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第五百六十一條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百六十二條　裁判ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢事ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條　疑義又ハ異議ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

疑義又ハ異議ノ申立ハ決定アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

疑義又ハ異議ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百九十一條ノ規定ハ疑義又ハ異議ノ申立及其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第五百六十四條　疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百六十五條　罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル爲爲シタル勞役場留置ノ執行ニ付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百六十六條　第五百五十三條第一項ノ裁判ノ執行ノ費用ハ執行ヲ受クル者ノ負擔トシ民事訴訟法ニ準シ執行ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ

第九編　私訴

第一章　通則

第五百六十七條　犯罪ニ因リ身體、自由、名譽又ハ財產ヲ害セラレタル者ハ其ノ損害ヲ原因トスル請求ニ付公訴ニ附帶シ公訴ノ被告人ニ對シテ私訴ヲ提起スルコトヲ得

第五百六十八條　私訴ハ公訴ニ付第一審ノ辯論終結スルニ至ル迄之ヲ提起スルコトヲ得但シ豫審中ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五百六十九條　公訴ニ付第三條、第四條、第六條、第七條、第九條第二項、第十條第二項、第二十三條又ハ第三百五十六條但書ノ決定アリタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ決定アリタルモノト看做ス

公訴ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ言渡ヲ爲スヘシ

第五百七十條　私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基キ之ヲ爲スヘシ但シ請求ノ抛棄ニ基キテ爲ス判決ハ此ノ限ニ在ラス

第五百七十一條　私訴ニ關スル書類ニハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス但シ民事部ニ差戾シ又ハ移送シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五百七十二條　民事訴訟法中左ニ揭クル事項ニ關スル規定ハ私訴ニ付之ヲ準用ス但シ卽時抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

一　訴訟能力
二　共同訴訟人
三　第三者ノ訴訟參加
四　訴訟代理及輔佐
五　訴訟費用
六　保證
七　訴訟上ノ救助
八　訴訟手續ノ中斷及中止
九　當事者本人ノ出頭
十　訴訟上ノ和解
十一　請求ノ抛棄ニ基キテ爲ス判決
十二　訴又ハ上訴ノ取下
十三　强制執行

第五百七十三條　當事者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ辯護士ニ非サル者ヲシテ訴訟ノ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百七十四條　辯護人ハ私訴ニ付被告人ノ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第五百七十五條　當事者及其ノ訴訟代理人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且之ヲ謄寫スルコトヲ得

第五百七十六條　私訴ノ判決ニ對スル再審ノ訴ハ民事訴訟法ニ依リ原判決ヲ爲シタル裁判所ノ民事部ニ之ヲ爲スヘシ

第五百七十七條　私訴ニ付テハ審級ニ從ヒ公訴ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民事部ニ差戾シ又ハ移送シタルトキハ民事訴訟法ニ依ル

第二章　第一審

第五百七十八條　私訴ヲ提起スルニハ民事訴訟法ニ準シ訴狀ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第五百七十九條　訴狀其ノ他對手人ニ交付スヘキ書類ハ裁判所ニ差出スモノノ外對手人ノ數ニ應シテ之ヲ差出スヘシ

第五百八十條　裁判所訴狀ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ被告ニ送達スヘシ

第五百八十一條　公訴ノ公判期日ニハ私訴關係人ヲ召喚スヘシ

公判期日ニ出頭シタル被告ニ對シ公判廷ニ於テ訴狀ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第五百八十二條　原告公判期日ニ出頭シ訴狀ヲ差出スコト能ハサル事由ヲ疏明シタルトキハ口頭ヲ以テ私訴ヲ提起スルコトヲ得但シ被告出頭セサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五百八十三條　私訴ノ取調ハ公訴ノ審理ヲ終ヘタル後之ヲ爲スヘシ但シ裁判長ハ公訴ノ審理中ト雖職權ヲ以テ私訴ニ付取調ヲ爲スコトヲ得

第五百八十四條　原告ハ請求ノ原因タル事實ヲ陳述シ判決ヲ受クヘキ事項ヲ申立ツヘシ

被告ハ答辯ヲ爲スヘシ

第五百八十五條　裁判所ハ相當ノ陳述ヲ爲スコト能ハサル當事者、訴訟代理人又ハ輔佐人ニ對シ決定ヲ以テ其ノ後ノ陳述ヲ禁スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムヘキコトヲ命スヘシ

第五百八十六條　公訴ニ付取調ヘタル證據ハ私訴ニ付取調ヘタルモノト看做ス

第五百八十七條　裁判所ハ私訴判決ヲ受クヘ

キ事項ノ申立ノ範圍內ニ於テハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束セラルルコトナシ

第五百八十八條　檢事ハ私訴ノ審判ニ立會フコトヲ要セス

檢事私訴ノ審判ニ立會ヒタル場合ニ於テハ當事者ノ辯論終リタル後意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五百八十九條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス數多ノ日時ヲ費スニ非サレハ私訴ノ審判ヲ終結シ難キモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十條　公訴ニ付無罪、免訴又ハ公訴棄却ノ判決アリタルトキハ判決ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ

公訴ニ付公訴棄却ノ決定アリタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ私訴ヲ却下シタル判決又ハ決定ニ對シテハ公訴ニ付上訴アリタルトキニ非サレハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十一條　略式命令確定判決ト同一ノ效力ヲ有スルニ至リタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十二條　裁判所ハ公訴ノ判決ト同時ニ私訴ノ判決ヲ爲スヘシ

第五百九十三條　當事者召喚ヲ受ケテ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲サス若ハ秩序維持ノ爲退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三章　上訴

第五百九十四條　私訴ニ付區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得

第五百九十五條　公訴ノ第一審判決ニ對シ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル控訴ハ其ノ效力ヲ失フ

前二項ノ規定ハ上告ノ取下アリタルトキ、第四百十七條ノ規定ニ依リ上告其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ第四百二十條、第四百二十七條若ハ第四百四十五條ノ規定ニ依リ上告ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス

第五百九十六條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付控訴ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

控訴ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日內ニ上告ヲ爲スコトヲ得此ノ上告ハ控訴ニ付前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第五百九十七條　左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第二審ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタルトキ

二　法令ノ違反ヲ理由トスルトキ

第五百九十八條　左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタルトキ

二　判決ニ依リ定リタル事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

第五百九十九條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得ス

公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル上告ハ其ノ效力ヲ失フ

前二項ノ規定ハ控訴ノ取下アリタルトキ又ハ控訴ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス

第六百條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付上告ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

上告ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日內ニ控訴ヲ爲スコトヲ得此ノ控訴ハ上告ニ付前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第六百一條　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ私訴ニ付上告ヲ爲シタルトキハ上告趣意書ヲ差出ササルコトヲ得

第六百二條　上告裁判所ニ於ケル辯論ハ辯護士ヨリ選任シタル訴訟代理人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六百三條　當事者訴訟代理人ヲ選任セサルトキ又ハ訴訟代理人出頭セサルトキハ辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第六百四條　第四百四十條又ハ第四百四十三條ノ規定ニ依リ公訴ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ言渡アリタルトキハ私訴ニ付同一ノ言渡アリタルモノト看做ス

第六百五條　第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第六百六條　第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ第六百七條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百七條　前條ノ場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百八條　公訴ニ付原判決ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ私訴ニ付判決ヲ爲スヘシ

一　公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ホスヘキ變更ヲ爲シタルトキ又ハ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ原判決ヲ破毀ス

二　公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ホスヘキ變更ヲ爲サス且私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ上告ヲ棄却ス

第六百九條　前條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ第六百十條ノ場合ヲ除クノ外事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百十條　第六百八條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲私訴ノミニ付事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百十一條　公訴ニ付原判決ヲ破毀シ差戻又ハ移送ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テハ私訴ニ付同一ノ判決ヲ爲スヘシ

第六百十二條　上訴裁判所私訴ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ決定ヲ以テ事件ヲ其ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十三條　本編第二章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス

附　則

第六百十四條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十二年五月勅令第二百十四號ニテ大正十三年一月一日施行）

第六百十五條　明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法及刑事略式手續法ハ之ヲ廢止ス

第六百十六條　本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ妨ケス

本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第六百十七條　本法施行前裁判所構成法第十條第一號ノ規定ニ依リ爲シタル管轄指定ノ申請ハ之ヲ管轄移轉ノ請求ト看做ス

第六百十八條　本法施行前忌避ノ申請ヲ爲シ其ノ原由ノ疏明ヲ爲ササリシ者ハ本法施行ノ日ヨリ三日內ニ之ヲ爲スヘシ

第六百十九條　本法施行前法人ヲ處罰スヘキモノトシテ其ノ代表者ヲ被告人ト爲シタル事件ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ法人ヲ被告人トス

第六百二十條　本法施行前始リタル法定期間ニ付訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ加フヘキ期間ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六百二十一條　本法施行前闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シテハ從前ノ規定ニ依リ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得

第六百二十二條　本法施行前保釋ヲ許ササル言渡ニ對シテ爲シタル異議ノ申立ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲スヘシ

第六百二十三條　第二百六十五條ニ規定スル期間ハ本法施行前犯人ヲ知リ又ハ婚姻ノ無效若ハ取消ノ裁判確定シタル場合ニ於テハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六百二十四條　本法施行前免訴ノ決定確定シタル事件ニ付明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法第百七十五條第二項ノ規定ニ依リ爲シタル請求ニシテ未タ決定ナキモノハ其ノ效力ヲ失フ

第六百二十五條　本法施行前爲シタル本案前ノ判決ニシテ未タ確定セサルモノハ其ノ效力ヲ失フ

第六百二十六條　本法施行前明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法第二百四十一條第二項又ハ同法第二百六十四條第一項ノ規定ニ依リ取調ヲ命セラレタル受命判事ハ事件ニ付第三百五十一條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第六百二十七條　本法施行前言渡シタル闕席判決ニ對シテハ控訴ノ申立アリタル場合ヲ除クノ外從前ノ規定ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

本法施行前闕席判決ニ對シテ爲シタル故障申立ヲ不適法トスルトキハ從前ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲スヘシ

第六百二十八條　本法施行前爲シタル抗告ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル即時抗告ト看做ス

第六百二十九條　本法施行前爲シタル再審ノ訴ニシテ上告裁判所ノ判決ヲ經サルモノハ本法ニ依リ管轄裁判所ニ再審ノ請求ヲ爲シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ書類及證據物ヲ管轄裁判所ニ送付スヘシ

第六百三十條　本法施行前進行ヲ始メタル私訴ノ時效ハ從前ノ規定ニ從フ

第六百三十一條　本法施行前提起シタル要償ノ訴判決ヲ經サルモノナルトキハ民事訴訟法ニ從ヒ事件ヲ管轄スヘキ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百三十二條　本法中市町村吏員ニ關スル規定ハ北海道ノ區ニ於テハ區吏員ニ之ヲ適用ス

本法中市町村長ニ關スル規定ハ市制第六條ノ市又ハ北海道ノ區ニ於テハ區長ニ、町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

第十五輯

學事

第十五輯　學事

第一章　學事

第二款　通則

○薩哈嗹州派遣軍司令部所轄軍政部設置ニ係ル普通學校ノ兒童及卒業者ノ入學轉學ニ關スル件（大正一一、六總令九一）……一
○教育效績者選奬規程（大正一一、八總令一一六）……一
○高等普通學校及女子高等普通學校ノ師範科生徒ニ學資ヲ給與スルノ件（大正一二、四總令六五）……一

第三款　朝鮮教育令

○朝鮮教育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童竝卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規定（大正一二、一文令一）……一
○朝鮮教育令ニ依ル中學校、高等普通學校、師範學校、專門學校ヲ文官任用令ニ依リ認定（大正一二、二文告三四）……一

第四款　小學校　幼稚園

○公立幼稚園保姆ノ資格、俸給等ニ關スル件（大正一一、八總令一一〇）……一

第十款　師範學校

○官立師範學校生徒ノ學資及其ノ支給方法（大正一二、四總告一二一）……二

第四章　私立學校、書堂

○私立學校教員ノ資格及員數ニ關スル規程ニ依リ私立學校ノ教員タル資格ヲ有スル者指定ノ件中改正（大正一一、一一總告二四八）……二

第五章　學校ノ認定、指定及檢定

○セブランス聯合醫學專門學校ヲ醫師規則ニ依リ指定（大正一二、二總告三四）……一一
○明治四十三年勅令第三百九十六號第五條ニ依ル認定學校追加（大正一二、五總告一四五）……一一

第六章　經學院　文廟　學會　講習會

○地方文廟職員ニ關スル件（大正一二、四總令六八）……一一

第七章　在外研究員、留學生及委託生

○在外研究員規程施行細則（大正一一、九總令一三〇）……一一
○中等教員委託生規則中改正（大正一二、四總令六九）……一四

第八章　教科用圖書

○教科用圖書等ノ翻刻及發行ニ關スル件（大正一二、三總告九四）……一四

第九章　時　氣象　民曆

○暴風警報信號所設置（大正一一、七總告一八五）……一四
○同上（大正一一、九總告二二〇）……一四
○同上（大正一二、三總告七八）……一四
○朝鮮民曆ノ製造竝販賣ニ關スル件（大正一二、四總告一二二）……一四
○朝鮮總督府簡易氣象觀測規程ニ依リ簡易氣象觀測ヲ施行スヘキ府郡中改正（大正一二、四總告一四一）……一四

第十章　博物館　展覽會

○朝鮮美術展覽會規程中改正（大正一二、四總告一〇四）……一四
○同上（大正一二、四總告一三一）……一四

改廢表

頁	公布年	法令	番號	件名	備考
一九	四五	文令	一二	他學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ朝鮮公立小學校兒童及卒業者ノ取扱方	大正十二年文告第一號ニ因リ消滅
四一	四五	文令	一三	他學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ朝鮮公立高等女學校生徒及卒業者ノ取扱方	同上
四四	大正二	文告	一	朝鮮總督府中學校生徒及卒業者ノ入學、轉學ニ關スル件	同上
六四	大正一一	文令	一四	他學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ朝鮮公立實業專修學校及朝鮮公立簡易實業專修學校生徒及卒業者ノ取扱方	同上
五三	大正一一	總告	五三	官立師範學校生徒ノ學資及其ノ支給方法	大正十二年總告第百二十一號ニテ廢止
七七	大正二	文告	七四	京城中學校ヲ文官任用令ニ依リ認定	大正十二年文告第三十四號ニ因リ消滅
七七	大正二	文告	一二〇	釜山中學校ヲ文官任用令ニ依リ認定	同上
七七	大正六	文告	四	京城醫學專門學校及京城工業專門學校ヲ文官任用令ニ依リ認定	同上
七七	大正七	文告	二〇八	水原農林專門學校ヲ文官任用令ニ依リ認定	同上
七七	大正九	文告	三一八	平壤中學校ヲ文官任用令ニ依リ認定	同上
七九	四四	總令	一二七	文廟直員ニ關スル件	大正十二年總令第六十八號ニテ廢止
八七	大正一〇	總令	二〇	朝鮮總督府出版教科用圖書發賣規程	大正十二年總令第六十號ニテ廢止
八七	大正一〇	總告	一一	同規程ニ依ル各府郡島ニ於ケル發賣人定員	同上ニ因リ消滅
八七	大正一〇	總告	一二	同規程ニ依ル元賣捌人及發賣人ニ賣渡ス圖書ノ價格	同上
九〇	大正八	總令	五二	朝鮮民曆發賣規程	大正十二年總令第六十六號ニテ廢止

第十五輯　學事

第一章　學事

第二款　通則

●薩哈嗹州派遣軍司令部所轄軍政部設置ニ係ル普通學校ノ兒童及卒業者ノ入學轉學ニ關スル件

大正十一年六月
總令第九十一號

薩哈嗹州派遣軍司令部所轄軍政部設置ニ係ル普通學校ノ兒童及卒業者ノ入學轉學ニ關スル件左ノ通定ム

薩哈嗹州派遣軍司令部所轄軍政部ニ於テ大正十一年薩軍令第十號普通學校規則ニ依リ設置シタル普通學校ノ兒童及卒業者ハ入學轉學ノ關係ニ付普通學校規程ニ依リ設置シタル普通學校ノ相當學年ノ兒童及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

●敎育效績者選奬規程

大正十一年八月
總令第百十六號

敎育效績者選奬規程左ノ通定ム

敎育效績者選奬規程

第一條　師範學校、中學校、高等普通學校、高等女學校、女子高等普通學校、實業學校、小學校、普通學校又ハ盲啞學校ノ學校長又ハ敎員ニシテ其ノ效績顯著ナル者ハ朝鮮總督之ヲ選奬ス

面長、學校組合管理者、學務委員、學校醫、私立ノ學校若ハ幼稚園ノ設立者又ハ書堂開設者等ニシテ敎育ニ關シ效績顯著ナル者ハ朝鮮總督之ヲ選奬スルコトアルヘシ

第二條　前條ノ選奬ハ敎育效績狀ヲ授與シテ之ヲ行ヒ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第三條　選奬ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ敎育效績狀ヲ返納セシメ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ公示ス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
二　破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキ
三　懲戒ニ依リ免官又ハ免職ノ處分ヲ受ケタルトキ
四　私立學校規則第十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ受ケタルトキ
五　不正ノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認メタルトキ

第四條　第一條ノ效績ヲ審査スル爲朝鮮總督府ニ委員ヲ置ク

委員ハ朝鮮總督府官吏ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●高等普通學校及女子高等普通學校ノ師範科生徒ニ學資ヲ給與スルノ件

大正十二年四月
總令第六十五號

高等普通學校及女子高等普通學校ノ師範科生徒ニ學資ヲ給與スルノ件左ノ通定ム

高等普通學校及女子高等普通學校ノ師範科生徒ニハ學資トシテ食費、手當及被服費ヲ支給ス

前項食費、手當及被服費ノ額ハ豫算ノ範圍內ニ於テ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

學資支給ニ關スル細則ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十二年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

師範學校規程附則第二項但書中「學資給與及其ノ」ヲ削ル

第三款　朝鮮敎育令

●朝鮮敎育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童竝卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

大正十二年一月
文令第一號

朝鮮敎育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童竝卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程左ノ通リ定ム

朝鮮敎育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童竝卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程

第一條　朝鮮敎育令ニ依リ設置セル小學校及普通學校ノ兒童竝卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ小學校令ニ依リ設置シタル小學校ノ兒童竝卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク但シ修業年限五年又ハ四年ノ普通學校ノ卒業者ハ此ノ限ニアラス

第二條　朝鮮敎育令ニ依リ設置セル中學校及高等普通學校ノ生徒竝卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ中學校令ニ依リ設置シタル中學校ノ生徒竝卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第三條　朝鮮敎育令ニ依リ設置セル高等女學校及女子高等普通學校ノ生徒竝卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ高等女學校令ニ依リ設置シタル入學資格及修業年限ノ相當スル學校ノ生徒竝卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第四條　朝鮮敎育令ニ依リ設置セル實業學校中實業專門學校、工業學校、農業學校、商業學校、商船學校、水產學校ノ生徒竝卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ實業學校令ニ依リ設置シタル入學資格、修業年限及種類ノ相當スル學校ノ生徒竝卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第五條　朝鮮敎育令ニ依リ設置セル專門學校ノ生徒竝卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ專門學校令ニ依リ設置シタル入學資格、修業年限及種類ノ相當スル學校ノ生徒竝卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第六條　朝鮮敎育令ニ依リ設置セル師範學校ノ演習科ノ生徒竝卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ師範敎育令ニ依リ設置シタル師範學校ノ生徒竝卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

第七條　本令ハ朝鮮敎育令附則ノ規定ニ基キ舊令ニ依ルモノニ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔朝〕

●朝鮮敎育令ニ依ル中學校、高等普通學校、師範學校、專門學校ヲ文官任用令ニ依リ認定

大正十二年二月
文告第三十四號

大正十一年勅令第十九號朝鮮敎育令ニ依ル
中學校
高等普通學校
師範學校
專門學校

右ハ文官任用令第六條第一號ニ依リ認定ス但シ認定ノ效力ハ師範學校特科及講習科、專門學校特科竝舊令ニ依リ卒業スル高等普通學校生ニ及ハス

第四款　小學校　幼稚園

●公立幼稚園保姆ノ資格、俸給ニ關スル件

大正十一年八月
總令第百十號

公立幼稚園保姆ノ資格、俸給等ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　公立幼稚園ノ保姆ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一　私立學校敎員ノ資格及員數ニ關スル規程第三條ニ該當スル者但シ幼稚園ノ保育ニ從事シタル年月數ハ小學校又ハ普通學校ノ敎育ニ從事シタル年月數ト看做ス
二　小學校令施行規則第二百四條第二項ノ免許ヲ得タル者
三　朝鮮總督ノ指定シタル者

第二條　公立幼稚園保姆ノ俸給其ノ他ノ諸給與及服務ニ付テハ朝鮮公立學校ノ訓導ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十款　師範學校

●官立師範學校生徒ノ學資及其ノ支給方法

（大正十二年四月總告第百二十一號）

師範學校規程第八十七條第二項ノ規定ニ依リ官立師範學校生徒ノ學資及其ノ支給方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

官立師範學校生徒ニ給與スル學資ハ食費、手當及被服費トス

前項食費、手當及被服費ノ額ハ豫算ノ範圍內ニ於テ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

學資支給ニ關スル細則ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

附　則

大正十一年朝鮮總督府告示第五十三號ハ之ヲ廢止ス

第四章　私立學校、書堂

●私立學校教員ノ資格及員數ニ關スル規程ニ依リ私立學校ノ教員タル資格ヲ有スル者指定ノ件中改正

（大正十一年十一月總告第二百四十八號）

朝鮮總督府告示第二百四十八號

大正十一年朝鮮總督府告示第百五號中左ノ通改正ス

大正十一年十一月十三日　朝鮮總督　男爵齋藤實

第三條　左ニ揭クル者ハ高等普通學校及女子高等普通學校ノ教員タル資格ヲ有ス

一　左ノ學校ヲ卒業、修了若ハ畢了シタル者又ハ左ノ大學ニ於テ試驗ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者

學校名	擔任學科目
東京帝國大學（元東京大學ノ各部及元帝國大學ヲ含ム）	
元法科大學法律學科	法制及經濟
同　政治學科	法制及經濟
同　經濟學科	法制及經濟
同　商業學科	法制及經濟、商業、簿記
法學部	法制及經濟
經濟學部經濟學科	法制及經濟
同　商業學科	法制及經濟、商業、簿記
元醫科大學醫學科	生理及衞生
同　藥學科	化學
醫學部醫學科	生理及衞生
同　藥學科	化學
元工科大學電氣工學科	物理
同　應用化學科	化學
同　火藥學科	化學
同　採鑛冶金學科	鑛物
同　採鑛學科	鑛物
同　冶金學科	鑛物、化學
工學部電氣工學科	物理
同　應用化學科	化學
同　火藥學科	化學
同　元採鑛學科	鑛物
同　鑛山學科	鑛物
同　冶金學科	鑛物、化學
元文科大學哲學科（明治三十七年以前ノ卒業者）	修身、教育、英語（高等學校ニテ主トシテ英語ヲ修メ大學ニテ二箇年間英語ヲ修メ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
同　國文學科（同前、元和文學科ヲ含ム）	國語、漢文、英語（同前）
同　漢學科（明治三十七年以前ノ卒業者）	修身、漢文、歷史（以上三科目何レモ主トシテ修メタル者ニ限ル）、英語（同前）
同　國史科（同前）	歷史、英語（同前）
同　史學科（同前）	歷史、英語（同前）
同　言語學科（同前、元博言學科ヲ含ム）	獨語、英語（隨意科ニテ英語ヲ修メ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
同　英文學科（明治三十七年以前ノ卒業者）	英語
同　獨逸文學科（同前）	獨語、英語（高等學校ニテ英語ヲ以テ入學シ獨語ヲ修メ且大學ニテ英語ヲ修メ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
同　佛蘭西文學科（同前）	佛語、英語（高等學校ニテ英語ヲ以テ入學シ佛語ヲ修メ且大學ニテ英語ヲ修メ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
同　哲學科（明治三十八年以後ノ卒業者）	
倫理學（受驗學科）	修身、教育（教育學、教育史、教育行政法ノ內二科目以上ニ就キ二單位以上ヲ修了シタル者ニ限ル）、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內高等學校ニテ主トシテ履修シ大學ニ於テ語學試驗ニ及第シタル科目但シ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
教育學（同前）	修身（倫理學二單位以上ヲ修了シタル者ニ限ル）、教育、英語、佛語、獨語、（以上三科目ノ內同前）
哲學及哲學史（同前）	修身（同前）、教育（教育學、教育史、教育行政法ノ內二科目以上ニ就キ二單位以上ヲ修了シタル者ニ限ル）、國語（支那哲學ヲ受驗學科トシ國文學ヲ修メタル者ニ限ル）、漢文（支那哲學ヲ受驗學科トシタル者ニ限ル）、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）
哲學（同前）	
支那哲學（同前）	
印度哲學（同前）	
心理學（同前）	
元宗教學（同前）	
宗教學宗教史（同前）	
元美學（同前）	
美學美術史（同前）	
社會學（同前）	
同　史學科（明治三十八年以後ノ卒業者）	歷史、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）
同　文學科（同前）	
國文學（受驗學科）	國語、漢文、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）
支那文學（同前）	
梵文學（同前）	英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）
英吉利文學（同前）	英語、佛語、獨語（以上二科目ノ內同前）
獨逸文學（同前）	獨語、英語、佛語（以上二科目ノ內同前）
佛蘭西文學（同前）	佛語、英語、獨語（以上二科目ノ內同前）
言語學（同前）	英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內修了シタル二科目ニ限ル但シ其ノ修了セサル科目ニ就キテハ同前）
元文學部哲學科	
倫理學（受驗學科）	修身、教育（教育學、教育史、教育行政法ノ內二科目以上ニ就キ二單位以上ヲ修了シタル者ニ限ル）、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內高等學校ニテ主トシテ履修シ大學ニ於テ語學試驗ニ及第シタル科目但シ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
教育學（同前）	修身（倫理學二單位以上ヲ修了シタル者ニ限ル）、教育、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）
哲學（同前）	修身（同前）、教育（教育學、教育史、教育行政法ノ內二科目以上ニ就キ二單位以上ヲ修了シタル者ニ限ル）、國語（支那哲學ヲ受驗學科トシ國文學ヲ修メタル者ニ限ル）、漢文（支那哲學ヲ受驗學科トシタル者ニ限ル）、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）
支那哲學（同前）	
印度哲學（同前）	
心理學（同前）	
宗教學宗教史（同前）	
美學美術史（同前）	
社會學（同前）	
同　史學科	歷史、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）
同　文學科	
國文學（受驗學科）	國語、漢文、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）
支那文學（同前）	
梵文學（同前）	英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）
英吉利文學（同前）	英語、佛語、獨語（以上二科目ノ內同前）
獨逸文學（同前）	獨語、英語、佛語（以上二科目ノ內同前）
佛蘭西文學（同前）	佛語、英語、獨語（以上二科目ノ內同前）
言語學（同前）	英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內修了シタル二科目ニ限ル但シ其ノ修了セサル科目ニ就キテハ同前）
文學部	修身（倫理學概論一單位、倫理學（東洋、西洋）二單位、社會學概論一單位、哲學概論一單位、教育學概論一單位、教育史概說一單位ヲ修了シタル者ニ限ル） 教育（教育學概論一單位、教育史概說一單位、各科教授論一單位、社會學概論一單位、教育行政一單位、心理學概論一單位、倫理學概論一單位ヲ修了シタル者ニ限ル） 國語、漢文（國語學、國文學、支那哲學、支那文學十單位、言語學概論一單位、教育學概論一單位、教育史概論一單位ヲ修了シタル者ニ限ル） 歷史（國史概說、東洋史概說、西洋史概說、國史學、東洋史學、西洋史學十三單位、教育學概論一單位、教育史概說一單位ヲ修了シタル者ニ限ル） 英語（甲）（英吉利語學、英吉利文學七單位、言語學概說一單位、教育概論一單位、教育史概說一單位ヲ修了シタル者ニ限ル） 英語（乙）（高等學校ニ於テ第一外國語トシテ履修シ更ニ本學部ニ於テ外國語學修課程ヲ修了シ且教育學概論教育史概說各一單位ヲ修了シタル者ニ限ル） 獨語（甲）（獨逸語學獨逸文學七單位、言語學概論一單位、教育學概論一單位、教育史概說一單位ヲ修了シタル者ニ限ル） 獨語（乙）（高等學校ニ於テ第一外國語トシテ履修シ更ニ本學部ニ於テ外國語學修課程ヲ修了シ且教育學概論教育史概說各一單位ヲ修了シタル者ニ限ル） 佛語（甲）（佛蘭西語學佛蘭西文學七單位、言語學概論一單位、教育學概論一單位、教育史概說一單位ヲ修了シタル者ニ限ル）

佛語（乙）（高等學校ニ於テ第一外國語トシテ履修シ更ニ本學部ニ於テ外國語學修課程ヲ修了シ且教育學概論教育史概說各一單位ヲ修了シタル者ニ限ル）

元理科大學數學科　數學、物理
同　星學科　數學、物理
同　理論物理學科　數學、物理
同　實驗物理學科（元物理學科ヲ含ム）　數學、物理
同　化學科　物理、化學
同　動物學科　博物
同　植物學科　博物
同　地質學科
同　鑛物學科　博物（大正二年七月以前ノ卒業者ニ對シテハ植物、鑛物ニ限ル）
理學部數學科　數學、物理（物理ニ關スル科目二以上ニ合格シタル者ニ限ル）
同　天文學科（元星學科ヲ含ム）　數學、物理（前同）
同　物理學科（元理論物理學科、元實驗物理學科ヲ含ム）　物理、數學（數學ニ關スル科目二以上ニ合格シタル者ニ限ル）
同　化學科　化學、物理（物理ニ關スル科目二以上ニ合格シタル者ニ限ル）
同　動物學科　動物、植物（植物ニ關スル科目二以上ニ合格シタル者ニ限ル）
同　植物學科　植物、動物（動物ニ關スル科目二以上ニ合格シタル者ニ限ル）
同　地質學科　鑛物、地理（地理ニ關スル科目二以上ニ合格シタル者ニ限ル）
同　鑛物學科　鑛物
同　地理學科　地理、鑛物（地質及鑛物ニ關スル科目二以上ニ合格シタル者ニ限ル）
元農科大學農學科　動物、植物、農業
同　農藝化學科　化學、農業
同　林學科　植物
同　獸醫學科　動物
同　水產學科　化學（第二學年第三學期及第三學年ニ於テ化學ノ實驗ヲ修メタル者ニ限ル）、動物、植物
同　農業實科　農業
農學部元農學科　動物、植物、農業
同　農學科第一部　動物、植物、農業
同　同　第二部　農業
同　農藝化學科　化學、農業
同　林學科　植物
同　獸醫學科　動物
同　水產學科　動物、植物、化學（三學期間以上化學實驗ヲ修メタル者ニ限ル）

同　農學實科　農業
京都帝國大學
元法科大學　法制及經濟
法學部　法制及經濟
經濟學部　法制及經濟
元醫科大學醫學科　生理及衞生
醫學部醫學科　生理及衞生
元理工科大學數學科（大正三年以前ノ卒業者）
同　物理學科（前同）　數學、物理
同　純正化學科（前同）　物理、化學
同　理學科（前同）
第一授業科目
第二授業科目
第三授業科目　數學、物理
第四授業科目　物理、化學
第五授業科目
第六授業科目　化學
同　製造化學科（前同）　化學
同　電氣工學科（前同）　物理
同　採鑛冶金學科　鑛物
元工科大學電氣工學科　物理
同　工業化學科　化學
同　採鑛冶金學科　鑛物
工學部電氣工學科　物理
同　工業化學科　化學
同　採鑛冶金學科　鑛物、化學（冶金科卒業者ニ限ル）
元理科大學
專攻科目數學ニ關スルモノ　數學、物理（物理ニ關スル科目三以上ヲ學修シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
同　物理學ニ關スルモノ　數學、物理
同　化學ニ關スルモノ　化學、物理（物理ニ關スル科目三以上ヲ學修シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
理學部
專攻科目數學ニ關スルモノ　數學、物理（物理ニ關スル科目三以上ヲ學修シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
同　物理學ニ關スルモノ　物理、數學（數學ニ關スル科目三以上ヲ學修シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
同　宇宙物理學ニ關スルモノ　物理、數學（前同）

同　地球物理學ニ關スルモノ　物理、數學（前同）
同　化學ニ關スルモノ　化學、物理（物理ニ關スル科目三以上ヲ學修シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
元文科大學哲學科
西洋哲學（專攻學科）
印度哲學（前同）
支那哲學（前同）
倫理學（前同）
教育學（前同）
心理學（前同）
社會學（前同）
宗教學（前同）
美學、美術史（同前）
修身（倫理學支那哲學普通及特殊講義受驗合格倫理學演習ニ出席シタル者ニ限ル）、教育（教育學心理學普通及特殊講義受驗合格教育學演習ニ出席シタル者ニ限ル）、英語、獨語、佛語（以上三科目ノ內高等學校ニテ主トシテ履修シ大學ニテ當該科目ヲ二箇年間履修シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、國語（支那哲學專攻者ニシテ國語學國文學ヲ受驗合格シタル者ニ限ル）、漢文（支那哲學專攻者ニ限ル）
同　史學科
國史（專攻學科）
西洋史（前同）
東洋史（前同）　歷史、地理（地理學普通及特殊講義受驗合格同演習ニ出席シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）
地理學（前同）　地理、歷史（日本史、東洋史、西洋史ノ一部若ハ二部ニ就キ普通及特殊講義受驗合格同演習ニ出席シ其ノ部分ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）
同　文學科
國語學國文學（專攻學科）
支那語學支那文學（前同）　國語、漢文、英語、獨語、佛語（以上三科目ノ內高等學校ニテ主トシテ履修シ大學ニテ英語ニ就キテハ英語及英文學、獨語ニ就キテハ獨語及獨逸文學、佛語ニ就キテハ佛語及佛文學ヲ受驗合格シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
英文學（前同）　英語、獨語、佛語（以上二科目ノ內同前）
獨文學（前同）　獨語、英語、佛語（以上二科目ノ內同前）
佛文學（前同）　佛語、英語、獨語（以上二科目ノ內同前）
言語學（前同）　國語（國語ヲ受驗合格シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、漢文（漢文ヲ受驗合格シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同

前）
文學部哲學科
西洋哲學（專攻學科）
印度哲學（前同）
支那哲學（前同）
倫理學（前同）
教育學（前同）
心理學（前同）
社會學（前同）
宗教學（前同）
美學、美術史（前同）
修身（倫理學支那哲學普通及特殊講義受驗合格倫理學演習ニ出席シタル者ニ限ル）、教育（教育學心理學普通及特殊講義受驗合格教育學演習ニ出席シタル者ニ限ル）、英語、獨語、佛語（以上三科目ノ內高等學校ニテ主トシテ履修シ大學ニテ當該科目ヲ二箇年間履修シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、國語（支那哲學專攻者ニシテ國語學、國文學ヲ受驗合格シタル者ニ限ル）、漢文（支那哲學專攻者ニ限ル）
同　史學科
國史（專攻學科）
西洋史（前同）
東洋史（前同）　歷史、地理（地理學普通及特殊講義受驗合格同演習ニ出席シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）
地理學（前同）　地理、歷史（日本史、東洋史、西洋史ノ一部若ハ二部ニ就キ普通及特殊講義受驗合格同演習ニ出席シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）
同　文學科
國語學國文學（專攻學科）
支那語學支那文學（前同）　國語、漢文、英語、獨語、佛語（以上三科目ノ內高等學校ニテ主トシテ履修シ大學ニテ英語ニ就キテハ英語及英文學、獨語ニ就キテハ獨語及獨逸文學、佛語ニ就キテハ佛語及佛文學ヲ受驗合格シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
英文學（前同）　英語、獨語、佛語（以上二科目ノ內同前）
獨文學（前同）　獨語、英語、佛語（以上二科目ノ內同前）
佛文學（前同）　佛語、英語、獨語（以上二科目ノ內同前）
言語學（前同）　國語（國語ヲ受驗合格シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、漢文（漢文ヲ受驗合格シ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、英語、佛語、獨語（以上三科目ノ內同前）

元分科大學聽講生（明治三十七年以前ノ聽講生ニシテ修業證書アルモノ、聽講シタル學科）	分科大學卒業者ニ準ス
元札幌農學校 本科	動物、植物、農業
東北帝國大學 元理科大學數學科	數學、物理
同　物理學科	數學、物理
同　化學科	物理、化學
同　地質學科	鑛物、博物（高等學校大學豫科第二部卒業者又ハ本學農科大學豫科卒業者ニシテ入學ノ後生物學及生理學ヲ修メタル者ニ限ル）
理學部元數學科	數學、物理
同　元物理學科	數學、物理
同　元化學科	物理、化學
同　元地質學科	鑛物、博物（高等學校大學豫科第二部卒業者ニシテ入學ノ後生物學及生理學ヲ修メタル者ニ限ル）
同　主トシテ數學ニ關スル科目ヲ修メタル者	數學、物理（物理學ノ普通講義普通實驗ヲ修メタル者ニ限ル）
主トシテ物理學ニ關スル科目ヲ修メタル者	物理、數學（數學ノ普通講義普通演習ヲ修メタル者ニ限ル）
主トシテ化學ニ關スル科目ヲ修メタル者	化學、物理（物理學ノ普通講義普通學實驗ヲ修メタル者ニ限ル）
主トシテ地質學又ハ地質學古生物學ニ關スル科目ヲ修メタル者	鑛物
主トシテ岩石鑛物鑛床學ニ關スル科目ヲ修メタル者	鑛物
醫學部	生理及衞生
工學部　電氣工學科	物理
同　化學工學科	化學
元農科大學農學科	動物、植物、農業
同　畜產學科	動物
同　農藝化學科	化學、農業
同　林學科	植物
同　農學實科	農業
理學部聽講生	（聽講シタル科目ニ依リ學士試驗合格者ニ準ス但シ教員檢定ニ關スル規程第五條ニ依リ試驗檢定ヲ受クルコトヲ得ル者ニシテ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
元附屬醫學專門部醫學科	生理及衞生
同　藥學科	化學（當該學科ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
元附屬工學專門部採鑛科	鑛物（同前）
同　冶金科	化學（同前）
九州帝國大學 元醫科大學	生理及衞生
醫學部	生理及衞生
元工科大學電氣工學科	物理
同　應用化學科	化學
同　採鑛學科	鑛物
同　冶金學科	鑛物、化學
工學部元電氣工學科	物理
同　元應用化學科	化學
同　元採鑛學科	鑛物
同　元冶金學科	鑛物、化學
同　工學物理學（專修學科）	數學、物理
同　原動及電力工學（同前）	物理
同　製作電氣工學（同前）	物理
同　通信電氣工學（同前）	物理
同　電氣化學（同前）	化學
同　應用化學（同前）	化學
同　採鑛學（同前）	鑛物
同　冶金學（同前）	鑛物、化學
同　鐵冶金學（同前）	鑛物、化學
北海道帝國大學 元農科大學農學科	動物、植物、農業
同　畜產學科	動物
同　農藝化學科	化學、農業
同　林學科	植物
同　農學實科	農業
農學部農學科	動物、植物、農業
同　農業經濟學科	法制及經濟、農業
同　農業生物學科	動物、植物、農業
同　畜產學科	動物
同　農藝化學科	化學、農業
同　林學科	植物

同　農學實科	農業
東京商科大學 學部	法制及經濟、商業、簿記
豫科	英語（當該科目成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
商學專門部	英語（同前）、商業、簿記
東京女子高等師範學校 附屬高等女學校專攻科第一部	家事（大正八年三月以後ノ卒業者ニ限ル）
同　第二部	家事（大正八年三月以後ノ卒業者ニ限ル）
同　國語部	國語
同　英語部	英語
同　家事部	家事
農業教員養成所	農業（明治四十二年二月以前ノ卒業者ニ就キテハ當該學科成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
盛岡高等農林學校 元農學科	農業
元農學科（第一部第二部）	農業
農學科	農業
農藝化學科	農業、化學（當該科目成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
鹿兒島高等農林學校 農學科	農業、化學（大正八年三月以後ノ卒業者ニシテ農藝化學ヲ修メ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
東京高等商業學校（元高等商業學校ヲ含ム） 本科	英語（當該學科成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、商業、簿記
專攻部	法制及經濟
商業教員養成所	英語（大正四年七月以後ノ卒業者ニシテ當該科目成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、商業、簿記
高等商業學校 本科	英語（當該科目成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、商業、簿記
高等學校 大學豫科第一部	英語（英語ヲ以テ入學シ主トシテ英語ヲ修メ其ノ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
同　第二部	英語（同前）
高等科文科	英語（同前）
同　理科	英語（同前）
醫學專門學校 醫學科	生理及衞生（當該學科成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
藥學科	化學（同前）
藥學專門學校	化學（當該學科成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
東京高等工業學校（元東京工業學校ヲ含ム） 色染科（元染織工科、元染織科色染分科ヲ含ム）	化學（當該學科目成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）、染色、機織
紡織科（元染織科機織分科ヲ含ム）	染色、機織
窯業科	化學（當該學科目成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
應用化學科	化學（同前）
電氣化學科（元電氣工科、電氣化學分科、元電氣科電氣化學分科ヲ含ム）	化學（同前）
元工業圖案科	圖畫
大阪高等工業學校（明治三十六年以後ノ者ニ限ル） 應用化學科	化學（當該學科成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
染色科	化學（同前）
窯業科	化學（同前）
釀造科	化學（同前）
元冶金科	化學（同前）
採鑛冶金科	鑛物（同前）
京都高等工藝學校 元色染科第一部生	化學（當該學科成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
元圖案科第一部生	圖畫
色染科	化學（大正八年三月以後ノ卒業者ニシテ當該學科成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
圖案科	圖畫（大正八年三月以後ノ卒業者ニ限ル）

名古屋高等工業學校	
色染科	化學（當該學科成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
熊本高等工業學校	
電氣工學科第一部	化學（當該科目成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
採鑛冶金科	鑛物（前同）
米澤高等工業學校	
應用化學科 色染科	化學（當該學科成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
元仙臺高等工業學校	
採鑛學科	鑛物（當該科目成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
冶金學科	化學（前同）
秋田鑛山專門學校	
採鑛學科	鑛物（當該學科成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
冶金學科	化學（前同）
桐生高等工業學校（元桐生高等染織學校ヲ含ム）	
色染科	化學（當該學科成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
明治專門學校（元私立明治專門學校ヲ含ム）	
鑛山工學科（元採鑛學科ヲ含ム）	鑛物（當該學科目成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
冶金工學科（元冶金學科ヲ含ム）	化學（前同）
應用化學科	化學
工業教員養成所	
色染科（元染織工科、元染織科ヲ含ム）	化學（當該學科成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
窯業科	化學（前同）
應用化學科	化學（前同）
工業圖案科	圖畫
色染科 紡織科（元染織工科、元染織科、元染織科色染分科、元染織科機織分科ヲ含ム）	染色、機織
色染速成科（元染色速成科ヲ含ム）	染色
機織速成科	機織

東京外國語學校	
元本科英語學科	英語
同　佛語學科	佛語
同　獨語學科	獨語
同　韓語學科 同　朝鮮語學科	朝鮮語
英語部文科	英語
佛語部文科	佛語
獨語部文科	獨語
暹羅、馬來、ヒンドスタニー、タミル語部文科	英語（外國語乙トシテ英語ヲ修メタル者ニ限ル）
東京美術學校	
日本畫科 西洋畫科 圖案科	圖畫（本科在學中學校所定ノ教員志望者課程ヲ兼修セシ者ニ限ル）
東京音樂學校	
本科（元專修科ヲ含ム）	音樂
學習院	
高等學科	英語（當該學科成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
高等科文科	英語（前同）
同　理科	英語（前同）
神宮皇學館	
本科	國語、漢文、歷史
元旅順工科學堂	
採鑛冶金科	鑛物（當該科目成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
旅順工科大學工學專門部	
採鑛冶金科	鑛物（當該科目成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル）
私立日本體育會體操學校	
高等本科	體操
元京城專修學校（大正五年以後ノ卒業者ニ限ル）	法制及經濟
元京城醫學專門學校	
本科 特別醫學科	生理及衞生
私立セブランス聯合醫學專門學校	生理及衞生
元京城工業專門學校	
鑛山科	鑛物

〔朝〕

應用化學科 窯業科	化學
染織科	化學、染色、機織
元水原農林專門學校	農業
私立延禧專門學校 農業科	農業
元私立京城高等商業學校 高等商業科	商業、簿記
元私立東洋協會植民專門學校京城分校 商科	商業、簿記
元私立東洋協會專門學校京城分校	商業、簿記
私立延禧專門學校 商科	商業、簿記

選科修了者ニ在リテハ文部省令教員檢定ニ關スル規程第五條ニ依リ試驗ヲ受クルコトヲ得ル資格ヲ有スル者ニシテ成績優等證明書ヲ有スル者ニ限ル但シ國語ヲ常用セサル者ニ在リテハ當分ノ內前記ノ資格ヲ有セサルモ之ヲ妨ケス

二　左ノ學校ニ三年以上在學シ其ノ學科ヲ卒業、修了若ハ畢了シタル者又ハ左ノ大學ニ於テ試驗ニ合格シテ學士ト稱スルコトヲ得ル者但シ指定ノ效力ヲ有スル者ニ限ル

學校名	學部及學科名	擔任學科目	指定ノ效力	沿革
元私立東京專門學校	文學部　哲學及英文學科	修身、教育、英語	明治三十二年七月七日以降	明治三十四年三月十一日「哲學及英文學科」ヲ「大學部文學科」ニ「國語漢文及英文學科」ヲ「專門部和漢文學科」ニ「史學及英文學科」ヲ「同部史學科」ニ變更改稱 明治三十五年九月一日校名ヲ「私立早稻田大學」ト改稱
	文學部　國語漢文及英文學科	國語、漢文、英語		
	文學部　史學及英文學科	歷史、地誌、地文、英語		
	元專門部　法制經濟及英語科	修身、法制及經濟、英語（但シ英語ヲ修メサルモノハ法制及經濟ニ限ル）	明治三十六年二月三日以降	
	元專門部　國語及漢文科	國語、漢文		
	元專門部　歷史地理科	歷史、地理		
私立早稻田大學	元高等師範部　法制經濟科	修身及法制經濟	明治三十六年十一月二十七日以降	明治三十七年三月三十一日組織ヲ變更シテ專門學校令ニ依ル 明治四十年五月九日「高等師範部」ヲ「大學部師範部」ト改稱竝「法制經濟科」廢止 明治四十一年五月六日前項改稱實施前更ニ「大學部文學科」ト變更改稱
	元高等師範部　英語科	英語		
	元高等師範部　國語及漢文科	國語、漢文		
	元高等師範部　歷史、地理科	歷史、地理		
	元大學部文學科　哲學科	修身、教育	明治三十八年九月三十日以降	明治四十一年八月四日學則ヲ改正シテ「英文學科」ヲ「英文學科第一部」ニ改稱
	元大學部文學科　英文學科	英語		
	元大學部文學科　國語漢文科	國語、漢文	明治四十一年五月六日以降	明治四十一年八月四日「國語漢文科」ヲ「和漢文學科」、「歷史地理科」ヲ「史學科」、「英語科」ヲ「英文學科第二部」ト改稱
	元大學部文學科　歷史地理科	歷史、地理		
	元大學部文學科　英語科	英語		
	大學部文學科　哲學科	修身、教育	明治四十一年九月開始ノ第一學年生ヨリ	明治四十三年四月二十五日「英文學科第二部」及「和漢文學科」竝「史學科」ヲ「高等師範部第一部」ニ變更
	大學部文學科　英文學科（第一部 元第二部）	英語		
	大學部文學科　元和漢文學科	國語、漢文		
	大學部文學科　元史學科	歷史		
	大學部文學科　史學及社會學科	歷史		大正二年四月九日「元史學科」ヲ改稱存續
	高等師範部　元國語漢文及歷史科	國語、漢文	明治三十二年七月ノ入學者ヨリ	大正二年四月九日「國語漢文及歷史科」ヲ改稱
	高等師範部　元英語及歷史科	英語		大正二年四月九日「英語及歷史科」ヲ改稱
	高等師範部　國語及漢文科	國語、漢文		大正九年二月十日高等師範部第一部ヲ改稱
	高等師範部　英語科	英語		
元私立國學院	師範部	日本歷史、國語	明治三十二年七月ノ入學者ヨリ	明治三十三年十一月三十日「日本歷史」ヲ「歷史」ニ「國語及漢文」ニ變更
	師範部　國語漢文歷史科甲種	國語、漢文、歷史	明治三十七年四月二十二日以降	明治三十七年四月二十一日師範部ノ組織ヲ變更シテ同年九月ヨリ專門學校令ニ依ル 明治三十九年六月十二日「私立國學院大學」ト改稱
	師範部　國語漢文科	國語、漢文		
	師範部　歷史地理科	歷史		
	大學部本科　國史科	歷史	明治三十八年十月十三日以	明治四十三年九月二十六日師範部「歷史地理科」ヲ「歷史科」
	大學部本科　國文科	國語、漢文		

〔朝〕

國學院大學	師範部 國語漢文科	國語、漢文	降	ト改稱
	師範部 元歷史地理科 元歷史科	歷史	明治四十年九月二十六日以降	大正元年八月二十三日「師範部歷史科」ヲ同年九月以後廢止 大正八年九月私立國學院大學ヲ改稱
私立青山學院	元高等科 元高等學部 英語師範科	英語	明治三十三年九月八日以降	大正四年三月五日「高等科」ヲ「高等學科」ト改稱 大正五年二月二十二日「高等學部」ヲ「英語師範科」ト改稱
京都府立第一高等女學校	專攻科 國語漢文科 家事及裁縫科	國語、漢文 家事、裁縫	明治三十四年三月十三日以降	明治三十七年一月二十五日「京都府立高等女學校」ヲ改稱
元私立日本法律學校	高等師範科	修身、法制及經濟	明治三十四年十月二十九日以降	明治三十六年八月十九日私立日本大學ト改稱
私立日本大學	高等師範部	修身、法制及經濟	明治三十六年八月十九日以降	明治三十六年八月十九日「高等師範科」ヲ「高等師範部」ト改稱
私立慶應義塾	元大學部 文學科 理財科	倫理、教育、漢文 英語、歷史 英語、簿記、歷史	明治三十三年三月十三日以降	明治三十三年十二月二十七日大學部文學科理財科ノ卒業者ヲ除ク
	元大學部文學科	修身、教育、英語	明治三十四年七月十一日以降	明治四十二年四月七日大學部「文學科」ヲ「文學科英文學」「同科哲學」ト改稱
	大學部文學科 元英文科 文學 哲學	英語 修身、教育	明治四十二年四月七日以降	明治四十三年四月十五日大學部文學科「英文學」ヲ「文學」ト改稱
私立女子英學塾	元師範科 本科	英語	明治三十八年九月二十日	明治四十二年七月二十七日「師範科」ヲ「本科」ト改稱
元私立哲學館	教育部 倫理科甲種 漢文科甲種	修身、教育 漢文	自明治三十二年七月十日至同三十五年十二月十三日	明治三十三年六月二十五日「漢文科甲種」ノ檢定學科目ニ「國語」ヲ加フ
	教育部 第一部 第二部	修身、教育 修身、國語、漢文	自明治三十四年九月十四日至同三十五年十二月十三日	明治三十四年九月十四日教育部ノ組織變更 明治三十六年十月一日組織ヲ變更シテ同三十七年四月一日ヨリ「私立東洋大學」ト改稱
東洋大學	大學部 第一科 第二科 專門部 第一科 第二科	修身 國語、漢文 修身、教育 修身、國語、漢文	明治四十年第一學年開始ノ生ヨリ	大正九年四月私立東洋大學ヲ改稱

私立日本女子大學校	元教育學部家政科 第一部 第二部 實學科師範家政學部 第一部 第二部	家事	大正二年三月以降	大正六年三月二十六日「實學科師範家政學部」ト改稱
東京裁縫女學校	高等師範科	裁縫	明治四十四年四月二十七日以降	大正八年九月私立東京裁縫女學校ヲ改稱
共立女子職業學校	甲部高等師範科	裁縫、手藝	大正三年三月以降	明治四十五年一月甲科ヲ甲部ト改稱、大正八年十一月私立共立女子職業學校ヲ改稱
和洋裁縫女學校	元高等裁縫教員養成科 高等師範科	裁縫	大正三年三月以降	大正十年二月二十二日高等師範科ト改稱
同志社大學	元英文科 文學部	英語	大正五年七月以降	大正八年一月二十八日「文學部」ト改稱 大正八年八月私立同志社大學ヲ改稱
女子美術學校	刺繡高等師範科 造花高等師範科	手藝	大正四年三月以降	大正四年三月以後ノ卒業者ニシテ刺繡、造花、編物ノ內二科以上ヲ修メタル者ニ限ル
	裁縫科高等師範科	裁縫	大正十年三月以降	大正十年三月以後ノ卒業者ニ限ル
私立東京物理學校	高等師範科理化學部 高等師範科數學部	物理、化學 數學	大正九年三月以降	
京都市立繪畫專門學校	本科	毛筆畫 用器畫	大正七年三月以降	
大日本武德會武道專門學校	本科	擊劍、柔術	大正十年三月以降	大正八年八月一日私立大日本武德會武術專門學校ヲ改稱同年同月更ニ改稱
私立東北學院	專門部師範科	英語	大正十一年三月以降	
私立板戶裁縫學校	高等師範科	裁縫	大正十年三月以降	
帝國婦人協會實踐女學校	家政專攻科	家事	大正十二年三月以降	
帝國婦人協會高等女學部	技藝專攻科	裁縫		

選科修了者ニ在リテハ文部省令教員檢定ニ關スル規程第五條ニ依リ試驗ヲ受クルコトヲ得ル資格ヲ有スル者ニ限ル但シ國語ヲ常用セサル者ニ在リテハ當分ノ內前記ノ資格ヲ有セサルモ之ヲ妨ケス

三　外國ノ大學又ハ之ニ準スヘキ學校ニ於テ其ノ擔任セムトスル學科目ヲ修メ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者但シ國語ヲ常用スル者ニ在リテハ文部省令教員檢定ニ關スル規程第五條乃至第八條ニ該當スル者、國語ヲ常用セサル者ニ在リテハ國語ニ通達スルコトヲ證明シ得ル者ニ限ル

四　專門學校、師範學校、中學校、高等普通學校、高等女學校又ハ女子高等普通學校（以上舊朝鮮教育令ニ依ルモノヲ含ム）ニ於テ五年以上其ノ擔任セムトスル學科目ヲ教授シ朝鮮總督ニ於テ私立學校教員ノ資格及員數ニ關スル規程第六條第一號ニ準スヘキ者ト認定シタル者

第五章　學校ノ認定、指定及檢定

●セブランス聯合醫學專門學校ヲ醫師規則ニ依リ指定

（大正十二年二月　總告第三十四號）

醫師規則第一條第一項第二號ニ依リ左ノ醫學校ヲ指定ス但シ本指定ハ大正十二年以後ノ本科卒業者ニ對シ效力ヲ有ス

セブランス聯合醫學專門學校

●明治四十三年勅令第三百九十六號第五條ニ依ル認定學校追加

（大正十二年五月　總告第百四十五號）

明治四十五年朝鮮總督府告示第二百四十二號ニ左ノ通追加ス

大正十一年勅令第十九號朝鮮教育令ニ依ル專門學校ノ特科又ハ別科

第六章　經學院　文廟　學會　講習會

●地方文廟職員ニ關スル件

（大正十二年四月　總令第六十八號）

地方文廟職員ニ關スル件左ノ通定ム

地方文廟中京畿道開城郡松都面所在ノ文廟ニハ司成一人、直員一人ヲ置キ其ノ他ノ地方ニ於ケル文廟ニハ直員一人ヲ置ク

司成ノ進退ハ道知事ノ申請ニ依リ朝鮮總督之ヲ行フ

司成ハ名譽職トシ郡守ノ指揮ヲ承ケ文廟ノ享祀及管守ニ關スル事務ヲ掌理シ所屬直員ヲ監督ス

直員ノ進退ハ府尹、郡守、島司ノ申請ニ依リ道知事之ヲ行フ

直員ハ名譽職トシ府尹、郡守、島司及司成ノ指揮ヲ承ケ文廟ヲ直守シ庶務ニ從事ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年朝鮮總督府令第百二十七號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際文廟直員ノ職ニ在ル者ハ本令ニ依リ任命セラレタルモノトス

第七章　在外研究員、留學生及委託生

●在外研究員規程施行細則

（大正十一年九月　總令第百三十號）

在外研究員規程施行細則左ノ通定ム

在外研究員規程施行細則

第一條　朝鮮總督府在外研究員ヲ命セムトスルトキハ身體ニ付檢査ヲ行フ

第二條　朝鮮總督府在外研究員ヲ命セラレタル者ハ七日以內ニ第一號書式ノ誓書ヲ差出シ且速ニ第二號書式ノ出發屆ヲ差出スヘシ

第三條　朝鮮總督府在外研究員ニシテ本邦出發前疾病ニ罹リタル者ニ付テハ更ニ身體檢査ヲ行ヒ之ヲ免スルコトアルヘシ

第四條　朝鮮總督府在外研究員在留地ニ到著シタルトキハ第三號書式ニ依リ、在留地ヲ離ルルトキハ第四號書式ニ依リ遲滯ナク朝鮮總督及當該國駐在帝國大使、公使又ハ最寄地方駐在帝國領事ニ其ノ旨屆出ツヘシ

第五條　朝鮮總督府在外研究員在留國ヲ轉セムトスルトキハ第五號書式ノ旅費給與願書ヲ、學術研究ノ爲各地ヲ巡歷セムトスル場合ニ於テ別ニ手當ノ給與ヲ請ハムトスルトキハ第六號書式ノ巡歷手當給與願書ヲ成ルヘク三月前ニ朝鮮總督ニ差出スヘシ但シ巡歷ノ場合ニ於テハ之ニ要スル費用見積書ヲ添附スヘシ

第六條　朝鮮總督府在外研究員在外中學術研究上特ニ多額ノ費用ヲ要スルトキ又ハ不慮ノ事變若ハ災害ニ遇ヒタルトキニ於テ特ニ特別手當支給ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事由及費用見積額ヲ添附シテ第六號書式ニ準シタル特別手當給與願書ヲ朝鮮總督ニ差出スヘシ

第七條　朝鮮總督府在外研究員ハ第七號書式ノ在留國追加願ヲ朝鮮總督ニ差出シ其ノ許可ヲ受クルニ非サレハ指定在留國以外ニ轉スルコトヲ得ス

第八條　朝鮮總督府在外研究員ハ自己ノ便宜ニ依リ滿期前歸朝スルコトヲ得ス但シ疾病ニ因リ研究ニ堪ヘ難キトキハ第八號書式ノ滿期前歸朝願ニ醫師ノ診斷書ヲ添附シ朝鮮總督ニ差出シ其ノ許可ヲ受クヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ特ニ急症ニシテ許可ヲ受クルノ暇ナキトキハ當該國駐在帝國大使、公使又ハ最寄駐在帝國領事ノ證明ヲ得歸朝ノ後第九號書式ノ滿期前歸朝追認願ヲ差出スヘシ

第九條　朝鮮總督府在外研究員ハ毎年四月及十月ノ二回ニ第十號書式ニ依リ其ノ研究事項ニ關スル申報書ヲ差出スヘシ

第十條　朝鮮總督府在外研究員ノ學資ハ毎年四月及七月ニ於テ各六箇月分ヲ前金渡トシテ給ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　朝鮮總督府在外研究員ヲ命セラレタル官吏ハ任他出發ノ日ヨリ歸任ノ日迄之ヲ定員外トス

第十二條　朝鮮總督府在外研究員旅行中私事ノ爲滯在セムトスルトキハ第十一號書式ニ依リ許可ヲ受クヘシ但シ豫メ許可ヲ受クルノ暇ナキトキハ其ノ事由ヲ具シ第十二號書式ニ依リ追認ヲ受クヘシ

私事滯在中ハ學資、旅費及手當ヲ給セス

第十三條　朝鮮總督府在外研究員ハ滿期ノ翌日在留地ヲ出發歸朝スヘシ但シ已ムヲ得サル事由ニ依リ出發シ難キトキハ當該國駐在帝國大使、公使又ハ最寄駐在帝國領事ノ證明ヲ得テ十四日以內滯在スルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ第十三號書式ノ在留滿期後滯外屆ヲ差出スヘシ

第十四條　朝鮮總督府在外研究員ハ學資、旅費又ハ手當ノ送達ヲ受クル爲豫メ宿所ヲ指定シテ第十四號書式ニ依ル屆書ヲ差出スヘシ

第十五條　朝鮮總督府在外研究員歸朝シタルトキハ七日以內ニ第十五號書式ノ歸朝屆及第十六號書式ノ在外研究始末書ヲ差出スヘシ

第一號書式

誓　書

某儀今般何國何國ニ於テ何年間何學研究ヲ命セラレ候ニ付テハ在外中竝歸朝後共御規定堅ク遵奉可致仍テ誓書及提出候也

年　月　日

朝鮮總督府在外研究員　何　某　印

朝鮮總督何某殿

第二號書式

出發（又ハ出發豫定）屆

某儀何年何月何日何地（任地ナキ者ハ現住所）出發何年何月何日何港解纜何國何地ニ相向ヒ候（向フ豫定ニ有之候）

右及御屆候也

年　月　日

朝鮮總督府在外研究員　何　某　印
留守宅、、、、、、

朝鮮總督何某殿

第三號書式

在留地到著屆

某儀何年何月何日何國何地ニ到著致候

右及御屆候也

年　月　日

宿所（又ハ郵便宛先）（原語併書）
朝鮮總督府在外研究員　何　某　印
（羅馬字併書）

朝鮮總督　何　某殿
大使、公使又ハ領事　何　某殿　各通

第四號書式

在留地退去屆

某儀何年何月何日何國何地ヲ退去シ何國何地ニ相向ヒ候

右及御屆候也

年　月　日

宿所（又ハ郵便宛先）（原語併書）
朝鮮總督府在外研究員　何　某　印
（羅馬字併書）

朝鮮總督　何　某殿
大使、公使又ハ領事　何　某殿　各通

第五號書式

旅費給與願

某儀何年何月何國ヨリ何國ヘ移轉致度候ニ付旅費御給與相成度此段相願候也

年　月　日

宿所（郵便宛先）（原語併書）
朝鮮總督府在外研究員　何　某印
（羅馬字併書）

朝鮮總督何某殿

第六號書式

巡歷手當給與願

某儀別紙ノ通巡歷致度候ニ付見積書ノ通手當御給與相成度此段相願候也

年　月　日

宿所（又ハ郵便宛先）（原語併書）
朝鮮總督府在外研究員　何　某印
（羅馬字併書）

朝鮮總督何某殿

（別紙）

何年何月何日	何地出發
何年何月何日	何地著（經由又ハ滯在）
何年何月何日	、、、、、、、、

右ニ要スル費用見積書

汽車汽船賃	何圓
滯在費	何圓
其ノ他ノ雜費	何圓
計	何圓

備考（右見積書ニ關スル注意事項等記入ノコト）

第七號書式

在留國追加願（在官者ハ當該官署ノ長官經由）

某儀何何ノ爲必要有之候ニ付何國ヲ在留國中ニ御追加相成度此段相願候也

年　月　日

宿所（郵便宛先）（原語併書）
朝鮮總督府在外研究員　何　某　印
（羅馬字併書）

朝鮮總督何某殿

第八號書式

滿期前歸朝願（診斷書添付、在官者ハ當該官署ノ長官經由）

某儀病氣ノ爲研究ニ堪ヘ難ク候ニ付滿期前歸朝御許可相成度此段相願候也

年　月　日

宿所（郵便宛先）（原語併書）
朝鮮總督府在外研究員　何　某　印
（羅馬字併書）

朝鮮總督何某殿

第九號書式

滿期前歸朝追認願（診斷書及大使、公使又ハ領事ノ證明書添付、在官者ハ當該官署ノ長官經由）

某儀病氣ノ爲研究ニ堪ヘ難ク何年何月何日何地出發歸朝致候ニ付御追認相成度此段相願候也

年　月　日

朝鮮總督府在外研究員　何　某印

朝鮮總督何某殿

第十號書式

自何年何月
至何年何月
申報書

修業所、教師、學科目等	何年何月何日何地何學校若ハ何所ニ入リ何年何月何日ヨリ何年何月何日迄教師何某氏ニ就キ何學科目ヲ研究シ何年何月何日ヨリ現今ニ至ル迄教師何某氏ニ就キ何學科目ヲ研修ス 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何ノ研究又ハ實驗ニ從事ス其ノ成績何何又ハ其ノ報告書別紙ノ如シ（既ニ此ノ報告書ヲ差出セシ分ハ茲ニ添附セサルモ妨ケナク又追テ差出ス分ハ其ノ旨ヲ記入スヘシ）
旅行	何年何月何日何地出發何地方ニ旅行シ何年何月何日巡驗ヲ了ル其ノ報告書別紙ノ如シ（既ニ報告書ヲ差出セシ分ハ茲ニ添附セサルモ妨ケナク又追テ差出ス分ハ其ノ旨ヲ記入スヘシ）
休業	何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何病療養ノ爲何地何所ニ旅行ス 何年何月何日ヨリ何年何月何日迄病氣又ハ何ノ事故ニ依リ休業ス
前二號ノ外緊要ノ事項	何年何月何日學費（手當又ハ旅費）何圓受領等（其ノ他試驗、學位、褒賞ニ關スル事項等記入ノコト）

年　月　日

宿所（又ハ郵便宛先）（原語併書）
朝鮮總督府在外研究員　何　某
（羅馬字併書）

朝鮮總督何某殿

第十一號書式

旅行中私費滯在願

某儀何年何月何日本邦出發何國何地ニ向フ豫定ニ有之候處（又ハ何地出發歸朝ノ豫定ニ有之候處）途中何地ニ於テ何何ノ爲何日間私費滯在致度候ニ付御許可相成度此段相願候也

年　月　日

宿所（又ハ郵便宛先）（原語併書）
朝鮮總督府在外研究員　何　某　印
（羅馬字併書）

朝鮮總督何某殿

第十二號書式

旅行中私費滯在追認願

某儀何年何月何日本邦（又ハ何地）出發、何年何月何日何地ニ到著（又ハ歸朝）致シ候處途中何地ニ於テ何何ノ爲何日間私費滯在致シ候ニ付御追認相成度此段相願候也

年　月　日

朝鮮總督府在外研究員　何　某　印
（羅馬字併書）

朝鮮總督何某殿

第十三號書式

在留滿期後滯在屆（大使、公使又ハ領事ノ證明書添附）

某儀何年何月何日在留期間滿期ノ處何何ノ爲滿期後何日間滯在致シ候ニ付此段及御屆候也

年　月　日

宿所（郵便宛先）（原語併書）
朝鮮總督府在外研究員　何　某　印
（羅馬字併書）

朝鮮總督何某殿

第十四號書式

學資（旅費又ハ手當）送付先屆

學資（手當又ハ歸朝旅費）送付先左記ノ通及御屆候也

年　月　日

宿所（郵便宛先）（原語併書）
朝鮮總督府在外研究員　何　某　印
（羅馬字併書）

朝鮮總督府會計課御中

記

（明瞭ニ記載スヘシ）

第十五號書式

歸朝屆

某儀何年何月何日歸朝致候

右及御屆候也

年　月　日

朝鮮總督府在外研究員　何　某　印

朝鮮總督何某殿

第十六號書式

在外研究始末書

一　往返發著

何年何月何日何港解纜何洋ヲ經（何年何月何日迄何地ニ滯在）

何年何月何日最初ノ在留地何國何所ニ到著

何年何月何日滿期（病氣或ハ何何ノ事故ニ付歸朝ヲ命セラレ或ハ何何ノ事故ニ依リ歸朝願濟）ニ依リ何年何月何日何所出發何洋ヲ經（何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何地滯在）何年何月何日何港（本邦何港）ニ到著

一　修學狀況

何年何月何日何國何所ニ於テ教師何某氏ニ從ヒ何年何月何日迄左ノ學科ヲ研修ス

學科　何何

何年何月何日ヨリ何何ノ爲何校ニ轉シ教師何某氏ニ從ヒ何年何月何日迄左ノ學科（又ハ事項）ヲ研修ス

學科　何何（又ハ事項何何）

何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何所ニ於テ（又ハ何地ヘ巡歷）左ノ事項ヲ研究（又ハ實驗）ス

事項　何何

一　右ノ外緊要ノ事項

年　月　日

朝鮮總督府在外研究員　何　某　印

朝鮮總督何某殿

●中等教員委託生規則中改正

大正十二年四月
總令第六十九號

中等教員委託生規則中左ノ通改正ス
第三條中「五十圓」ヲ「四十七圓」ニ改ム

附　則

本令ハ大正十二年度以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

第八章　教科用圖書

●教科用圖書等ノ翻刻及發行ニ關スル件

大正十二年三月
總告第九十四號

朝鮮總督府ニ於テ著作權ヲ有スル諸學校教科用圖書、教授參考用圖書其ノ他必要ナル圖書ノ翻刻ハ大正十二年四月一日ヨリ其ノ發行ハ大正十二年六月一日ヨリ朝鮮書籍印刷株式會社ヲシテ之ヲ爲サシム

第九章　時　氣象　民曆

●暴風警報信號所設置

大正十一年七月
總告第百八十五號

左記暴風警報信號所ヲ設置シ大正十一年八月一日ヨリ信號ヲ揭揚ス

位　置	信號ノ種類
全羅南道濟州島右面西歸里	第一種

●同　上

大正十一年九月
總告第二百二十號

左記暴風警報信號所ヲ設置シ大正十一年十月一日ヨリ信號ヲ揭揚ス

位　置	信號ノ種類
慶尙南道統營郡一運面舊助羅里	第一種

●同　上

大正十二年三月
總告第七十八號

左記暴風警報信號所ヲ設置シ大正十二年四月一日ヨリ信號ヲ揭揚ス

位　置	信號ノ種類
慶尙南道南海郡三東面彌助里	第一種

●朝鮮民曆ノ製造竝販賣ニ關スル件

大正十二年四月
總告第百二十二號

朝鮮總督府ニ於テ著作スル朝鮮民曆ハ朝鮮書籍印刷株式會社ヲシテ製造竝販賣セシム
朝鮮民曆ノ定價ハ毎年官報ヲ以テ公告ス

●朝鮮總督府簡易氣象觀測規程ニ依リ簡易氣象觀測ヲ施行スヘキ府郡中改正

大正十二年四月
總告第百四十一號

大正三年朝鮮總督府告示第百八號中大正十二年五月一日ヨリ左ノ通改正ス
全羅南道ノ項中「濟州島」ヲ削リ平安北道ノ項中「義州郡、楚山郡」ヲ加ヘ「定州郡」ヲ削ル

第十章　博物館　展覽會

●朝鮮美術展覽會規程中改正

大正十二年四月
總告第百　四　號

朝鮮美術展覽會規程中左ノ通改正ス
第六條ノ二　朝鮮美術展覽會ニ評議員ヲ置クコトアルヘシ
評議員ハ朝鮮美術展覽會ニ關シ朝鮮總督ノ諮問ニ應シテ意見ヲ陳述ス
評議員ハ朝鮮總督府官吏又ハ美術ニ關シ學識經驗アル者ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命シ又ハ囑託ス

●同　上

大正十二年四月
總告第百三十一號

朝鮮美術展覽會規程中左ノ通改正ス
第八條中「各部ニ付」ヲ「東洋畫、西洋畫、彫刻及書ニ付各」ニ改ム

第十六輯

産　業

第十六輯　產業

第一章　農事

第一款　農事

○水稻採種畓補助規程〔大正一一、六總令九九〕……一

第二章　商事

第一款　銀行　金融組合　無盡業

○指定金融組合中改正〔大正一一、六總告一五〇〕……一
○同上〔大正一一、七總告一八二〕……一
○同上〔大正一一、八總告一九五〕……一
○同上〔大正一一、九總告二〇六〕……一
○同上〔大正一一、九總告二一四〕……一
○金融組合業務監督規程中改正〔大正一一、九總令一二八〕……一

第四款　米穀

○米穀檢査規則改正〔大正一一、七總令一〇四〕……一
○大豆檢査規則改正〔大正一一、七總令一〇五〕……五

第三章　鑛業

○朝鮮鑛業令施行規則中改正〔大正一二、一總令九〕……六
○鑛業ニ關スル技術官派遣規則〔大正一二、一總令八〕……六

第四章　漁業

第一款　漁業令

○漁業令第十五條ニ依ル漁業監督官吏指定ノ件中改正〔大正一一、九總告二二三〕……六
○漁業令施行規則第三十一條ニ依ル第一種許可漁業船數定限ノ件中改正〔大正一一、一一總告二六一〕……六

第二款　水產製品檢査

○海藻及水產製品ノ檢査ヲ行フ稅關及檢査場ノ位置中改正〔大正一二、一總告七〕……六

第三款　水產會

○朝鮮水產會令〔大正一二、一制令一〕……七
○水產會法〔大正一〇、四法律六〇〕……七
○朝鮮水產會令施行規則〔大正一二、二總令二七〕……八

第八章　勸業

第一款　商品陳列館

○朝鮮總督府商品陳列館觀覽時間改正〔大正一一、一一總告二五六〕……九

第九章　特許　意匠　商標

第一款　特許

○特許登錄令中改正〔大正一一、一二勅令五一七〕……一〇
○特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手數料ノ件中改正〔大正一一、一二勅令五一八〕……一〇
○特許登錄令施行規則中改正〔大正一一、一二農令二九〕……一〇
○特許法施行規則中改正〔大正一一、一二農令三〇〕……一一

第二款　意匠

○意匠法施行規則中改正〔大正一一、一二農令三二〕……一一

第三款　實用新案

○實用新案法施行規則中改正〔大正一一、一二農令三一〕……一一

第四款　商標

○商標法施行規則中改正〔大正一一、一二農令三三〕……一一

第十章　度量衡

○度量衡器販賣價格〔大正一二、四總告一〇〇〕……一一

改廢表

頁	公布年	法令	番號	件名	備考
一六四	大正 八	總告	二九	度量衡器販賣價格	大正十二年總告第百號ニテ改正
一六六	大正 九	總告	一六	同上	同上
一六六	大正一〇	總告	一四四	同上	同上

第十六輯　産業

第一章　農事

第一款　農事

●水稻採種畓補助規程

大正十一年六月
總令第九十九號

水稻採種畓補助規程左ノ通定ム

水稻採種畓補助規程

第一條　水稻優良品種ノ普及及種子ノ更新ヲ奬勵スル爲本規程ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ道地方費ニ對シ補助金ヲ交付ス

第二條　補助金ハ農業者ニ配付スヘキ種子ノ育成ヲ目的トスル採種畓ノ經營者ニ道地方費ノ交付スル補助金ニ對シ之ヲ交付ス

第三條　補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ道知事ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ三月末日迄ニ朝鮮總督ニ提出スヘシ

一　水稻優良品種ノ種子更新計畫及之カ爲設置スル系統的採種畓經營ノ方法

二　水稻優良品種ノ普及計畫及之カ爲設置スル系統的採種畓經營ノ方法

三　前二號ニ關スル收支豫算

前項各號ノ事項ニ變更アリタルトキハ道知事ハ直ニ之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第四條　道知事ハ系統的採種畓ノ作況ヲ十二月末日迄ニ、事業成績及收支決算ヲ翌年七月末日迄ニ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第五條　第二條ノ採種畓經營者ニ交付シタル道地方費ノ補助支出額カ第三條ノ添附書類ニ記載シタル豫算額ヨリ減少シタルトキ又ハ事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキハ補助金ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトアルヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年度ニ限リ第三條ノ申請書ノ提出期限ハ大正十一年七月末日迄トス

第二章　商事

第一款　銀行　金融組合　無盡業

●指定金融組合中改正

大正十一年六月
總告第百五十號

大正七年朝鮮總督府告示第二百三十一號中左ノ通改正ス

忠淸北道ノ部「永同金融組合」ヲ「稽山金融組合」ニ、黃海道ノ部「沙里院金融組合」ヲ「鳳山金融組合」ニ改メ忠淸北道ノ部「淸安金融組合」ノ次ニ「梧倉金融組合」ヲ、平安北道ノ部「淸城金融組合」ノ次ニ「楊市金融組合」及「北鎭金融組合」ヲ、咸鏡南道ノ部「下碣金融組合」ノ次ニ「西湖金融組合」ヲ、咸鏡北道ノ部「富居金融組合」ノ次ニ「朱乙金融組合」ヲ加フ

●同　上

大正十一年七月
總告第百八十二號

大正七年朝鮮總督府告示第二百三十一號中左ノ通改正ス

全羅南道ノ部「福內金融組合」ノ次ニ「和順金融組合」ヲ、慶尙南道ノ部「三千浦金融組合」ノ次ニ「內西金融組合」ヲ、黃海道ノ部「康翎金融組合」ノ次ニ「新幕金融組合」ヲ、江原道ノ部「平昌金融組合」ノ次ニ「泉田金融組合」ヲ加フ

●同　上

大正十一年八月
總告第百九十五號

大正七年朝鮮總督府告示第二百三十一號中左ノ通改正ス

忠淸南道ノ部「儒城金融組合」ノ次ニ「全義金融組合」ヲ、平安南道ノ部「軍隅金融組合」ノ次ニ「大平金融組合」及「三登金融組合」ヲ、咸鏡南道ノ部「西湖金融組合」ノ次ニ「新乫坡金融組合」ヲ加ヘ全羅南部ノ部「順天金融組合」ヲ「昇州金融組合」ニ改ム

●同　上

大正十一年九月
總告第二百六號

大正七年朝鮮總督府告示第二百三十一號中左ノ通改正ス

慶尙北道ノ部「尙州金融組合」ヲ「商山金融組合」ニ改メ京畿道ノ部「金村金融組合」ノ次ニ「陽谷金融組合」及「梨浦金融組合」ヲ、全羅北道ノ部「新安城金融組合」ノ次ニ「興德金融組合」ヲ、慶尙北道ノ部「豐四金融組合」ノ次ニ「甘浦金融組合」、「豐基金融組合」及「化寧金融組合」ヲ加フ

●同　上

大正十一年九月
總告第二百十四號

大正七年朝鮮總督府告示第二百三十一號中左ノ通改正ス

慶尙南道ノ部「內西金融組合」ノ次ニ「三浪津金融組合」ヲ加フ

●金融組合業務監督規程中改正

大正十一年九月
總令第百二十八號

金融組合業務監督規程中左ノ通改正ス

第四十三條中「千圓」ヲ「三千圓」ニ、「合計額」ヲ「合計額ノ二倍」ニ改ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四款　米穀

●米穀檢査規則改正

大正十一年七月
總令第百　四　號

（改正　大正一二年三第三三號）

米穀檢査規則左ノ通改正ス

米穀檢査規則

第一條　道知事ノ指定スル地ヨリ朝鮮産ノ玄米又ハ白米ヲ輸出、移出又ハ他ノ道ニ搬出セムトスル者ハ本令ニ依リ檢査ヲ受クヘシ

但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　他ノ地ニ於テ檢査ヲ受ケタルモノ

二　商品見本ニシテ一口一斗未滿ノモノ

三　試驗調査ノ用ニ供シ又ハ博覽會、共進會、品評會等ノ出品ノ用ニ供スルモノニシテ官公署ノ證明アルモノ

第二條　檢査ハ道地方費之ヲ行フ

第三條　檢査ハ左ノ事項ニ付之ヲ行ヒ合格不合格ヲ定ム

一　品質ノ良否

二　乾燥ノ程度

三　石、土、稗、籾、蝦米、青米、死米、赤米、碎米其ノ他ノ夾雜物混入ノ多少

四　異年度産米混淆ノ有無

五　容量及包裝ノ適否

六　前各號ノ外白米ニ在リテハ搗精ノ良否

第四條　檢査ニ合格シタル米ニハ左ノ標準ニ依リ等級ヲ附ス但シ赤米ノ混入割合ニ付テハ道知事ニ於テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

玄米

特等

品　質　優良ナルモノ

乾　燥　十分ナルモノ

夾雜物其ノ他　石、蝦米及異年度産米ノ混入ナク赤米ノ混入一合ニ付五粒以内ニシテ土、稗、籾、青米、死米、碎米其ノ他ノ夾雜物ノ混入百分ノ二以内ノモノ

一等

品質及乾燥　特等ニ次クモノ

夾雜物其ノ他　蝦米及異年度産米ノ混入ナク石ノ混入一升ニ付十粒以內、赤米ノ混入一合ニ付三十粒以内ニシテ土、稗、籾、青米、死米、碎米其ノ他ノ夾雜物ノ混入百分ノ三以内ノモノ

二等

品質及乾燥　一等ニ次クモノ

夾雜物其ノ他　蝦米及異年度産米ノ混入ナク赤米ノ混入一合

		ニ付八十粒以内ニシテ石、土、稗、籾、青米、死米碎米其ノ他ノ夾雑物ノ混入百分ノ五以内ノモノ
三等	品質及乾燥	二等ニ次クモノ
	夾雑物其ノ他	蝦米及異年度產米ノ混入ナク赤米ノ混入一合ニ付百八十粒以内ニシテ石、土、稗、籾、青米、死米、碎米其ノ他ノ夾雑物ノ混入百分ノ六以内ノモノ
四等	品質及乾燥	三等ニ次クモノ
	夾雑物其ノ他	蝦米及異年度產米ノ混入ナク赤米ノ混入一合ニ付百八十粒以内ニシテ石、土、稗、籾、青米、死米、碎米其ノ他ノ夾雑物ノ混入百分ノ六以内ノモノ
白米		
特等	品質	優良ナルモノ
	搗精	優良ニシテ搗粉及糠ノ除去十分ナルモノ
	乾燥	十分ナルモノ
	夾雑物其ノ他	石ノ除去十分ニシテ蝦米、稗、籾其ノ他ノ夾雑物ノ混入ナク碎米ノ混入少キモノ
一等	品質、搗精及乾燥	特等ニ次クモノ
	夾雑物其ノ他	石ノ混入一升ニ付三粒以内ニシテ蝦米ノ混入ナク稗、籾其ノ他ノ夾雑物ノ除去十分ニシテ碎米ノ混入少キモノ
二等	品質、搗精及乾燥	一等ニ次クモノ
	夾雑物其ノ他	石ノ混入一升ニ付七粒以内、蝦米、稗、籾其ノ他ノ夾雑物ノ除去十分ニシテ碎米ノ混入少キモノ
等外	品質、搗精及乾燥	二等ニ次クモノ
	夾雑物其ノ他	石、稗、籾、碎米其ノ他ノ夾雑物ノ混入少キモノ

道知事ハ每年十一月其ノ年ノ產米ヲ以テ前項ノ標準ニ依リ調製シタル標準米ヲ各檢査所ニ備附ケ等級ノ決定ニ資スヘシ

第五條　檢査ヲ受クヘキ米ノ包裝及容量ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

包裝

玄米

構造完全ニシテ一枚ノ重量六百匁以上ノ叺ヲ用ヰ掛縄ハ一尋十一匁以上ノ擦縄二筋ヲ用ヰ横縄四箇所縦縄二箇所トシ縦縄ハ兩端ノ横縄ニ本掛トス但シ第七條第四項ニ規定スル場合ニ於テハ横縄三箇所縦縄一箇所トス

白米

叺入又ハ布袋入トシ叺入ニ付テハ玄米ニ準シ布袋ニ付テハ構造强靭ニシテ一枚ノ重量三十五匁以上ノ布袋ヲ用ヰ掛縄ハ一尋十一匁以上ノ擦縄二筋ヲ用ヰ横縄二箇所縦縄一箇所トシ縦縄ハ横縄ニ本掛トス

容量

玄米　一叺ニ付四斗

白米　叺入一叺ニ付四斗、布袋入一袋ニ付二斗

道知事ハ特別ノ事由アルトキハ前項ノ規定ニ異リタル標準ニ依ラシムルコトヲ得

第六條　前二條ノ標準ニ該當セサル米ハ不合格トス

第七條　不合格米ハ之ヲ輸出、移出又ハ他ノ道ニ搬出スルコトヲ得ス

等外ノ白米ハ之ヲ輸出又ハ移出スルコトヲ得ス

特別ノ必要アルトキハ道知事ノ許可ヲ受ケ前二項ノ規定ニ拘ラス白米ヲ輸出、移出又ハ他ノ道ニ搬出スルコトヲ得

非常災害ノ爲廣キ地域ニ亙リ多量ノ災害米ヲ生シタルトキハ道知事ノ許可ヲ受ケ第一項ノ規定ニ拘ラス其ノ玄米ヲ他ノ道ニ搬出スルコトヲ得

第八條　品質、搗精ノ良否、乾燥ノ程度、夾雑物混入ノ多少及異年度產米混淆ノ有無ノ檢査ハ叺入ニ在リテハ見刺法ニ依リ布袋入ニ在リテハ解口シテ之ヲ行フ但シ檢査員必要ト認ムルトキハ解裝シテ之ヲ行フコトヲ得

石ノ粒數檢査ニ付テハ檢査請求叺又ハ袋中相當數ノ叺又ハ袋ヨリ一升以上ヲ抽出シ粒選シテ之ヲ行フ

解裝及復裝ニ要スル費用ハ檢査請求人ノ負擔トス

第九條　檢査ハ請求ノ順序ニ從ヒ日出ヨリ日沒迄ノ間ニ檢査所ニ於テ之ヲ行フ但シ特別ノ事由ニ因リ檢査請求人ノ請求アリタルトキハ現品所在地ニ就キ之ヲ行フコトヲ得

第十條　檢査ニ從事スル者其ノ職務ヲ行フトキハ第一號樣式ノ證票ヲ携帶スヘシ

第十一條　檢査ヲ爲シタル米ニハ其ノ包裝ニ第二號樣式ノ檢査證印及第三號樣式ノ道名記號ヲ押捺ス但シ第七條第三項ニ規定スル米ニハ其ノ包裝ニ第四號樣式ノ檢査證印ヲ、第七條第四項ニ規定スル米ニハ其ノ包裝ニ第四號樣式ノ二ノ檢査證印ヲ押捺ス

檢査ヲ爲シタル玄米ニシテ石ノ混入ナシト認ムルモノニハ檢査請求人ノ請求ニ依リ第五號樣式ノ石拔證印ヲ押捺ス

第一項ノ檢査證印及道名記號ノ外合格シタル米又ハ第一項但書ノ檢査證印アル米ニハ第六號樣式ノ封箋紙ヲ縦縄ノ結止ニ卷附ケ之ニ第七號樣式ノ日附印ヲ押捺ス

第十二條　檢査員必要ト認ムルトキハ再檢査ヲ行フコトヲ得

前項ノ檢査ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條　檢査ヲ爲シタル米ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ更ニ檢査ヲ受クルニ非サレハ輸出、移出又ハ他ノ道ニ搬出スルコトヲ得ス

一　包裝ヲ更メタルモノ
二　檢査證印又ハ道名記號ノ磨滅若ハ汚損シテ識別シ難キモノ
三　封箋紙ノ毀損シタルモノ
四　變質其ノ他異狀ヲ呈シタルモノ

第十四條　前二條ニ規定スル檢査ヲ爲シタルトキハ前檢査ノ決定ヲ取消スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ取消シタルトキハ第八號樣式ノ消印ヲ押捺ス

第十五條　檢査ノ決定ニ對シテハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第十六條　檢査證印又ハ道名記號アル空叺又ハ空袋ハ其ノ證印又ハ記號ヲ抹消スルニ非サレハ輸出、移出又ハ他ノ道ニ搬出スル米ノ包裝ニ使用スルコトヲ得ス

第十七條　檢査ニ從事スル吏員ニ於テ本令違反ノ疑アリト認ムルトキハ米ノ運搬ノ停止又ハ積戻ヲ命スルコトヲ得

第十八條　輸出、移出又ハ他ノ道ニ搬出セムトスル米ノ包裝ニハ檢査證印、道名記號又ハ消印類似ノ商標、記號其ノ他ノ標記ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第一條、第七條第一項、第二項若ハ第十三條ノ規定ニ違反シタル者
二　檢査ヲ免ルル目的ヲ以テ不正ノ行爲ヲ爲シタル者
三　檢査ヲ爲シタル米、其ノ包裝若ハ容量、檢査證印、道名記號又ハ封箋紙ニ不正ノ手段ヲ施シタル者

第二十條　第十二條第二項、第十六條若ハ第十八條ノ規定ニ違反シ又ハ第十七條ノ命令ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十一條　本令ニ依リ處罰ヲ受クヘキ者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ニ依リ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ本人ノ指揮ニ出テサルモノト雖其ノ罰則ヲ本人ニ適用ス

法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第二十二條　本令ハ當分ノ內江原道及咸鏡北道ニ之ヲ適用セス

附　則

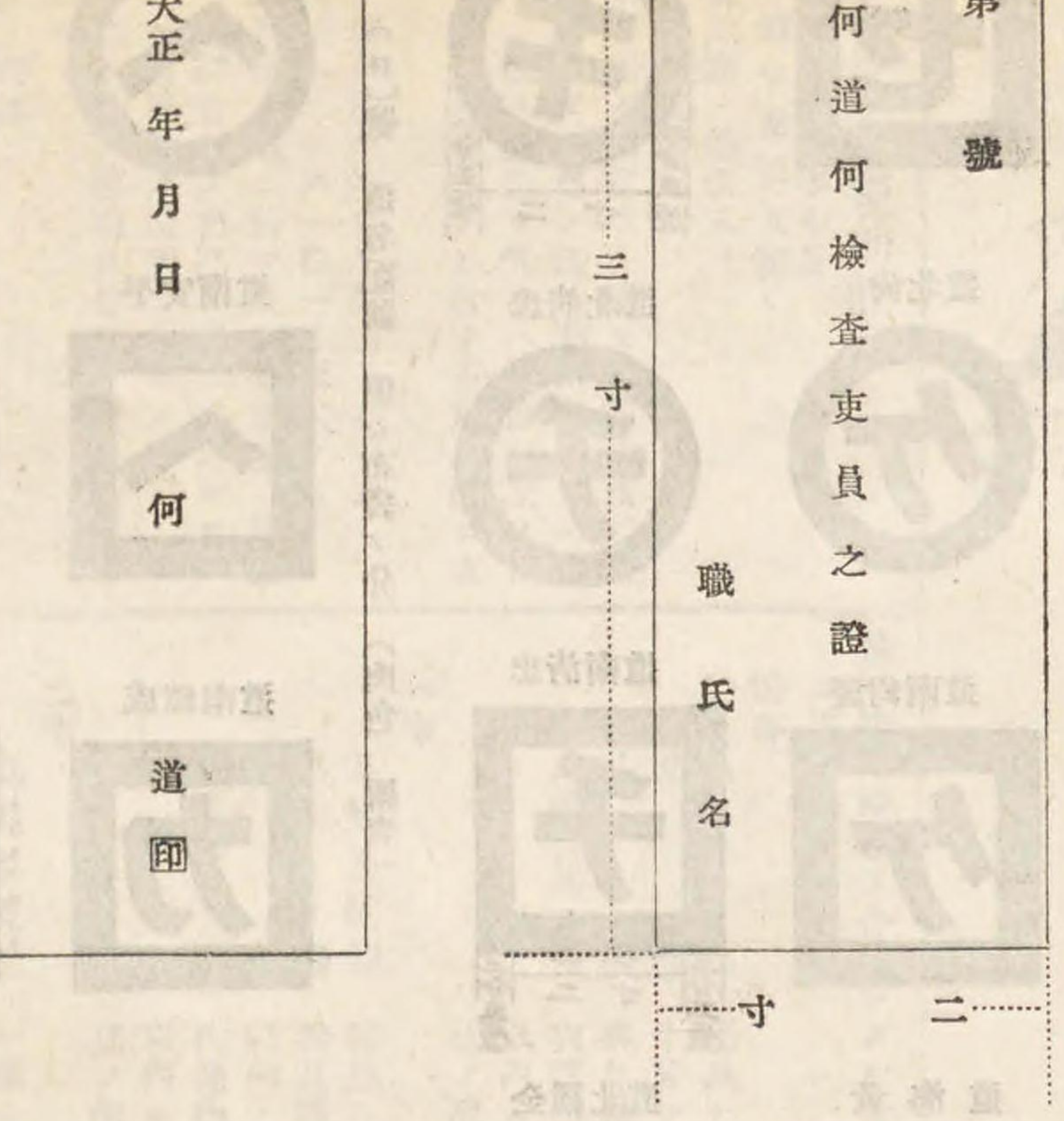
本令ハ大正十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前舊令ニ依リ檢査ヲ受ケ合格シタル米ハ本令ノ檢査ニ合格シタルモノト看做ス

本令施行前舊令ニ依リ檢査ヲ受ケ合格シタル玄米ヲ輸出、移出又ハ他ノ道ニ搬出セムトスル者ハ其ノ旨檢査所ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ檢査所ハ第九號樣式ノ記號ヲ押捺スヘシ

第一號樣式　檢査吏員之證



表面

第　號

何道何檢査吏員之證

職　氏名

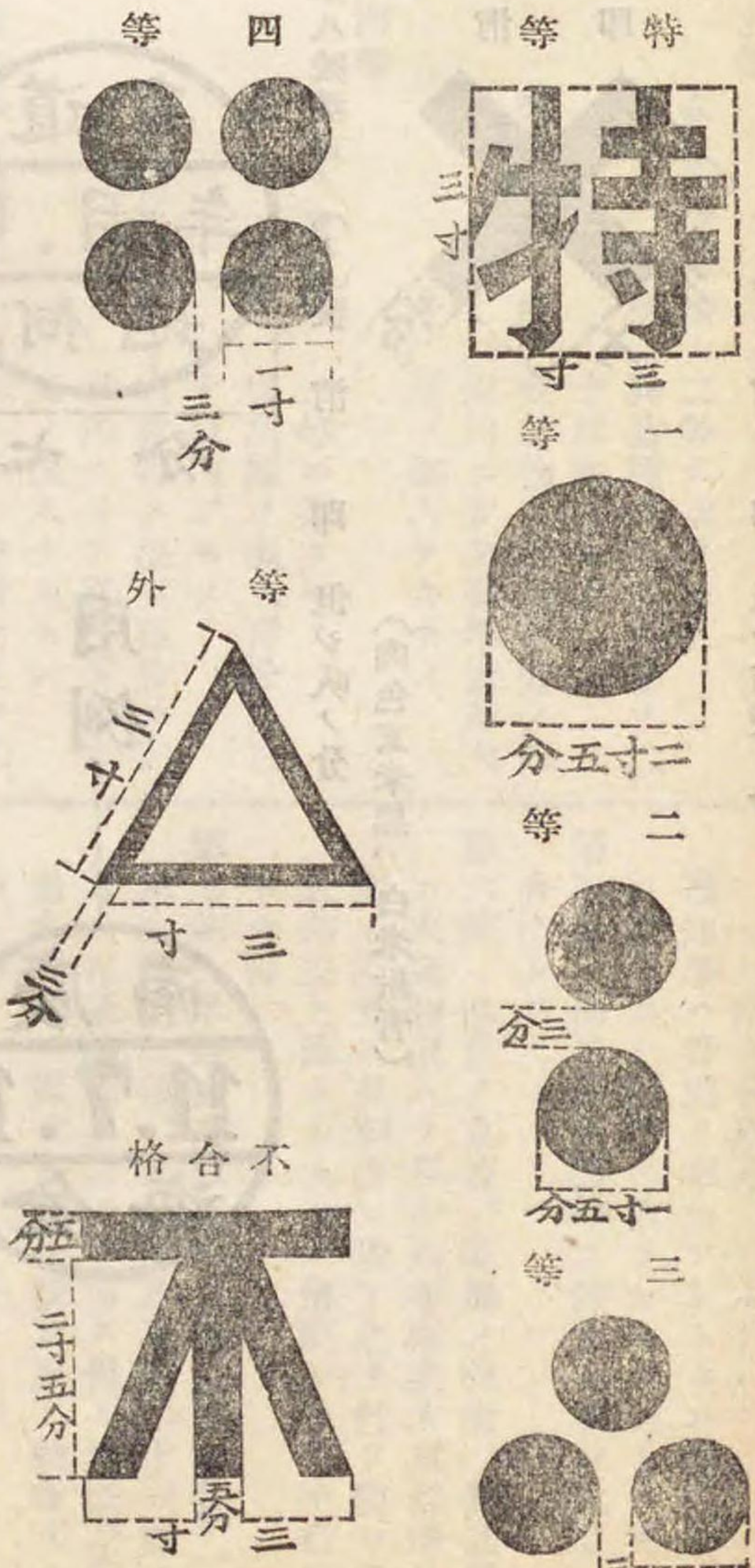
裏面

大正　年　月　日

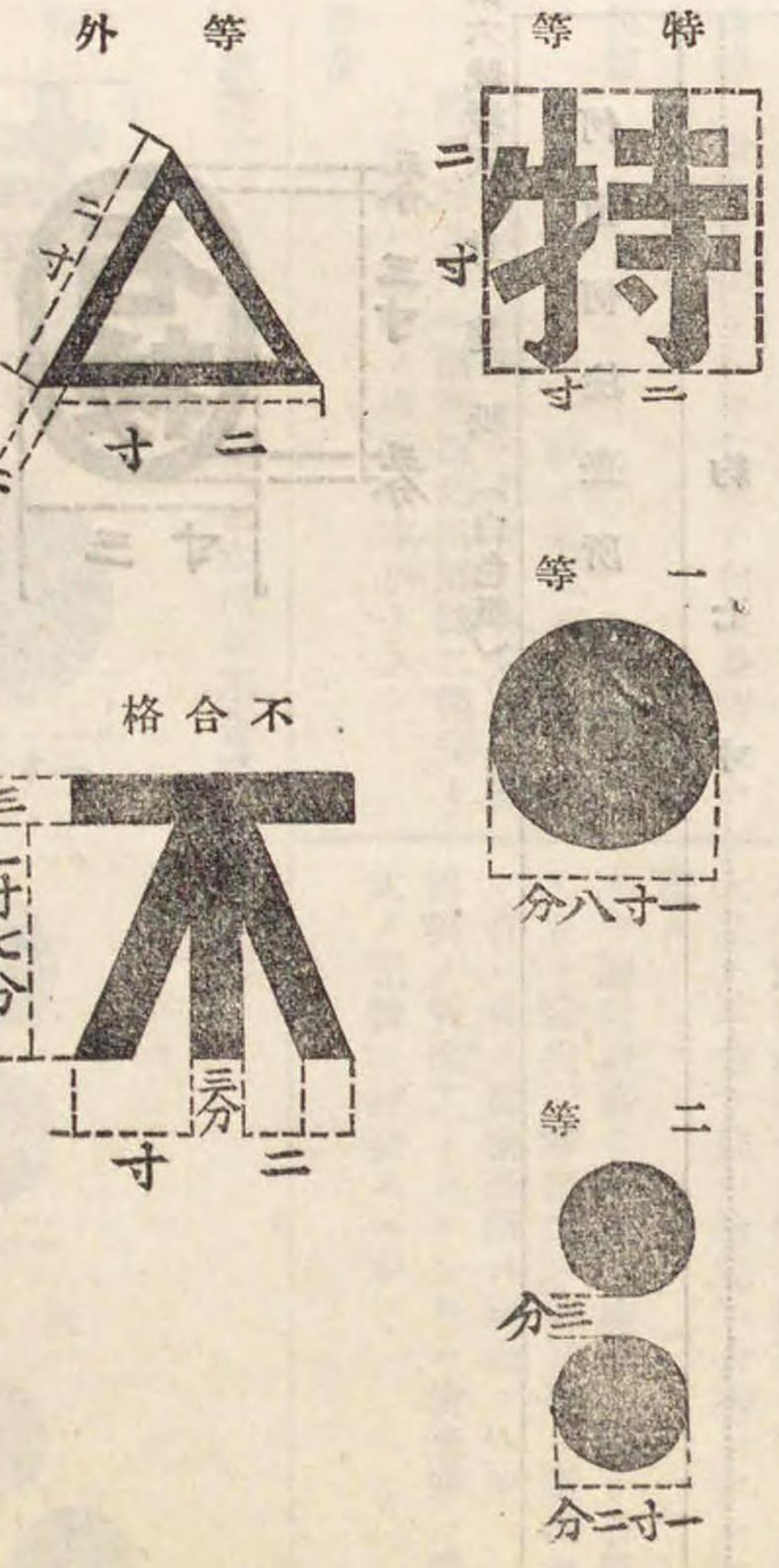
何道

道印

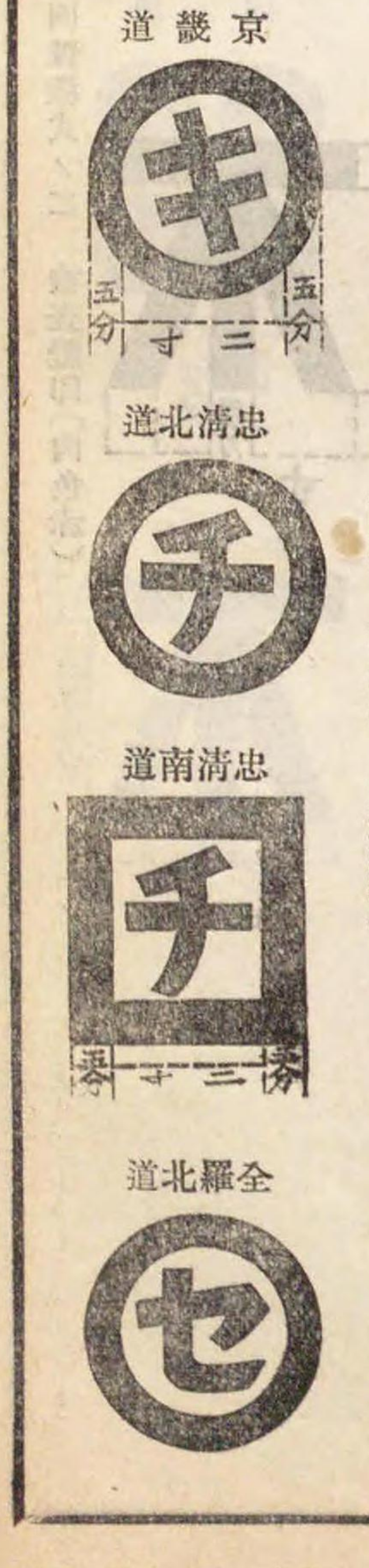
第二號樣式（イ）號　檢査證印　但シ叺ノ分（肉色　玄米黒、白米紺青）

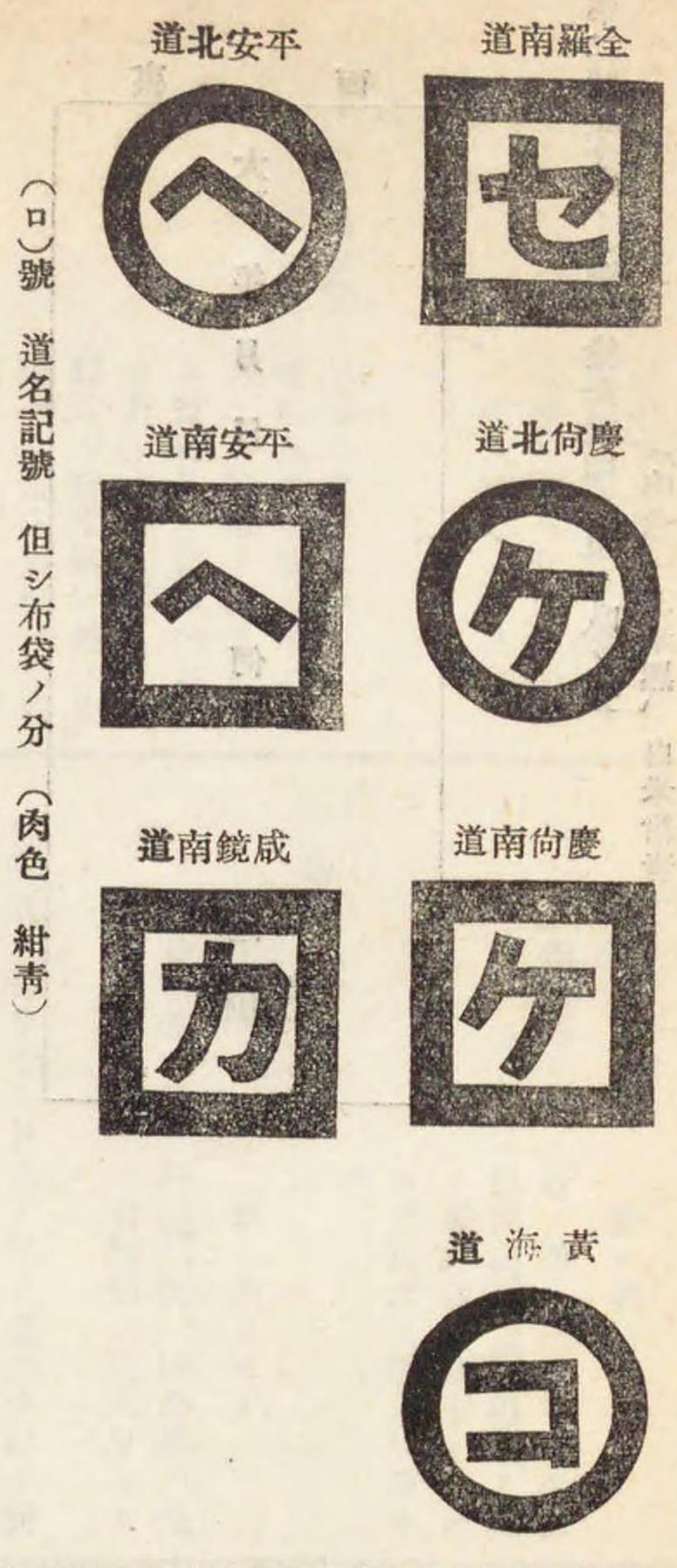


（ロ）號　檢査證印　但シ布袋ノ分（肉色　紺青）

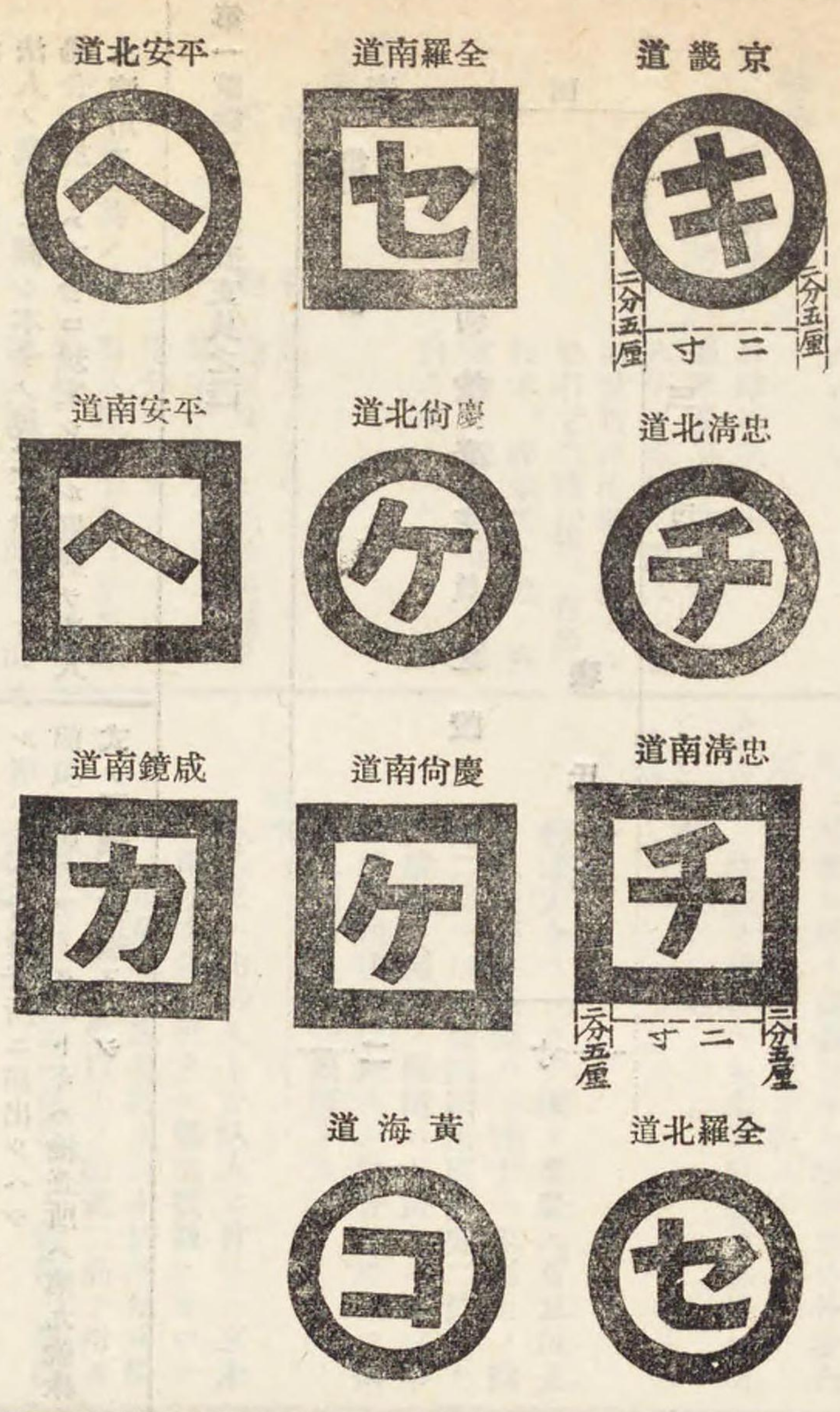


第三號樣式（イ）號　道名記號　但シ叺ノ分（肉色　玄米黒、白米紺青）

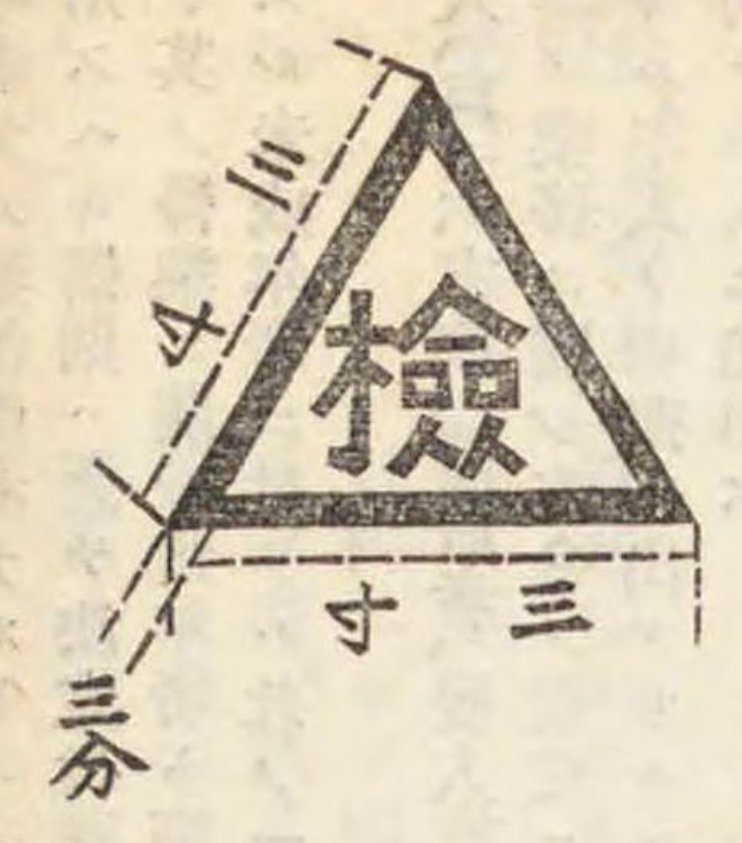



全羅南道
セ
平安北道
ヘ
慶尙北道
ケ
平安南道
ヘ
慶尙南道
ケ
咸鏡南道
カ
黃海道
コ

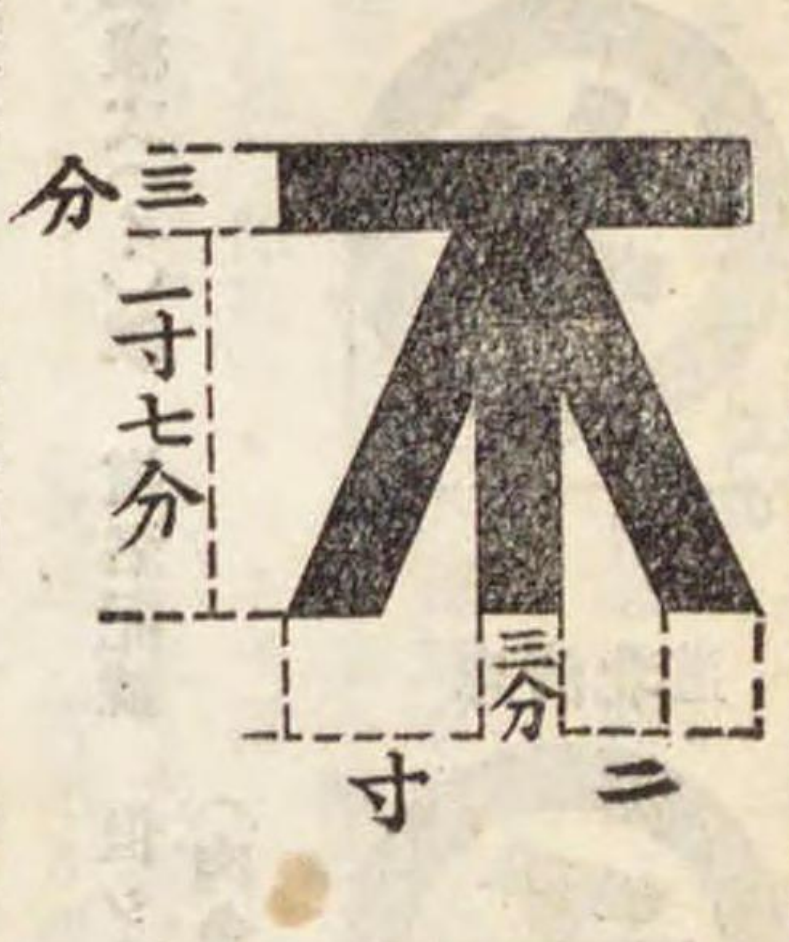
（ロ）號　道名記號　但シ布袋ノ分　（肉色　紺青）


京畿道
キ
二分五厘
二寸
二分五厘
全羅南道
セ
平安北道
ヘ
忠淸北道
チ
慶尙北道
ケ
平安南道
ヘ
咸鏡南道
カ
慶尙南道
ケ
忠淸南道
チ
二分五厘
二寸
二分五厘
全羅北道
セ
黃海道
コ

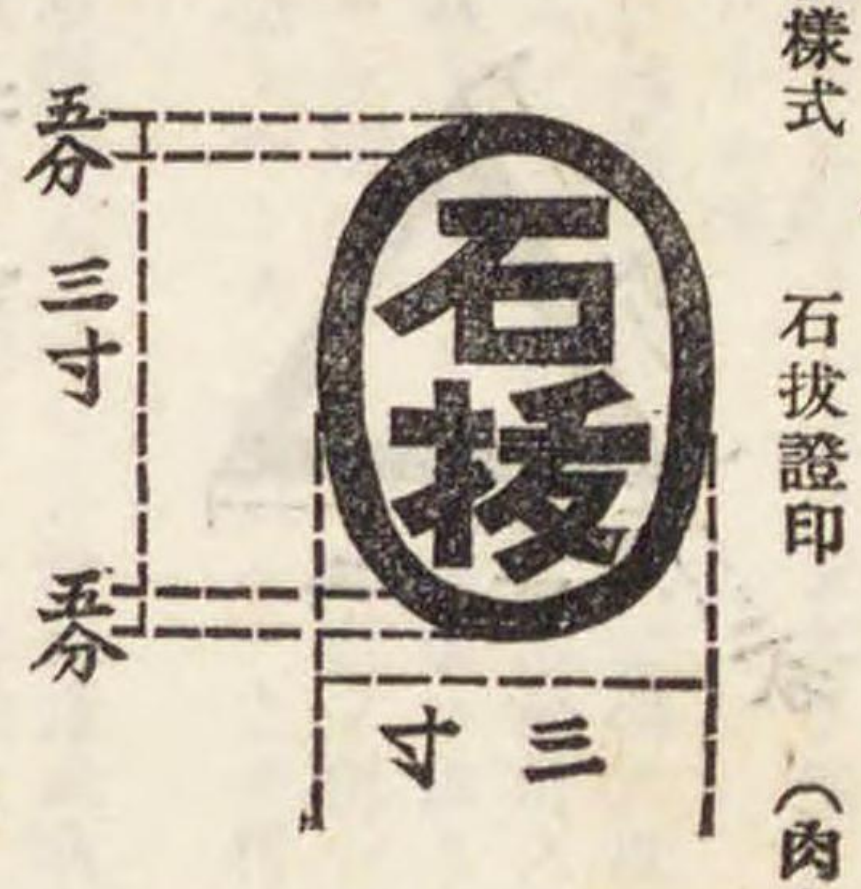
第四號樣式　檢查證印　（肉色　紺青）



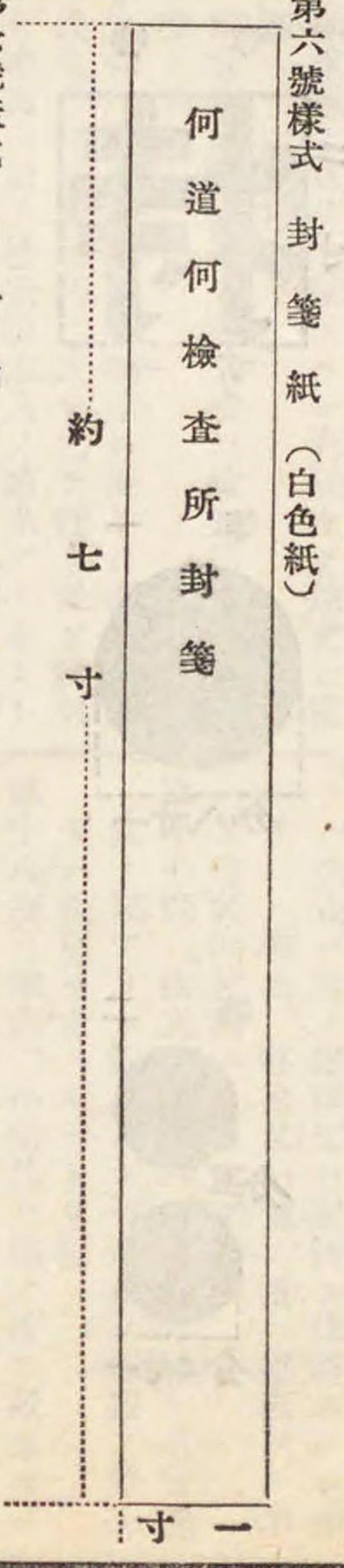
第四號樣式ノ二　檢查證印（肉色赤）


三分
一寸七分
二寸
三分

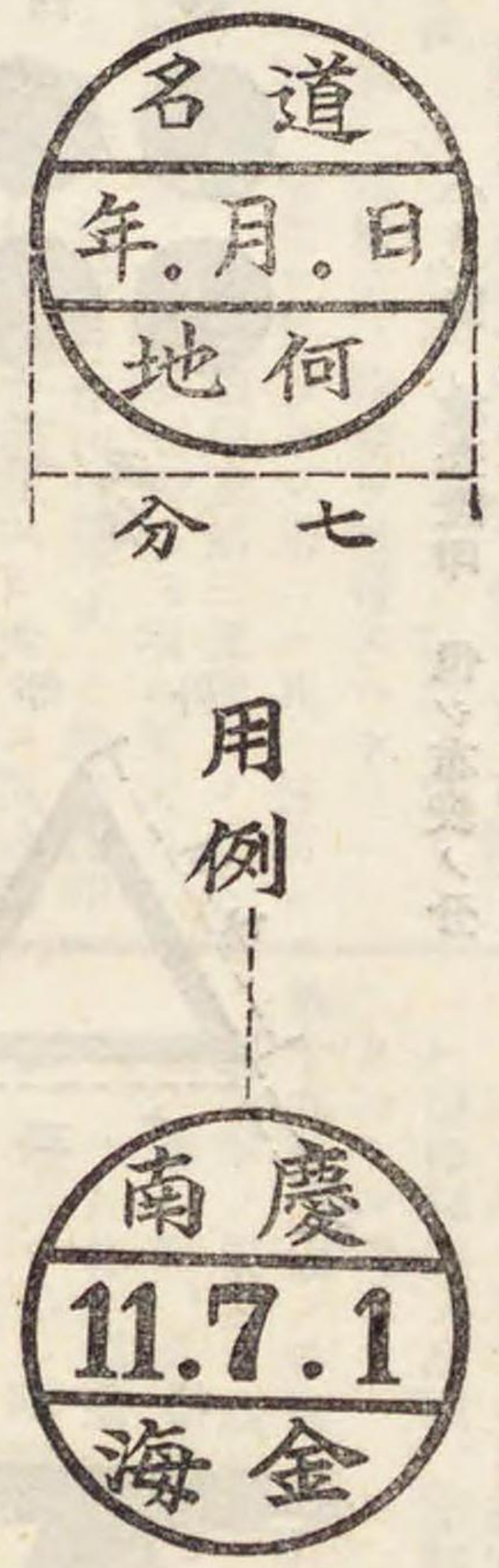
第五號樣式　石拔證印　（肉色　青）


石拔
三分
三寸
三分
三寸

第六號樣式　封箋紙　（白色紙）

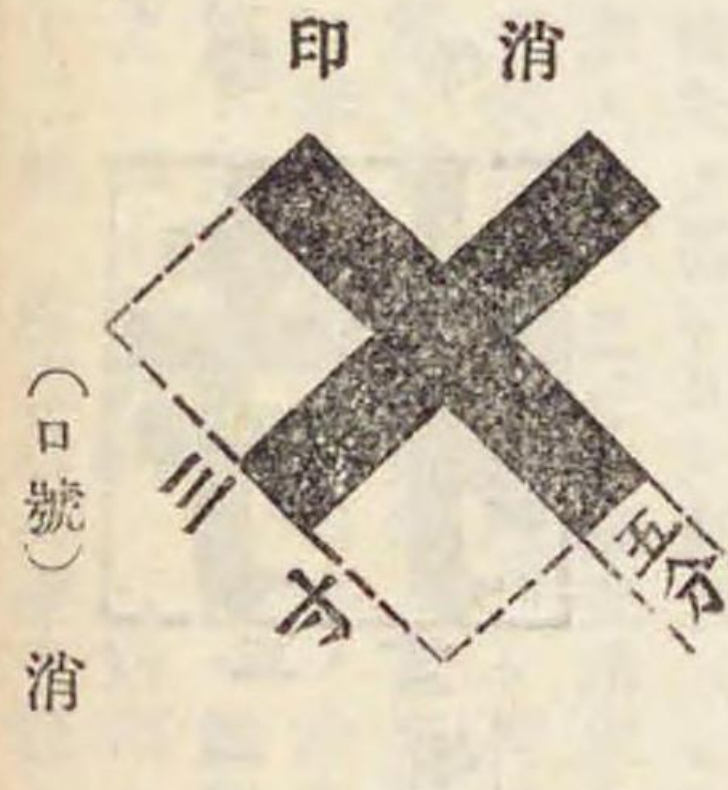

何道何檢查所封箋
約七寸
一寸

第七號樣式　日附印


道名
年.月.日
何地
七分
用例
慶南
11.7.1
金海

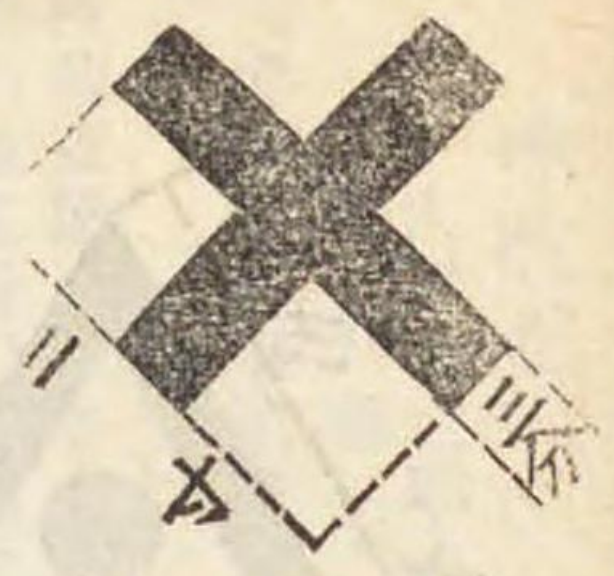
第八號樣式　（イ）號　消印　但シ叺ノ分　（肉色玄米黑、白米紺青）

消印



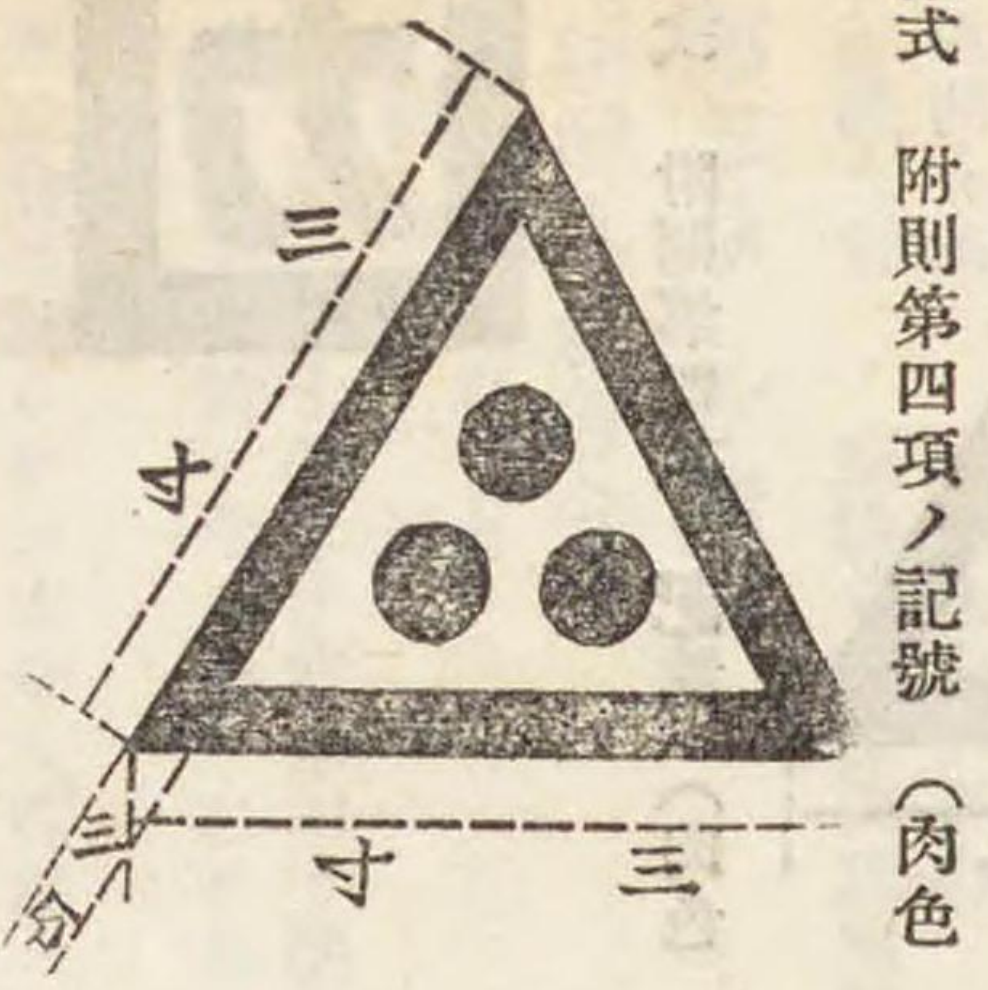
（ロ號）　消印　但シ布袋ノ分

消印



（肉色紺青）

第九號樣式　附則第四項ノ記號　（肉色　黑）



●大豆檢查規則改正

大正十一年七月　總令第百五號

大豆檢查規則左ノ通改正ス

大豆檢查規則

第一條　道知事ノ指定スル地ヨリ朝鮮產大豆ヲ輸出、移出又ハ他ノ道ニ搬出セムトスル者ハ本令ニ依リ檢查ヲ受クヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　他ノ地ニ於テ檢查ヲ受ケタルモノ
二　商品見本ニシテ一口一斗未滿ノモノ
三　試驗調查ノ用ニ供シ又ハ博覽會、共進會、品評會等ノ出品ノ用ニ供スルモノニシテ官公署ノ證明アルモノ

第二條　檢查ハ左ノ事項ニ付之ヲ行ヒ合格不合格ヲ定ム

一　品質ノ良否
二　乾燥ノ程度
三　異品種混入ノ多少
四　夾雜物混入ノ多少及異年度產大豆混淆ノ有無
五　容量及包裝ノ適否

第三條　檢查ニ合格シタル大豆ニハ左ノ標準ニ依リ等級ヲ附ス

特等	品質	優良ナルモノ
	乾燥	十分ナルモノ
	品種	異品種ノ混入ナキモノ
	夾雜物其ノ他	夾雜物ノ混入百分ノ一以内ニシテ異年度產大豆ノ混入ナキモノ
一等	品質及乾燥	特等ニ次クモノ
	品種	異品種ノ混入百分ノ五以内ノモノ
	夾雜物其ノ他	夾雜物ノ混入百分ノ二以内ニシテ異年度產大豆ノ混入ナキモノ
二等	品質及乾燥	一等ニ次クモノ
	品種	異品種ノ混入百分ノ十以内ノモノ
	夾雜物其ノ他	夾雜物ノ混入百分ノ三以内ニシテ異年度產大豆ノ混入ナキモノ
三等	品質及乾燥	二等ニ次クモノ
	品種	異品種ノ混入百分ノ二十以内ノモノ
	夾雜物其ノ他	夾雜物ノ混入百分ノ四以内ニシテ異年度產大豆ノ混入ナキモノ
四等	品質及乾燥	三等ニ次クモノ
	品種	異品種ノ混入百分ノ三十以内ノモノ
	夾雜物其ノ他	夾雜物ノ混入百分ノ五以内ニシテ異年度產大豆ノ混入ナキモノ

道知事ハ毎年十一月其ノ年ニ生產シタル大豆ヲ以テ前項標準ニ依リ調製シタル標準大豆ヲ各檢查所ニ備附ケ等級ノ決定ニ資スヘシ

第四條　檢查ヲ受クヘキ大豆ノ包裝及容量ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

包裝	構造完全ニシテ一枚ノ重量六百匁以上ノ叺ヲ用ヰ掛繩ハ一尋十一匁以上ノ捺繩二筋ヲ用ヰ横繩四箇所縱繩二箇所トシ縱繩ハ兩端ノ横繩ニ本掛トス
容量	一叺ニ付四斗

道知事ハ特別ノ事由アルトキハ前項ノ規定ニ異リタル標準ニ依ラシムルコトヲ得

第五條　前二條ノ標準ニ該當セサル大豆ハ不合格トス

第六條　品質ノ良否、乾燥ノ程度、異品種又ハ夾雜物混入ノ多少異年度產大豆混淆ノ有無ノ檢查ハ見刺法ニ依リ之ヲ行フ但シ檢查員必要ト認ムルトキハ解裝シテ之ヲ行フコトヲ得

第七條　米穀檢查規則第二條、第七條第一項、第八條第三項、第九條乃至第二十一條ノ規定ハ大豆檢查ニ之ヲ準用ス但シ檢查證印及道名記號ノ樣式ハ第一號及第二號樣式ニ依ルヘシ

附則

本令ハ大正十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

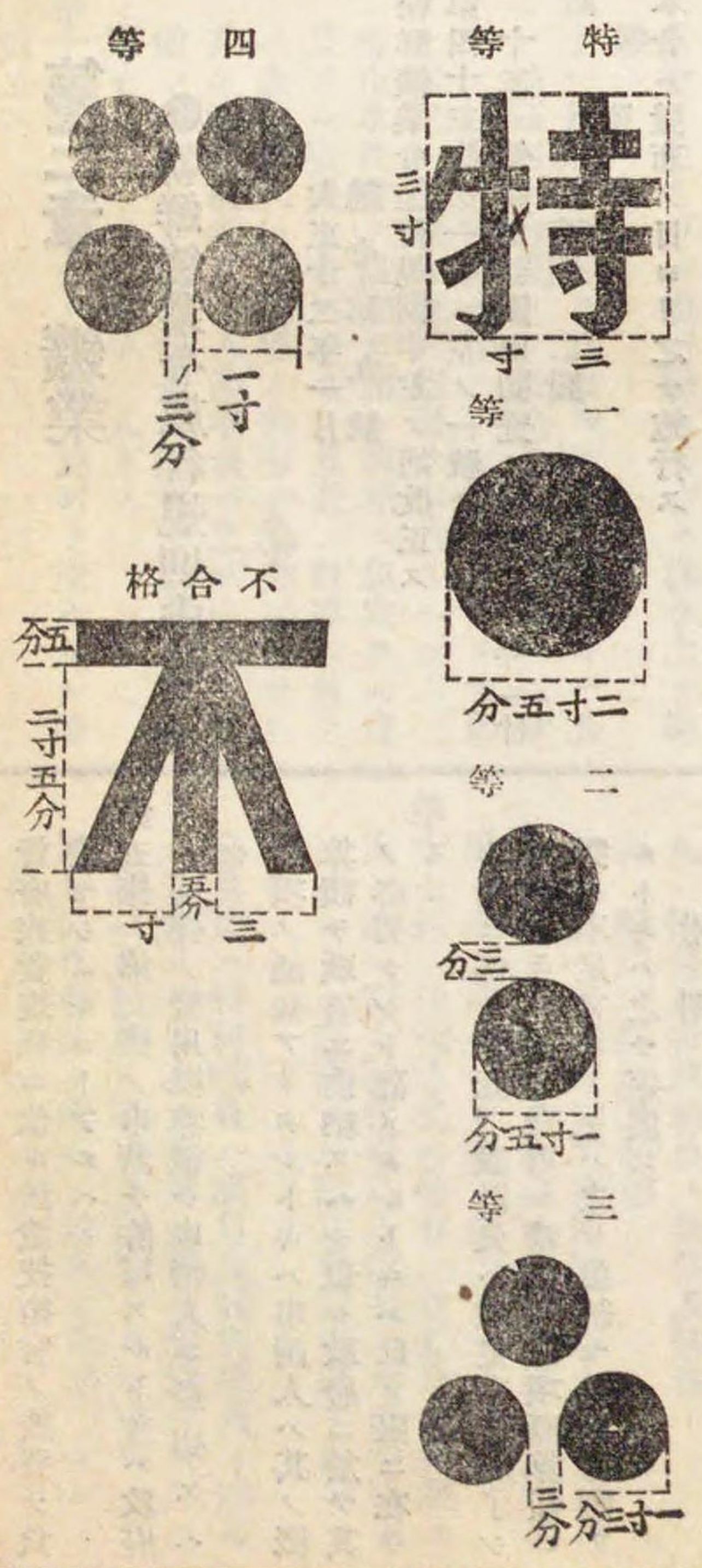
本令施行前舊令ニ依リ檢查ヲ受ケ合格シタル大豆ハ本令ニ依ル檢查ニ合格シタルモノト看做ス

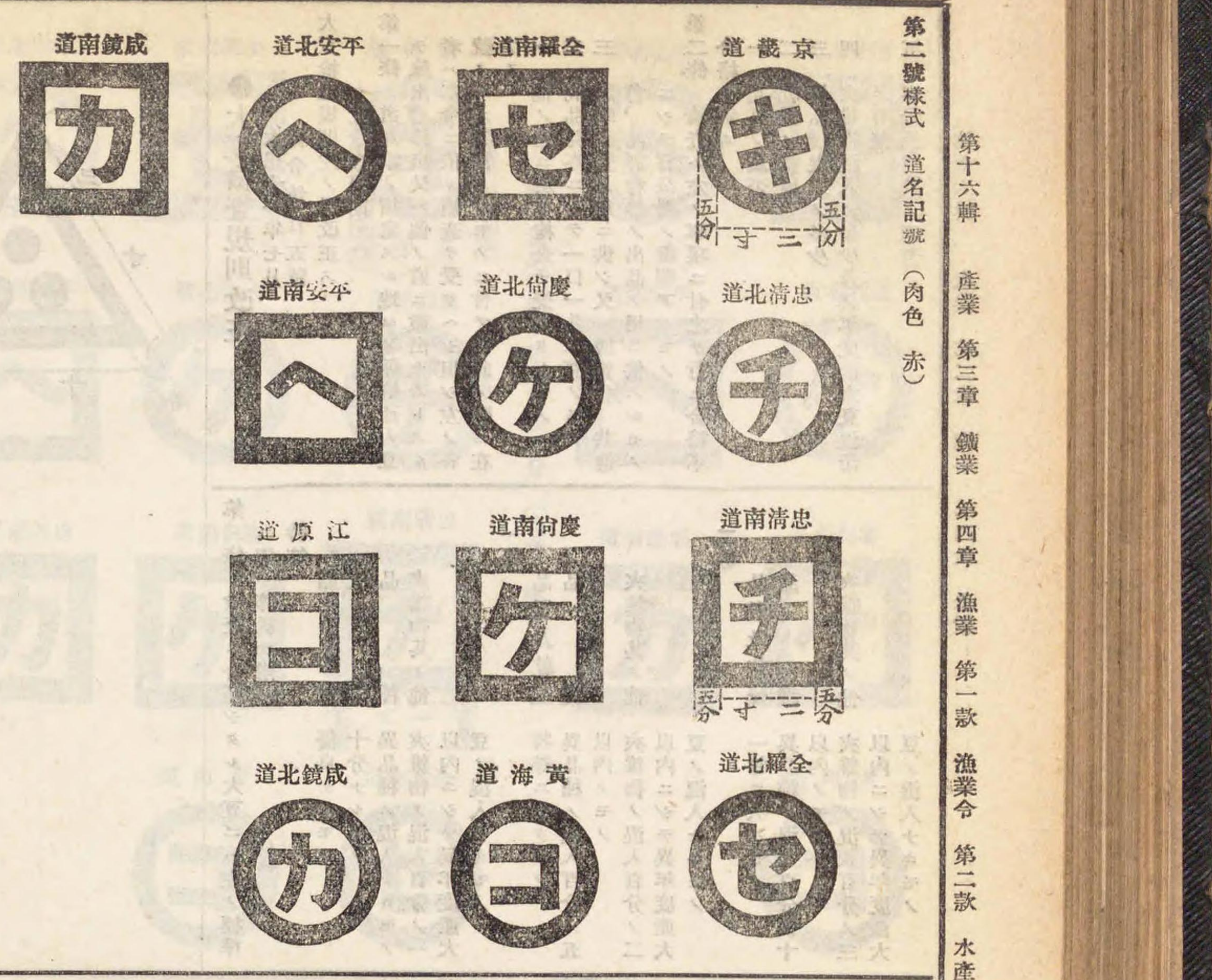
大豆ハ本令ニ依ル檢查ニ合格シタルモノト看做ス

本令施行前舊令ニ依リ檢查ヲ受ケ合格シタル大豆ヲ輸出、移出又ハ他ノ道ニ搬出セムトスル者ハ其ノ旨檢查所ニ屆出ツヘシ

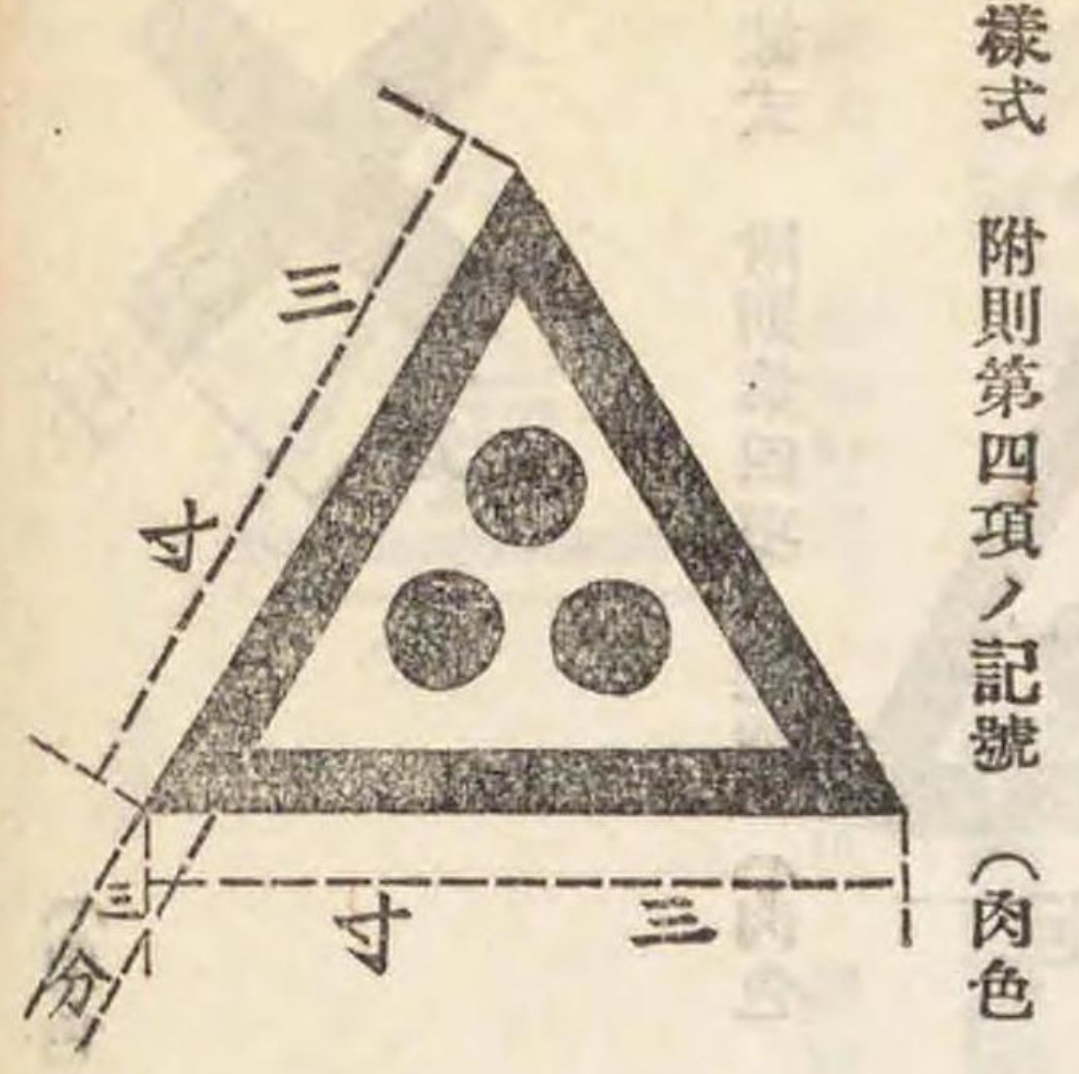
前項ノ屆出アリタルトキハ檢查所ハ第三號樣式ノ記號ヲ押捺スヘシ

第一號樣式　檢查證印　（肉色赤但シ不合格ニ限リ黑）


特等
特
三寸
三寸
一等
二寸五分
二等
一寸五分
三等
一寸三分
四等
一寸
三分
不合格
五分
二寸五分
三分
三寸



第二號樣式　道名記號（肉色　赤）



第三號樣式　附則第四項ノ記號（肉色　赤）

第三章　鑛業、

●朝鮮鑛業令施行規則中改正

大正十二年一月　總令第九號

朝鮮鑛業令施行規則中左ノ通改正ス

第四十三條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

十三　鑛業出願圖面閱覽ノ請求　一件ニ付每一時間　二圓

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●鑛業ニ關スル技術官派遣規則

大正十二年一月　總令第八號

鑛業ニ關スル技術官派遣規則左ノ通定ム

鑛業ニ關スル技術官派遣規則

第一條　鑛業技術ニ關スル調査、設計又ハ鑑定ヲ求ムル爲必要アルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ技術官ノ派遣ヲ申請スルコトヲ得但シ朝鮮鑛業令施行規則中別段ノ規定アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　技術官派遣ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

一　申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
二　申請ノ目的タル事項
三　調査、設計又ハ鑑定スヘキ箇所
四　派遣ヲ受ケムトスル期間

前項ノ書面ハ地方官廳ヲ經由セス直ニ朝鮮總督府鑛務課ニ提出スヘシ

第三條　調査、設計又ハ鑑定ヲ爲スヘキ箇所カ他人ノ鑛區ナルトキ又ハ他人ノ鑛區ニ跨ルトキハ前條ノ申請書ニ關係鑛業權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ

第四條　技術官派遣ニ伴フ器具、機械費、通信運搬費、通辯費、人夫費、其ノ他事務遂行ニ直接必要ナル費用ハ申請人ノ負擔トス

前項ニ定ムル費用ノ外申請人ヲシテ朝鮮總督府旅費規程ニ依ル派遣技術官ノ旅費ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

第五條　第二條ノ申請ヲ許可スルトキハ政府ハ前條ノ費用概算額ヲ申請人ニ通知スヘシ

前項ノ通知アリタルトキハ申請人ハ其ノ概算額ヲ政府ニ前納スヘシ但シ政府ニ於テ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

申請ニ係ル調査、設計又ハ鑑定事務終了シタルトキハ其ノ費用ヲ精算シ前項概算額ニ對シ不足アルトキハ之ヲ追納セシメ過剩アルトキハ之ヲ返戻ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四章　漁業

第一款　漁業令

●漁業令第十五條ニ依ル漁業監督官吏指定ノ件中改正

大正十一年九月　總告第二百二十三號

明治四十四年朝鮮總督府告示第二百四十九號中「道府郡」ノ下ニ「島」ヲ加フ

●漁業令施行規則第三十一條ニ依ル第一種許可漁業船數定限ノ件中改正

大正十一年十一月　總告第二百六十一號

大正六年朝鮮總督府告示第二百四十七號中「十艘」ヲ「十二艘」ニ改ム

第二款　水產製品檢査

●海藻及水產製品ノ檢査ヲ行フ稅關及檢査場ノ位置

中改正

大正十二年一月　總告第七號

大正七年朝鮮總督府告示第百三十五號中左ノ通改正ス

清津稅關支署ノ項ヲ左ノ如ク改メ備考中「同道慶興郡雄基面、」ヲ削ル

清津稅關支署　咸鏡北道清津府
雄基稅關支署　咸鏡北道慶興郡雄基面

第三款　水產會

●朝鮮水產會令

大正十二年一月　制令第一號

朝鮮水產會令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮水產會令

第一條　水產會ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外水產會法ニ依ル但シ同法第七條乃至第十條、第二十條第二項及第三項、第二十六條第二項乃至第四項、第二十七條、第三十條乃至第三十二條竝第三十七條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

水產會法中郡市水產會トアルハ道水產會トス

第二條　水產會ハ道水產會及朝鮮水產會トス

水產會ノ地區ハ道水產會ニ在リテハ道、朝鮮水產會ニ在リテハ朝鮮ノ區域ニ依ル

第三條　水產會ノ名稱ニハ道水產會又ハ朝鮮水產會ナル文字ヲ用ヰルヘシ

本令ニ依リ設立シタル水產會ニ非サレハ其ノ名稱中ニ前項ニ揭クル文字ヲ用ヰルコトヲ得ス

第四條　水產會ハ道水產會ニ在リテハ別ニ朝鮮總督ノ定ムル者ヲ除クノ外其ノ地區內ニ於テ漁業又ハ水產物ノ製造、取引若ハ保管ノ業ヲ營ム者及其ノ地區內ニ於ケル漁業權ヲ有スル者、朝鮮水產會ニ在リテハ道水產會ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　水產會ハ經費又ハ過怠金ノ徵收ヲ府面ニ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ水產會ハ府面ノ徵收シタル金額ノ百分ノ五ヲ其ノ府面ニ交付スヘシ

避クヘカラサル災害ニ因リ府面既收ノ前項ニ規定スル經費又ハ過怠金ヲ失ヒタルトキハ水產會ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ府面ニ對シ其ノ納入ノ義務ヲ免除スヘシ

第六條　經費又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立及裁決ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第七條　經費及過怠金ノ督促、滯納處分、追徵、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ府面ノ徵收金ニ次クモノトス

第八條　水產會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ使用料及手數料ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ使用料及手數料ノ徵收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條　水產會解散ヲ爲サムトスルトキハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ規定スル會員ノ員數ノ計算ニ付テハ水產會法第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム（大正十二年二月總令第二十六號ニ依リ大正十二年四月一日ヨリ施行）

本令施行ノ際現ニ存スル朝鮮水產組合各道支部ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケ之ヲ本令ニ依ル道水產會ト爲スコトヲ得

●水產會法

大正十年四月　法律第六十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル水產會法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水產會法

第一條　水產會ハ水產業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　水產會ハ法人トス

第三條　水產會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　政府ハ其ノ定ムル條件ヲ具備スル水產會ニ豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第五條　水產會ハ水產業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

水產會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

第六條　行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ水產會ニ對シ水產業ニ關スル報告書ノ提出及水產業ニ關スル事項ノ調査ヲ命スルコトヲ得

第七條　水產會ハ郡市水產會、道府縣水產會及帝國水產會トス

第八條　水產會ノ地區ハ郡市水產會ニ在リテハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外郡市、道府縣水產會ニ在リテハ道府縣、帝國水產會ニ在リテハ內地ノ區域ニ依ル

第九條　水產會ノ名稱ニハ郡若ハ市水產會、道、府若ハ縣水產會又ハ帝國水產會ナル文字ヲ用ヰルヘシ但シ郡市水產會ノ地域カ郡又ハ市ノ區域ニ依ラサルトキハ其ノ名稱中ニ郡又ハ市ノ文字ヲ用ヰサルコトヲ得

本法ニ依リ設立シタル水產會ニ非サレハ其ノ名稱中ニ前項ニ揭クル文字ヲ用ヰルコトヲ得ス

第十條　水產會ハ郡市水產會ニ在リテハ命令ヲ以テ規定シタル者ヲ除クノ外其ノ地區內ニ於テ漁業又ハ水產物ノ製造、取引若ハ保管ノ業ヲ營ム者及其ノ地區內ニ於ケル漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者、道府縣水產會ニ在リテハ其ノ地區內ノ郡市水產會、帝國水產會ニ在リテハ道府縣水產會ヲ以テ之ヲ組織ス

第十一條　水產會ヲ設立セムトスルトキハ其ノ地區內ノ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ會則ヲ議定シ行政官廳ノ認可ヲ申請スヘシ

郡市水產會ノ設立ニ關シ前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ漁業權又ハ入漁權ノ共有ノ場合ニ於テハ其ノ漁業權者又ハ入漁權者ハ之ヲ一人ト看做シ、一人ニシテ前條ニ揭クル二以上ノ資格ヲ有スル者ハ之ヲ一人トス

第十二條　水產會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第十三條　水產會成立シタルトキハ其ノ地區內ノ會員タル資格ヲ有スル者ハ總テ之ニ加入シタルモノト看做ス但シ特別ノ事由ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　郡市水產會ニ總代會、其ノ他ノ水產會ニ總會ヲ置ク

總代會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ選任シタル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員タル水產會ノ選任シタル議員及特別議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十五條　水產會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル特別議員ヲ置クコトヲ得

行政官廳ハ水產會ノ特別議員ヲ命スルコトヲ得但シ其ノ員數ハ議員定數ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　左ニ揭クル事項ハ總代會又ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ

一　收支豫算
二　經費ノ分賦收入方法
三　事業報告及收支決算ノ承認
四　豫算ヲ以テ定メタルモノヲ除クノ外新ニ義務ヲ負ヒ又ハ權利ヲ失フヘキ行爲
五　基金ノ造成、管理及處分
六　不動產ニ關スル權利ノ得喪及變更
七　會則ノ變更
八　役員及特別議員ノ選任及解任
九　訴願、訴訟及和解

前項第一號、第二號、第四號、第七號及第八號ニ揭クル事項ノ決議ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十七條　總代會又ハ總會ハ會長之ヲ招集ス但シ第一回ノ總代會又ハ總會ハ水產會成立シタルトキ遲滯ナク設立申請者之ヲ招集スヘシ

議員又ハ特別議員ハ議員及特別議員ノ總數ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及招集ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總代會又ハ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

會長正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後十四日以內ニ總代會又ハ總會ヲ招集セサルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第十八條　議員及特別議員ハ總代會又ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス

第十九條　總代會及總會ノ議事ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二十條　會則ノ變更ハ總代會又ハ總會ニ於テ之ヲ組織スル者半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス

郡市水產會ノ會則ノ變更カ地區ノ增減ニ關スルトキハ前項ノ規定ニ依ル議決ノ外新ニ編入又ハ削除セラルヘキ區域內ノ會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

前項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者又ハ會員ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　水產會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長

副會長　一人又ハ二人

評議員　數人

役員ハ郡市水產會ニ在リテハ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ、其ノ他ノ水產會ニ在リテハ總會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ會員又ハ議員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第二十二條　會長ハ水產會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

副會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會長ノ職務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ竝會務ノ執行及財產ノ狀況ヲ監查ス

第二十三條　總代會又ハ總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總代會又ハ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ會長ハ會則ノ定ムル所ニ依リ專決處分スルコトヲ得但シ第十六條第二項ノ事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總代會又ハ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第二十四條　水產會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ委員會ヲ置クコトヲ得

左ニ揭クル者ヲ以テ委員トス

一　會長

二　副會長

三　會則ニ定メタル方法ニ依リ選任シタル者

第二十五條　委員會ハ仲裁判斷其ノ他會則ニ定ムル事項ニ關シ審議決定ス

第二十六條　水產會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ其ノ會員ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

郡市水產會ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ其ノ會長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ水產會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

前項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次クモノトス

經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　帝國水產會ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國ニ於テ設立シタル水產會ニ準スル法人其ノ他ノ團體ヲ會員ト爲スコトヲ得

第二十八條　行政官廳ハ水產會ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務ノ執行又ハ財產ノ狀況ヲ檢查シ會則、收支豫算又ハ經費ノ分賦及收入ノ方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十九條　行政官廳ハ水產會ノ總代會、總會若ハ委員會ノ決議又ハ役員若ハ委員ノ行爲ニシテ法令若ハ會則ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員若ハ委員ヲ解任シ、議員ノ改選ヲ命シ水產會ノ事業ヲ停止シ又ハ水產會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三十條　水產會解散又ハ合併若ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ其ノ事由ヲ具シ尙分割ノ場合ニ於テハ分割ノ各水產會ノ會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得且水產會ノ權利義務ノ限度ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ規定スル會員又ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ノ計算ニ付テハ第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　水產會ハ債權者ノ同意ヲ得又ハ異議アル債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ水產會ノ解散、合併若ハ分割ヲ爲シ又ハ地區ノ增減ニ關スル會則ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條　合併後存續スル水產會又ハ合併ニ因リテ設立シタル水產會ハ合併ニ因リテ消滅シタル水產會ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ設立シタル水產會ハ第三十條ノ規定ニ依リテ定リタル限度ニ於テ從前ノ水產會ノ權利義務ヲ承繼ス

第三十三條　水產會ハ解散ノ後ト雖淸算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ尙存續スルモノト看做ス

第三十四條　水產會解散シタルトキハ會長及副會長ヲ以テ其ノ淸算人トス但シ會則ニ別段ノ定アルトキ又ハ總代會若ハ總會ニ於テ選任シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ淸算人タル者ナキトキハ行政官廳淸算人ヲ選任ス淸算人闕ケタルトキ亦同シ

第三十五條　淸算人ハ水產會ヲ代表シ淸算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

淸算ノ方法及財產處分ニ付テハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十六條　行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ淸算ノ方法及財產處分ノ變更ヲ命シ又ハ淸算人ヲ解任スルコトヲ得

第三十七條　本法ニ於テ郡市町村トアルハ郡制市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ存スル水產組合及水產組合聯合會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ本法ニ依ル水產會ト爲スコトヲ得

●朝鮮水產會令施行規則

大正十二年二月
總令第二十七號

朝鮮水產會令施行規則左ノ通定ム

朝鮮水產會令施行規則

第一條　左ニ揭クル者ハ道水產會ノ會員ヨリ之ヲ除外ス

一　國及公共團體

二　鹽業者

三　小賣ヲ主タル目的トスル製造業者及販賣業者

四　水產物ノ保管ヲ主タル目的トセサル保管業者

前項ニ揭クル者ノ外道知事ニ於テ特ニ道水產會ノ會員ヨリ除外スルノ必要アリト認ムル者アルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二條　水產會ヲ設立セムトスルトキハ道水產會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者三十人以上、朝鮮水產會ニ在リテハ二以上ノ道水產會發起人ト爲リ會員タル資格ヲ有スル者ニ事業ノ概目、創立費用及收支ノ概算竝經費分賦收入方法ノ概要ヲ通知シ設立ノ同意ヲ求ムヘシ

第三條　發起人創立總會ヲ招集セムトスルトキハ朝鮮水產會ニ在リテハ少クトモ三十日前ニ、道水產會ニ在リテハ少クトモ二十日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ會員タル資格ヲ有スル者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

第四條　創立總會ノ議事ハ會員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス

道水產會ノ創立總會ニ在リテハ會員タル資格ヲ有スル者ハ他ノ會員タル資格ヲ有スル者ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第五條　第十五條ノ規定ハ創立總會ニ付之ヲ準用ス

水產會ノ負擔ニ歸スヘキ創立費用及其ノ償却方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第六條　創立總會終了シタルトキハ發起人ハ遲滯ナク設立認可申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スヘシ

前項ノ申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意アリタルコトヲ證スル書面、創立費用ノ明細書及議事錄ノ謄本ヲ添附スヘシ

第七條　會則ニハ朝鮮水產會令又ハ本令ニ規定スルモノノ外左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　目的

二　名稱

三　主タル事務所ノ所在地

四　役員ノ定數及任期ニ關スル規定

五　議員ノ任期、選任及解任ニ關スル規定

六　會議ニ關スル規定

七　會計ニ關スル規定

第八條　水產會成立シタルトキハ朝鮮總督ハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及認可ノ年月日ヲ告示スヘシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第九條　水產會ノ議員ノ定數ハ會則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ道水產會ニ在リテハ二十人、朝鮮水產會ニ在リテハ三十五人ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　道水產會ノ議員ハ會員中ヨリ道知事ノ任命シタル選擧人ノ投票ニ依リ之ヲ選任ス但シ選擧人ノ定數ハ議員定數ノ三倍ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ選擧人ノ住所氏名及職業ハ少クトモ投票期日三十日前ニ道知事之ヲ公示スヘシ

朝鮮水產會ノ議員ハ道水產會ノ總代會ニ於テ其ノ會員中ヨリ之ヲ選任ス

第十一條　道水產會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ會員ヲ業種及區域ニ分チ各別ニ所定ノ議員ヲ選任セシムルコトヲ得

第十二條　水產會ノ議員ノ選任ニ關スル事務ハ會長之ヲ管理ス但シ第一回ノ選任ニ付テハ設立申請者中ノ一人之ヲ管理ス

前項但書ノ規定ニ依ル管理者ハ設立申請者ノ互選ニ依リ之ヲ定メ行政官廳ニ屆出ツヘシ

第十三條　總代會又ハ總會ヲ招集セムトスルトキハ朝鮮水產會ニ在リテハ少クトモ三十日前ニ、道水產會ニ在リテハ少クトモ二十日前ニ會議ノ目的タル事項、日時及場所ヲ議員及特別議員ニ通知スヘシ

前項ノ期間ハ會則ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得

第十四條　總代會又ハ總會ニ於テハ前條ノ規定ニ依リ通知シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲スコトヲ得但シ會則ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　總代會又ハ總會ノ議長ハ議事錄ヲ作リ左ニ揭クル事項ヲ記載シ議長及出席者二人以上之ニ署名スヘシ

一　開會ノ日時及場所

二　議員及特別議員ノ定數

三　出席者ノ員數

四　議事ノ要領

五　議決シタル事項及贊否ノ數

第十六條　水產會ノ事業年度ハ每年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十七條　收支豫算及經費分賦收入方法ノ認可申請書ハ少クトモ每事業年度開始三十日前ニ之ヲ差出スヘシ但シ初年度ニ在リテハ總代會又ハ總會ノ議決ヲ經タル後遲滯ナク之ヲ差出スヘシ

第十八條　事業報告及收支決算ハ每事業年度經過後一年內ニ總代會又ハ總會ノ承認ヲ承ケ遲滯ナク之ヲ行政官廳ニ差出スヘシ

第十九條　役員選任ノ認可申請書ニハ履歷書ヲ添附シ尙會員又ハ議員ニ非サル者ヨリ役員ヲ選任シタル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第二十條　水產會ニハ會則ノ定ムル所ニ依リ主事、技師、水產製品檢查員其ノ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

主事及技師ノ命免ハ之ヲ行政官廳ニ屆出ツヘシ

水產製品檢查員ノ命免ニ關シテハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條　道水產會ハ總代會ノ決議ヲ經テ會員ノ製造ニ係ル水產製品ノ檢查ニ關スル規程ヲ設クルコトヲ得

前項ノ規程ニハ檢查スヘキ製品ノ種類、檢查ノ方法、檢查手數料竝製品ニ附スヘキ水產會ノ證票及檢查證ニ關スル事項ヲ規定スヘシ

第一項ノ規程ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條　經費ヲ徵收セムトスルトキハ會長ハ納入義務者ニ對シ納金額、納期限及納付ノ場所ヲ記載シタル納入告知書ヲ發スヘシ

第二十三條　經費ヲ滯納シタル者アルトキハ會長ハ更ニ期間ヲ指定シテ其ノ納入ヲ催告スルコトヲ得

第二十四條　經費又ハ過怠金ノ徵收ヲ府面ニ囑託セムトスルトキハ會長ハ各納入義務者ノ納金額及納期限ヲ記載シタル書面ヲ府面ニ交付スヘシ

第二十五條　第二十二條及第二十三條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタル府面ニ之ヲ準用ス

府面ニ於テ徵收シタル金額ハ其ノ月分ヲ翌月中ニ之ヲ道水產會ニ送納スヘシ

第二十六條　朝鮮水產會令第五條第二項ニ依ル收入金納入義務ノ免除ヲ受ケムトスルトキハ府面ハ其ノ事由ヲ詳具シ道水產會ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ道水產會ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其ノ免除ヲ爲ササルトキハ府面ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日內ニ朝鮮總督ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第二十七條　經費及過怠金ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ納入告知書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ六十日內ニ會長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ニ對シ會長ノ爲シタル決定ニ不服アル者ハ其ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十四日內ニ行政官廳ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第二十八條　會則ノ施行又ハ事業ノ執行ニ關スル規定ヲ設ケ又ハ之ヲ改廢セムトスルトキハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十九條　朝鮮水產會令又ハ本令ニ於テ行政官廳ト稱スルハ水產會法第六條ノ場合ヲ除クノ外朝鮮水產會ニ付テハ朝鮮總督、道水產會ニ在リテハ道知事トス但シ水產會ノ設立及解散、會則ノ變更竝役員ノ選任及解任ニ關スル事項ニ在リテハ朝鮮總督トシ道水產會ニ關スル水產會法第二十八條及第二十九條中役員ノ解任及水產會ノ解散以外ノ事項ニ在リテハ朝鮮總督及道知事トス

第三十條　朝鮮水產會令及本令ノ規定ニ依リ道知事ニ於テ處分シタル事項ハ其ノ都度之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第三十一條　第二十一條ニ規定スル水產會ノ證票若ハ檢查證ヲ不正ニ使用シタル者又ハ僞造若ハ變造ノ證票若ハ檢查證ヲ使用シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ朝鮮水產會令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮水產組合各道ノ支部ヲ道水產會ト爲サムトスルトキハ支部長ハ會則ヲ定メ其ノ區域內ニ於テ漁業ヲ營ム者及其ノ區域內ニ於ケル漁業權ヲ有スル者ヲ除クノ外道水產會ノ會員タル資格ヲ有スル者三分ノ一以上ノ同意ヲ得本令施行後六十日內ニ朝鮮總督ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ會則、設立ニ付法定ノ同意アルコトヲ證スル書面及初年度經費收支豫算ヲ添附スヘシ

第二項ニ規定スル會員タル資格ヲ有スル者ノ員數ハ道知事ノ認定ニ依ル

第二項ノ規定ニ依リ設立シタル道水產會ニ在リテハ第十二條ニ規定スル第一回ノ議員選任ニ關スル事務ハ支部長之ヲ管理ス

第八章　勸業

第一款　商品陳列館

●朝鮮總督府商品陳列館觀

覽時間改正

大正十一年十一月
總告第三百五十六號

大正元年朝鮮總督府告示第七十號中大正十一年十二月一日ヨリ左ノ通改正ス

第一號ヲ左ノ如ク改ム

一　每日觀覽時間左ノ如シ

三月一日ヨリ六月三十日迄　午前九時ヨリ午後五時ニ至ル
七月一日ヨリ八月三十一日迄　午前八時ヨリ午後三時ニ至ル
九月一日ヨリ十月三十一日迄　午前九時ヨリ午後五時ニ至ル
十一月一日ヨリ翌年二月末日迄　午前十時ヨリ午後四時ニ至ル

第九章　特許　意匠　商標

第一款　特許

●特許登錄令中改正

大正十一年十二月
勅令第五百十七號

朕特許登錄令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特許登錄令中左ノ通改正ス

第十一條中「圖面」ヲ「圖面竝特許信託原簿」ニ改ム

第二十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

官廳又ハ公署ハ其ノ爲シタル處分ニ基ク處分ノ制限ノ登錄又ハ其ノ抹消登錄ヲ遲滯ナク特許局ニ囑託スヘシ公賣其ノ他法令ノ規定ニ依ル處分ニ基ク權利移轉ノ登錄ニ付亦同シ

第二十六條第一項第二號　削除

第二十六條第四項中「第二號」ヲ「第三號」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第三十四條　削除

第三十五條　削除

第五十四條ヲ第六十九條トシ以下順次繰下ケ第五十三條ノ次ニ左ノ如ク加フ

第五節　信託ニ關スル登錄手續

第五十四條　特許權又ハ之ニ關スル權利ノ信託ノ登錄ニ付テハ受託者ヲ登錄權利者トシ委託者ヲ登錄義務者トス

第五十五條　信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財產ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利ノ信託ノ登錄ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ信託法第二十七條ノ規定ニ基ク信託財產ノ復舊ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條　受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ信託ノ登錄ヲ申請スルコトヲ得

第二十六條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登錄ノ申請ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ申請書ニ尙登錄ノ目的タル特許權又ハ之ニ關スル權利カ信託財產ナルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五十七條　信託ノ登錄ノ申請ハ信託ニ依ル特許權ノ移轉又ハ特許權ニ關スル權利ノ設定若ハ移轉ノ登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ受益者又ハ委託者カ受託者ニ代位シテ信託ノ登錄ヲ申請スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財產ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利ノ信託ノ登錄ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條　受託者更迭ノ場合ニ於テ特許權又ハ之ニ關スル權利ノ移轉ノ登錄ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ更迭ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ爲スヘキ變更ノ登錄ニ之ヲ準用ス

第五十九條　受託者ノ任務カ死亡、破產、禁治產、準禁治產又ハ裁判所若ハ主務官廳ノ解任命令ニ依リテ終了シタルトキハ前條ノ登錄ハ新受託者又ハ他ノ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得受託者タル法人ノ任務カ解散ニ依リテ終了シタルトキ亦同シ

第六十條　信託ノ登錄ノ申請書ニハ第二十四條ニ揭クル事項ノ外左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　委託者、受託者及受益者ノ氏名、名稱及住所又ハ居所竝信託管理人アル場合ニ於テハ尙其ノ氏名、名稱及住所又ハ居所
二　信託ノ目的
三　信託財產ノ管理方法
四　信託終了ノ事由
五　其ノ他信託ノ條項

前項ニ揭クル事項ハ職權ヲ以テ特許信託原簿ニ之ヲ登錄スヘシ

第六十一條　裁判所カ信託管理人ヲ選任シ又ハ解任シタルトキハ遲滯ナク特許信託原簿ノ登錄ヲ特許局ニ囑託スヘシ主務官廳カ信託管理人ヲ選任シタルトキ亦同シ

第六十二條　前條ノ規定ハ裁判所又ハ主務官廳カ受託者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條　裁判所カ信託財產ノ管理方法ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク特許信託原簿ノ記載ヲ特許局ニ囑託スヘシ

前項ノ規定ハ主務官廳カ信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條　第五十八條又ハ第五十九條ノ場合ニ於テ特許原簿ノ登錄ヲ爲シタルトキハ特許局ハ職權ヲ以テ特許信託原簿ノ登錄ヲ爲スヘシ

第六十五條　第五十八條、第五十九條及第六十一條乃至第六十三條ノ場合ヲ除クノ外第六十條第一項ニ揭クル事項ノ變更ニ關スル特許信託原簿ノ登錄ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第二十七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登錄ノ申請ニ之ヲ準用ス

第六十六條　第六十二條ニ規定スル登錄ヲ爲シタルトキハ特許局ハ職權ヲ以テ特許原簿ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第六十七條　信託財產ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利カ移轉ニ依リ信託財產ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託登錄抹消ノ申請ハ移轉ノ登錄ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ信託終了ニ依リ信託財產ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利カ移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條　第四十一條ノ規定ハ特許權ノ信託ノ登錄若ハ其ノ抹消又ハ第六十五條ニ規定スル特許信託原簿ノ登錄ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手數料ノ件中改正

大正十一年十二月
勅令第五百十八號

朕大正十年勅令第四百六十五號特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手數料ノ件中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大正十年勅令第四百六十五號中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

受託者カ信託ニ依リ前項ニ揭クル手續ヲ爲ストキハ前項ニ規定スル手數料ノ外尙第一號、第二號、第五號、第六號、第二十四號、第二十五號、第二十八號又ハ第二十九號ノ場合ニ在リテハ每一件一圓ヲ、第十四號、第十七號、第二十號又ハ第二十二號ノ場合ニ在リテハ每一件五拾錢ヲ手數料トシテ納付スヘシ

附　則

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●特許登錄令施行規則中改正

大正十一年十二月
農令第二十九號

特許登錄令施行規則中左ノ通改正ス

第一條中「第一號樣式ニ」ノ下ニ「、特許信託原簿ハ第一號ノ二樣式ニ」ヲ加フ

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

特許信託原簿ハ信託財產ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利ニ付各一用紙ヲ備フ

第四條中「各特許ニ付特許原簿ニ始メテ登錄ヲ爲シタル順序ニ依リ」ヲ削ル

第四條ノ二　特許信託原簿ノ特許信託番號欄ニハ特許信託原簿ニ始メテ登錄ヲ爲シタル順序ニ依リ特許信託番號ヲ記載ス

表示欄ニハ信託財產ニ屬スル特許權又ハ之ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ竝其ノ變更及消滅又ハ其ノ權利ニ關スル信託ノ終了ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

事項欄ニハ特許登錄令第六十條第一項ニ揭クル事項及其ノ變更ヲ記載シ順位番號欄ニハ事項欄ニ登錄事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第十一條中「特許原簿」ヲ「特許原簿又ハ特許信託原簿」ニ改ム

第十七條ノ二　特許原簿ノ登錄用紙中同一事項欄ニ同一順位ヲ以テ設定又ハ移轉ノ登錄ト信託ノ登錄トヲ爲シタルトキハ事項欄ニ縱線ヲ劃シテ其ノ各登錄ヲ分界スヘシ

第十七條ノ三　特許原簿ニ信託ノ登錄ヲ爲ストキハ特許信託番號ヲ記載スヘシ

第十八條中「特許番號欄」ヲ「特許番號欄又ハ特許信託番號欄」ニ、「特許番號」ヲ「特許番號又ハ特許信託番號」ニ、「特許原簿」ヲ「特許原簿又ハ特許信託原簿」ニ改ム

第四十四條　信託財產ニ屬スル特許ヲ受クルノ權利ニ付第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ同一順位ヲ以テ信託ノ登錄ヲ爲スヘシ

實施ヲ要スル發明ノ特許權カ信託財產ニ屬スル場合ニ於テ第三十五條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲ストキ亦前項ニ同シ

第四十四條ノ二　第二十三條、第二十七條、第三十二條、第三十六條乃至第四十二條及前條ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テ特許權又ハ之ニ關スル權利カ信託財產ニ屬スルトキハ同時ニ特許信託原簿ノ登錄ヲ爲スヘシ

第四十八條中「第二十七條」ヲ「第二十七條、第五十六條又ハ第六十五條第二項」ニ、「債權者」ヲ「債權者又ハ受益者若ハ委託者」ニ改ム

第五十三條中「處分ノ制限」ヲ「同條ニ規定スル處分ノ制限」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ其ノ權利ノ信託ノ登錄アルトキハ尙其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第五十四條中「權利ニ關スル登錄」ノ下ニ「又ハ其ノ特許權若ハ之ニ關スル權利ノ信託ノ登錄」ヲ加フ

第五十四條ノ二　第四十四條ノ二ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條第一項中「又ハ申請書ノ副本」ヲ削リ同項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ申請書ニ登錄原因ヲ證スル書面ヲ添附スルコト能ハサルモノノ登錄ヲ爲シタル場合ニ於テハ登錄權利者又ハ第二項ニ規定スル債權者、受益者若ハ委託者ニ登錄原因ヲ證スル書面ニ記載スヘキ事項登錄ノ原因及其ノ日附竝登錄ノ目的ヲ通知スヘシ

同條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

特許登錄令第二十七條、第五十六條又ハ第六十五條第二項ニ規定スル申請ニ依リ登錄ヲ完了シタルトキハ前項ノ規定ニ依リ登錄權利者ニ還付スヘキ書面ハ之ヲ債權者又ハ受益者若ハ委託者ニ還付スヘシ此ノ場合ニ於テハ登錄權利者ニ前項但書ニ揭クル事項及債權者又ハ受益者若ハ委託者ノ氏名名稱ヲ通知スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ登錄義務者ニ特許番號、登錄權利者ノ氏名名稱、登錄ノ原因及其ノ日附、登錄ノ目的、登錄年月日竝登錄濟ノ旨ヲ通知スヘシ但シ登錄義務者カ共有者ノ一人ナル場合ニ於テハ尙他ノ共有者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第六十條　削除

第六十一條　削除

第六十二條ノ二　特許登錄令第五十五條、第五十八條、第五十九條、第六十五條第一項又ハ第六十七條ニ規定スル申請ニ依リ登錄ヲ爲シタルトキハ前條ニ揭クル事項ヲ受益者ニ通知スヘシ

附　則

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號ノ二樣式

特許信託番號		
信託財產	表示番號	表示欄
信託ノ當事者及條項	順位番號	事項欄

●特許法施行規則中改正

大正十一年十二月
農令第三十號

特許法施行規則中左ノ通改正ス

第十九條中「遞信省令」ヲ「遞信省令又ハ朝鮮總督府令」ニ改ム

第三十七條ノ二　出願人カ特許ヲ受クルノ權利ノ信託ノ受託者ナル場合ニ於テハ願書ニ尙特許登錄令第六十條第一項ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

前項ノ規定ハ信託ノ受託者カ出願人名義變更屆ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第七十四條第一項第二號削除

附　則

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　意匠

●意匠法施行規則中改正

大正十一年十二月
農令第三十二號

意匠法施行規則中左ノ通改正ス

第十一條中「第三十七條第三項」ヲ「第三十七條第三項、第三十七條ノ二」ニ改ム

附　則

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三款　實用新案

●實用新案法施行規則中改正

大正十一年十二月
農令第三十一號

實用新案法施行規則中左ノ通改正ス

第七條中「第三十七條第二項第三項」ヲ「第三十七條第二項第三項、第三十七條ノ二」ニ改ム

附　則

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四款　商標

●商標法施行規則中改正

大正十一年十二月
農令第三十三號

商標法施行規則中左ノ通改正ス

第六條中「其ノ權利ヲ承繼シタルコト及被承繼人ノ營業」ヲ「スルコト」ニ改ム

第十條中「三十日內」ヲ「三十日內ニ於テ特許局長官カ指定シタル期間內」ニ改ム

第十六條中「第三十六條、」ノ下ニ「第三十七條ノ二、」ヲ加フ

附　則

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十章　度量衡

●度量衡器販賣價格

大正十二年四月
總告第百號

度量衡器販賣價格左ノ通定ム

品名	販賣價格
竹製巻尺八十米	（圓）三、七〇〇
同　四十米	二・一〇〇
同　二十間	一・六〇〇
竹製折尺八尺	一・七五〇
竹製直尺六寸樋入五厘目	・〇六〇
竹製縮尺間割 $\frac{1}{3,000}$ 鞘入	・九七〇
鋼鐵曲尺（巻金）八寸	一・四〇〇
麻製巻尺　三十三尺 十米　覆入	三・五三〇
同　六十六尺 二十米　同	五・六〇〇
同　百尺 三十米　同	七・六〇〇
同　三十三尺 十米　中身	一・九四〇
同　六十六尺 二十米　同	三・六〇〇
同　百尺 三十米　同	五・四〇〇
メスシリンドル	
無栓　五cc	・五〇〇
同　一〇cc	・五五〇
同　二〇cc	・六〇〇
同　二五cc	・七五〇
同　五〇cc	一・〇〇〇
同　一〇〇cc	一・一〇〇
同　二〇〇cc	一・二〇〇
同　二五〇cc	一・三〇〇
同　五〇〇cc	一・六五〇
同　一、〇〇〇cc	二・〇〇〇
同　二、〇〇〇cc	三・二〇〇
メスシリンドル	
有栓　二五cc	一・〇〇〇
同　五〇cc	一・五〇〇
同　一〇〇cc	一・五五〇
同　二〇〇cc	一・六五〇
同　二五〇cc	一・七〇〇
同　五〇〇cc	二・〇〇〇
同　一、〇〇〇cc	二・六〇〇
同　二、〇〇〇cc	五・〇〇〇
メスフラスコ	
受出兩用　一〇cc	・八〇〇
同　二五cc	・九五〇
同　五〇cc	一・〇〇〇
同　一〇〇cc	一・三〇〇
同　二〇〇cc	一・三五〇
同　二五〇cc	一・六五〇
同　五〇〇cc	一・八〇〇
同　一、〇〇〇cc	二・三〇〇
同　二、〇〇〇cc	三・四〇〇
メスピペット　一cc	・四五〇
同　二cc	・五〇〇
同　五cc	・五五〇
同　一〇cc	・七五〇
同　一五cc	・九五〇
同　二〇cc	一・一〇〇
同　二五cc	一・二〇〇
同　五〇cc	一・五五〇
同　一〇〇cc	二・二〇〇
ホールピペット　一cc	・三五〇
同　二cc	・三六〇
同　五cc	・四〇〇
同　一〇cc	・四三〇
同　一五cc	・五〇〇
同　二〇cc	・五五〇
同　二五cc	・六〇〇
同　五〇cc	・六五〇
同　七五cc	・八〇〇
同　一〇〇cc	一・〇〇〇
ビュレット活栓附　一〇cc	一・五〇〇
同　二五cc	一・七〇〇
同　五〇cc	二・〇〇〇
同　七五cc	二・三〇〇
同　一〇〇cc	二・六〇〇
同ゴム管附　一〇cc	一・一〇〇
同　二五cc	一・五〇〇
同　五〇cc	一・八〇〇
同　七五cc	二・〇〇〇
同　一〇〇cc	二・三五〇
同青筋入活栓附　一〇cc	一・六五〇
同　二五cc	一・八〇〇
同　五〇cc	二・三五〇
同　七五cc	二・五〇〇
同　一〇〇cc	三・一〇〇
同青筋入ゴム管附　一〇cc	一・二五〇
同　二五cc	一・七〇〇
同　五〇cc	二・三〇〇
同　七五cc	二・四五〇
同　一〇〇cc	二・七〇〇
馬車掛地中臺秤　四千百斤	一、三〇〇・〇〇〇
臺秤　百六十貫 六百瓩	一三三・〇〇〇
臺秤　千斤 六百瓩	一三三・〇〇〇
同　八十貫 三百瓩	九二・五〇〇
同　五百斤 三百瓩	九二・五〇〇
同　四十貫 百五十瓩	八〇・〇〇〇
同　二百五十斤 百五十瓩	八〇・〇〇〇
同　十六貫 六十瓩	四〇・六〇〇
同　百斤 六十瓩	四〇・六〇〇

第十七輯

交通　電氣

附瓦斯

第十七輯　交通　電氣附瓦斯

第一章　通信

第一款　內國郵便

○西比利亞及北滿洲方面ト朝鮮トノ間ニ於テ取扱ノ軍事郵便ノ件中改正〔大正一一、一〇總令一四〇〕……一
○軍事郵便ノ取扱開始ノ件中改正〔大正一一、一〇總告二三六〕……一
○特許審判及審査書類特別取扱郵便規則〔大正一〇、一二遞令五三〕……一
○請願ニ依ル通信施設ニ關スル件〔大正四、一二勅令二一五〕……一
○西比利亞方面ニ發著スル軍事郵便物ノ取扱廢止〔大正一一、一一總告二四一〕……一
○特許法、實用新案法、意匠法及商標法ノ審査竝審判ニ關スル書類ヲ郵便ニ依リ送達スル場合ノ取扱方〔大正一二、一總令七〕……一
○請願通信施設規則〔大正一二、一總令一一〕……一
○郵便規則中改正〔大正一二、三總令三四〕……二
○約束郵便取扱承認規則〔大正一二、三總令三五〕……三
○郵便私書函使用規則中改正〔大正一二、三總令三六〕……三
○朝鮮ヨリ內地、臺灣、樺太及關東廳管內ニ宛テタル郵便物ノ特殊取扱方及現金ノ取立ニ關スル件中改正〔大正一二、三總告五七〕……四
○郵便規則第三十三條ノ二ニ依リ取扱ヲ爲ササル郵便物ノ特殊取扱ノ範圍〔大正一二、三總告五八〕……四

第二款　外國郵便

○外國郵便規則中改正〔大正一一、九遞令五七〕……四
○同上〔大正一二、一遞令二〕……四
○同上〔大正一二、二遞令二五〕……六
○同上〔大正一二、三遞令四三〕……六
○朝鮮ト內地、臺灣、樺太及支那間郵便規則中改正〔大正一二、一總令六〕……六
○外國郵便、外國郵便爲替及外國電信ノ取扱ニ關スル件中改正〔大正一二、三總令三九〕……六

第三款　郵便爲替

○外國郵便爲替規則中改正〔大正一一、一一遞令六六〕……六
○同上〔大正一二、一遞令九〕……六
○同上〔大正一二、二遞令二九〕……七
○郵便爲替規則中改正〔大正一一、一二總令一五七〕……七
○同上〔大正一二、三總令三八〕……八
○郵便爲替證書、郵便貯金拂戻證書及郵便振替貯金拂出證書ヲ支那トノ約定ニ依ル郵便爲替券ニ組替方ニ關スル件〔大正一二、一總令五〕……八

第四款　郵便貯金

○郵便貯金利子割合ノ件中改正〔大正一一、八勅令三九〇〕……八
○郵便貯金規則中改正〔大正一一、九總令一二二〕……八
○同上〔大正一二、一總令一〕……八
○集金郵便振替貯金拂込規則中改正〔大正一二、三總令三七〕……八
○郵便貯金法中改正〔大正一二、四法律四五〕……八

第五款　內國電信

○電報ノ別使配達料艀船配達料及電報規則第七十八條第二項ノ地域ノ件中改正〔大正一一、六總告一四四〕……九
○水底電信線路區域〔大正一一、七總告一八六〕……九
○電報規則中改正〔大正一一、一〇總令一三九〕……九
○同上〔大正一二、一總令四〕……九
○同上〔大正一二、一總令一七〕……九
○同上〔大正一二、三總令四〇〕……九
○停車場掲示電報ノ掲示ヲ請求シ得ル鐵道停車場名中改正〔大正一一、一二總告二七九〕……九
○時間外電報ノ取扱ヲ爲ササル件中改正〔大正一二、三總令四一〕……九
○無線電信機ヲ裝置スル電信局所ノ呼出符號〔大正一二、三總告九七〕……九〔朝〕

第六款　外國電信

○外國電報規則中改正〔大正一二、一遞令一四〕……九
○同上〔大正一二、一遞令一九〕……一〇
○同上〔大正一二、二遞令三四〕……一〇

第七款　電話

○電話加入區域指定地及土地ノ區別中改正〔大正一一、九總告二〇九〕……一〇
○同上〔大正一一、一二總告二七四〕……一〇
○同上〔大正一二、一總告一三〕……一〇
○同上〔大正一二、三總告四九〕……一〇
○同上〔大正一二、三總告九八〕……一一
○同上〔大正一二、五總告一五四〕……一一
○電話架設料中改正〔大正一二、三總告九九〕……一一

第二章　運輸

第一款　道路橋梁

○道界ニ於ケル渡船管理廳指定〔大正一一、一〇總告二三七〕……一一

第三款　鐵道

○鐵道運輸規程中改正〔大正一一、一二總令一四六〕……一一
○外國貨物鐵道運送手續中改正〔大正一一、一二總訓六五〕……一一
○同上〔大正一二、三總訓一六〕……一二
○朝鮮私設鐵道補助法中改正〔大正一二、三法律二三〕……一三

第四款　船舶

○朝鮮舷窻試驗規程〔大正一一、一二總令一四三〕……一三
○舷窻試驗規程〔大正一一、一遞令六〕……一三
○朝鮮造船規程改正〔大正一一、一二總令一四四〕……一五
○朝鮮木船檢查規程改正〔大正一一、一二總令一四五〕……一五
○木船檢查規程〔明治三三、遞令八九〕……一五
○船舶滿載吃水線法〔大正一〇、三法律二〕……二一

○朝鮮船舶檢査規程中改正（大正一一、一一總令一四七）……二二
○朝鮮船燈信號器救命具取締規則（大正一一、一一總令一四八）……二八
○朝鮮船燈信號器救命具試驗檢定規程中改正（大正一一、一一總令一四九）……三二
○朝鮮船鑑札規則中改正（大正一一、一一總令一五〇）……三二
○鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於ケル外國船舶ノ出入及運送ニ關スル件（大正一二、一總令一二）……三三
○日本船舶ノ不開港出入ニ關スル件（大正一二、三總令六三）……三三
○船舶積量測度互認（大正一一、一〇總令一三七）……三三
○同上（大正一一、一〇總告二二六）……三三

第九款　航行及港灣

○稅關所屬曳船使用規則中改正（大正一一、六總令九三）……三三

第三章　電氣附瓦斯

○朝鮮電氣測定令（大正一二、四制令一〇）……三四

改廢表

頁	公布年	法令	番號	件名	備考
一一	四四	總令	一二	特許審判書類特別取扱郵便規則	大正十二年總令第七號ニテ廢止
一三	四五	總令	七七	約束郵便取扱規則	大正十二年總令第三十五號ニテ廢止
二三六	大正三	總令	七〇	朝鮮鐵鋼船檢査規程	大正十一年總令第百四十七號ニテ廢止
二四二	大正三	總令	七二	朝鮮機關檢査規程	同上
二四九	大正三	總令	八四	朝鮮船燈、信號器、救命具取締規則	大正十一年總令第百四十八號ニテ廢止
三〇五	四三	總訓	七〇	馬山浦閉鎖後內地、臺灣及樺太ト朝鮮トノ間ニ通航スル船舶ニ關スル件	大正十一年總訓第四十六號ニテ廢止
三〇五	大正三	總令	六四	鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於ケル外國船舶ノ出入及運送ニ關スル件	大正十二年總令第十二號ニテ改正
三〇六	大正三	警令	二	同施行規則	同上ニテ廢止
三〇六	大正三	警訓甲	二三	同取扱手續	同上ニテ消滅
三〇六	大正三	總令	一〇四	朝鮮船舶令第四條ニ依リ船舶法第一條ノ日本船舶ノ運送ニ關スル件	大正十二年總令第五十號ニテ廢止

第十七輯　交通　電氣　附瓦斯

第一章　通信

第一款　內國郵便

●西比利亞及北滿洲方面ト朝鮮トノ間ニ於テ取扱ノ軍事郵便ノ件中改正

（大正十一年十月總令第百四十號）

大正七年朝鮮總督府令第九十六號中「及北滿洲」ヲ削ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●軍事郵便ノ取扱開始ノ件中改正

（大正十一年十月總告第二百三十六號）

大正三年朝鮮總督府告示第三百四十九號中「及北滿洲」ヲ削ル

●特許審判及審査書類特別取扱郵便規則

（大正十年十二月遞令第五十三號）

特許審判及審査書類特別取扱郵便規則左ノ通定ム

特許審判及審査書類特別取扱郵便規則

第一條　特許局ニ於テ特許法、實用新案法、意匠法及商標法ニ依ル左ノ書類ヲ郵便ニ依リ送達セムトスルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ特別取扱ト爲スコトヲ得

一　審判書類　審判、抗告審判又ハ再審ニ關スルモノ

二　審査書類　審査ニ關スル書類ニシテ法令ニ依リ送達スルモノ、期日若ハ期間ヲ指定セルモノ又ハ送達ニ依リ期間ノ進行ヲ始ムルモノ

第二條　本令ニ依リ特別取扱ヲ受ケムトスル審判及審査書類ハ書留通常郵便物ト爲スニ非サレハ差出スコトヲ得ス

第三條　審判及審査書類郵便物特別取扱料金ハ左ノ如シ

審判書類　一箇ニ付五錢
審査書類　一箇ニ付三錢

前項ノ料金ハ前納ニ限ル

第四條　審判及審査書類郵便物ニハ其ノ表面看易キ場所ニ「審判書類」又ハ「審査書類」ト記載シ差出月日及受取人氏名ヲ記載シタル審判又ハ審査書類送付簿ヲ添ヘ之ヲ郵便官署ニ差出スヘシ但シ審判書類郵便物ニハ其ノ送達ニ必要ナル送達書用紙及送達告知書用紙ヲ添付スヘシ

郵便官署ニ於テ前項ノ郵便物ヲ引受ケタルトキハ郵便規則第四十五條第一項ノ規定ニ依ル受領證ニ代ヘ審判又ハ審査書類送付簿ニ受領印ヲ押捺シ之ヲ差出人ニ還付ス

第五條　審判書類郵便物ノ配達ニ關シテハ郵便規則第四十五條第二項ノ規定ニ依ラス該郵便物ノ受取人ヲシテ送達書用紙ニ受領證印セシメ若代人之ヲ受取ルトキハ代人タル資格及氏名ヲ記入證印セシメ之ヲ送達ノ證ト爲ス

前項ノ送達書ハ之ヲ差出人ニ送付ス

第六條　民事訴訟法第百四十四條乃至第百四十九條及第百五十一條第一項第二項ノ規定ハ審判書類郵便物ノ配達ニ關シ之ヲ準用ス

第七條　審査書類郵便物ハ配達證明郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ受取人法律上ノ理由ナクシテ受取ヲ拒ミ又ハ郵便物配達證ニ受領證印ヲ拒ミタルトキハ該郵便物ヲ宛所ニ差置キ其ノ事由ヲ郵便物配達證明書ニ記入ス

第八條　本令ニ定ムル事項ノ外ハ一般ノ規定ニ依ル

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

特許審判書類特別取扱郵便規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前ニ差出シタル第一號審判書類ハ本令ニ依ル審判書類郵便物ト看做シ又第二號審判書類ハ本令ニ依ル審査書類郵便物ト看做ス

●請願ニ依ル通信施設ニ關スル件

（大正四年十二月勅令第二百十五號）
（改正　大正一二年一第二二號）

朕請願ニ依ル通信施設ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　內地及朝鮮ニ於テハ請願ニ依リ郵便官署、電信官署、電話官署ヲ新設シ又ハ郵便、電信、電話、無線電信ノ事務ノ取扱ヲ開始スルコトヲ得

第二條　施設ノ爲要スル創設費及維持費ハ請願者ノ負擔トス

創設費ハ請願者ニ於テ直接ニ之ヲ支辨シ維持費ハ之ヲ國庫ニ納付スヘシ

第三條　前條ノ維持費ノ額及負擔ニ關スル規程ハ內地ニ在リテハ遞信大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正四年十二月五日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年勅令第四十一號ハ之ヲ廢止ス

●西比利亞方面ニ發著スル軍事郵便物ノ取扱廢止

（大正十一年十一月總告第二百四十一號）

西比利亞（薩哈嗹州ヲ除ク）方面ニ發著スル軍事郵便物ノ取扱ハ之ヲ廢止ス但シ大正十一年朝鮮總督府告示第百二十二號ニ依ルモノハ當分ノ內之カ取扱ヲ繼續ス

●特許法、實用新案法、意匠法及商標法ノ審査竝審判ニ關スル書類ヲ郵便ニ依リ送達スル場合ノ取扱方

（大正十二年一月總令第七號）

朝鮮內ニ於テ特許法、實用新案法、意匠法及商標法ノ審査竝審判ニ關スル書類ヲ郵便ニ依リ送達スル場合ノ取扱ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外大正十年遞信省令第五十三號ニ依ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年朝鮮總督府令第十二號ハ之ヲ廢止ス

●請願通信施設規則

（大正十二年一月總令第十一號）

請願通信施設規則左ノ通定ム

請願通信施設規則

第一條　大正四年勅令第二百十五號ニ依リ施設スヘキ事項左ノ如シ

一　郵便所新設
二　郵便集配所新設
三　電信電話所新設
四　自働電話新設
五　郵便集配事務開始
六　電信事務開始
七　電報配達事務開始
八　電話通話事務開始
九　電話呼出事務開始

第二條　施設ヲ請願セムトスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ差出スヘシ

一　施設事項
二　施設ヲ必要トスル地名
三　施設ヲ必要トスル理由
四　期節ヲ限リ施設ヲ要スルモノハ其ノ期間
五　前條第一號ノ事項ニ對シテハ郵便集配事務第三號ノ事項ニ對シテハ電報配達事務及電話呼出事務第六號ノ事項ニ對シテハ電報配達事務第八號ノ事項ニ對シテハ電話呼出事務開始ノ要否
六　船舶ニ施設スルモノハ其ノ船舶ノ定繫港

第三條　請願ハ土地ノ狀況其ノ他ノ事由ニ依リ之ヲ受理セサルコトアルヘシ

第四條　請願ヲ受理シタルトキハ其ノ通知ト

共ニ維持費ノ額ヲ記載シタル指令書ヲ請願者ニ交付ス

請願者ハ前項ノ指令書到達ノ日ヨリ起算シ六十日內ニ請書ヲ差出スヘシ

第五條　創設費ハ朝鮮總督府遞信局長（以下單ニ遞信局長ト稱ス）ノ指定スル所ニ依リ之ヲ支辨スヘシ

第六條　維持費ノ額ハ年額ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　朝鮮總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ指令書ニ記載スル維持費ノ額ニ相當スル金額ノ範圍內ニ於テ保證金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

前項ノ保證金ハ現金又ハ國債ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第八條　請願者第四條第二項ニ依リ請書ヲ差出ササルトキ又ハ前條ノ保證金ヲ指定ノ期日迄ニ納付セサルトキハ請願ヲ受理セサリシモノト看做ス

第九條　施設ノ爲請願者ノ設備シタル物件ハ施設開始ノトキニ於テ總テ國庫ノ所有ニ歸ス

第十條　施設ノ工事ヲ廢止シタルトキハ其ノ事由ノ如何ヲ問ハス既ニ執行シタル工事ノ費用ハ請願者ノ負擔トス

施設ノ工事ヲ廢止シタルトキハ其ノ既ニ設備シタル物件ハ遞信局長ノ指定スル所ニ依リ請願者之ヲ撤去スヘシ但シ必要ト認ムルトキハ遞信局長ニ於テ之ヲ執行スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於ケル費用ハ請願者ノ負擔トス

第十一條　郵便ニ關スル施設ノ維持費ハ指定シタル維持費額ヲ徵收ス

電信又ハ電話ニ關スル施設ノ維持費ハ施設ヲ開始シタル年度ニ在リテハ指定シタル維持費額ヲ、其ノ翌年度以後ニ在リテハ當該局所ノ前年度ニ於ケル電信又ハ電話ノ收入料金ニ付左記各號ニ依リ算出シタル額（年度ノ中途ニ於テ施設ヲ開始シタルモノニ在リテハ施設期間ノ收入料金ヲ一年ニ換算シタル額）カ指定シタル維持費額ニ達セサル場合ニ限リ其ノ不足額ヲ徵收ス

一　電信ニ關スル施設		
電信電話所新設及電信事務開始	電報配達事務ヲ取扱フモノ	料金額ノ全額
同上	電報配達事務ヲ取扱ハサルモノ	料金額ノ十分ノ八
電報配達事務開始		料金額ノ十分ノ二
二　電話ニ關スル施設		
電信電話所新設及電話通話事務開始	電話呼出事務ヲ取扱フモノ	料金額ノ全額
自働電話新設		
電信電話所新設及電話通話事務開始	電話呼出事務ヲ取扱ハサルモノ	料金額ノ十分ノ八
電話呼出事務開始		料金額ノ十分ノ二

前項ノ料金額ハ電信ノ施設ニ付テハ特殊取扱料ヲ除キタル內國電報料金額及外國電報ノ內國料金額ニ、電話ノ施設ニ付テハ通話料、呼出料及通知料ニ依ル

期節ヲ限リ施設シタルモノノ維持費ハ前各項ニ依リ施設期間ノ日割計算ヲ以テ徵收ス

第十二條　維持費ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外一會計年度毎ニ當該年度ノ維持費ヲ遞信局長ノ指定スル所ニ依リ四月一日ヨリ六月三十日迄ニ之ヲ納付スヘシ

施設開始ノ日カ一會計年度ノ中途ナルトキハ當該年度ノ維持費ハ日割計算トシ開始ノ日ヨリ起算シ十五日內ニ之ヲ納付スヘシ

第十三條　第七條ノ保證金ヲ納付シタル者前條ノ期日迄ニ維持費ヲ納付セサルトキハ保證金ヲ以テ其ノ維持費ニ充當ス

第十四條　維持費ハ施設開始ノ翌年度ヨリ起算シ五年經過後ハ之ヲ減免スルコトアルヘシ

第十五條　府又ハ面ノ請願ニ依ル電信又ハ電話ニ關スル施設ノ維持費ニシテ第十一條ニ依リ二年度間引續キ之カ徵收ヲ要セサルトキハ其ノ翌年度以後維持費ヲ免除スルコトアルヘシ

第十六條　請願者其ノ地位ヲ他人ヲシテ承繼セシメムトスルトキハ當事者連署ノ申請書ヲ遞信局長ニ差出シ承認ヲ受クヘシ

相續其ノ他ノ原因ニ依リ請願者ノ地位ヲ承繼シタルモノハ其ノ事實ヲ證明スル書類ヲ添ヘ十五日內ニ遞信局長ニ屆出ツヘシ

第十七條　本令ニ依ル施設ハ其ノ開始後之ヲ廢止シ又ハ變更スルコトアルヘシ但シ請願ニ依リ之ヲ廢止セス

前項ニ依リ施設ヲ廢止シ又ハ變更シタルトキハ其ノ翌年度ヨリ維持費ヲ免除シ又ハ其ノ金額ヲ改定ス

第十八條　二人以上共同シテ請願スルトキハ代表者一人ヲ定ムヘシ但シ府又ハ面ノ共同シテ請願スルモノニ在リテハ其ノ施設地ノ府又ハ面ヲ代表者トス

前項ニ依リ請願シタル施設ニ對スル責任ハ共同請願者ノ連帶トス

第十九條　本令ニ依リ提出スル書類ハ府又ハ面ニ在リテハ道知事其ノ他ニ在リテハ其ノ施設地ノ所轄管理事務分掌郵便局長ヲ經由スヘシ

道知事ハ府又ハ面ノ請願ニ關シ意見ヲ附シ遞信局長ニ送付スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便規則中改正

大正十二年三月
總令第三十四號

郵便規則中左ノ通改正ス

第二章「第一節總則」ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十三條ノ二　集配事務ヲ取扱ハサル郵便官署ニ於テハ別ニ告示スル範圍ノ郵便物ノ特殊取扱ヲ爲サス

第三十四條中第九號ヲ削リ第十號ヲ第九號トス

第三十五條第八號中「又ハ居宅代金引換金何程」ヲ削ル

第三十八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

郵便物ノ留置期間ハ代金引換ト爲シタルモノハ十日其ノ他ハ十五日トス

第六十一條ノ二乃至第六十一條ノ七ヲ削ル

第六十四條及第六十四條ノ三ヲ削リ第六十四條ノ二ヲ第六十四條トス

第六十六條第二項ヲ左ノ如ク改ム

集金郵便ニ依ル金額ノ制限ハ證書ニ在リテハ一口ニ付金二圓以上金五十圓以內、證券ニ在リテハ一口ニ付金二圓以上金千圓以內トス但シ錢位未滿ノ端數ヲ附スルコトヲ得

第七十二條　集金郵便ノ取立期間ハ該證書又ハ證券取立郵便官署ニ到著ノ日ヨリ十日トシ第七十一條第一項第二號ニ該當スルモノヲ除クノ外一定ノ期日ニ取立ツヘキモノハ其ノ期日ニ、其ノ他ノモノハ成ルヘク速ニ取立郵便官署ニ於テ支拂人ノ居宅ニ就キ該證書又ハ證券ト引換ニ現金ヲ取立テ其ノ取立ヲ了スルコト能ハサルモノハ一定期日ニ取立ツヘキモノ及第七十一條第一項第一號ニ該當スルモノヲ除クノ外尙一回ノ取立ヲ試ムルモノトス

集金郵便ノ支拂人其ノ居宅ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉先ニ就キ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

集金郵便ノ支拂人ハ留置ニ非サル集金郵便ニ付テモ取立期間內ニ其ノ取立郵便官署ニ出頭シテ之カ支拂ヲ爲スコトヲ妨ケス

第七十四條第四號中「能ハサリシトキ」ヲ「能ハスシテ取立期間ヲ經過シタルトキ」ニ改ム

第七十六條　集金郵便ノ引受ニ付テハ十二月二十五日ヨリ翌年一月三日迄、取立ニ付テハ一月一日ヨリ一月三日迄之カ取扱ヲ爲サス

前項ノ取立ヲ爲ササル期間ハ之ヲ取立期間ニ算入セス

第七十六條ノ二ヲ削ル

第七十九條中「廣告郵便物ノ料金ハ」ヲ「廣告郵便物ノ差出通數ハ配達郵便官署毎ニ二十通以上トシ其ノ料金ハ」ニ改ム

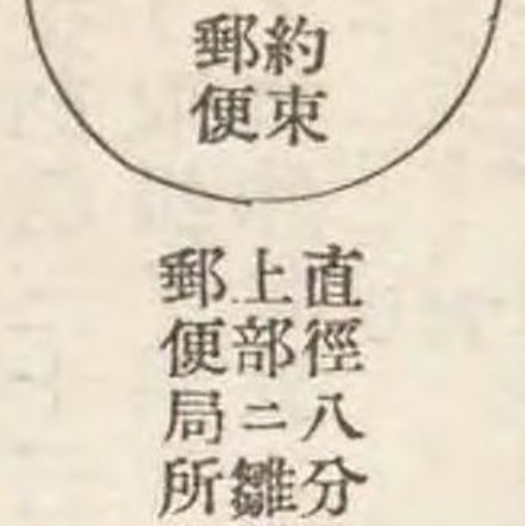
第八十二條　廣告郵便物ハ配達ヲ要スル郵便官署毎ニ把束シ其ノ表面ニ差出人ノ宿所氏名、配達ヲ要スル郵便官署名、「廣告郵便」ノ文字及其ノ通數ヲ記載シ料金相當ノ郵便切手ヲ添ヘ郵便官署ニ差出スヘシ

第八十三條ヲ第八十二條ノ二トス

第八十三條　廣告郵便物ハ十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄之カ取扱ヲ爲サス

第八十四條中「別ニ定ムル所ニ依リ」ノ下ニ「豫メ郵便官署ノ承認ヲ受ケ」ヲ加フ

第八十六條　約束郵便物ニハ郵便切手ヲ貼付セス差出人ニ於テ左記雛形ノ印章ヲ捺押スヘシ



直徑八分乃至一寸
上部ニ雛形ノ如ク差出郵便局所名ヲ記入ス

前項ノ郵便物ノ料金ハ毎月分ヲ翌月二十日迄ニ約束郵便ノ承認ヲ受ケタル郵便官署ノ指示ニ從ヒ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第八十七條　約束郵便物ハ特殊ノ包裝ヲ要スルモノノ外强質ナル白色又ハ淡色ノ紙ヲ以テ包裝シ帶紙ヲ用フルトキハ其ノ幅二寸以上トシ宛所ハ成ルヘク左ノ例ニ依リ明瞭ニ縱書スヘシ

何道　何（配達郵便局所名）局所區內
何郡何面何洞里何番地
某

第八十七條ノ二　第十五條ノ二ノ適用ヲ受クル約束郵便物ハ取扱上差支ナキ限リ包裝ヲ省略スルコトヲ得

第八十七條ノ二ヲ第八十七條ノ五トシ第八十七條ノ三ヲ第八十七條ノ六トス

第八十七條ノ二　約束郵便物ハ郵便官署ノ指示ニ從ヒ其ノ題號又ハ名稱及個數等ヲ記載シタル郵送票ヲ添ヘ之ヲ豫メ承認ヲ受ケタル差出郵便官署ニ差出スヘシ但シ當該郵便官署ニ於テ必要アリト認メタルトキハ其ノ差出場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第八十七條ノ三　郵便官署ハ差出人ヲシテ約束郵便物發送上必要ナル區域毎ニ之ヲ結束シテ差出サシムルコトアルヘシ

第八十七條ノ四　郵便官署ハ必要ニ應シ差出人ニ對シ約束郵便物ノ見本ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第九十二條中「別配達郵便物及」ヲ削ル

附　則

本令ハ大正十二年三月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ引受ケタル郵便物ノ取扱ニ關シテハ其ノ取扱ヲ完了スル迄從前ノ例ニ依ル但シ留置郵便物ノ留置期間ハ此ノ限ニ在ラス

本令施行前ニ約束郵便ノ承認ヲ受ケタル者ハ其ノ差出郵便官署カ本令施行ノ日ヨリ約束郵便物ノ取扱ヲ爲ササルニ至リタル場合ニ於テモ仍大正十二年四月十日迄從前ノ差出郵便官署ニ差出スコトヲ得

●約束郵便取扱承認規則

大正十二年三月
總令第三十五號

約束郵便取扱承認規則左ノ通定ム

第一條　郵便規則第八十四條ニ規定スル約束郵便ノ取扱承認ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　約束郵便ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申込書ヲ其ノ郵便物ヲ差出サムトスル郵便官署ヲ經由シ當該約束郵便料金ノ歲入徵收事務ヲ分掌スル官吏ヲ置キタル郵便官署ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

一　題號又ハ名稱
二　約束郵便ト爲スニ依リ郵便料ノ低減ヲ受クヘキモノハ其ノ事由
三　差出回數（定期日アルモノハ定期日ヲモ記載ヲ要ス）及每回ノ差出個數（料金ヲ異ニスルモノ毎ニ）ノ概算高
四　差出郵便官署名（集配事務ヲ取扱ハサル郵便所ヲ指定スルコトヲ得ス）
五　申込人ノ住所氏名

約束郵便取扱ノ承認ヲ爲シタル郵便官署（以下單ニ承認郵便官署トス）ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ差出郵便官署ヲ指定シ又ハ變更セシムルコトアルヘシ

郵便規則第二十五條ノ適用ヲ受クル約束郵便ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ手數料金十圓ヲ納付スヘシ

第三條　本令ニ依リ約束郵便ノ承認ヲ受ケタル後前條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ豫メ其ノ旨ヲ承認郵便官署ニ屆出ツヘシ但シ郵便規則第二十五條ノ適用ヲ受クル約束郵便物ノ題號又ハ申込ヲ變更セムトスルトキハ一事項ニ付手數料金五圓ヲ納付シ承認郵便官署ノ承認ヲ受クヘシ

第四條　前二條ノ手數料ハ承認郵便官署ノ指示ニ從ヒ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第五條　約束郵便物ノ差出人ハ約束郵便料後納ノ擔保トシテ承認郵便官署ノ指示ニ從ヒ通貨又ハ國債ヲ提供スヘシ但シ差出人官公署、公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ擔保ハ約束郵便物差出數ノ異動ニ應シ之ヲ增減セシムルコトアルヘシ

第六條　差出人約束郵便取扱ノ必要ナキニ至リタルトキハ其ノ取扱取消ノ旨ヲ承認郵便官署ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ約束郵便ノ取扱承認ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條　郵便規則第二十五條ノ適用ヲ受クル約束郵便物ニシテ引續キ三月以上又ハ最近一年間ニ五月以上同條ニ依ル差出ヲ休止シタルトキハ其ノ承認ヲ取消スヘシ

第八條　約束郵便物ノ差出人左記各號ノ一ニ該當スルトキハ約束郵便ノ取扱ヲ停止シ又ハ其ノ承認ヲ取消スコトアルヘシ

一　本令ニ違反シタルトキ
二　約束郵便料ヲ規定ノ期日迄ニ納付セサルトキ
三　郵便規則第十五條ノ二ノ適用ヲ受クヘキ郵便物ニシテ同條第四號ノ條件ヲ缺キタルトキ

第九條　前二條ニ依リ約束郵便ノ承認ヲ取消シタル者ニ對シテハ其ノ情狀ニ依リ再ヒ約束郵便ノ承認ヲ與ヘサルコトアルヘシ

第十條　本令ニ依リ承認郵便官署ニ提出スヘキ書類ハ總テ約束郵便物差出郵便官署ヲ經由スヘシ

第十一條　第六條乃至第八條ニ依リ約束郵便ノ取扱承認ノ效力ヲ失ヒタルトキハ第五條ニ依ル擔保ハ之ヲ差出人ニ還付ス但シ料金滯納ノ事實アリタルトキハ該擔保（國債ヲ擔保ト爲シタルモノナルトキハ之ヲ賣却シ其ノ金額ヨリ賣却ニ要シタル費用ヲ引去リタル殘額）ヲ以テ未納料金ニ充テ過剩額ハ之ヲ還付シ不足額ハ之ヲ追徵ス

附　則

本令ハ大正十二年三月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

約束郵便物取扱規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ擔保トシテ國債以外ノ有價證券ヲ提供セル者ハ大正十五年三月三十一日迄引續キ其ノ有價證券ヲ以テ擔保ト爲スコトヲ得

約束郵便取扱規則ニ依リ承認ヲ受ケタル約束郵便物ハ本令ニ依リ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

●郵便私書函使用規則中改正

大正十二年三月
總令第三十六號

郵便私書函使用規則中左ノ通改正ス

第一條　郵便私書函ハ集配事務ヲ取扱フ郵便官署ニ之ヲ設置ス

前項ノ郵便私書函ヲ使用セムトスル者ハ居所、職業及氏名ヲ記載シタル申請書ヲ當該郵便官署ニ差出シ其ノ許可ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ大正十二年三月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前集配事務ヲ取扱ハサル郵便官署ニ設置シタル郵便私書函ハ大正十二年四月十日

迄之カ使用ヲ繼續スルコトヲ得

●朝鮮ヨリ內地、臺灣、樺太及關東廳ニ宛テタル郵便物ノ特殊取扱方及現金ノ取立ニ關スル件中改正

大正十二年三月
總告第五十七號

大正五年朝鮮總督府告示第七十七號中大正十二年三月二十一日ヨリ左ノ通改正ス

一　內地ニ於テハ郵便區市外ニ居住スル者ニ宛テタル集金郵便ノ取立ヲモ取扱フ但シ離島其ノ他交通不便ノ地ニ在ル者ニ宛テタル留置ニ非サル集金郵便ノ取立ハ此ノ限ニ在ラス

第二號中「代金引換郵便物ノ居宅引換ノ取扱ヲ爲サス又」ヲ削ル

第三號中「代金引換郵便物ノ居宅引換及」ヲ削ル

●郵便規則第三十三條ノ二ニ依リ取扱ヲ爲ササル郵便物ノ特殊取扱ノ範圍

大正十二年三月
總告第五十八號

大正十二年三月二十一日以降集配事務ヲ取扱ハサル郵便局所ニ於テ郵便規則第三十三條ノ二ニ依リ取扱ヲ爲ササル郵便物ノ特殊取扱ノ範圍ハ別ニ定ムルモノノ外左ノ如シ

一　內容證明郵便物ノ引受
二　集金郵便ノ引受
三　約束郵便物ノ引受
四　廣告郵便物ノ引受
五　留置郵便物ノ交付但シ代金引換ト爲シタルモノヲ除ク

第二款　外國郵便

●外國郵便規則中改正

大正十一年九月
遞令第五十七號

外國郵便規則中左ノ通改正ス

第三十一條第六號中「代金引換金額」ノ下ニ「又ハ其ノ換算額」ヲ加ヘ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ代金引換料ニ關シ「フラン」又ハ磅ヲ以テ表示シタル代金引換金額ヲ換算スルトキハ一「フラン」ニ付四十錢又ハ一磅ニ付十圓ノ割合ニ依ル

第四十三條中「一千「フラン」」ノ下ニ「又ハ四十磅」ヲ加フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同　上

大正十二年一月
遞令第二號

外國郵便規則中左ノ通改正ス

目次第二章第七節ノ次ニ左ノ一節ヲ加フ

第七節ノ二　切手別納郵便、約束郵便、廣告郵便及年賀郵便

第一條中「帝國郵便官署區內ヲ除ク以下倣之」ヲ「關東廳管內ヲ除ク以下之倣」ニ改ム

第二條　削除

第九條、第四十二條第一項、第六十二條第二項、第七十九條及第八十條中「日ヨリ」ヲ「日ヨリ起算シ」ニ改ム

第十六條　支那國（關東廳管內及郵便聯合國郵便局ノミ設置アル地ヲ除ク以下倣之）宛通常郵便物ノ料金左ノ如シ

一　書狀	書狀	重量四匁每又ハ其ノ端數每ニ	三錢
	全部印刷シタル無封ノ書狀、盲人用點字ノ無封ノ書狀	重量十匁每又ハ其ノ端數每ニ	二錢
二　郵便葉書	通常葉書		一錢五厘
	往復葉書		三錢
三　印刷物	第三種郵便物トシテ認可ヲ受ケタル定期刊行物	重量二十匁每又ハ其ノ端數每ニ	五厘
	第三種郵便物トシテ認可ヲ受ケタル盲人用點字ノ定期刊行物	重量四十匁每又ハ其ノ端數每ニ	五厘
	書籍、印刷物、寫眞、書、畫、圖	重量三十匁每又ハ其ノ端數每ニ	二錢
	盲人用點字ノ書籍、印刷物	重量百三十三匁每又ハ其ノ端數每ニ	二錢
	廣告郵便物	百通每又ハ其ノ端數每ニ	十二錢
		同時ニ三千一通以上差出ストキハ三千一通分ヨリハ百通每又ハ其ノ端數每ニ	十錢
四　業務用書類	業務用書類	重量三十匁每又ハ其ノ端數每ニ	二錢
	盲人用點字ノ業務用書類	重量五十匁每又ハ其ノ端數每ニ	二錢
五　商品見本	商品見本、雛形、博物學上ノ標本	重量三十匁每又ハ其ノ端數每ニ	二錢
	農產物種子	重量三十匁每又ハ其ノ端數每ニ	一錢
六　價格表記書狀		重量四匁迄	十錢
		重量四匁ヲ超過スル四匁每又ハ其ノ端數每ニ	三錢
七　價格表記箱物		重量六十六匁迄	四十七錢
		重量六十六匁ヲ超過スル十三匁每又ハ其ノ端數每ニ	八錢

第十六條ノ二　外國（支那國ヲ除ク）宛通常郵便物ノ料金左ノ如シ

一　書狀		重量二十「グラム」迄	二十錢
		重量二十「グラム」ヲ超過スル二十「グラム」每又ハ其ノ端數每ニ	十錢
二　郵便葉書	通常葉書		八錢
	往復葉書		十六錢
三　印刷物	印刷物	重量五十「グラム」每又ハ其ノ端數每ニ	四錢
	盲人用點字ノ印刷物	重量五百「グラム」每又ハ其ノ端數每ニ	二錢
四　業務用書類		重量二百五十「グラム」迄	二十錢
		重量二百五十「グラム」ヲ超過スル五十「グラム」每又ハ其ノ端數每ニ	四錢
五　商品見本		重量百「グラム」迄	八錢
		重量百「グラム」ヲ超過スル五十「グラム」每又ハ其ノ端數每ニ	四錢
六　價格表記書狀		重量二十「グラム」迄	四十錢
		重量二十「グラム」ヲ超過スル二十「グラム」每又ハ其ノ端數每ニ	十錢
七　價格表記箱物		重量二百五十「グラム」迄	六十錢
		重量二百五十「グラム」ヲ超過スル五十「グラム」每又ハ其ノ端數每ニ	八錢

第十七條　支那國宛通常郵便物ノ寸尺及重量ノ制限ハ馬德里條約ノ規定ニ依ル

第十九條第二項中「第十六號各號」ヲ「第十六條及第十六條ノ二ノ各號」ニ改ム

第二十條中「支那國ヲ除ク」ヲ削ル

第二十三條　軍艦閉囊ハ遞信大臣ノ指定スル帝國郵便官署ト郵便聯合內ノ外國ニ在ル帝國ノ艦隊又ハ軍艦トノ間ニ之ヲ交換ス

第二十七條　削除

第三十一條第二號、第三號及第四號ヲ左ノ如ク改ム

二　到達證料	支那國宛郵便物ニ付	郵便物差出ノ際請求ノ場合	三錢
		郵便物差出後請求ノ場合	六錢
	馬德里條約ニ依ル郵便物ニ付	郵便物差出ノ際請求ノ場合	二十錢
		郵便物差出後請求ノ場合	四十錢
	其ノ他ノ條約ニ依ル小包郵便物（米國及比律賓宛書留小包郵便物ヲ除ク）		五錢
三　別配達料	通常郵便物	支那國宛ノモノ	三十錢
		其ノ他ノ外國宛ノモノ	四十錢
	小包郵便物		二十錢
四　價格表記料	通常郵便物	表記金額三百「フラン」若ハ百二十圓每又ハ其ノ端數每ニ	十錢
	小包郵便物		別ニ告示ス

第三十二條　左記ノ郵便物ニ付テハ差出人ニ於テ各其ノ下記ノ指定ヲ名宛面ニ記載スヘシ小包郵便物ニ在リテハ送狀ニモ亦之ヲ記入スヘシ

一　書留郵便物	書留
二　到達證請求郵便物	到達證
三　別配達郵便物	別配達
四　留置郵便物	留置
五　價格表記郵便物	價格表記
六　代金引換郵便物	代金引換
七　課金別納郵便物	課金別納又ハ關稅別納

支那國宛代金引換郵便物ノ名宛面ニハ前項ノ指定ノ外赤色ノ横線二條ヲ畫スヘシ

第三十五條　普通通常郵便物ノ差出人又ハ名宛人該郵便物ノ蹤跡取調ヲ請求スルトキハ郵便物一箇每ニ支那國發著ノモノニ付テハ六錢、其ノ他ノ外國發著スルモノニ付テハ四十錢ヲ納付スヘシ

前項ノ請求ハ該郵便物ヲ郵便ニ差出シタル日ヨリ起算シ一年內ニ限リ之ヲ受理ス

第三十九條第一項第一號ヲ左ノ如ク改ム

一　通常郵便物	配達郵便官署ヨリ陸上二里ヲ超過シ三里ヲ超過セサルトキ	支那國發ノモノ	二十五錢
		其ノ他ノ外國發ノモノ	十五錢
	三里ヲ超過スル一里每又ハ其ノ端數每ニ		二十五錢
	艀船ニ依ル場合ハ別ニ艀船料ノ實費額		

第四十三條中「代金引換郵便物」ヲ「馬德里條約ニ依ル代金引換郵便物」ニ改ム

第四十六條ノ二　外國來代金引換通常郵便物ニ付テハ取立代金ヨリ六錢ノ取立料ヲ控除ス

第五十條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二　郵便局ニ依ル請求	外國ニ差立準備著手前郵便物一箇每ニ		八錢
	外國ニ差立準備著手後郵便物一箇每ニ	支那國宛ノモノ	十錢
		其ノ他ノ外國宛ノモノ	四十錢

第五十三條第二項ヲ削ル

第五十三條ノ二　支那國宛價格表記書狀ハ郵便物包裝規則第六條ニ依リ封緘スルコトヲ得

第五十三條ノ三　外國宛價格表記郵便物ノ表記金額制限ハ之ヲ告示ス

第五十四條第二項中「特別條約」ノ下ニ「支那國トノ約定ヲ除ク」ヲ加フ

第五十八條、第五十九條及第八十六條第一項中「日附ヨリ」ヲ「日附ヨリ起算シ」ニ改ム

第七節ノ二　切手別納郵便、約束郵便、廣告郵便及年賀郵便

第五十九條ノ二　切手別納郵便物、約束郵便物及廣告郵便物ハ支那國ヘ宛テ差出スコトヲ得該郵便物ニ付テハ郵便規則第六十三條ノ五乃至第六十四條ノ四、第六十五條ノ一及第六十五條ノ三乃至第六十五條ノ六ノ規定ヲ準用ス

第五十九條ノ三　年賀郵便物ハ支那國ヘ宛テ差出スコトヲ得該郵便物ニ付テハ年賀特別郵便規則ヲ準用ス

第七十二條及第八十五條第二號中「馬德里條約」ノ下ニ「及支那國トノ約定」ヲ加フ

第七十五條中但書ヲ削ル

第七十六條中「約束郵便物」ヲ「內國ノ約束郵便物」ニ改ム

第七十八條　馬德里條約及支那國トノ約定ニ依ル外國來小包郵便物ノ帝國內ノ他ノ郵便區內又ハ關東廳管內ヘノ轉送又ハ變送ハ差出人又ハ名宛人ノ請求アル場合ニ限リ之ヲ取扱フ

前項ノ郵便物ニ付テハ場合ニ從ヒ內國書留小包郵便物又ハ日滿小包郵便物ニ對スルモノト同額ノ料金ヲ差出人又ハ名宛人ニ於テ納付スルコトヲ要ス但シ同一郵便區內ニ於ケル轉送又ハ返送ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

重量一貫六百匁ヲ超過スル小包郵便物ニ付テハ前項ノ料金ハ超過重量二百匁每又ハ其ノ端數每ニ場合ニ從ヒ內國書留小包郵便料金ニ九錢又ハ日滿小包郵便料金ニ十錢ヲ加ヘタル額ニ依ル

前二項ノ料金ニシテ未納ノモノハ小包郵便物ヲ差出國ニ返送スル場合ト雖之ヲ取消サ

サルモノトス

第八十一條中「馬德里條約」ノ下ニ「及支那國トノ約定」ヲ加ヘ、「四十錢ヲ納付スヘシ」ヲ「馬德里條約ニ依ルモノニ付テハ四十錢又支那國トノ約定ニ依ルモノニ付テハ六錢ヲ納付スヘシ」ニ改ム

第九十條　削除

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同　上

大正十二年二月
遞令第二十五號

外國郵便規則中左ノ通改正ス

第五十九條ノ二中「第六十四條ノ四」ヲ「第六十四條ノ八」ニ、「第六十五條ノ六」ヲ「第六十五條ノ七」ニ改ム

附　則

本令ハ大正十二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

●同　上

大正十二
遞令第四十三號

外國郵便規則中左ノ通改正ス

第十二條　返信切手券ノ代價ハ一枚ニ付二十錢トス返信切手券ノ賣捌ノ際日附印ヲ押捺ス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮ト內地、臺灣、樺太及支那間郵便規則中改正

大正十二年一月
總令第六號

朝鮮ト內地、臺灣、樺太及支那間郵便規則中左ノ通改正ス

「朝鮮ト內地、臺灣、樺太及支那間郵便規則」ヲ「朝鮮ト內地、臺灣、樺太、南洋群島及滿洲間郵便規則」ニ改ム

第一條　朝鮮ト內地、臺灣、樺太、南洋群島及關東廳管內トノ間ニ發著スル郵便物ノ取扱ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外內國郵便ニ關スル規定ヲ準用ス

第三條中「及樺太」ヲ「、樺太及南洋群島」ニ、「支那」ヲ「滿洲」ニ改ム

第五條ノ二及第五條ノ三ヲ削ル

第五條ノ四ヲ第五條ノ二トシ同條中「在支那帝國郵便官署區內又ハ」ヲ削ル

第六條及第十條ノ二中「在支那帝國郵便官署區內又ハ」ヲ削ル

第十一條　關東廳管內郵便官署ノ郵便區市外地ニ宛テタル郵便物ハ別配達ト爲スコトヲ得ス

第十五條　削除

第十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

內國郵便物、外國郵便物又ハ本令ニ依ル郵便物ハ第二條乃至第五條ニ定ムル條件ヲ具備スルモノニ限リ朝鮮ト內地、臺灣、樺太、南洋群島及關東廳管內トノ間ニ轉送又ハ還付スルコトヲ得但シ內國郵便物ニシテ朝鮮出港稅令ノ規定ニ依リ移出手續ヲ要スル物品ヲ包有スルモノハ朝鮮ヨリ內地、臺灣又ハ樺太ヘ轉送又ハ還付セス

第十八條　郵便物ノ取戾若ハ名宛變更、代金引換ノ取消若ハ金額變更又ハ集金郵便ノ電信ニ依ル請求ニ關スル料金ハ左ノ如シ

郵便物ノ發著區間	郵便物ノ取戾又ハ代金引換若ハ集金郵便ノ取消	郵便物ノ名宛變更又ハ代金引換ノ金額變更
朝鮮ト內地、臺灣、樺太及南洋群島トノ間	六十錢	九十錢
朝鮮ト關東廳管內トノ間	五十錢	八十錢

第十九條中「及在支那帝國郵便官署區內又ハ關東廳管內」ヲ「南洋群島又ハ關東廳管內」ニ改ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正四年朝鮮總督府令第百九號中第一項ヲ削ル

●外國郵便、外國郵便爲替及外國電信ノ取扱ニ關スル件中改正

大正十二年三月
總令第三十九號

明治四十四年朝鮮總督府令第四十二號中左ノ通改正ス

「遞信省令及告示ノ定ムルトコロニ依ル」ノ下ニ「但シ同省令及告示中無集配三等郵便局トアルハ郵便集配事務ヲ取扱ハサル郵便局所トス」ヲ加フ

附　則

本令ハ大正十二年三月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

第三款　郵便爲替

●外國郵便爲替規則中改正

大正十一年十一月
遞令第六十六號

外國郵便爲替規則第三十八條中「、在支那英國郵便局」ヲ削ル

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●同　上

大正十二年一月
遞令第九號

外國郵便爲替規則中左ノ通改正ス

第一條　郵便爲替ニ關スル條約又ハ約定ニ依リ帝國ト外國トノ間ニ交換スル通常爲替及電信爲替ハ之ヲ外國郵便爲替ト稱ス

第七條　外國通常爲替一口ノ爲替料ハ左ノ如シ

一　支那ト交換スルモノ

五圓迄	五錢
十圓迄	十錢
二十圓迄	十五錢
三十圓迄	二十錢
四十圓迄	二十五錢
五十圓迄	三十錢
六十圓迄	三十五錢
九十圓迄	四十錢
百二十圓迄	四十五錢
百五十圓迄	五十錢
百八十圓迄	五十五錢
二百十圓迄	六十錢
二百四十圓迄	六十五錢
二百七十圓迄	七十錢
三百圓迄	七十五錢
三百三十圓迄	八十錢
三百六十圓迄	八十五錢
四百圓迄	九十錢

小包郵便物以外ノ代金引換郵便物ノ取立金ニ對スル爲替ノ料金ハ取立金ヨリ別ニ定ムル取立料ヲ控除シタル殘額ニ對シ其ノ金額四百圓迄ハ前揭ノ割合ニ依リ又其ノ金額四百圓ヲ超ユルトキハ左ノ割合ニ依リ取立金ヨリ之ヲ控除徵收ス

四百四十圓迄	九十五錢
四百八十圓迄	一圓
五百二十圓迄	一圓五錢
五百六十圓迄	一圓十錢
六百圓迄	一圓十五錢
六百四十圓迄	一圓二十錢
六百八十圓迄	一圓二十五錢
七百二十圓迄	一圓三十錢
七百六十圓迄	一圓三十五錢
八百圓迄	一圓四十錢
八百五十圓迄	一圓四十五錢
九百圓迄	一圓五十錢
九百五十圓迄	一圓五十五錢
千圓迄	一圓六十錢

二　其ノ他ノ外國ト交換スルモノ

二十圓迄	二十錢
四十圓迄	四十錢
八十圓迄	六十錢
百二十圓迄	八十錢
百六十圓迄	一圓
二百圓迄	一圓二十錢
二百四十圓迄	一圓四十錢
二百八十圓迄	一圓六十錢
三百二十圓迄	一圓八十錢
三百六十圓迄	二圓
四百圓迄	二圓二十錢

外國電信爲替ニ付テハ前項第二號ノ爲替料ノ外相當電報料ヲ徵收ス

第十條第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五　業務ノ非常停止ニ因リ拂戾ト爲リタル爲替ニ關スル料金

第十二條中「馬德里約定」ノ下ニ「及支那トノ約定」ヲ加フ

第十三條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ羅甸文字ニテ振出請求書ニ記載シ能ハサル場合ニ於テハ該文字ヲ以テ名宛人ノ居所氏名ヲ表示スル紙片ヲ提出シ邦字ヲ以テ之等ノ事項ヲ記載スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ差出人ノ居所氏名ニハ振假名ヲ施シ又其ノ名宛人及差出人カ邦人其ノ他漢字ヲ使用スル國民ナルトキハ羅甸文字ノ外邦字又ハ漢字ヲ複記スルコトヲ要ス

同條第二項ヲ左ノ通改メ第五項ヲ削ル

前項ノ規定ニ拘ラス支那トノ約定ニ依ル爲替ノ差出人及名宛人カ邦人及支那人ナルトキ又ハ邦人若ハ支那人ナルトキハ振出請求書ノ記載事項ハ之ヲ邦字又ハ漢字ヲ以テ記載スヘシ此ノ場合ニ於テ邦字又ハ漢字ヲ以テ記載スルコト能ハサルトキハ羅甸文字ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十四條第一項中「馬德里約定」ノ下ニ「及支那トノ約定」ヲ加フ

第十八條　削除

第十九條中「馬德里約定ニ依ル通常爲替及電信爲替竝露西亞トノ條約ニ依ル通常」ヲ「馬德里約定及支那トノ約定竝露西亞トノ條約ニ依ル郵便」ニ改ム

第二十三條第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第二號ヲ第三號トシ以下順次繰下ク

二　支那トノ約定ニ依ル通常爲替

第二十四條第二項ヲ左ノ通改ム

前項ノ取扱料金ハ支那トノ約定ニ依ル爲替ニ付テハ一口每ニ三錢其ノ他ノ條約ニ依ル爲替ニ付テハ一口每ニ二十錢トス

第二十五條第二項ヲ左ノ通改ム

前項ノ取扱料金ハ支那トノ約定ニ依ル爲替ニ付テハ一口每ニ六錢其ノ他ノ條約ニ依ル爲替ニ付テハ一口每ニ四十錢トス

第二十六條第一項中「馬德里約定及」ノ下ニ「支那トノ約定竝」ヲ加フ

同條第二項ヲ左ノ通改ム

前項ノ不著取調料金ハ支那トノ約定ニ依ル爲替ニ付テハ一口每ニ六錢其ノ他ノ條約ニ依ル爲替ニ付テハ一口每ニ四十錢トス

第二十九條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

支那トノ約定ニ依ル帝國振出通常爲替ノ取戾又ハ名宛變更ノ請求書ヲ宛ツヘキ官署ハ之ヲ告示ス

第三十條　外國郵便爲替ノ取戾又ハ名宛變更ニ關スル料金ハ左ノ如シ

一　馬德里約定及英國トノ條約ニ依ル爲替

（イ）振出郵便局所ヨリ振出請求書又ハ爲替券發送前ナル場合

名宛變更ノ請求ニ付テハ五錢、取戾ノ請求ニ付テハ無料

（ロ）振出郵便局所ヨリ振出請求書又ハ爲替券發送後ナルモ外國向差立前ナルコト明瞭ナル場合

名宛變更ノ請求ニシテ郵便ニ依ルモノハ八錢、電信ニ依ルモノハ八十錢

取戾ノ請求ニシテ郵便ニ依ルモノハ無料、電信ニ依ルモノハ五十錢

（ハ）貯金局又ハ外國郵便交換局ヨリ當該爲替ノ目錄又ハ爲替券外國向差立後ナル場合

名宛變更又ハ取戾ノ請求ニシテ郵便ニ依ルモノハ四十錢、電信ニ依ルモノハ相當外國電報料

二　米國、加奈陀、香港、墨西哥、比律賓群島又ハ露西亞トノ條約ニ依ル爲替

（イ）當該爲替ノ目錄又ハ爲替券若ハ報知書外國向差立前ナル場合

前號（イ）及（ロ）ヲ準用ス

（ロ）當該爲替ノ目錄又ハ爲替券若ハ報知書外國向差立後ナル場合

名宛變更ノ請求ニシテ郵便ニ依ルモノハ四十錢

三　支那トノ約定ニ依ル爲替

（イ）振出郵便局所ヨリ振出請求書又ハ爲替券發送前ナル場合

名宛變更ノ請求ニ付テハ五錢、取戾ノ請求ニ付テハ無料

（ロ）振出郵便局所ヨリ振出請求書又ハ爲替券發送後ナルモ支那向差立前ナルコト明瞭ナル場合

名宛變更ノ請求ニシテ郵便ニ依ルモノハ八錢、電信ニ依ルモノハ八十錢

取戾ノ請求ニシテ郵便ニ依ルモノハ無料、電信ニ依ルモノハ五十錢

（ハ）外國郵便交換局ヨリ當該爲替券支那向差立後ナル場合

名宛變更又ハ取戾ノ請求ニシテ郵便ニ依ルモノハ十錢、電信ニ依ルモノハ相當外國電報料

第三十四條第三項中「第三十條第一項」ヲ「第三十條第一號（ハ）」ニ改ム

第三十五條第一項、第三十六條第一項及第三十七條中「馬德里約定」ノ下ニ「又ハ支那トノ約定」ヲ加フ

第四十五條　外國郵便爲替ノ名宛人其ノ居所ヲ帝國ト通常爲替ノ交換ヲ保持スル外國ニ移轉シタルトキハ爲替ノ郵便ニ依ル轉送ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ依リ轉送スル爲替ニ付テハ第七條所定ノ料金ヲ爲替金額ヨリ控除徵收ス但シ馬德里約定及支那トノ約定ニ依ル爲替ノ轉送ニシテ原振出國ト新名宛國間ニ馬德里約定ニ依ル通常爲替ノ交換ヲ保持スル場合ハ此ノ料金ヲ徵收セス

第四十五條ノ二　外國郵便爲替ノ名宛人其ノ居所ヲ帝國ト電信爲替ノ交換ヲ保持スル外國ニ移轉シタルトキハ爲替ノ電信ニ依ル轉送ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ依リ轉送スル爲替ニ付テハ第七條第二項所定ノ料金ヲ爲替金額ヨリ控除徵收ス

第四十六條中「前二條」ヲ「前三條」ニ改ム

第五十條第一項、第五十二條、第六十條及第六十一條中「馬德里約定」ノ下ニ「及支那トノ約定」ヲ加フ

第六十六條本文中「馬德里約定」ノ下ニ「若ハ支那トノ約定」ヲ加ヘ同條第一號中「馬德里約定」ノ下ニ「又ハ支那トノ約定」ヲ加ヘ「通常爲替及電信爲替」ヲ「外國郵便爲替」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同　上

大正十二年二月
遞令第二十九號

外國郵便爲替規則中左ノ通改正ス

第四條　外國通常爲替ハ無集配三等郵便局及特ニ之ヲ取扱ハサルコトヲ告示シタル其ノ他ノ郵便局所ヲ除クノ外內國郵便爲替ヲ取扱フ郵便局所ニ於テ之ヲ取扱フ但シ無集配三等郵便局ニシテ別ニ之ヲ告示スル郵便局所ハ特ニ之カ取扱ヲ爲ス

前項ノ規定ニ拘ラス支那トノ約定ニ依ル爲替ハ無集配三等郵便局ニ於テ亦之ヲ取扱フ

外國電信爲替ヲ取扱フ郵便局所ハ之ヲ告示ス

附　則

本令ハ大正十二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前振出又ハ到著ニ依ル外國郵便爲替ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

●郵便爲替規則中改正

大正十一年十二月
總令第百五十七號

朝鮮總督府令第百五十七號

郵便爲替規則中左ノ通改正ス

大正十一年十二月二十七日
朝鮮總督　男爵齋藤實

第一條中「、滿洲及在支那帝國郵便局所」ヲ「及滿洲」ニ改ム

第七條第二號中「、樺太又ハ支那（滿洲ヲ含マス）」ヲ「又ハ樺太」ニ改ム

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●同　上

大正十二年三月
總令第三十八號

郵便爲替規則中左ノ通改正ス

第七十三條ノ二ヲ削ル

附　則

本令ハ大正十二年三月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便取立金ニ對スル通常爲替ノ受取人ニシテ本令施行前郵便物委託ノ際豫メ當該爲替金ノ居宅拂ヲ請求シタルモノニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

●郵便爲替證書、郵便貯金拂戾證書及郵便振替貯金拂出證書ヲ支那トノ約定ニ依ル郵便爲替券ニ組替方ニ關スル件

大正十二年一月
總令第五號

郵便爲替證書、郵便貯金拂戾證書及郵便振替貯金拂出證書ヲ支那トノ約定ニ依ル郵便爲替券ニ組替方ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　支那（關東廳管內ヲ除ク）ニ在リタル本邦郵便局所ヲ拂渡局所トスル郵便爲替證書（外國郵便爲替券ヲ含ム以下同シ）郵便貯金拂戾證書及郵便振替貯金拂出證書ニシテ該郵便局所撤廢前拂渡未濟ニ係リ且有效期間ノ未タ經過セサルモノハ郵便爲替證書ニ在リテハ其ノ差出人又ハ受取人、郵便貯金拂戾證書ニ在リテハ其ノ預ケ人、郵便振替貯金拂出證書ニ在リテハ當該加入者又ハ受取人ニ於テ之ヲ支那トノ約定ニ依ル郵便爲替券ニ組替ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ當該證書ヲ貯金局ニ送付スヘシ但シ一部拂郵便貯金拂戾證ニ在リテハ之ニ當該郵便貯金通帳ヲ添附スヘシ

第三條　前條ノ請求ニ依リ支那トノ約定ニ依ル郵便爲替券ニ組替ヘタル郵便爲替證書、郵便貯金拂戾證書及郵便振替貯金拂出證書ハ其ノ組替ノトキヲ以テ之カ拂渡ヲ爲シタルモノト看做シ郵便貯金ニ在リテハ當該郵便貯金通帳ニ之カ拂出ヲ登記シ通帳ハ之ヲ預ケ人ニ返付ス

第四條　本令ニ依ル取扱ニ關シテハ料金ヲ徵收セス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四款　郵便貯金

●郵便貯金利子割合ノ件中改正

大正十一年八月
勅令第三百九十號

朕明治三十八年勅令第百六十六號郵便貯金利子割合ノ件中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十八年勅令第百六十六號中左ノ通改正ス

「前項ノ利子」ヲ「前二項ノ利子」ニ、「前二項ノ規定」ヲ「第一項及前項ノ規定」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

一定ノ期間拂戾ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ前項ノ利子ノ割合ニ年二厘四毛ヲ加ヘタルモノトス

附　則

本令ハ大正十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便貯金規則中改正

大正十一年九月
總令第百二十二號

郵便貯金規則中左ノ通改正ス

第二十五條　郵便貯金ハ其ノ預入ノ翌月ヨリ其ノ拂戾證書發行ノ前月マテ又拂戾證書ヲ發行セサルモノハ拂戾金拂渡ノ前月マテ之ニ利子ヲ附ス

据置貯金ノ加算利子ハ据置期間設定又ハ預入ノ翌月ヨリ其ノ期間滿了ノ前月マテ之ヲ附ス但シ据置期間ヲ更新シタル場合ニ於テハ利子ノ計算ニ付前後ノ期間ヲ合シテ一ノ据置期間ト看做ス

前二項ノ場合ニ於テ同一月內ノ預入金中十錢未滿ノ端數ニ對シテハ利子ヲ附セス

第百二十條　貯金預ケ人其ノ貯金ヲ据置貯金ト爲サムトスルトキハ請求書ニ其ノ通帳ノ記號番號及据置期間ヲ記載シ之ニ通帳ヲ添ヘ郵便局所ヲ經テ原簿所管廳ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於ケル据置期間ハ其ノ申請ノ日ヨリ起算ス

第百二十一條　据置貯金ノ預ケ人ニハ郵便局所又ハ原簿所管廳ニ於テ据置貯金通帳ヲ交付ス

前項ノ通帳ニ記入シタル貯金ハ總テ据置貯金ト看做ス

第百二十三條　据置貯金ノ預ケ人ハ据置期間滿了ノ際ニ於テ其ノ期間ノ更新ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ請求書ニ其ノ通帳ノ記號番號及据置期間ヲ記載シ之ニ通帳ヲ添ヘ郵便局所ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第百二十四條　据置貯金ノ預ケ人据置期間滿了ノ際其ノ貯金ノ全拂又ハ据置期間ノ更新ヲ爲ササルトキハ据置貯金通帳ヲ郵便局所ニ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ貯金ハ之ヲ通常貯金ニ組替ヘ通常貯金ノ通帳ヲ交付ス

前項ノ場合ニ於テ他ニ通常貯金ノ通帳ヲ所持スルトキハ共ニ之ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ貯金ノ轉記ヲ受クヘシ但シ他ニ特別貯金ノ通帳ヲ所持スルトキハ之ニ其ノ貯金ノ轉記ヲ請求スルコトヲ妨ケス

附　則

本令ハ大正十一年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ据置貯金預ケ人ハ原簿所管廳ノ通告ニ基キ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ据置貯金通帳ノ交付ヲ請求スヘシ但シ當分ノ內從來ノ通帳ニ特別ノ徵號ヲ附シ据置貯金通帳ノ交付ニ代フルコトアルヘシ

●同　上

大正十二年一月
總令第一號

郵便貯金規則中左ノ通改正ス

第百三十六條ノ二　海外在留本邦人ハ其ノ貯金ヲ海外貯金ニ組替ノ請求ヲ爲スコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郵便貯金通帳記號番號、氏名、現住所、本籍、職業及海外貯金組替ノ旨ヲ記載シタル請求書ニ自己ノ印章ヲ鮮明ニ押捺シ之ニ貯金通帳ヲ添ヘ又證券保管通帳ヲ所持スルモノナルトキハ該通帳ヲモ共ニ之ヲ添ヘ郵便爲替貯金管理所ニ送付スヘシ但シ預ケ人ノ氏名及現住所ノ記載方ハ前條但書ノ例ニ依ルヘシ

郵便爲替貯金管理所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ貯金預ケ人原簿ヲ新設シ之ニ其ノ替組金額ヲ登記ス

第百三十七條中「前條ニ依リ預入ヲ爲シタル者」ヲ「海外貯金ノ預ケ人」ニ改ム

第百三十八條中「前二條」ヲ「第百三十六條及前條」ニ改ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●集金郵便振替貯金拂込規則中改正

大正十二年三月
總令第三十七號

集金郵便振替貯金拂込規則中左ノ通改正ス

第一條中「郵便官署」ヲ「郵便局所（郵便集配事務ヲ取扱ハサル郵便局所ヲ除ク）」ニ改ム

第九條中「第六十九條ノ二、第七十五條及第七十六條ノ二」ヲ「第六十九條ノ二及第七十五條」ニ改ム

附　則

本令ハ大正十二年三月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便貯金法中改正

大正十二年四月
法律第四十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郵便貯金法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便貯金法中左ノ通改正ス

第四條第三號中「產業組合」ノ下ニ「又ハ產業組合中央金庫」ヲ加フ

附　則

本法ハ產業組合中央金庫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五款　內國電信

●電報ノ別使配達料艀船配達料及電報規則第七十八條第二項ノ地域ノ件中改正

大正十一年六月
總告第百四十四號

大正三年朝鮮總督府告示第七號中大正十一年六月十日ヨリ左ノ通改正ス

別使配達料及艀船配達料ノ項ニ左ノ一號ヲ加フ

三　支那上海　帝國電信官署ノ取扱ニ係ル場合ニ限ル

別使配達料ハ里程ニ拘ラス金五十錢艀船配達料ハ金一圓トシ其ノ配達實費之ヲ超過スルトキハ各實費額ニ依ル

●水底電信線路區域

大正十一年七月
總告第百八十六號

慶尙南道統營郡龍南面長坪里ト同道同郡沙等面德湖里トノ間見乃梁海峽ヘ左圖ノ通水底電信線ヲ布設シ線條ノ左右各五十間以內ヲ線路區域ト定ム

（圖略）

●電報規則中改正

大正十一年十月
總令第百三十九號

電報規則中左ノ通改正ス

第十一條第一號及第二號記號中「句讀點、　|||||」ヲ「句讀點、　|||」ニ同條第三號記號中「終點・　|||||」ヲ「終點・　|||」ニ改ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同　上

大正十二年一月
總令第四號

電報規則中左ノ通改正ス

第六十三條中「在外本邦郵便局所所在地（關東都督府管內ヲ除ク）ニ郵送スヘキ電報ニ對シ電信局所ノ便宜ト認ムル著信局所ヲ指定スルモノヲ除クノ外」ヲ削ル

第七十三條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ在芝罘帝國電信官署ニ著スル電報ノ郵便報知ヲ要スルモノニ在リテハ金四錢ヲ增納スヘシ

第七十四條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ在芝罘帝國電信官署ニ著スル電報ノ書留郵便配達ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ配達料トシテ金十一錢ヲ納ムヘシ

第百二十條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ在芝罘帝國電信官署ニ著スル電報ノ郵便受信報知料ニ限リ一通每ニ金四錢トス

第百四十五條中「關東都督府管內其ノ他在外帝國郵便局所所在地ヲ除ク」ヲ削ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同　上

大正十二年一月
總令第十七號

電報規則中左ノ通改正ス

第七十三條第一項但書ヲ削ル

第七十四條中「金十一錢」ヲ「金十錢」ニ改ム

第百二十條但書ヲ削ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同　上

大正十二年三月
總令第四十號

電報規則中左ノ通改正ス

第七條ノ二　電信局所ニ於ケル電報ノ取扱時間及電報ノ取扱ニ關スル制限ハ別ニ之ヲ告示ス

第十二條中「停車場掲示ムツTP」ノ次ニ「夜間配達タラNS」ヲ「親展ニカCL」ノ次ニ「遲延承知ラナSR」ヲ加ヘ「ナレ」ヲ削ル

第五十條第一號中「時日ヨリ遲レテ」ノ下ニ「第七十七條ノ二ニ依リ電信局所ニ留置キタル時間ハ比較計算上之ヲ除ク」ヲ加フ

第六十二條ノ二　天災事變其ノ他ノ事故ニ因ル電信線路障碍又ハ通信輻輳ノ場合ニ於テハ送達上ノ遲延ヲ承知ニテ差出ス電報ニ限リ之カ受付ヲ爲スコトアルヘシ

前項ニ依リ差出ス電報ハ遲延承知ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十三條ノ二　電報取扱時間內ニ差出ス朝鮮以外ノ各地宛電報ニシテ午前零時ヲ過キ著信局所ニ著スルモ第七十七條ノ二ノ規定ニ依ラス配達ヲ要スルモノハ夜間配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ但シ電報取扱時間ニ拘ラス取扱フヘキ電報ハ此ノ限ニ在ラス

第六十七條中「配達スヘキ」ノ下ニ「歐文」ヲ加フ

第七十七條ノ二　電報取扱時間內ニ受付ケタル朝鮮以外ノ各地宛電報ニシテ午前零時ヲ過キ著信局所ニ到著シタルモノハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外午前六時ヲ待チテ配達ス

第七十七條ノ三　受信人ハ豫メ電信局所ニ申出テ大祭日、日曜日其ノ他ノ休業日又ハ夜間ニ於ケル著信電報ノ翌朝配達ヲ請求スルコトヲ得

第八十八條　削除

第八十九條中「前條ノ例ニ依リ之ヲ掲示スヘシ」ヲ「之ヲ著信局所ニ保管スヘシ」ニ改ム

第九十三條ノ二　無線電信又ハ無線電話ヲ以テ發受スヘキ電報ハ電報取扱時間ニ拘ラス之ヲ取扱フ

第百四十二條第二項ヲ削ル

第百四十三條中「照校電報」ノ下ニ「、時間外電報」ヲ加ヘ「其ノ至急又ハ照校ノ」ヲ「其ノ至急、照校又ハ時間外ノ」ニ改ム

第百四十四條中「一通每ニ其ノ相當略符號ヲ」ヲ「遲延承知ノ略符號ハ原信ニ併記シ其ノ他ノ略符號ハ一通每ニ之ヲ」ニ改ム

第百五十五條及第百五十六條ヲ削リ第百五十七條ヲ第百五十五條トシ同條中「乃至第百五十五條」ヲ「及前條」ニ改ム

附　則

本令ハ大正十二年三月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

●停車場掲示電報ノ掲示ヲ請求シ得ル鐵道停車場名中改正

大正十一年十二月

大正九年朝鮮總督府告示第二百七十號中左ノ通改稱シ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

「南大門」ヲ「京城」ニ改ム

●時間外電報ノ取扱ヲ爲ササル件中改正

大正十二年三月
總令第四十一號

大正八年朝鮮總督府令第四十八號中「時間外電報」ノ下ニ「及時間外ノ納付ヲ要スル外國電報」ヲ加フ

附　則

本令ハ大正十二年三月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

●無線電信機ヲ裝置スル電信局所ノ呼出符號

大正十二年三月
總告第九十七號

無線電信機ヲ裝置スル電信局所ノ呼出符號左ノ如シ

陸上電信局所ノ部

局所名	符號
京城	JMA

第六款　外國電信

●外國電報規則中改正

大正十二年一月
遞令第一號

外國電報規則中左ノ通改正ス

第二十九條ノ二　在上海又ハ芝罘帝國電信官署ニ於テ直配達區域外ニ宛ツル外國電報ニシテ配達方指定ナキモノハ前條ノ場合ヲ除クノ外普通郵便（返信料前納ノ場合ハ書留郵便）ニ付シテ之ヲ送達ス

配達方指定アル電報ト雖受信人移轉等ノ爲更ニ其ノ電報直配達區域外ニ配達スルトキ亦同シ

第五十七條ノ十九左ノ但書ヲ加フ

但シ在上海又ハ芝罘帝國電信官署ヨリ發送（返信ヲ含ム）スルモノノ料金ハ十一錢トス

第五十七條ノ二十六　和文電報ハ料金完納ノ郵便ヲ以テ在上海帝國電信官署ニ賴信スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ電報規則第五十八條及第五十九條ヲ準用ス

第五十七條ノ二十七ノ但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ電報報知ヲ要スルモノハ二語ノ電報料、在上海又ハ芝罘帝國電信官署ヨリ郵便報知ヲ要スルモノハ四錢ヲ增納スヘシ

第五十七條ノ二十八中「在外帝國郵便官署所在地又ハ」ヲ削ル

第五十七條ノ二十九ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ在上海又ハ芝罘帝國電信官署ニ著スル電報ニ付テハ電報規則第七十二條ノ七錢ハ之ヲ十一錢トス

第五十七條ノ三十中「二語以上ノ」ヲ削ル

第五十七條ノ三十一ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ在上海又ハ芝罘帝國電信官署ニ宛テタル電報ニ關スル郵便受信報知料ニ限リ四錢トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外國電報規則中改正

大正十二年一月
遞令第十九號

外國電報規則中左ノ通改正ス

第五十七條ノ十九及第五十七條ノ三十一ノ但書ヲ削ル

第五十七條ノ二十七ノ但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ電信報知ヲ要スルモノハ二語ノ電報料ヲ增納スヘシ

第五十七條ノ二十九ノ但書中「十一錢」ヲ「十錢」ニ改ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同　上

大正十二年二月
遞令第三十四號

外國電報規則中左ノ通改正ス

第三條中「第七條」ヲ「第六條ノ二乃至第七條」ニ改ム

第三條ノ二　左記外國電報ハ電報取扱時間ニ拘ラス之ヲ取扱フ

一、官報及局報
二、至急私報
三、新聞電報
四、無線電信又ハ無線電話ヲ以テ發受スヘキ電報
五、時間外料ヲ納付シタル電報

第二十六條中「電信事務」ヲ「外國電報」ニ改ム

第二十六條ノ二　電報取扱時間外ニ外國電報ヲ發送セムトスルトキハ時間外料ヲ納付スヘシ但シ第三條ノ二第一號乃至第四號ノ電報ハ此ノ限ニ在ラス

時間外料ハ一通ニ付金三十錢トス

第二十六條ノ三　電報規則第六十條ノ二第一項ノ規定ハ外國電報ニ之ヲ準用ス

第三十六條中「第八十一條、第八十二條」ヲ「第八十一條乃至第八十二條」ニ改ム

第四十八條中「電報取扱時間中之ヲ取扱フ但シ」ヲ削ル

第五十七條ノ十三　後廻電報ハ電報取扱時間內ニ限リ之ヲ取扱フ但シ通信輻輳ノ場合ニ於テ其ノ取扱ヲ爲ササルコトアルヘシ

第五十七條ノ十六ニ左ノ一項ヲ加フ

和文電報ニ用ウル無緘交付ノ指定ノ略符號ハ「ナレ」トス

第五十七條ノ二十九中「第六十一條乃至第六十四條、」ヲ「第六十一條、第六十一條ノ三乃至第六十四條、」ニ改ム

第五十七條ノ三十四ニ左ノ一項ヲ加フ

同文電報ノ時間外料ハ原信ニ對シテノミ之ヲ課ス

附　則

本令ハ大正十二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七款　電話

●電話加入區域指定地及土地ノ區別中改正

大正十一年九月
總告第二百九號

大正八年朝鮮總督府告示第二百六十四號中大正十一年九月二日ヨリ左ノ通改正ス

電話規則第一條ノ加入區域及第六十五條第一項第一號乃至第三號、第五號ノ土地ノ區別ノ部中會寧ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

雄基	指定地	咸鏡北道	慶興郡	雄基面ノ內雄基洞

電話規則第二條ノ指定地ノ部中「西湖津」ノ下ニ「雄基」ヲ加フ

●同　上

大正十一年十二月
總告第二百七十四號

大正八年朝鮮總督府告示第二百六十四號中大正十二年一月一日ヨリ左ノ通改正ス

電話規則第一條ノ加入區域及第六十五條第一項第一號乃至第三號、第五號ノ土地ノ區別ノ部中清州ノ項加入區域地名欄ヲ左ノ如ク改ム

清州面（石橋町南川町及泉町ヲ除ク）
四州面ノ內（校東里金川里司里）

●同　上

大正十二年一月
總告第十三號

大正八年朝鮮總督府告示第二百六十四號中大正十二年二月一日ヨリ左ノ通改正ス

電話規則第一條ノ加入區域及第六十五條第一項第一號乃至第三號、第五號ノ土地ノ區別ノ部中義州ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

江界	戊地	平安北道	江界郡	江界面一圓

●同　上

大正十二年三月
總告第四十九號

大正八年朝鮮總督府告示第二百六十四號中大正十二年三月十一日ヨリ左ノ通改正ス

電話規則第一條ノ加入區域及第六十五條第一項第一號乃至第三號、第五號ノ土地ノ區別ノ部中水原ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

安城	戊地	京畿道	安城郡	邑內面ノ內（場基里東里西里）

同部中論山ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

洪城	戊地	忠清南道	洪城郡	洪州面ノ內五官里

同部中安東ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

永川	指定地	慶尙北道	永川郡	永川面ノ內（門外洞、果田洞、校村洞、城內洞、倉邱洞、門內洞）

同部中統營ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

蔚山	指定地	慶尙南道	蔚山郡	蔚山面ノ內（福山洞、鶴山洞、北亭洞、玉橋洞、城南洞、校洞）
方魚津	指定地	慶尙南道	蔚山郡	東面ノ內方魚里

同部中廣梁ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

安州	戊地	平安南道	安州郡	安州面ノ內（七星里、建仁里、栗山里、信義里、北門里、南川里、龍峴里、清橋里、差壯里（清川江以北ノ地ヲ除ク））

〔朝〕

同部中江界ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

定州	戊地	平安北道	定州郡	定州面ノ內城外洞、城內洞
龍巖浦	戊地	平安北道	龍川郡	龍川面ノ內雲興洞、龍巖洞

同部中西湖津ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

北青	戊地	咸鏡南道	北青郡	老德面ノ內內里、東里、西里、南里、北里

電話規則第二條ノ指定地ノ部中安東ノ下ニ「永川」ヲ、東萊ノ下ニ「蔚山、方魚津」ヲ加フ

●同　上

大正十二年三月
總告第九十八號

大正八年朝鮮總督府告示第二百六十四號中大正十二年四月一日ヨリ左ノ通改正ス

電話規則第一條ノ加入區域及第六十五條第一項第一號乃至第三號、第五號ノ土地ノ區別ノ部中井邑、金堤、順天、安東、江陵、鐵原及雄基ノ項「指定地」ヲ「丁地」ニ、光州及會寧ノ項「丁地」ヲ「丙地」ニ改ム

電話規則第二條ノ指定地ノ部中「井邑　金堤」、「順天」、「安東」、「江陵、鐵原」及「雄基」ヲ削ル

●同　上

大正十二年五月
總告第百五十四號

大正八年朝鮮總督府告示第二百六十四號中大正十二年五月十一日ヨリ左ノ通改正ス

電話規則第一條ノ加入區域及第六十五條第一項第一號乃至第三號、第五號ノ土地ノ區別ノ部中安城ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

平澤	戊地	京畿道	振威郡	丙南面ノ內（平澤里通伏里）

同部中忠州ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

永同	指定地	忠清北道	永同郡	永同面ノ內稽山里

同部中永川ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

甘浦	指定地	慶尙北道	慶州郡	陽化面ノ內甘浦里

電話規則第二條ノ指定地ノ部中「永登浦」ノ下ニ「永同」ヲ、「永川」ノ下ニ「甘浦」ヲ加フ

●電話架設料ノ件中改正

大正十二年三月
總告第九十九號

大正九年朝鮮總督府告示第九十五號中大正十二年四月一日ヨリ左ノ通改正ス

電話規則第九條第二項ノ規定ニ依ル電話架設料ノ部中「、龍山」、「光州、」、「會寧、」ヲ削リ「及羅南」ヲ「羅南、光州及會寧」ニ、「及倚州」ヲ「倚州、洪城、井邑、金堤、順天、安東、江界、江陵、鐵原、北青及雄基」ニ改ム

第二章　運輸

第一款　道路橋梁

●道界ニ於ケル渡船管理廳指定

大正十一年十月
總告第二百三十七號

黃海道延白郡ト京畿道江華郡トノ道界ニ於ケル等外道路ヲ接續スル左記渡船ノ管理廳ハ黃海道延白郡守トス

記

一　黃海道延白郡湖東面烽火里、京畿道江華郡華蓋面仁士里間
一　黃海道延白郡海城面海南里、京畿道江華郡水晶面西漢里間

第三款　鐵道

●鐵道運輸規程中改正

大正十一年十一月
總令第百四十六號

鐵道運輸規程中左ノ通改正ス

第十四條　旅客ハ乘車券ノ通用期間內ニ於テ任意ノ停車場ニ途中下車ヲ爲シ當該停車場又ハ其ノ前途ノ停車場ヨリ他ノ列車ニ乘繼クコトヲ得但シ別段ノ定アル特種乘車券ニ依リ乘車ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　旅客カ途中下車ヲ爲シタルトキハ乘車券ニ係員ノ證明ヲ受ケ乘繼ノ際ハ之カ檢査ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ途中下車ニ付別段ノ定アル特種乘車券ニ對シ適用セス

第三十二條　列車內ニ於テ傳染病患者アルコトヲ發見シタルトキハ速ニ警察官又ハ其ノ他ノ當該吏員ニ申報スヘシ

前項ノ場合ニ於テ旅客ヲ途中停車場ニ下車セシメタルトキハ既ニ通過シタル線路ニ相當スル賃金ヲ控除シ其ノ殘額ヲ拂戾スヘシ

但シ旅客カ其ノ病症ヲ隱蔽シテ乘車シタルトキハ既ニ支拂ヒタル賃金ヲ還付スルコトヲ要セス

第六十五條ノ二　動物ノ積卸ハ鐵道ノ請求アルトキハ荷主ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第九十七條中「三年」ヲ「一年」ニ改ム

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●外國貨物鐵道運送手續中改正

大正十一年十二月
總訓第六十五號

稅關

外國貨物鐵道運送手續中左ノ通改正ス

第三章中第十五條ノ前ニ左ノ一條ヲ加フ

第十四條ノ三　外國ニ積戾スヘキ輸入手數未濟貨物又ハ輸出手數濟貨物ヲ貨車ニ積載シタル儘國境ヲ通過セシメムトスルトキハ朝鮮ヨリ運送スル貨物ニ在リテハ發驛、內地ヨリ運送スル貨物ニ在リテハ釜山驛ヲシテ其ノ貨車ニ施封ノ爲稅關ノ必要ト認ムル裝置ヲ爲シ之ニ貨物積込ノ際立會ヒタル稅關官吏ノ封印ヲ受ケ一貨車每ニ第三號樣式ノ二ノ施封貨車積貨物目錄二通ヲ作製シ施封官吏ノ認印ヲ得テ一通ハ之ヲ稅關ニ提出シ他ノ一通ハ稅關ノ認印ヲ得テ運送目錄又ハ輸出免狀ニ添附シ之ヲ著驛ニ送付セシムヘシ

前項ノ貨車著驛ニ到達シタルトキハ著驛ヲシテ前項ニ依リ發驛又ハ釜山驛ヨリ送付シタル施封貨車積貨物目錄ヲ提出セシメ稅關官吏封印及貨車ニ異狀ナキコトヲ認メタルトキハ貨物ノ檢査ヲ省略シテ目錄ニ記載ノ貨物ノ存在ヲ認ムヘシ

第十五條ノ三ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ貨物中第十五條ノ取扱ヲ受ケムトスルモノニ付テハ他ノ貨物ト區別シテ所定ノ運送目錄ヲ作製セシメ其ノ各通ニ施封貨車ノ數、番號及施封方法等ノ記入欄ヲ設ケタル補箋ヲ貼附セシメテ施封官吏之ニ記入ヲ爲シ第十五條ノ施封貨車積貨物目錄ハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第十六條中「第十五條ノ三」ヲ「前條」ニ改ム

第三號樣式ノ次ニ左ノ樣式ヲ加フ

〔朝〕

（第三號樣式ノ二）

施封貨車積貨物目錄

施封貨車番號……… 列車番號………

積込驛名………… 發車日時………

施封方法	稅關印
施封官吏印……	

運送通知書番號	發驛名	運送目錄又ハ輸出免狀番號	記號番號	包裝種類及箇數	品名	數量	荷受人	備考

目錄提出年月日………… 驛長捺印…………

備考

一 製式等ハ第一號樣式ニ準ス但シ刷色ハ黑トス

二 施封方法ノ記入ハ施封官吏之ヲ爲スヘキモノトス

●同上

大正十二年三月
總訓第十六號

稅關

外國貨物鐵道運送手續中左ノ通改正シ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五條ノ二但書、第六條第一項但書、第七條但書、第八條第二項但書及第十二條但書ヲ削ル

第十五條中「移入手數未濟貨物又ハ移出手數濟貨物」ヲ「大正十二年制令第六號ニ依リ移入又ハ移出ノ手續ヲ爲スヘキ貨物ニシテ移入手數未濟ノモノ又ハ移出手數濟ノモノ」ニ改ム

第十五條ノ二ヲ削リ第十五條ノ三ヲ第十五條ノ二トシ同條中「又ハ樺太」ヲ「、樺太又ハ南洋群島」ニ、「輸出手數濟貨物」ヲ「輸出手數濟貨物ニシテ第十五條ノ移入手數未濟貨物ニ該當スルモノ」ニ、「第十五條」ヲ「第十四條ノ三」ニ改ム

第十六條中「移入手數未濟貨物」ヲ「第十五條ノ移入手數未濟貨物」ニ改ム

第二號樣式ヲ別記ノ如ク改ム

第三號樣式 削除

（第二號樣式）

運送申告年月日………………… 積荷目錄提出年月日…………

鐵道連帶運送貨物運送目錄

發送地稅關受付番號………… 到達地稅關受付番號…………

發驛……著驛……… 列車番號…………

運送ノ目的………… 發車日時…………

貨車番號	運送通知書番號	仕出地	記號番號	包裝種類及箇數	品名	數量	價格	荷受人	備考
							圓		

（第二號樣式裏面）

表記貨物ハ本船積載貨物ノ內………驛ニ向ケ運送スヘキモノナルコトヲ申告ス

船名………入港日時………船長捺印…………

表記貨物ノ運送ヲ申告ス

運送申告年月日…………

發驛驛長捺印…………

表記貨物當驛ニ到達セリ仍テ本目錄ヲ提出ス

到達日時…………

目錄提出年月日…………

著驛驛長捺印…………

表記ノ貨物當驛ニ到達セリ更ニ……迄海路運送ヲ申告ス

到達日時…………

著驛驛長捺印…………

船名…………

仕向港…………

船長捺印…………

運送免許年月日…………

發送地稅關捺印…………

表記貨物ノ運送濟ヲ認ム

年月日…………

到達地稅關捺印…………

海路運送免許年月日…………

釜山稅關捺印…………

（備考）

一 輪廓及用紙ノ寸法

第一號樣式ニ同シ

二 紙質及用紙製式

紙質ハ八十斤模造紙及薄葉トシ模造紙各葉ノ上ニ薄葉一葉ツツヲ重ネタル四葉（各葉左端ニ前記ノ寸法ノ外適宜ノ綴代ヲ附シ打拔ヲ施スモノトス）ヲ以テ一組ト爲シ表面樣式ハ各葉ニ、裏面樣式ハ一組毎ニ最下部ノ一葉ニ之ヲ印刷シ百組ヲ一冊ニ綴リ其ノ表紙ニハ二百五十斤模造紙ヲ用ヰ之ニ「鐵道連帶運送貨物運送目錄用紙」ノ文字ヲ印刷スルモノトス

刷色ハ第一號樣式ニ同シ

三 目錄ノ作成及取扱方

目錄ノ作成ニハ炭酸紙ヲ使用シ其ノ薄葉ノモノ一葉ハ作成者ノ控用トシ他ハ第八條第一項ノ規定ニ依リ稅關ニ提出セシムルモノトス

第八條、第十條第一項、第十一條ノ二及第十六條第一項ノ規定ニ依ル驛長、船長又ハ稅關ノ裏書ハ裏面樣式ノ印刷アル目錄ニ之ヲ爲シ薄葉ノ目錄ハ之ヲ發送地ノ稅關ニ留メ置クヘキモノトス

表面樣式中運送申告年月日ハ發驛驛長ヲシテ記入セシメ積荷目錄提出年月日ハ關釜連絡船船長ヲシテ第十六條第一項ノ規定ニ依リ稅關官吏ノ認印ヲ求メタル年月日ヲ記入セシムルモノトス

●朝鮮私設鐵道補助法中改正

大正十二年三月
法律第二十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル朝鮮私設鐵道補助法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

朝鮮私設鐵道補助法中左ノ通改正ス

第一條及第二條中「十年」ヲ「十五年」ニ改ム

第五條中「二百五十萬圓」ヲ「三百萬圓」ニ改ム

附則

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四款 船舶

●朝鮮舷窻試驗規程

大正十一年十一月
總令第百四十三號

朝鮮舷窓試驗規程左ノ通定ム

舷窓ノ構造及其ノ試驗ニ關シテハ遞信省令舷窓試驗規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督府遞信局長トス

附則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●舷窻試驗規程

大正十一年一月
遞令第六號

舷窻試驗規程左ノ通定ム

舷窻試驗規程

第一條 舷窻ヲ分チテ左ノ二種トス

一 甲種舷窻

二 乙種舷窻

甲種舷窻ニハ內蓋及外蓋ヲ備ヘ乙種舷窻ニハ內蓋ヲ備フルコトヲ要ス

第二條 舷窻ノ各部ニハ舷窻ノ種別ニ從ヒ左表ニ掲クル種類ノ材料ヲ用ウヘシ

舷窻各部ノ名稱	材料ノ種類	
	甲種舷窻	乙種舷窻
窻枠	黃銅、砲金又ハ鑄鋼	黃銅、砲金、鑄鋼又ハ可鍛鑄鐵
硝子枠	黃銅又ハ砲金	黃銅、砲金、鑄鋼又ハ可鍛鑄鐵
內蓋	黃銅、砲金又ハ鑄鋼	黃銅、砲金、鑄鋼、可鍛鑄鐵又ハ鑄鐵
外蓋	鋼板	鋼板、可鍛鑄鐵又ハ鑄鐵
蝶番軸針及締附螺釘	鍛黃銅	鍛黃銅

第三條 窻枠、硝子枠、甲種舷窻用內蓋、蝶番軸針及締附螺釘ハ左表ニ掲クル試驗ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

舷窻各部ノ名稱	試驗ノ種別	試驗材	試驗材ノ數	試驗規格

黄銅製又ハ砲金製ノ窓枠、硝子枠及甲種舷窓用內蓋	抗張試驗	徑〇・五六四吋標點間ノ長二吋ノモノ	鎔解毎ニ一箇（同一鎔解ヨリ造リタル鑄物ノ數五十箇ヲ超ユルトキハ超エタル數五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇ヲ加フ）	一平方吋ノ抗張力十四噸以上、伸長ノ割合百分ノ七・五以上但シ乙種舷窓ニ用ウルモノニ在リテハ抗張力ノ下限ヲ十二噸ト爲スモ妨ナシ
鑄鋼製ノ窓枠及硝子枠	屈曲試驗	現品（鑄放シノ儘燒鈍シタルモノ）	鎔解毎ニ一箇（同一鎔解ヨリ造リタル鑄物ノ數五十箇ヲ超ユルトキハ超エタル數五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇ヲ加フ）	常溫ノ儘鎚打ニテ裂疵ヲ生セスシテ屈曲シ得ル角度二十度以上
鑄鋼製甲種舷窓用內蓋	屈曲試驗	現品（鑄放シノ儘燒鈍シタルモノ）	鎔解毎ニ一箇（同一鎔解ヨリ造リタル鑄物ノ數五十箇ヲ超ユルトキハ超エタル數五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇ヲ加フ）	常溫ノ儘鎚打ニテ裂疵ヲ生セスシテ屈曲シ得ル角度三十度以上
可鍛鑄鐵製ノ窓枠及硝子枠	屈曲試驗	現品（鑄放シノ儘燒鈍シタルモノ）	鎔解毎ニ一箇（同一鎔解ヨリ造リタル鑄物ノ數五十箇ヲ超ユルトキハ超エタル數五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇ヲ加フ）	常溫ノ儘鎚打ニテ裂疵ヲ生セスシテ屈曲シ得ル角度十五度以上
鍛黄銅製ノ軸針及締附螺釘	抗張試驗	徑〇・五六四吋標點間ノ長二吋ノモノ但シ原徑〇・五六四吋ヨリ小ナルモノニ在リテハ原徑ノ儘	軸針又ハ締附螺釘ノ數各五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇	一平方吋ノ抗張力二十五噸以上、伸長ノ割合百分ノ二十以上但シ乙種舷窓ニ用ウルモノニ在リテハ抗張力ノ下限ヲ二十二噸ト爲スモ妨ナシ

窓枠、硝子枠及內蓋ニ於テ周緣又ハ脊稜ノ突出特ニ著シキ爲其ノ他ノ理由ニ依リ當該官吏ニ於テ現品ニ付屈曲試驗ノ適當ニ執行シ難シト認ムルトキハ之ニ代ルヘキ試驗方法ニ付遞信大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條　舷窓各部ノ構造及寸法ハ其ノ要部ニ在リテハ第五條以下ノ規定竝舷窓ノ內徑及種別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ定メ其ノ他ノ部分ニ在リテハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第五條　硝子枠ハ堅牢ナル蝶番ニ依リ窓枠ニ取附ケ締附螺釘ヲ以テ之ヲ締附ケ得ル裝置ト爲シ且其ノ周圍ニ溝ヲ設ケ之ニ護謨其ノ他適當ノ塡材ヲ附シ閉鎖シタルトキ充分水密ナラシメ得ルモノナルコトヲ要ス

第六條　締附螺釘三箇以上ヲ有スル硝子枠ニ在リテハ成ルヘク其ノ蝶番ノ壺金孔ヲ橢圓形ト爲スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ壺金ノ外徑ヲ別表ニ掲クルモノヨリ適當ニ增加スルコトヲ要ス

第七條　內蓋ハ甲種舷窓ニ在リテハ厚八分ノ三吋以上、乙種舷窓ニ在リテハ厚四分ノ一吋以上ニシテ適當ノ補強脊稜ヲ有シ堅牢ナル蝶番ニ依リ窓枠ニ取附ケ締附螺釘ヲ以テ之ヲ締附ケ得ル裝置ト爲シ且其ノ周圍ニ溝ヲ設ケ之ニ護謨其ノ他適當ノ塡材ヲ附シ閉鎖シタルトキ充分水密ナラシメ得ルモノナルコトヲ要ス

第八條　硝子枠及內蓋ノ締附螺釘ハ堅牢ナル蝶番ヲ以テ窓枠ニ取附クルモノナルコトヲ要ス

甲種舷窓ノ締附螺釘ノ母螺ハ方形、六角形其ノ他螺廻具ヲ用ヰサレハ締附ケ及捩戻シ得サル形ノモノナルコトヲ要ス

第九條　硝子枠及內蓋ノ周圍ニ設クル溝ハ成ルヘク表面ノ幅ヲ八分ノ三吋、底面ノ幅ヲ二分ノ一吋及深ヲ四分ノ一吋ト爲スヘシ

第十條　外蓋ハ船內ヨリ取附ケ得ルモノニシテ窓枠ニ附シタル小突起其他適當ナル裝置ニ依リ所定ノ位置ニ正確ニ適合シ其ノ外面ハ窓枠ノ外面ヨリ八分ノ一吋以上內方ニ在ルモノナルコトヲ要ス

第十一條　甲種舷窓ノ外蓋ノ厚ハ內徑十吋以上ノ舷窓ニ在リテハ八分ノ五吋以上、內徑十吋未滿ノ舷窓ニ在リテハ二分ノ一吋以上ト爲スヘシ

前項ノ外蓋ニ設クル把手用環ニ對スル凹部ハ其ノ徑二吋二分ノ一以下ニシテ凹部ニ於ケル外蓋ノ厚八分ノ三吋以上ナルコトヲ要ス

第十二條　本令ニ該當セサル材料ニシテ特ニ遞信大臣ノ承認ヲ受ケタルモノ又本令ニ該當セサル構造及寸法ノ舷窓ニシテ當該官吏ニ於テ本令ニ定ムルモノト同等以上ノ效力ヲ有スト認メタルモノハ本令ニ適合スルモノト看做ス

附　則

本令ハ大正十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

舷窓要部ノ構造及寸法

舷窓要部ノ名稱	硝子枠及內蓋ノ蝶番竝硝子枠及內蓋ノ締附螺釘ノ蝶番		硝子枠及內蓋ノ締附螺釘						窓枠ヲ外板ニ取附クル螺釘			外板ニ接スル窓枠平緣ノ厚（吋）		硝子板ノ厚（吋）	
	蝶番壺金ノ外徑（吋）	軸針ノ徑（吋）	內蓋締附螺釘數	硝子枠締附螺釘數	螺釘ノ徑（吋）	內蓋締附螺釘數	硝子枠締附螺釘數	螺釘ノ徑（吋）	螺釘數		螺系底部ニ於ケル徑（吋）				
舷窓ノ種別／舷窓ノ內徑（吋）	甲、乙種	甲、乙種	乙種			甲種			乙種	甲種	甲、乙種	乙種	甲種	乙種	甲種
6	7/8	7/16	1	1	5/8	1	2	5/8	8	8	1/2	5/16	7/16	1/2	7/8
7	1	1/2	1	1	3/4	1	2	3/4	8	9	1/2	3/8	1/2	9/16	15/16
8	1	1/2	1	2	3/4	2	3	3/4	8	10	9/16	3/8	1/2	5/8	1
9	1 1/8	9/16	1	2	3/4	2	3	7/8	8	10	5/8	7/16	9/16	11/16	1 1/16
10	1 1/4	5/8	1	2	7/8	2	3	1	8	11	5/8	7/16	9/16	3/4	1 1/8
12	1 1/2	3/4	1	2	1	2	3	1 1/8	8	11	3/4	1/2	5/8	7/8	1 1/4

●朝鮮造船規程改正

大正十一年十一月
總令第百四十四號

朝鮮造船規程左ノ通改正ス

第一條　船體及機關ノ構造、材料及材料試驗ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外遞信省令造船規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督府遞信局長、舷窓試驗規程トアルハ朝鮮舷窓試驗規程、滿載吃水線ノ標示トアルハ滿載吃水線法ニ依ル滿載吃水線ノ標示、船舶滿載吃水線規程第五十一條又ハ第五十二條ニ揭クル第一級又ハ第二級閉鎖裝置トアルハ之ニ相當スル閉鎖裝置トス

第二條　本令ニ依リ製造スル船舶ノ滿載吃水ハ船舶ノ種類ニ應シ朝鮮總督府遞信局長ノ適當ト認ムルモノニ依ル

第三條　朝鮮總督府遞信局長ハ吃水ノ深淺ニ應シ本令ニ該當セサル構造及寸法ヲ認可スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

支水隔壁ノ構造、寸法及固著ハ從前ノ規定ニ合格スルトキハ當分ノ內之ヲ本令ニ合格スルモノト看做ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

●朝鮮木船檢查規程改正

大正十一年十一月
總令第百四十五號

朝鮮木船檢查規程左ノ通改正ス

木船ノ構造及材料ニ關シテハ遞信省令木船檢查規程ニ依ル但シ同規程中滿載吃水線ノ標示トアルハ滿載吃水線法ニ依ル滿載吃水線ノ標示トス

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

●木船檢查規程

明治三十三年十二月
遞令第八十九號
改正　大正一一年一第五號

木船檢查規程左ノ通之ヲ定メ明治三十三年法律第五十三號施行ノ日ヨリ施行ス

木船檢查規程目次

第一章　總則
第二章　材料
第三章　龍骨、船首材、船尾材、舵柱、力材、船尾縱翼材及ヒ船尾管胴材
第四章　肋骨及ヒ船尾橫翼骨
第五章　內龍骨、側內厚板及ヒ彎曲部縱通材
第六章　梁受材、梁受板、副梁受板、梁壓材、副梁壓材、船錣及ヒ內部腰板
第七章　梁及ヒ梁ノ配置
第八章　梁柱
第九章　船首肘材及ヒ船尾肘材
第十章　梁曲板
第十一章　外板及ヒ內張板
第十二章　甲板
第十三章　過當比例ノ船舶
第十四章　甲板室、船首樓、船橋樓、船尾樓、低船首樓及ヒ低船尾樓
第十五章　艙口、機關室口、載貨門及ヒ其ノ他ノ諸口
第十六章　固著釘及ヒ固著法
第十七章　通風路及ヒ淦水路
第十八章　舵
第十九章　塡隙及ヒ船底包板
第二十章　檣、帆架及ヒ斜檣
第二十一章　機關室
第二十二章　排水裝置及ヒ諸管

木船檢查規程

第一章　總則

第一條　此ノ規定ニ於テ重甲板船ト稱スルハ其ノ上甲板下ニ隨意ニ重量ノ貨物ヲ積載シ得ヘキ船舶ヲ謂フ

輕甲板船ト稱スルハ二層以上ノ甲板ヲ有シ其ノ構造重甲板船ニ比シ稍輕裝ニシテ其ノ正甲板上ニハ船員、旅客若ハ輕量ノ貨物ヲ搭載シ其ノ上甲板上ニハ船首樓、船尾樓又ハ全面積ノ十分ノ一以上ノ甲板室ヲ設置スルニ適セサル船舶ヲ謂フ

重甲板船ノ上甲板ヲ重甲板、輕甲板船ノ上甲板ヲ輕甲板ト謂フ

第二條　此ノ規程ニ於テ船ノ長ト稱スルハ上甲板梁上ニテ船首材ノ後面ヨリ單螺旋汽船ナルトキハ舵柱ノ前面迄、雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ナルトキハ船尾材ノ前面迄ノ水平距離ヲ謂フ但上部彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ於テハ該材下部ノ後面ニ沿フテ眞直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交叉點ヨリ測リタル水平距離ヲ謂フ

幅ト稱スルハ船體ノ最廣部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ距離ヲ謂フ

深ト稱スルハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外船體ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面迄ノ距離ヲ謂フ

第三條　此ノ規程ニ於テ第一數ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ深ト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ又輕甲板船ニ於テハ輕甲板梁及ヒ正甲板梁間ノ高ノ二分ノ一ノ所迄ノ深ト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ

第二數ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ長ト幅ト深トヲ相乘シタル數ヲ謂フ又輕甲板船ニ於テハ長ト幅ト輕甲板梁及ヒ正甲板梁間ノ高ノ二分ノ一ノ所迄ノ深トヲ相乘シタル數ヲ謂フ

前二項ノ長、幅、深及ヒ高ハ呎ヲ以テ本位トシ呎以下ハ一位ニ止メ其ノ以下ハ四捨五入スヘシ

第四條　此ノ規程ニ於テハ特ニ其ノ條項ニ規定シタル場合ヲ除クノ外船ノ長、深ノ八倍ヲ超エサル船舶ノ構造方法ヲ示シ又寸法及ヒ員數ハ最小ノ限度ヲ、距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモノトス

第五條　肋骨ノ寸法及ヒ心距ハ第一數ニ依リ之ヲ定メ龍骨、船首材、船尾材、舵柱、內龍骨、側內厚板、船尾橫翼材、梁受板、副梁受板、梁曲材、彎曲部縱通材、船錣、外板、內張板、木甲板、舵心材及ヒ舵針等ノ寸法及ヒ舵針ノ數ハ第二數ニ依リ之ヲ定メ梁ノ寸法ハ船體ノ中央ニ於ケル各層梁ノ長ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第六條　第一級船及ヒ第二級船ノ船體ノ各部ノ寸法ハ別表ニ據ルヘシ

第三級船及ヒ第四級船ノ船體ノ構造及ヒ寸法ハ此ノ規程ニ適合セサルモノト雖モ檢查官吏ニ於テ適當ト認ムルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス但第十五章第三條第一項、第二十一章及ヒ第二十二章ニ規定スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　此ノ規定ニ該當セサル船體ノ構造方法ハ檢查官吏ニ於テ此規程ト同一ノ效力ヲ有スルト認ムルトキハ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

第二章　材料

第一條　木材ハ有害ナル節瘤其ノ他ノ缺點ヲ有セスシテ充分乾燥シタルモノナルヲ要

ス

第二條　曲材ハ總テ天然屈曲材ニシテ木目ノ貫通セルモノナルヲ要ス

第三條　木材ヲ蒸曲ケシテ用ウルトキハ蒸曲ケタル後裂疵ヲ生セサルモノナルヲ要ス

第四條　此ノ規程ニ規定スル副内部龍骨、側内龍骨、梁受材、梁壓材、副梁壓材、船首肘材、船尾肘材、梁曲材、内部腰板、縦梁、檣孔板及ヒ艙口緣材等ノ寸法ハ第一號表甲欄ニ揭クル材料ヲ用ヰタルトキノ寸法トス

第五條　「チーク」ヲ第一號表甲欄ニ揭クル木材ニ代用スルトキハ百分ノ十二以下又乙欄ニ揭クル木材ニ代用スルトキハ百分ノ二十以下其ノ截面ヲ別表ニ揭クルモノヨリ減スルコトヲ得

「オレゴンパイン」ハ第一號乙欄ニ揭クル木材ニ代用スルコトヲ得

第六條　第一號表甲欄ニ揭クル木材ノ代リニ乙欄ニ揭クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ十二以上、丙欄ニ揭クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十二以上又丁欄ニ揭クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ三十二以上其ノ截面ヲ別表ニ揭クルモノヨリ増スコトヲ要ス

第七條　第一號表乙欄ニ揭クル木材ノ代リニ甲欄ニ揭クル木材ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ別表ニ揭クルモノヨリ百分ノ十二以下減スルコトヲ得

第八條　第一號表乙欄ニ揭クル木材ノ代リニ丙欄ニ揭クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ十五以上丁欄ニ揭クル木材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十五以上其截面ヲ別表ニ揭クルモノヨリ増スコトヲ要ス

第九條　此ノ規程ニ規定スル鐵材ノ代リニ鋼材ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ百分ノ二十以下減スルコトヲ得

第三章　龍骨、船首材、船尾材、舵柱、力材、船尾縦翼材及ヒ船尾管胴材

第一條　龍骨、船首材及ヒ船尾材ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第二條　龍骨ヲ構成スル各材ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外三十五呎以上ナルヲ要ス

前項ノ長ヨリ短キ材ヲ龍骨ニ使用スルトキハ其ノ下面ニ副龍骨ヲ附スヘシ此ノ場合ニ於ケル龍骨ノ深ハ第三號表ニ揭ケル龍骨ノ深ノ三分ノ二以上、副龍骨ノ深ハ其ノ二分ノ一以上ト爲スヲ要ス

龍骨ニハ龍骨翼板ヲ受ケルニ適當ナル溝ヲ穿チ倚溝ノ上部ニハ適當ノ緣ヲ殘シ置クヘシ

第三條　龍骨ノ嵌接ハ鉤形水平嵌接ト爲スコトヲ要ス但木栓ヲ以テ特ニ固著スルトキハ平面水平嵌接ト爲スコトヲ得

嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ五倍以上、其ノ端末ニ於ケル龍骨ノ深ハ用材ノ深ノ四分ノ一以上ト爲スヘシ

龍骨ノ嵌接ハ副龍骨及ヒ龍骨翼板ノ嵌接ト五呎以上相避距シ且檣根及ヒ艙口ト適當ニ避距スヘシ

嵌接ニハ其ノ兩端ニ二箇ツツ、其ノ中間ニ十三吋ノ心距ニ鋲釘ヲ緊著スヘシ

嵌接ニハ適當ノ位置ニ浸水ヲ防ク爲メ水留栓ヲ打込ムヘシ

第四條　船首材ノ寸法ハ最大吃水線ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第三號表ニ揭クルモノノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

船首材ハ一材ニテ作ルヘシ但第二數五萬以上ノ船舶ニ於テハ二材ヲ以テ作ルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ嵌接ノ長ヲ用材ノ深ノ三倍二分ノ一以上ト爲シ且適當ナル副船首材ヲ設クヘシ

船首材ト龍骨トノ嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ四倍以上ト爲シ其構造ハ總テ本章第三條ニ規定セル龍骨ノ嵌接ニ等クスヘシ

船首材ノ下部屈曲セスシテ龍骨ニ嵌接スルトキハ筍ヲ作出シテ相嵌込ミ鳩尾形金具ヲ兩面ニ附シ且根曲材ヲ以テ固著スヘシ又接合ニハ適當ノ位置ニ浸水ヲ防ク爲メ水留栓ヲ打込ムヘシ

第五條　雙螺旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ノ船尾材ハ眞直ナル一材ヲ以テ作リ上甲板迄達セシメ其ノ下部ニ於テ龍骨トノ固著法ハ前條第四項ニ依ルヘシ

雙螺旋汽船、外車船及ヒ帆船ノ船尾材ノ寸法ハ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ第三號表ニ揭クルモノノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

第六條　單螺旋汽船ノ船尾材ハ眞直ナル一材ヲ以テ作リ正甲板迄達セシメ其ノ下部ニ於テ龍骨トノ固著法ハ本章第四條第四項ニ依ルヘシ

單螺旋汽船ノ船尾材ノ車軸孔ノ兩側ニ於ケル厚ハ第三號表ニ揭クル寸法ノ五分ノ三ヨリ小ナルヘカラス

單螺旋汽船ノ舵柱ノ寸法ハ第三號表ニ揭クル船尾材ニ等クシ舵頭管ノ下部ヨリ漸次減少シテ頂上ニ於ケル截面ハ其ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

單螺旋汽船ノ舵柱ハ筍ヲ作出シテ龍骨ニ嵌込ミ且船尾材、龍骨及ヒ舵柱ニ跨ル黄銅製金具ヲ兩面ニ取附ケ三材ノ結合ヲ堅固ニ爲スヘシ但龍骨ヲ船尾材ニ止ムルトキハ特ニ堅牢ナル黄銅製金具ヲ以テ三材ノ結合ヲ堅固ナラシムヘシ

單螺旋汽船ノ船尾材及ヒ舵柱ハ其ノ上部ニ於テ兩面ニ第三號表ニ揭クル船尾材ノ截面ノ二分ノ一ヨリ少カラサル船尾縦通材ヲ以テ相挾ミ其ノ空隙ニハ塡材ヲ挿入シテ緊著スヘシ

第七條　船首材及ヒ船尾材ニハ外板ノ端末ヲ受クルニ適當ナル溝ヲ穿ツヘシ

第八條　船ノ首尾ニ揭ケル力材ノ高ハ斜肋骨ノ下部ヲ取附クルニ充分ナラシメ其ノ厚ハ龍骨ノ厚ニ等クスヘシ

第九條　船尾管ノ通スル分部ニ於ケル胴材ハ堅材ヲ以テ作リ其ノ寸法ハ船尾管ノ徑ノ二倍以上ト爲スヘシ

第四章　肋骨及ヒ船尾横翼材

第一條　肋骨ハ總テ天然ノ曲材ヲ以テ構成シ其ノ寸法ハ第二號表ニ據ルヘシ但肋材ノ深ハ其ノ厚ヨリ小ナルヘカラス

第二條　長短肢肋根材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ總長ハ船ノ幅ノ五分ノ二以上ト爲シ且肋根材ハ船ノ幅ノ七分ノ一以上相累接セシムヘシ

第三條　肋根材及ヒ半肋根材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ長ヲ船ノ幅ノ四分ノ一以上、半肋根材ノ總長ヲ船ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲スヘシ且半肋根材ノ衝接ハ龍骨ノ中心ヲ交互ニ二吋以上左右ニ隔離スルヲ要ス

第四條　第一數二十七未滿ノ船舶ニ於テハ肋材衝接ノ避距ハ船ノ幅ノ八分ノ一以上、第一數二十七以上ノ船舶ニ於テハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スヘシ

肋材ノ衝接ハ總テ密接セシメ木栓等ヲ以テ相嵌合スヘシ但第一數二十三未滿ノ船舶ニ於テハ木栓等ヲ省略スルコトヲ得

肋骨ヲ構成スル肋材ハ其ノ衝接ノ兩側ニ一箇以上ノ鋲釘若ハ木釘ヲ以テ緊著シ且衝接ノ避距大ナルトキハ衝接ノ中間ニ於テ木釘若ハ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

第五條　嵌接シタル單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ其ノ嵌接ノ長ハ用材ノ深ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ鋲釘ヲ以テ緊著スヘシ

又衝接シタル單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ用材ノ截面ニ等キ截面ヲ有シ其ノ總長ハ用材ノ深ノ四倍以上ヲ有スル添材ヲ取附ケ衝接ノ兩側ニ二箇以上ノ鋲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第六條　蒸曲材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ其ノ寸法ハ第二號表ニ揭クルモノヨリ減スルコトヲ得但此ノ場合ニ於テハ肋骨ノ心距ヲ適當ニ減スヘシ

第七條　肋骨ノ心距ハ第二號表ニ據ルヘシ但帆船ニ於テハ其ノ一倍四分ノ一迄増スコトヲ得

第八條　船ノ幅、深ノ三倍以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一間ハ肋骨ノ心距ヲ減スルカ若ハ肋骨ノ寸法ヲ増スヘシ

第九條　船首肋材及ヒ錨鎖孔材ハ各一材ヲ以テ作リ其ノ厚ハ肋骨ノ厚ノ二倍以上ト爲スヘシ

船首材ヨリ錨鎖孔材ノ後部適當ナル距離ノ所迄肋骨ノ間隙ニハ塡材ヲ挿入スヘシ

第十條　船尾肋材ハ其ノ寸法ヲ踵部ニ於テハ

肋材ノ頂部ノ截面ノ一倍三分ノ一以上、頂部ニ於テハ四分ノ三以上ト爲シ船尾縦翼材又ハ船尾横翼材ニ緊著スヘシ

第十一條　第二數五萬以上ニシテ肋骨柔材ナルトキハ第十三章第三條ニ規定スル斜帶板ヲ取附クヘシ

第十二條　肋骨ノ寸法規定ノ寸法ヨリ小ナルトキ又ハ肋骨ノ心距規定ノ心距ヨリ大ナルトキハ適當ノ斜帶板ヲ肋骨ニ取附クヘシ

第十三條　船尾横翼材ハ成ルヘク一材ヲ以テ作リ其ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第五章　内龍骨、側内厚板及ヒ彎曲部縦通材

第一條　内龍骨及ヒ側内厚板ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第二條　内龍骨ヲ構成スル各材ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外三十呎以上ナルヲ要ス

前項ノ長ヨリ短キ材ヲ内龍骨ニ使用スルトキハ其ノ上面ニ副内龍骨ヲ附スヘシ此ノ場合ニ於ケル内龍骨ノ深ハ第三號表ニ揭ケル内龍骨ノ深ノ三分ノ二以上、副内龍骨ノ深ハ其ノ二分ノ一以上ト爲スヘシ

第三條　船ノ長百三十呎ヲ超ユルカ若ハ船ノ長九十呎以上ニシテ深ノ七倍以上ナルトキハ適當ノ側内龍骨ヲ附スヘシ

第四條　内龍骨ノ嵌接ハ平面水平嵌接ト爲シ其ノ長ハ用材ノ深ノ五倍以上、其ノ端末ニ於ケル内龍骨ノ深ハ用材ノ深ノ四分ノ一以上ト爲スヘシ

内龍骨ノ嵌接ハ龍骨ノ嵌接ト五呎以上又汽機及ヒ汽罐トハ適當ニ避距スヘシ

第五條　檣ハ直接ニ内龍骨ニ嵌込ムヘカラス

第六條　汽機及ヒ汽罐ノ下部ニ於ケル内龍骨ハ堅材ヲ以テ構成シ且汽罐ノ下部ト内龍骨上部トハ十二吋以上隔離スルカ若ハ適當ノ防熱工事ヲ施スヘシ

第七條　側内厚板ハ肋根材ト第一肋材トノ接合部ニ設クヘシ

第八條　船底彎曲部ニハ船ノ首尾ヲ通シテ彎曲部縦通材ヲ設ケ其ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ六分ノ一以上ト爲シ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ但首尾兩端ニ於テハ適當ニ其ノ寸法ヲ減スルコトヲ得

第九條　側内厚板及ヒ彎曲部縦通材ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ

第二數八萬以上ノ船舶ニ於テハ彎曲部縦通材ハ五呎以内ノ距離ニ成ルヘク横ニ其ノ一端ヨリ他端ニ貫通スル鋲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第六章　梁受材、梁受板、副梁受板、梁壓材、副梁壓材、船鍔及ヒ内部腰板

第一條　梁受材及ヒ梁壓材ハ各層梁ニ取附ケ其ノ寸法ハ之ヲ取附クル梁ノ兩端ノ截面ニ等クシ且梁トノ接面ニ於ケル幅ハ第四號表ニ揭クル梁ノ幅ヨリ大ナラシムヘシ

第二條　前條ノ規定ニ依リ梁受材ヲ取附ケサルトキハ梁受板ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ

第三條　梁受材、梁受板、副梁受板、梁壓材、副梁壓材、船鍔及ヒ内部腰板ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三個以上鋲釘又ハ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

前項ニ揭クル嵌接ハ適當ニ避距スヘシ

第四條　重甲板梁、正甲板梁及ヒ艙梁ニハ第三號表ニ揭クル寸法ヲ有スル副梁受板ヲ附スヘシ但第二數一萬五千未滿ノ船舶ノ重甲板梁ニハ之ヲ附スルヲ要セス

第五條　第二數三萬以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間重甲板梁ニ副梁壓材ヲ設クヘシ

第二數五萬以上ナルトキハ前項ノ幅梁壓材ヲ船ノ首尾ヲ通シテ設クヘシ

第二數九萬以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間韆甲板梁及ヒ正甲板梁若ハ艙梁ニモ副梁壓ヲ設クヘシ

第六條　副梁材壓ノ幅ハ第四號表ニ揭クル梁ノ幅以上ト爲シ厚ハ第三號表ニ揭クル木甲板ノ厚ニ等クスヘシ

第七條　船鍔ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ

船鍔ヲ貫キテ舷檣柱ヲ設クルトキハ船鍔ハ二材ヲ以テ構成スルコトヲ得

船鍔ノ幅ハ外板及ヒ梁壓材ニ固著スルニ充分ナル幅ト爲スコトヲ要ス

第八條　内部腰板ハ正甲板梁又ハ艙梁ノ梁壓材上ニ設クヘシ

内部腰板ノ寸法ハ正甲板梁又ハ艙梁ノ副梁受板ニ等クスヘシ

第七章　梁及ヒ梁ノ配置

第一條　甲板梁及ヒ艙梁ノ寸法ハ第四號表ニ據リ船ノ中央ニ於ケル梁ノ長ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但韆甲板梁ハ其ノ截面ヲ表中ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

第二條　各層ニ於ケル梁ハ上下相累ネテ設クヘシ

第三條　梁矢ハ上甲板梁ニ於テハ梁ノ長一呎ニ付四分ノ一吋以上、正甲板梁ニ於テハ八分ノ一吋以上ノ割合ト爲スヘシ

第四條　梁ハ漸次其ノ深ヲ減少シテ梁端ニ於テ中央ノ深ノ十分ノ九ト爲スコトヲ得

第五條　船ノ中央ニ於ケル梁ノ長ノ四分三ヨリ短キ梁ハ其ノ截面ヲ第四號表ニ揭クルモノノ四分ノ三迄減スルコトヲ得

第六條　艙口兩端ノ梁及ヒ帆船ニ於ケル檣ノ前後ノ梁ハ其ノ截面ヲ第四號表ニ揭クルモノノ一倍八分ノ一ト爲スヘシ

第七條　梁ハ成ルヘク肋骨ノ位置ニ設ケ肋材ニ密接セシメ梁受材上ノ鳩尾形溝ニ嵌込ムヘシ

第八條　甲板梁ノ心距ハ汽船ニ於テハ肋骨ノ心距ノ二倍二分ノ一以下帆船ニ於テハ肋骨ノ心距ノ二倍以下ト爲スヘシ但四呎ヲ超過スヘカラス

第九條　檣孔及ヒ艙口ニ設クル縱梁ノ截面ハ甲板梁ノ四分ノ三ト爲スヘシ

艙口ノ兩側ニ於ケル半梁ノ截面ハ甲板梁ノ四分ノ三ト爲シ其ノ心距ハ前條ノ規定ニ依ルヘシ

第十條　深十四呎以上十六呎未滿ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ舷ノ長ノ二分ノ一間ハ上甲板梁一本置ニ艙梁ヲ設クヘシ

第十一條　深十六呎以上十九呎未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シ上甲板梁一本置ニ艙梁ヲ設クヘシ

第十二條　深十九呎以上二十一呎未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ上甲板梁一本置ニ二本續テ艙梁ヲ設クヘシ

第十三條　深二十一呎以上二十五呎未滿ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ上甲板梁毎ニ正甲板梁又ハ艙梁ヲ設クヘシ

第十四條　龍骨上面ヨリ最下層梁ノ上面迄ノ深九呎以上ナルトキハ帆船ニ於テハ檣孔梁及ヒ艙口兩端ノ梁又汽船ニ於テハ汽罐及ヒ機關室ノ兩端ノ梁ニ[illegible]鋲釘ヲ打[illegible]梁曲材ヲ[illegible]

第十五條　[illegible]ニ於テ本章ノ規定ニ依リ梁ヲ配置スルコト能ハサルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

揚錨機、斜檣等ヲ支フル梁ハ其ノ寸法ヲ適當ニ増スヘシ

第八章　梁柱

第一條　梁ノ長、上甲板ノ最長梁ノ二分ノ一ヲ超ユルトキハ梁毎ニ梁柱ヲ設クヘシ但梁ヲ支フル縦梁アルトキハ梁一本置ニ之ヲ取付クルモ妨ナシ

上層梁ニ梁柱ヲ取附クルトキハ下層梁ニモ亦之ヲ設クヘシ

第二條　木製梁柱ノ截面ハ[illegible]毎一呎ニ付[illegible]

鐵製中實梁柱ノ[illegible]二呎ヲ減[illegible]ノ割合ト爲スヘシ

甲梁間ノ梁柱ノ截面ハ前二項ノ規定ニ依リ算出シタル截面ヨリ其ノ四分ノ一ヲ減スルコトヲ得

鐵製中空梁柱ハ[illegible]實梁柱ト同一ノ[illegible]ヲ有スルモノタルヲ要ス

本章第一條第一項ノ規定ニ依リ梁一本置ニ梁柱ヲ取附クルトキハ其ノ截面ハ梁毎ニ取附タルモノノ二倍ト爲スヘシ

第三條　幅[illegible]面ヲ第四號表ニ揭クル[illegible]以上ト爲[illegible]トキハ梁[illegible]

第四條　甲板室、斜檣、揚錨機及ヒ揚貨機等ヲ支フル梁其ノ他必要ノ箇所ニハ特ニ梁柱ヲ設クヘシ

第九章　船首肘材及ヒ船尾肘材

第一條　艙內ニ於ケル肘材ノ配置ハ船ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ最下層梁ノ上面迄ノ深ヲ以テ之ヲ定ムヘシ又各層梁受材ノ端末ニハ肘材ヲ設クヘシ

第二條　深九呎未滿ノ船舶ニ於テハ船首肘材二箇、船尾肘材一箇ヲ設クヘシ

第三條　深九呎以上十四呎未滿ノ船舶ニ於テハ船首肘材三箇、船尾肘材一箇ヲ設クヘシ

第四條　深十四呎以上十六呎未滿ノ船舶ニ於テハ船首肘材四箇、船尾肘材二箇ヲ設クヘシ

第五條　深十六呎以上ノ船舶ニ於テハ三呎以內ノ距離ニ船首肘材ヲ設ケ且二箇以上ノ船尾肘材ヲ設クヘシ

第六條　肘材ノ腕ノ長ハ船ノ幅ノ五分ノ一以上ト爲シ下部ニ用フルモノハ其ノ部分ニ於ケル內板ニ四十五度ノ角度ヲ於テ交叉セシムヘシ但添材ヲ附スルトキハ腕ノ長ハ船ノ幅ノ八分ノ一迄減スルコトヲ得

第七條　木製肘材ノ截面ハ咽喉部ニ於テ第四號表ニ掲クル甲板梁ノ截面ノ四分ノ三ト爲シ腕端ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ其ノ二分ノ一ト爲スコトヲ得

第八條　鐵製肘材ヲ用ウルトキハ幅ハ第五號表ニ於ケル短梁曲材ノ幅ニ二分ノ一吋ヲ加ヘタルモノ、厚ハ咽喉部ニ於テハ第五號表ニ掲クル短梁曲材ノ幅ニ等ク、腕ノ各部ニ於テハ第五號表ニ掲クル短梁曲材ノ厚ニ四分ノ一吋ヲ加ヘタルモノナルヲ要ス

第十章　梁曲材

第一條　鐵製竪梁曲材ノ寸法ハ第五號表ニ據ルヘシ

第二條　木製竪梁曲材ノ腕ノ長ハ第五號表ニ掲クル鐵製竪梁曲材ニ等クシ其ノ幅ハ之ヲ取附クル梁ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲シ其ノ厚ハ咽喉部ニ於テハ幅ノ一倍二分ノ一、腕端ニ於テハ幅ニ等クスヘシ

第三條　第二數八千四百未滿ノ汽船ニ於テハ甲板梁二本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第四條　第二數八千四百以上一萬七千未滿ノ汽船ニ於テハ交互ニ甲板梁一本置ト二本置トニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第五條　第二數一萬七千以上二萬五千未滿ノ汽船ニ於テハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第六條　第二數二萬五千以上三萬三千未滿ノ汽船ニ於テハ甲板梁一本置ニ二本續キテ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第七條　第二數三萬三千以上ノ汽船ニ於テハ甲板梁毎ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ但第二數四萬二千以上六萬七千未滿ナルトキハ甲板梁三本置ニ、六萬七千以上十萬未滿ナルトキハ甲板梁二本置ニ又十萬以上ナルトキハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第八條　第二數八千四百未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第九條　第二數八千四百以上一萬七千未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁一本置ニ二本續キテ短梁曲材ヲ取附クヘシ

第十條　第二數一萬七千以上十二萬未滿ノ帆船ニ於テハ甲板梁毎ニ短梁曲材ヲ取附クヘシ但第二數二萬五千以上四萬二千未滿ナルトキハ甲板梁三本置ニ、四萬二千以上六萬七千未滿ナルトキハ甲板梁二本置ニ、六萬七千以上十二萬未滿ナルトキハ甲板梁一本置ニ短梁曲材ノ代リニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第二數十二萬以上ノ帆船ニ於テハ甲板梁毎ニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第十一條　二層甲板船ノ上甲板梁ニハ長梁曲材ノ代リニ短梁曲材ヲ用ウルモ妨ナシ

第十二條　艙梁ニハ梁毎ニ長梁曲材ヲ取附クヘシ

第十三條　第二數二萬五千以上ノ船舶ニシテ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ特設梁曲材ヲ艙梁毎ニ取附ケ其ノ梁腕ハ第五號表ニ掲クル長梁曲材ノ梁腕ノ長ニ等キ長ヲ有シ側腕ハ肋根材ニ二箇ノ螺釘ヲ以テ固著スルニ足ルヘキ長ヲ有スルモノナルヲ要ス特設梁曲材ノ厚及ヒ幅ハ第五號表ニ掲クル長梁曲材ニ準スヘシ

第十四條　前條ノ特設梁曲材ヲ用ヰサルトキハ梁ト梁トノ間ニ於ケル肋骨ニ鐵帶ヲ取附ケ上部ハ梁受材ニ緊著スヘシ

鐵帶ノ長及ヒ幅ハ特設梁曲材ノ側腕ニ等クシ厚ハ第五號表ニ掲クル長梁曲材ノ咽喉釘部ニ於ケル厚ノ二分ノ一以上ト爲スヘシ

第十五條　木製又ハ鐵製ノ梁曲材ヲ用ウル代リニ鐵製肘板及ヒ山形材ヲ用ウルトキハ其ノ寸法ハ第五號表ニ據ルヘシ但梁腕及ヒ側腕ニ於ケル山形材ノ長ハ梁曲材ニ等クスヘシ

第十六條　肋骨間ニ於テ竪梁曲材ヲ固著スルトキハ該材ニ塡材ヲ挿入スヘシ

第十七條　横梁曲材ノ厚及ヒ幅ハ第五號表ニ掲クル短梁曲材ノ四分ノ三以上ト爲スヘシ

第十一章　外板及ヒ內張板

第一條　外板及ヒ內張板ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一間ハ車軸覆板ノ附近ニ於ケル外板ヲ除キ漸次其ノ厚ヲ減シ首尾ニ至リテ十分ノ八ト爲スコトヲ得

第二條　外板ノ横緣ノ避距ハ上下ニ鄰接スルトキハ肋骨ノ心距ノ三倍以上、外板一條ヲ隔テタルトキハ肋骨ノ心距ノ二倍以上、二條ヲ隔テタルトキハ肋骨ノ心距以上ト爲スヘシ

外板ノ横緣ハ三條ヲ隔ツルニアラサレハ同一ノ肋骨上ニ置クヘカラス

前二項ノ規定ハ船ノ首尾兩端ニ於テハ之ヲ適用セサルモ妨ナシ

第三條　外板及ヒ內張板ノ長ハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外十八呎以上ナルヲ要ス

第四條　外板及ヒ內張板ノ幅ハ十二吋ヲ超ユヘカラス

第五條　兩舷ニ於ケル龍骨翼板ノ横緣ノ避距ハ肋骨ノ心距ノ三倍以上ト爲スヘシ

龍骨翼板ノ横緣ハ嵌接ト爲シ其ノ長ハ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ

第六條　外部腰板ハ水線ノ上下ニ取附ケ其ノ厚ハ第三號表ニ據リ總幅ハ左表ニ據ルヘシ

船ノ長ト深トノ割合	外部板腰ノ總幅ト船ノ深トノ割合
六倍未滿	百分ノ二十五
六倍以上 八倍未滿	百分ノ三十
八倍以上 十倍未滿	百分ノ三十五
十倍以上 十二倍未滿	百分ノ四十

第七條　舷側厚板ノ横緣ハ嵌接ト爲シ其ノ長ハ幅ノ三倍以上ト爲スヘシ

第十二章　甲板

第一條　重甲板船ノ重甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ其ノ正甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ之ヨリ二分ノ一吋ヲ減スルコトヲ得

輕甲板船ノ正甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ第三號表ニ據ルヘシ其ノ輕甲板ニ張ル木甲板ノ厚ハ之ヨリ二分ノ一吋ヲ減スルコトヲ得

第二條　上甲板ハ總テ水密ト爲スヘシ

第三條　木甲板ノ幅ハ十吋ヨリ大ナルヘカラス又其ノ端末ニ於ケル幅ハ塡絮ヲ施スニ充分ナルヲ要ス

第四條　鄰接スル木甲板ノ横緣ノ避距ハ梁ノ心距ノ二倍以上ト爲スヘシ又木甲板三條ヲ隔ツルニアラサレハ同一梁上ニ横緣ヲ置クヘカラス

第五條　木甲板ノ長ハ船ノ首尾兩端及ヒ艙口ノ間ヲ除クノ外二十呎以上ト爲スヘシ

第六條　揚錨機、揚貨機、繫船機等ノ下部ニ於ケル甲板ハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第十三章　過當比例ノ船舶

第一條　過當比例ノ船舶トハ長深ノ八倍ヲ超ユルカ又ハ長、幅ノ五倍ヲ超ユルモノヲ謂フ

第二條　過當比例ノ船舶ニハ其ノ長ト深及ヒ幅トノ割合ニ依リ左表ノ規定ニ從ヒ上部ニ於テ梁壓材木及ヒ舷側厚板ノ截面ヲ增シ下部ニ於テハ內龍骨ノ截面ヲ增スカ若ハ側內龍骨又ハ內龍骨ヲ增設スヘシ

過當比例	梁壓材ノ增加スヘキ截面ト梁壓材ノ截面トノ割合	舷側厚板ノ增加スヘキ截面ト舷側厚板ノ截面トノ割合	兩側ニ增加スヘキ副內龍骨又ハ側內龍骨ノ截面ト內龍骨ノ截面トノ割合	內龍骨ノ增加スヘキ截面ト內龍骨ノ截面トノ割合
長、深ノ八倍以上九倍未滿若ハ幅ノ五倍以上六倍未滿	六分ノ一	六分ノ一	四分ノ一	四分ノ一
長、深ノ九倍以上十倍未滿若ハ幅ノ六倍以上七倍未滿	四分ノ一	四分ノ一	三分ノ一	三分ノ一
長、深ノ十倍以上十一倍未滿若ハ幅ノ七倍以上八倍未滿	三分ノ一	三分ノ一	二分ノ一	二分ノ一

第三條　第二數二萬五千以上ノ過當比例ノ船舶ニ於テハ船ノ首尾ヲ通シテ左表ニ掲クル鐵製斜帶板ヲ肋骨ノ外面ニ取附クヘシ

第二數	斜帶板ノ寸法	
	幅	厚
二萬五千以上 四萬二千未滿	三吋	十六分ノ六吋
四萬二千以上 五萬八千未滿	三吋半	十六分ノ七吋
五萬八千以上 七萬五千未滿	四吋	十六分ノ八吋
七萬五千以上 十萬未滿	四吋	十六分ノ十吋
十萬以上 十二萬五千未滿	四吋半	十六分ノ十一吋
十二萬五千以上 十六萬七千未滿	五吋	十六分ノ十二吋

第四條　斜帶板ハ船鍔ノ下部ヨリ肋根材長肢ノ頭部又ハ半肋根材ノ頭部ト第一肋材ノ頭部トノ中間迄達セシムヘシ

第五條　斜帶板ハ肋骨ニ四十五度ノ角度ニ取附ケ其ノ心距ハ船ノ長、深ノ八倍以上九倍未滿若ハ幅ノ五倍以上六倍未滿ナルトキハ八呎以下、又船ノ長、深ノ九倍以上十倍未滿若ハ幅ノ六倍以上七倍未滿ナルトキハ七呎以下、又船ノ長、深ノ十倍以上十一倍未滿若ハ幅ノ七倍以上八倍未滿ナルトキハ六呎以下ト爲スヘシ

第六條　斜帶板ハ船首ニ於テハ頭部ヲ後方ニ向ハシメ船尾ニ於テハ之ヲ前方ニ向ハシムル樣配置シ中央部ニ於テ三本以上相交叉セシムヘシ

第十四章　甲板室、船首樓、船橋樓、船尾樓、低船首樓及ヒ低船尾樓

第一條　輕甲板上ノ甲板室ハ其ノ高七呎ヲ超ユヘカラス又船ノ船尾ニ於テ船ノ長ノ五分ノ一間ニハ之ヲ設クヘカラス

第二條　船首樓、船橋樓、船尾樓、低船首樓、低船尾樓等ノ合長ハ船ノ長ノ五分ノ三ヲ超ユヘカラス

船首樓、船橋樓及ヒ船尾樓ノ各材ノ截面ハ重甲板以下ノ各材ノ截面ノ四分ノ三以上ト爲スヘシ

首船樓、船橋樓又ハ船首樓ヲ設クルトキハ重甲板ニ於ケル肋骨間ノ空隙ハ船鍔ヲ以テ閉塞シ之ヲ水密ト爲スヘシ

第三條　低船首樓及ヒ低船尾樓ノ外板其ノ他ノ諸材ノ寸法ハ重甲板以下ニ要スル者ニ等クシ又梁、船首肘材及ヒ船尾肘材ノ配置ハ龍骨ノ上面ヨリ低船首樓又ハ低船尾樓ノ甲梁板ノ上面迄ノ深ヲ第七章及ヒ第九章ノ深ニ充テ之ヲ定ムヘシ

低船首樓甲板又ハ低船尾樓甲板及ヒ重甲板ノ梁壓材竝ニ梁受材又ハ梁受板ハ肋骨ノ心距ノ五倍以上相累スヘシ

低船首樓又ハ低船尾樓ヲ設クル船舶ニ於テハ上甲板ノ高ニ於テ船ノ首尾ヲ通シテ舷側厚板ヲ設クヘシ

第十五章　艙口、機關室口、載貨門及ヒ其ノ他ノ諸口

第一條　長十呎以上ノ艙口兩端ノ梁及ヒ帆船ニ於ケル檣ノ前後ノ深ハ第十章第十七條ニ規定スル横梁曲材ヲ以テ船側ニ固著スヘシ

第二條　上甲板及ヒ正甲板ノ艙口ノ長八呎以上ナルトキハ其ノ中央ニ取外シ得ヘキ堅牢ノ梁ヲ設ケ其ノ長十呎以上ナルトキハ縱梁ノ兩端ハ第十章第十七條ニ規定スル横梁曲材ヲ以テ甲板梁ニ固著スヘシ又其ノ長十五呎以上ナルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第三條　上甲板ニ設クル艙口、機關室口、載炭口、出入口、天窻、通風器等ノ諸口及ヒ甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ノ緣材ハ其ノ高甲板上面ヨリ第一級船ニ於テハ十二吋以上、第二級船ニ於テハ九吋以上、第三船級ニ於テハ六吋以上ト爲スヘシ但直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於テハ檢查官吏ノ見込ニ依リ緣材ノ高ヲ減スルコトヲ得

艙口ニハ堅牢ナル蓋板及ヒ縱材又ハ仕切梁等ヲ備ヘ且暴露甲板ノ艙口ニ在リテハ之ヲ堅固ニ密閉シ得ヘキ覆布及ヒ適當ノ締具ヲ備フヘシ

暴露甲板ノ載炭口、出入口、天窻、通風器等ノ諸口ニハ覆蓋又ハ覆板及ヒ覆布竝ニ適當ノ締具ヲ備フルカ其他水密トナルヘキ裝置ヲ爲スヘシ但檢查官吏ニ於テ水密ト爲スヘキ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條　帆船ニ於テハ上甲板及ヒ檣ヲ楔止メト爲ス甲板ニ於ケル檣ノ前後ノ梁間ハ縱梁、塡材及ヒ横曲材ヲ以テ固メ且其ノ上面ニ第三號表ニ掲クル甲板ノ厚ノ一倍三分ノ一ノ厚ト檣徑ノ二倍ヨリ少カラサル幅トヲ有スル檣孔板ヲ設クヘシ

第五條　汽機室口及ヒ汽鑵室口ハ成ルヘク小サク之ヲ造リ其ノ周圍ニハ緣材ヲ取附ケ甲板間ニ圍壁ヲ設クヘシ

第六條　上甲板ニ設クル汽機室口及ヒ汽鑵室口ニハ甲板上面ヨリ第二級船ニ於テハ二呎以上、第一級船ニ於テハ二呎六吋以上ノ高ヲ有スル圍壁ヲ取附ケ汽機室口ノ上端ニ天窻ヲ設クヘシ機關室圍壁ノ頂部ニ設クル天窻ハ堅牢ニ緣材ニ固著シ適當ノ覆蓋ヲ備フヘシ

汽鑵室圍壁ノ頂部ニ開口ヲ設クルトキハ蝶番ヲ以テ固著シタル鋼製ノ蓋板ヲ備フヘシ

第七條　一層甲板船ノ甲板及ヒ二層甲板船ノ正甲板ニ於ケル汽機室口及ヒ汽鑵室口ノ兩側ハ堅材ノ木甲板ヲ張詰メ且横梁曲材ヲ以テ半梁ノ兩端ヲ固著スヘシ

第八條　汽關室口ノ兩端及ヒ中央ニハ第四號表ニ掲クル梁ノ截面ヨリ三分ノ二增シタル截面ヲ有スル堅材ノ特設梁ヲ設ケ其ノ兩端ハ堅梁曲材一本及ヒ横梁曲材二本ヲ以テ船側ニ固著スヘシ但汽機室ト汽鑵室ト隔離スルトキハ各室ノ兩端ニ特設梁ヲ設クヘシ

特設梁ノ間ニハ堅材ノ縱梁ヲ設ケ横梁曲材

ヲ以テ特設梁ニ固著スヘシ

第九條　船側ニ載貨門又ハ載炭門其ノ他大ナル口ヲ設クルトキハ其ノ周圍ニハ適當ノ補强構造ヲ爲シ其ノ戸ハ堅牢ニ作リ適當ノ締具ヲ備ヘ閉鎖シタルトキハ水密ト爲ルヘキ構造ト爲スヘシ

第十條　載貨門及ヒ載炭門ハ舷側厚板、梁受材、梁受板、副梁受板及ヒ内部腰板ヲ切缺キテ設クヘカラス但特ニ相當ノ補强構造ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　滿載吃水線ノ標示ヲ附スル船舶ノ舷窻ニシテ海水中ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ六吋未滿ノ箇所ニ下緣ヲ有スルモノハ舷窻試驗規程ニ適合スル甲種舷窻又ハ同等以上ノモノナルコトヲ要ス

第十六章　固著法及ヒ固著釘

第一條　總テ重要ナル部分ニ用ウル固著釘ノ徑ハ第六號表ニ據ルヘシ但用材ノ寸法第二號表乃至第五號表ニ揭クルモノヨリ大ナルトキハ其ノ部分ニ用ウル固著釘ハ適當ニ釘徑ヲ增スヘシ

敲釘ヲ打込ムヘキ釘孔ノ徑ハ釘徑ヨリ十六分ノ一吋以上小ナルコトヲ要ス

第二條　敲釘ハ總テ同金屬ノ座金ノ上ニテ敲著スヘシ

第三條　板ヲ肋骨又ハ梁ニ固著スヘキ打込釘ノ長ハ貫通スル板ノ厚ノ二倍以上ト爲シ又其ノ徑ハ其ノ部分ニ用ウル敲釘ノ徑ヨリ十六分ノ二吋減シタルモノヨリ少カルヘカラス又角釘ヲ用ウルトキハ其ノ邊ハ圓釘ノ徑ノ十六ノ九以上ト爲スヘシ

第四條　木釘ヲ用ウルトキハ其ノ兩端ハ之ヲ切開シテ楔止メヲ爲スカ又ハ塡ヲ緊用ヰテ水密トナスヘシ

第五條　力材又ハ内龍骨ト船首材、船尾材又ハ龍骨トヲ貫通スル敲釘ノ心距ハ十八吋以上ト爲ス但内龍骨カ力材ノ上部ニ達スルトキハ敲釘ハ内龍骨ヲ貫通スルヲ要ス

第六條　肋骨ハ打込釘ヲ以テ龍骨ニ固著スヘシ

第七條　龍骨及ヒ内龍骨ハ肋骨每ニ敲釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ緊著スヘシ

第八條　側内龍骨ハ肋骨每ニ敲釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ固著スヘシ

第九條　側内厚板ハ肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ肋骨ヲ貫通シテ緊著シ其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

第十條　彎曲部縱通材ハ其ノ各材ノ幅八吋未滿ナルトキハ肋骨一本置ニ敲釘及ヒ打込ヲ釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘二箇ヲ以テ固著スヘシ但其ノ幅八吋以上ナルトキハ適當ニ敲釘ノ數ヲ增スヘシ

第十一條　上甲板梁受材及ヒ梁受板ハ肋骨每ニ敲釘及ヒ打込釘ヲ以テ固著スヘシ但敲釘ハ外板迄貫通セシムルコトヲ要ス

正甲板若ハ艙梁ノ梁受材及ヒ梁受板ハ肋骨一本置ニ敲釘二箇ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ敲釘及ヒ打込釘ヲ以テ固著スヘシ

各層梁ノ副梁受板ノ固著法ハ總テ上甲板梁受材若ハ梁受板ニ等クスヘシ

第十二條　梁壓材ハ肋骨每ニ梁壓材肋骨及ヒ外板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ緊著スヘシ但正甲板若ハ艙梁ノ梁壓材ノ敲釘ハ外板ヲ貫通セサルモ妨ナシ

第十三條　幅梁壓材ハ梁每ニ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第十四條　船鎹ハ肋骨ノ間ニ於テ交互ニ敲釘ト打込釘トヲ以テ舷側厚板ニ固著スヘシ

船鎹ハ梁ノ中間ニ於テ打込釘ヲ以テ梁壓材ニ固著スヘシ

船鎹ヲ貫キテ舷檣柱ヲ設クルトキハ船鎹ハ舷檣柱每ニ敲釘ヲ以テ固著スヘシ又船鎹ヲ二材合セト爲ストキハ舷檣柱ノ間ニ於テモ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第十五條　内部腰板ノ固著法ハ上甲板梁受材ニ等クスヘシ

第十六條　梁ハ其ノ兩端ニ於テ船鎹、梁壓材及ヒ梁受材若ハ梁受板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ緊著スヘシ但第二級船ニシテ第二數二萬五千未滿ナルトキハ敲釘ノ代リニ打込釘ヲ用ウルモ妨ナシ

第十七條　鐵製ノ船首肘材及ヒ船尾肘材ハ其ノ咽喉部ヲ船首材又ハ船尾材ニ、其ノ腕ヲ肋骨每ニ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

第十八條　梁曲材ニ用ウル敲釘ノ心距ハ十二吋ヲ超ユヘカラス又各腕ニ於ケル固著釘ノ數ハ咽喉部釘ノ外二箇以上ナルヲ要ス

第十九條　梁材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル船舶ニ於テハ梁曲材及ヒ肘材ニ用ウル敲釘ハ總テ外板迄貫通セシムルヲ要ス

第二十條　外板ノ横緣ノ兩側ニ於テハ二箇ノ釘ヲ以テ外板ヲ肋骨ニ固著スヘシ但其ノ一ハ敲釘ナルヲ要ス

横緣ニ隣接スル肋骨ニ敲釘ヲ以テ外板ヲ固著スルトキハ横緣ノ兩側ニハ打込釘ヲ用ウルモ妨ナシ

第二十一條　外板ハ其ノ幅八吋未滿ナルトキハ肋骨每ニ二箇、幅八封以上十吋未滿ナルトキハ肋骨每ニ三箇、幅十吋以上ナルトキハ肋骨每ニ四箇ノ釘ヲ以テ固著スヘシ但外板ノ幅十吋以上ナルトキト雖モ單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル船舶ニ於テハ肋骨每ニ三箇ヲ用ウルモ妨ナシ

前項ノ固著釘ハ肋骨一本置ニ一箇以上ノ敲釘又ハ木釘ナルヲ要ス

第二十二條　龍骨翼板ハ前條ノ規定ノ外肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ

龍骨翼板ハ其ノ厚五吋以上ナルトキハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ肋骨ノ間ニ於テ六呎以内ノ心距ニ敲釘ヲ以テ龍骨ニ緊著スヘシ

第二十三條　舷側厚板ハ本章第二十一條ノ規定ノ外敲釘ヲ以テ肋骨一本置ニ肋骨及ヒ梁受材、梁受板又ハ梁壓材ヲ貫通シテ緊著スヘシ

第二十四條　本甲板ハ幅六吋以下ナルトキハ一箇以上、幅六吋ヲ超ユルトキハ二箇以上ノ打込釘ヲ以テ梁每ニ固著スヘシ

第二十五條　斜帶板ハ肋材每ニ敲釘ヲ以テ肋骨ニ緊著スヘシ

第十七章　通風路及ヒ淦水路

第一條　各甲板ノ直下及ヒ其ノ梁受材若ハ梁受板又ハ副梁受板ノ下部ニハ船ノ首尾ヲ通シテ適當ノ通風路ヲ設クヘシ

船ノ首尾兩端ニ於ケル艙内ニ於テハ前項通風路ノ外梁受材若ハ梁受板ト内龍骨トノ間ニ通風路ヲ設クヘシ

第二條　肋骨ノ下面ニハ龍骨ノ兩側ニ於テ船ノ首尾ヲ通シテ適當ノ淦水路ヲ設クヘシ但外板ノ縱緣上ニ設クヘカラス

第十八章　舵

第一條　舵心材ハ一材ニテ作リ其ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但第二級船ニ於テハ其ノ截面ヲ同表ニ揭クルモノヨリ四分ノ一以内減スルコトヲ得

第二條　蝶番ノ數及ヒ舵針ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但下端ノ舵架ハ蝶番ノ數ニ加算スルモノトス

第二級船ニ於テハ舵針ハ截面ヲ第三號表ニ揭クルモノヨリ四分ノ一以内減スルコトヲ得

第三條　舵ノ壺金ハ厚ハ舵針ノ徑ノ二分ノ一ヨリ、深ハ舵針ノ徑ノ一倍四分ノ一ヨリ少カルヘカラス

第四條　輕甲板船ニ於テハ舵心材及ヒ舵針ノ徑ヲ重甲板船ニ要スルモノニ等クスヘシ

第五條　舵心材ハ力材ニ用ウルモノニ等キ敲釘ヲ以テ舠材ニ固著シ其ノ心距ハ十八吋ヲ超ユヘカラス

第六條　銅又ハ黄銅ノ船底包板ヲ有スル船舶ノ蝶番及ヒ舵針ハ吃水線以下ニ於テハ黄銅製ナルヲ要ス

第十九章　塡絮及ヒ船底包板

第一條　接合ヲ水密ト爲スヘキ部分ニハ塡絮ヲ施スヘシ

第二條　塡絮ヲ施シタル部分ハ喞筒ヲ以テ水ヲ注射スル水密試驗ニ堪フルコトヲ要ス

第三條　船底ニハ滿載吃水線上少クモ一呎ノ所迄銅、黄銅若ハ木ノ船底包板ヲ張詰ムヘシ但適當ノ防腐劑ヲ塗抹スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十章　檣、帆架及ヒ斜檣

第一條　檣、帆架、斜檣等ノ寸法ハ左表ニ依ルヘシ

但汽船ニ於テハ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

名稱	材料	徑
「シプッ」「バーク」及ヒ「ブリッグ」ノ前檣、正檣、前上檣及ヒ正上檣竝「シップ」ノ後檣	杉	三呎ニ付一吋
「シップ」及ヒ「バーク」ノ後檣「バーク」ノ後上檣竝頂檣、「バーケンタイン」「ブリガンタイン」「トップスルスクーナー」及「スクーナー」ノ檣	杉	四呎ニ付一吋
「ヤード」「ブーム」「シップーム」及ヒ「フライングジップーム」	杉	四呎ニ付一吋
斜檣	杉	七呎ニ付四吋

第二條　下檣ノ上端ノ徑ハ上檣下端ノ徑ヨリ小ナルヘカラス

第三條　一材檣ノ寸法ヲ定ムルニハ内龍骨ノ上面ヨリ下檣索具ヲ取附クル處迄ヲ下檣ノ長ト爲シ第一條ノ規定ニ依ルヘシ

第二十一章　機關室

第一條　機關室ノ前後ニハ隔壁ヲ設ケ上甲板下噸數三百五十噸以上ノ船舶ニ於テハ隔壁及ヒ石炭庫ノ圍壁ヲ鋼製ト爲スヘシ

前項ノ隔壁ハ正甲板ニ止ムルモ妨ナシ

第二條　機關室ノ甲板間ニ於ケル部分ノ周圍ニハ圍壁ヲ設ケ之ヲ暴露甲板迄達セシムヘシ

第三條　隔壁、圍壁其ノ他船體ノ部分カ木製ニシテ發動機又ハ汽罐ニ接近シ燃燒ノ虞アルトキハ之ニ金屬板ヲ張ルカ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒ヲ豫防シ且汽罐ニ接近スル場合ニハ防熱ノ爲メ金屬板ノ下ニ石綿又ハ毛紙ヲ敷クカ又ハ適當ノ間隔ヲ置クヘシ

電氣發動機船ノ蓄電池室ニハ通風ノ裝置ヲ爲シ其ノ床ハ鉛板ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第四條　上甲板下噸數五百噸以上ノ船舶ニ於テハ機關室ヨリ船尾管ニ通行シ得ヘキ車軸隧道ヲ設クヘシ但甲板ヨリ各軸受及ヒ船尾管ニ達シ得ヘキ昇降路ヲ設クルトキハ車軸隧道ハ通行シ得ヘカラサルモ妨ナシ

第二十二章　排水裝置及ヒ諸管

第一條　手用淦水喞筒及ヒ測水管ハ各艙ニ之ヲ設クヘシ但上甲板下ノ噸數三百五十噸未滿ノ船舶ニシテ各艙ニ設クルノ必要ナキトキハ各艙ヲ通シテ一箇ノ手用淦水喞筒ヲ設クルモ妨ナシ又平水航路ノ船舶ニ限リ檢査官吏ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ手用淦水喞筒及ヒ測水管ハ之ヲ設ケサルコトヲ得

手用淦水喞筒ハ滿載吃水線以上ノ甲板ニ於テ使用シ得ヘキ樣裝置スヘシ

第二條　正淦水喞筒ヲ備フル船舶ニ於テハ機關室ヨリ各艙ニ正淦水喞筒ノ吸水管ヲ通シ其淦水ヲ排除シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ但甲板下噸數三百五十噸未滿ノ船舶ニシテ該吸水管ヲ各艙ニ通スルノ必要ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　淦水吸水管ノ端末ニハ芥除ヲ設クヘシ

第四條　上甲板ニハ適當ノ間隔ニ排水孔ヲ設ケ之ヲ淦水道ニ導クヘシ若之ヲ舷外ニ通スルトキハ管口ニ適當ノ支水瓣若ハ螺旋蓋ヲ設クヘシ

第五條　艙内又ハ石炭庫ヲ通過スル諸管ニハ貨物又ハ石炭ノ積載等ニ依リ破損セサル樣堅固ナル覆箱又ハ覆板ヲ設クヘシ又汽管其他内部ヨリ高壓力ヲ受クル諸管ハ艙内又ハ石炭庫ヲ通過セシムヘカラス但檢査官吏ニ於テ適當ト認ムル圍壁又ハ隧道ヲ設クルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則（大正十一年一月遞令第五號）

本令ハ大正十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行以前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

（表ハ略ス）

●船舶滿載吃水線法

大正十年三月
法律第二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル船舶滿載吃水線法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

船舶滿載吃水線法

第一條　日本船舶ハ左ニ揭クルモノヲ除クノ外本法ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標示スヘシ

一　船舶檢査法第一條各號ニ揭クル船舶

二　沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限トスル船舶

三　總噸數百噸未滿ニシテ近海航路ヲ航路定限トスル帆船

四　漁獵、曳船、海難救助、浚渫又ハ測量ニノミ從事スル船舶其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認メタル船舶

第二條　滿載吃水線ノ指定ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ヲ滿載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ之ヲ受クヘシ

本法施行地ニ於テ製造スル船舶ハ製造中ト雖滿載吃水線ノ指定ヲ受クルコトヲ得

第三條　滿載吃水線ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ指定ス

第四條　滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標示シタル船舶ニハ船舶滿載吃水線證書ヲ交付ス

第五條　本法ニ依リ滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行スルコトヲ得ス

第六條　滿載吃水線ノ標示ハ捕獲ヲ避ケムトスル場合其ノ他正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ隱蔽、變更又ハ抹消スルコトヲ得ス

第七條　檢査官吏ハ本法ニ違反スル行爲アリト認メタルトキハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ又ハ其ノ航行ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第八條　滿載吃水線ノ指定、標示及指定手數料ニ關シ必要ナル規程ハ主務大臣之ヲ定ム

第九條　主務大臣ノ認定シタル船級協會ニ於テ本法及本法ニ基ク規程ニ準據シ滿載吃水線ヲ指定シ船舶滿載吃水線證書ヲ發給シタルトキハ其ノ證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ハ之ヲ本法ニ依リタルモノト看做ス

第十條　本法ハ本法施行地内ノ港ニ出入スル日本船舶ニ非サル船舶ニ之ヲ準用ス

第十一條　主務大臣ニ於テ前條ノ船舶ノ所屬地ノ滿載吃水線ニ關スル法令ヲ相當ト認メタルトキハ之ニ依リテ受ケタル船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ハ之ヲ本法ニ依リタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ本法ニ依リ發給シタル船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示效力ヲ認メサル外國ニ屬スル船舶ニハ之ヲ適用セス

第十二條　主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶滿載吃水線證書ヲ受ケサル船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ滿載吃水線ヲ超ユル吃水ヲ以テ航行シ若ハ航行セムトシタルトキハ船長又ハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ノ規定ニ違反シ滿載吃水線ノ標示ヲ隱蔽、變更又ハ抹消シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第十三條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ船舶滿載吃水線證書ヲ受ケタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ帝國外ニ於テ前項ノ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

第十四條　檢査官吏ノ臨視ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ航行停止ノ命ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第十五條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十年十二月勅令第四百八十二號ヲ以テ大正十一年二月一日ヨリ施行）

第十六條　本法施行ノ際主務大臣ノ認定シタル船級協會ノ船舶滿載吃水線證書ヲ受ケ之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ヲ有スル日本船舶ハ本法ニ依ル船舶滿載吃水線證書及之ニ相當スル滿載吃水線ノ標示ヲ有スルモノト看做ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ本法施行地內ノ港ニ在ル日本船舶ニ非サル船舶ニ付其ノ港ニ在ル間之ヲ準用ス

第十七條　前條第一項ノ規定ニ該當セサル日本船舶ニハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ノ指定ヲ受クル迄本法ヲ適用セス

●朝鮮船舶檢査規程中改正

大正十一年十一月
總令第百四十七號

朝鮮船舶檢査規程中左ノ通改正ス

第三條　船舶ノ檢査ハ本令ノ外鋼船ノ船體ニ付テハ朝鮮造船規程、噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル木船ノ船體ニ付テハ朝鮮木船檢査規程、機關ニ付テハ朝鮮造船規程ニ依リ之ヲ執行ス

第五條中第二項ヲ削ル

第六條第一項中「執行シタルトキハ」ノ下ニ「噸數、速力、構造、材料、工事及現狀ニ應シ」ヲ加フ

第七條第一項中「船體ノ要部カ朝鮮鐵鋼船檢査規程又ハ朝鮮木船檢査規程ニ合格スル船舶ニ在リテハ左ノ標準ニ依リ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ」ヲ「船舶ノ資格ヲ定ムル噸數及速力ノ標準ハ左ニ揭クルモノニ依ル但シ特殊ノ船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラス」ニ改メ第二項以下ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ規定ハ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶、朝鮮型船舶及支那形船舶ノ資格ヲ定ムル場合ニ之ヲ準用ス

甲板ヲ有セス又ハ頂部ヲ水密ト爲シ得サル船舶ハ第一級船又ハ第二級船ト爲スコトヲ得ス

外板其ノ他要部ノ衰耗著シク從來ノ資格ヲ繼續シ得サル疑アルモノニ在リテハ檢査官吏ハ其ノ衰耗ノ程度ヲ精査シタル報告書ニ意見ヲ具シ朝鮮總督府遞信局長ノ指揮ヲ受ケ其ノ資格ヲ定ムヘシ

第八條第一項中「又ハ現狀ノ特ニ不良ナルモノ」ノ次ニ「若ハ特殊ノ構造ヲ有スルモノ」ヲ加ヘ同項第一號乃至第三號及第二項以下ヲ左ノ如ク改ム

		船體進水後又ハ機關製造後年齡	特別檢査期間
鋼船船體		二年未滿	五年
		二十六年未滿	四年
		二十六年以上	三年
木船船體	要部ニ朝鮮木船檢査規程ニ定ムル甲材又ハ乙材ヲ用ヰタルモノ	二年未滿	五年
		十八年未滿	四年
		十八年以上	三年
	要部ニ朝鮮木船檢査規程ニ定ムル丙材又ハ丁材ヲ用ヰタルモノ	十年未滿	四年
		十年以上	三年
機關		二年未滿	五年
		二十六年未滿	四年
		二十六年以上	三年

進水年月又ハ製造年月ノ明ナラサルモノハ檢査官吏ノ認定ニ依ル

製造中特別檢査ヲ受ケタル船體又ハ機關ハ年齡十三年未滿ノモノニ限リ各特別檢査ノ期間ヲ一年宛延長スルコトヲ得但シ石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ノ船體ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

木鐵交造船其ノ他特種ノ船體ニ付テハ前各項ノ規定ニ準シ檢査官吏ノ相當ト認ムル特別檢査ノ期間ヲ定ムヘシ

第九條　削除

第十三條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

汽船ノ第一回特別檢査ニ於テハ速力試驗ヲ執行スヘシ

汽船ノ第二回以後ノ特別檢査ニ於テハ檢査官吏船舶ノ現速力カ前回試驗ニ依リ得タル速力ト一節以上ノ異動アリト認ムルトキハ速力試驗ヲ執行スヘシ

汽船ノ第二回以後ノ特別檢査ニ於テ前項ノ規定ニ依ル速力試驗ヲ執行セサルトキハ試運轉ヲ執行スヘシ但シ第四級船ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十六條第一項中第一號乃至第七號ヲ左ノ如ク改ム

一　旅客汽船ニ非サル鋼船ニ於テ前回船底檢査以後一年六箇月ニ達シタルトキ

二　鋼製旅客汽船ニ於テ前回船底檢査以後一年ニ達シタルトキ

三　帆船及全通燒嵌黃銅卷ヲ施セル螺旋軸又ハ適當ナル船尾管注油裝置ヲ有スル汽船ニ於テ前回螺旋軸ヲ拔取リテ檢査シタル以後三年ニ達シタルトキ

四　前號以外ノ船舶ニ於テ前回螺旋軸ヲ拔取リテ檢査シタル以後二年ニ達シタルトキ

第十七條　船舶ノ航行期間ハ前條、第百八條ノ二第三項、第百二十一條第三項及第百三十三條第三項ノ期限竝特別檢査ノ期限ヲ超過セサル樣之ヲ定ムヘシ

特別檢査ノ期限ノ爲汽船ノ航行期間ヲ制限スヘキ場合ニ於テハ檢査官吏ノ見込ニ依リ三箇月以內該特別檢査ヲ猶豫スルコトヲ得

第十九條中「試運轉」ヲ「速力試驗又ハ試運轉」ニ改ム

第二十條第一項中「年齡」ヲ「用途、年齡、前檢査ノ成績」ニ改メ「第一號乃至第四號」ヲ削ル

第二十二條中「遞信局長官」ヲ「遞信局長」ニ改ム

第二十三條　削除

第二十五條第二號中「取除キ」ノ下ニ「淦水吸水管ノ斧除ヲ露出シ」ヲ加ヘ第五號中「手用消防喞筒及操舵機具」ヲ「消防布管、手用消防喞筒、操舵、揚貨、繫船、揚錨及揚貨ノ機具竝艙口、載炭口、通風器、載貨門、載炭門、船樓開口其ノ他ノ閉鎖裝置」ニ改メ同條ニ左ノ二號ヲ加フ

五ノ二　船樓間ニ船員通路ヲ設ケタル船舶ニ於テハ通路用材及附屬具ヲ取揃ヘ置クコト

八　第四十三條ニ揭クル試驗ノ準備ヲ爲スコト

第二十六條中「船底包板」ノ下ニ「及毛紙」ヲ加フ

第二十八條第一號中「內張板」ヲ「船底內張板」ニ、第五號中「及水艙」ヲ「水艙及油艙」ニ改メ第六號ヲ削ル

第二十九條第五號中「及水艙」ヲ「水艙及油艙」ニ改メ第六號ヲ削ル

第三十條第九號中「及水艙」ヲ「、水艙及油艙」ニ改メ第十號ヲ削ル

第三十一條中「二十五年」ヲ「二十年」ニ改メ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

四　鋼船ニ在リテハ舷窻直下ノ外板內面ヲ檢査シ得ル樣內張板ヲ取離スコト

第三十二條第二項第三號中「甲板」ヲ「鋼甲板又ハ鐵甲板」ニ改ム

第三十三條　製造中特別檢査ヲ受ケタル船體ノ第二回特別檢査ニ於テハ第一種準備ヲ爲スヘシ

第三十七條第二號中「傳馬船」ヲ「傳馬」ニ改ム

第四十一條　特別檢査ニ於テハ左ノ規定ニ依

ルヘシ

一　檢査官吏カ檢査上必要ト認ムルトキハ外板其ノ他船體ノ要部ヲ銹落又ハ錐揉セシメ且外板載貨門、載炭門、舷窻、支水隔壁、支水戶、車軸隧道等ノ水密試驗ヲ執行スヘシ

二　相當水高壓力ヲ以テ二重底水艙及油艙ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

三　錨量ノ測定ヲ爲スヘシ但シ檢査官吏ニ於テ衰耗著シカラスト認ムルモノニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四十二條第一號ヲ左ノ如ク改ム

一　龍骨ヲ据付ケタルトキ竝船首材及船尾材ノ建立セムトスルトキ

第四十三條第一號中「開閉」ノ下ニ「裝置」ヲ加ヘ第二號中「水密」ヲ「閉鎖裝置」ニ改メ第三號中「喞筒」ノ下ニ「及飛輪喞筒」ヲ加ヘ第五號中「揚錨機及起錨機」ヲ「操舵、繫船、揚錨及揚貨ノ裝置」ニ第七號中「盤」ヲ「儀」ニ改メ第九號中「汽角」ノ下ニ「及霧中號角」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

十一　救命浮具

第四十三條ノ二　定期檢査又ハ臨時檢査ニ於テ檢査官吏必要ト認ムルトキハ第四十一條ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第二編第三章　削除

第五十五條　削除

第五十七條中第一號ヲ左ノ如ク改ム

一　木船及木鐵交造船ニ在リテハ錨量等ヲ定ムル噸數ニ依リ之ヲ定ム錨量等ヲ定ムル噸數トハ上甲板下ノ噸數ヲ謂フ但シ船首樓、船橋樓、船尾樓、低船首樓又ハ低船尾樓等ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ噸數ノ二分ノ一ヲ前記ノ噸數ニ加算シタルモノトス

一ノ二　鋼製帆船ニ在リテハ錨量等ヲ定ムル數ニ依リ之ヲ定ム錨量等ヲ定ムル數トハ朝鮮造船規程ニ定ムル船ノ深ト幅トノ和ニ其ノ長ヲ乘シタルモノヲ謂フ但シ船樓ヲ備フルモノニ在リテハ前記ノ數ニ其ノ十五分ノ一ヲ加算シタルモノヲ謂フ

一ノ三　鋼製汽船ニ在リテハ錨量等ヲ定ムル數ニ依リ之ヲ定ム錨量等ヲ定ムル數トハ朝鮮造船規程ニ定ムル船ノ深ト幅トノ和ニ其ノ長ヲ乘シタルモノヲ謂フ但低船首樓又ハ低船尾樓（長船首樓ト連續セル低船尾樓ヲ除ク）ヲ備フルモノニ在リテハ該樓ノ長ト高トヲ相乘シタル積ヲ船首樓、船橋樓、船尾樓等ヲ備フルモノニ在リテハ該樓ノ長ト高トヲ相乘シタル積ノ四分ノ三ヲ船ノ幅ノ二分ノ一ヲ超ユル長又ハ幅ヲ有スル甲板室ヲ備フルモノニ在リテハ該室ノ長ト高トヲ相乘シタル積ノ二分ノ一ヲ前記ノ數ニ加算シタルモノヲ謂フ

船樓ノ上ニ船樓又ハ甲板室ヲ備フル船舶ニ在リテハ該船樓又ハ甲板室ニ對スル積ヲ前項ノ規定ニ從ヒ加算スヘシ

全通船樓船及遮浪甲板船ニ在リテハ船ノ深ヲ第二甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄測リ上甲板ト第二甲板トノ間ノ部分ヲ船首樓、船橋樓及船尾樓ノ連續シタルモノト看做シテ前二項ノ規定ニ從ヒ錨量等ヲ定ムル數ヲ算定スルコトヲ得

沿海航路以下ノ汽船ニシテ滿載吃水線ヲ第二甲板以下ニ止ムルコト明カナルモノニ於テハ前項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

同條第二號中「備フルコトヲ得」ノ下ニ「又各大錨ノ單量ヲ相等シキモノト爲スコトヲ得」ヲ加ヘ第三號中「第一號表及第二號表ニ揭クル」ヲ「錨鋂ヲ除キタル」ニ第四號中「沿海航路以下」ヲ「總噸數五十噸未滿」ニ、第六號中「長徑ト短徑」ヲ「鎖環ノ長ト幅」ニ改メ第九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

九ノ二　第一號表及第二號表ニ揭クル鋼索ハ第二號表ノ二ニ依リ之ニ相當スル周ノ特別柔軟鋼索ヲ以テ代用スルコトヲ得

同條第十一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十二　遠洋航路ノ船舶ニ新ニ備附クル錨（錨鋂ヲ含ミタル重量百六十八封度以下ノモノヲ除ク）、錨鎖及鋼索ハ朝鮮總督ノ適當ト認ムル試驗ニ合格シタルモノ又ハ之ト同等ノモノナルコトヲ要ス

第五十八條第一號中「大錨ハ其ノ重量及合量」ヲ「大錨ノ重量又ハ錨ノ合量ハ」ニ改ム

第五十九條　手用操舵具ヲ常用トスル船舶ニ在リテハ豫備操舵索一揃ヲ備フヘシ但シ平水航路ノ船舶及總噸數五十噸未滿ノ船舶ニ在リテハ檢査官吏ノ見込ニ依リ豫備操舵索ヲ備ヘサルコトヲ得

操舵機ヲ常用トスル船舶ニ在リテハ舵柄ノ制動裝置又ハ制動索ヲ備ヘ且豫備トシテ手用操舵具又ハ操舵機ヲ備フヘシ

小形船ニ在リテハ檢査官吏ノ見込ニ依リ前項ノ舵柄制動索ヲ以テ豫備手用操舵具ニ兼用セシムルコトヲ得

操舵機ヲ有スル船舶ニ在リテハ其ノ操舵裝置ニ發條其ノ他ノ緩衝裝置ヲ備ヘ且舵柄ニ連結スル部分ノ操舵鎖ノ豫備ヲ備フヘシ但シ平水航路ノ船舶及總噸數五百噸未滿ノ船舶ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

總噸數五百噸以上ノ船舶ニ新ニ備附クル操舵鎖又ハ操舵鋼索ハ朝鮮總督ノ適當ト認ムル試驗ニ合格シタルモノ又ハ之ト同等ノモノナルコトヲ要ス

近海航路以上ノ帆船ニシテ總噸數二百噸以上ノモノハ舵ノ後部ニ應急舵鎖ヲ備フヘシ

第六十二條中第一號ヲ削リ第二號中「コーク」ヲ「コルク」ニ改メ「同效力トス」ノ下ニ「又鋼製救命艇ニ在リテハ特ニ艇體ノ重量ニ對シ空氣箱ノ容積ヲ適當ニ增スヘシ」ヲ加ヘ、第三號中「空氣箱ハ」ヲ「木製救命艇ノ空氣箱ハ」ニ、第四號ヲ左ノ如ク改ム

四　鋼製救命艇ニ在リテハ空氣箱ヲ亞鉛鍍鋼製ト爲スヘシ但シ救命艇ノ外板ト密接セシメサルトキハ空氣箱ヲ銅製又ハ黃銅製ト爲スコトヲ得又特ニ保存上及檢査上差支ナキ構造ト爲ストキハ鋼製區劃ヲ以テ空氣箱ニ代用スルコトヲ得

第六十四條中「救命浮帶」ヲ「救命胴衣」ニ改ム

第六十六條第二項中「鐵製」ヲ「鋼製」ニ改ム

第六十七條中「救命具」ヲ「消防具」ニ改ム

第六十八條第一項削除

第六十九條　遠洋航路及近海航路（第一區ノミヲ航路定限ト爲ス場合ヲ除ク）ノ船舶近海航路第二區ノ汽船及旅客帆船竝沿海航路ノ旅客船員ハ旅客船員及船員ニ非スシテ船內ニ於テ職務ヲ行フ者一人ニ付一箇ノ割合ヲ以テ救命胴衣ヲ備ヘ之ヲ容易ニ使用シ得ヘキ樣旅客室、船員室其ノ他適當ノ場所ニ配置シ且ツ其ノ場所ニ明瞭ナル標示ヲ爲スヘシ

一船ニ備フル救命胴衣ノ種類ハ二種ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十九條ノ二　船燈、信號器及救命具ハ朝鮮船燈信號器救命具取締規則ニ依リ檢印ヲ附シタルモノヲ備ヘ且船燈ニ在リテハ其ノ船名及備附年月日ヲ記載シタル檢定證明書ヲ船內ニ保管シ救命胴衣ニ在リテハ旅客室毎ニ其ノ著用法說明書ヲ揭ケ置クヘシ但シ朝鮮船舶檢査令第四條第三號ニ揭クル船舶ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

電氣船燈ハ檢査官吏ノ適當ト認ムルモノヲ備フヘシ

第七十條中「船燈ハ左ノ規定ニ依リ第五號表ニ照ラシ之ヲ備フヘシ」ヲ「船燈ノ備附ニ付テハ左ノ規定ニ依ルヘシ」ニ、第五號ヲ左ノ如ク改メ第六號ヲ削ル

五　電氣船燈ヲ常用トスル船舶ニ於テハ屬具表ノ規定ニ依リ舷燈ニ在リテハ一對其ノ他ノ船燈ニ在リテハ各一箇ノミヲ要スル場合ト雖之ニ代用スヘキ油燈ヲ增備スヘシ

第七十一條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二　隔板ニ取付クル隔障ノ外端ヨリ透鏡ノ前部ノ內緣ヲ貫キ火口ノ內緣ニ引キタル線ハ船ノ首尾線ニ竝行ナルコトヲ要ス

第七十三條　汽船及機關ヲ有スル帆船ニハ音響ノ妨ナキ適當ノ場所ニ汽笛若ハ汽角又ハ適當ノ音響信號器ヲ裝置スヘシ

第七十四條及第七十五條　削除

第八十二條第二項中「暴露甲板」ノ下ニ「カ鋼甲板又ハ」ヲ加フ

第八十四條　雜居客室ニハ出入口ニ通スル幅

一呎十吋以上ノ通路ヲ適當ニ設クヘシ但シ客席ヲ一層ト爲ス場合ニ於テ客席ノ面積ノ六分ノ一ヲ通路ニ充ツルトキ又ハ長及幅十二呎以下ノ客室ニシテ他室ノ通路ニ當ラサルトキハ別ニ通路ヲ設ケサルコトヲ得

第八十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

檢査官吏ハ船舶ノ復原力カ前項ノ規定ニ依リ算出シタル旅客員數ヲ搭載スルニ不充分ナリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス適當ニ旅客定員ヲ制限スヘシ

第九十條第二項中但書ヲ削リ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

回リ梯子又ハ勾配急ニ段面狹クシテ柵欄ニ依ラサレハ昇降シ難キ梯子ハ其ノ幅ノ三分ノ二ヲ以テ出入口ニ近ク梯子ヲ架シタル場合ニ於テ出入口ノ幅カ梯子ノ幅ヨリ狹キトキハ該出入口ノ幅ヲ以テ又梯子ノ下部ニ於テ之ニ面スル壁又ハ他ノ梯子迄ノ距離不充分ニシテ昇降ニ不便ナルトキハ檢査官吏ノ適當ト認ムル幅ヲ以テ前項ノ規定ニ依ル梯子ノ幅ト看做ス

同條第三項中「又ハ第七十條」ヲ削リ「前項」ヲ「前二項」ニ改ム

第九十一條中第二項乃至第四項ヲ削ル

第九十五條中「第二項但書」ノ下ニ「第九十條第四項」ヲ加フ

第百二條第一號中「發動機ノ吸入瓣竝排出瓣等」ヲ「發動機ノ噴油瓣、吸入瓣竝排出瓣等」ニ、「注油喞筒等」ヲ「注油喞筒、送油喞筒等」ニ、「發動機ノ推進器逆轉機」ヲ「發動機ノ反轉裝置」ニ改ム

同條第三號中「安全瓣」ヲ「燃油器、安全瓣」ニ改ム

第百三條第四號中「汽笛及」ヲ削リ第五號ノ次ニ左ノ二號ヲ加ヘ第六號ヲ第八號ニ繰下ク

六　「ギヤード、タービン」汽機ノ減速齒車裝置ノ外筐上半ヲ取外シ置クコト

七　發動機ノ空氣壓搾機及氣槽ヲ開キ置クコト

第百五條第一號中「汽笛」ヲ「汽笛、氣笛」ニ改ム

同條第三號以下ヲ左ノ如ク改ム

三　「ギヤード、タービン」汽機ノ減速齒車ヲ削リタルトキ

四　諸軸、汽笛及氣笛ノ中心線ヲ定ムルトキ竝「タービン」汽機ノ「ロートル」及減速齒車ノ組立ヲ了リタルトキ

五　發動機ノ氣槽ハ各部ノ突緣又ハ鍛接ヲ爲シタルトキ竝燒鈍ヲ行ヒタルトキ

六　發動機ノ氣槽各部ノ組立ヲ爲シ鋲釘孔ヲ精穿シタルトキ竝全體ノ構造ヲ了リタルトキ

七　汽機及發動機ヲ船內ニ据附クルトキ

八　水壓試驗執行ノトキ

九　其ノ他檢查官吏ノ必要ト認ムルトキ

第百六條中「汽機」ヲ「汽機及發動機」ニ改ム

第百七條第一項中「汽笛」ヲ「汽笛及氣笛」ニ改メ第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五　「ヂーゼル」式發動機ノ氣笛及氣笛蓋ハ最大氣壓ノ二倍、水包室ハ毎平方吋五十封度

第百八條　朝鮮船舶檢査令施行規則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢査ヲ執行スルトキハ「タービン」汽機ノ外筐ハ粗削ヲ爲シタル後左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　二聯成「タービン」汽機ノ高壓外筐ニ於テハ其ノ外筐一箇ヨリ成ルトキハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、二箇ヨリ成ルトキハ前部ノ外筐ハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、後部ノ外筐ハ最大汽壓ノ三分ノ二、低壓外筐ニ於テハ前部ノ外筐ハ初壓力ノ一倍半、後部ノ外筐ハ毎平方吋三十封度

二　三聯成「タービン」汽機ノ高壓外筐ハ最大汽壓ノ一倍三分ノ一、中壓外筐ハ初壓力ノ一倍半、低壓外筐ニ於テハ前部ノ外筐ハ初壓力ノ一倍半、後部ノ外筐ハ毎平方吋三十封度

三　「インパルス」階段ヲ備フル「タービン」汽機ノ前部配汽室ハ最大汽壓ノ一倍半、各膨脹階段ハ初壓力ノ一倍半但シ毎平方吋三十封度ヲ下ルコトヲ得ス

四　後退「タービン」汽機ニシテ前各號ニ依リ難キモノノ外筐ハ最大汽壓

高壓「タービン」汽機ニ於テ減少シタル氣壓ヲ使用シ且該汽機ノ前部配汽室又ハ之ニ相當スル場所ニ適當ナル逃出瓣ヲ備フルモノニ於テハ最大汽壓ニ代フルニ初壓力ヲ以テスルコトヲ得

「タービン」汽機ニ附屬スル汽管、瓣、嘴子等ハ其ノ附屬スル外筐ニ於ケルト同一ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

第百八條ノ二　發動機ノ氣槽及油槽ハ特別檢査ニ於テ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　新ニ使用スル氣槽ハ鋲釘接合ノモノニ在リテハ毎平方吋ノ最大氣壓三百封度以上ナルトキハ之ニ二百封度ヲ加ヘタルモノ、三百封度未滿ナルトキハ其ノ一倍半ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ、鋲釘接合以外ノモノニ在リテハ最大氣壓ノ二倍

二　既ニ使用シタル氣槽ハ鋲釘接合ノモノニ在リテハ毎平方吋ノ最大氣壓三百封度以上ナルトキハ之ニ二百封度ヲ加ヘタルモノ、三百封度未滿ナルトキハ其ノ一倍三分ノ一、鋲釘接合以外ノモノニ在リテハ最大氣壓ノ一倍半

三　壓力ヲ受ケサル油槽ハ附屬具ヲ取附ケタル儘十五呎以上ノ水高壓力

壓力ヲ受クル油槽ハ附屬具ヲ取附ケタル儘其ノ受クル最大壓力ノ二倍但シ十五呎ノ水高壓力ヨリ少カルヘカラス

四　既ニ使用シタル氣槽又ハ油槽ニシテ其ノ大部分ヲ改造シタル場合ニ於テハ新ニ使用スル氣槽又ハ油槽ニ準シ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

朝鮮船舶檢査令施行規則第三條第二項ニ掲クル船舶ノ氣槽又ハ油槽ハ初メテ使用スルトキ及以後六箇年毎ニ前二項ニ依リ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

定期檢査又ハ臨時檢査ニ於テ檢査官吏カ必要ト認ムルトキハ前各項ニ依リ氣槽又ハ油槽ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

第百九條　冷汽器ハ朝鮮船舶檢査令施行規則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢査ヲ執行スルトキハ冷汽管ヲ取附クル前ニ毎平方吋二十封度ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行シ之ヲ取付ケタル後適當ノ水高壓力ヲ以テ其ノ漏否ヲ檢査スヘシ

前項以外ノ檢査ニ於テ檢査官吏必要ト認ムルトキハ適當ノ水高壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

內部ヲ窺知シ能ハサル表面冷汽器ハ細管ノ幾分ヲ拔出サシメ之ヲ檢査スヘシ

第百十一條乃至第百十三條　削除

第百十七條　削除

第百二十條　削除

第百二十一條　汽鑵ハ特別檢査ニ於テ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　新ニ使用スル汽鑵ハ毎平方吋ノ最大汽壓百封度ヲ超ユルトキハ其ノ一倍半ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ、百封度以下ナルトキハ其ノ二倍

二　既ニ使用シタル汽鑵ハ毎平方吋ノ最大汽壓百封度ヲ超ユルトキハ之ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ、百封度以下ナルトキハ其ノ一倍半

既ニ使用シタル汽鑵ニシテ其ノ大部分ヲ改造シタル場合ニ於テハ新ニ使用スル汽鑵ニ準シ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

朝鮮船舶檢査令施行規則第三條第二項ニ掲クル船舶ノ汽鑵ハ初メテ使用スルトキ及以後六箇年毎ニ前二項ニ依リ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

定期檢査又ハ臨時檢査ニ於テ檢査官吏カ必要ト認ムルトキハ前各項ニ依リ汽鑵ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

第百二十二條　給水喞筒ハ新ニ使用スルトキ又ハ檢査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ最大汽壓ノ二倍ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

第百二十三條乃至第百三十二條　削除

第百三十三條　正汽管及給水管ハ特別檢査ニ於テ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　新ニ使用スルモノニ在リテハ鍔ヲ取附ケ仕上ヲ爲シタル後銅製汽管ハ最大汽壓ノ二倍、銅製給水管ハ最大汽壓ノ二倍半、鐵製又ハ鋼製汽管ハ最大汽壓ノ三倍、鐵製又ハ鋼製給水管ハ最大汽壓ノ四倍

二　既ニ使用シタルモノハ最大汽壓ノ二倍

汽鑵、正汽管及給水管ニ附屬スル瓣匣膨脹接合及鑄造接合管ハ新ニ使用スルトキハ最大汽壓ノ二倍ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

朝鮮船舶檢査令施行規則第三條第二項ニ掲クル船舶ノ正汽管及給水管ハ初メテ使用スルトキ及以後六箇年毎ニ本條第一項ニ依リ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

定期檢査又ハ臨時檢査ニ於テ檢査官吏カ必要ト認ムルトキハ前各項ニ依リ正汽管及給水管ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

第百三十四條　燃油裝置ハ新ニ使用スルトキ又ハ檢査官吏ニ於テ特ニ必要ト認ムルトキハ左ノ壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　送油管、加熱器及其ノ附屬具ハ船內取付後最大壓力ノ二倍但シ毎平方吋四百封度ヲ下ルコトヲ得ス

二　前號以外ノ油管ニシテ機關室內ニ在ルモノハ之ヲ取附ケタル後毎平方吋三十封度

三　燃料油ノ接觸スル加熱用蒸氣管ハ船內取附後最大壓力ノ二倍

第百三十五條乃至第百四十條　削除

第百四十二條　削除

第百四十三條　汽壓制限ヲ減少シタル爲安全瓣ノ面積カ造船規程第二編第五章第七十八條ニ依リ算出シタルモノヨリ小ナルトキハ第百四十九條ノ規定ニ合格シタルトキニ限リ其ノ安全瓣ヲ改造スルニ及ハス

第百四十四條乃至第百四十八條削除

第百四十九條　安全瓣ハ塞汽瓣ヲ閉チ充分ニ焚火シ十五分間以上蒸氣ヲ溢出セシメ汽壓ノ昇騰尙汽壓制限ノ十分ノ一ヲ超エサルモノナルコトヲ要ス

第百五十條　屬具ハ第八號表又ハ第九號表ニ依リ之ヲ備フヘシ但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ平水航路ニ關スル規定ニ依ル

第百五十一條乃至第百五十三條　削除

第三編第五章　削除

第二號表ノ二

普通鋼索特別柔軟鋼索相當表

特別柔軟鋼索ノ周	第一號表及第二號表ニ掲クル鋼索ノ周
1 5/8吋	2吋
1 7/8	2 1/4
2 1/8	2 1/2
2 3/8	2 3/4
2 1/2	3
2 3/4	3 1/4
3	3 1/2
3 1/4	3 3/4
3 1/2	4
3 5/8	4 1/4
3 7/8	4 1/2
4 1/8	4 3/4
4 3/8	5
4 1/2	5 1/4
4 3/4	5 1/2
4 7/8	5 3/4
5 1/8	6
5 5/8	6 1/2
6	7
6 1/2	7 1/2

第五號表

船體部屬具表

航路限定 屬具名稱	遠洋航路及近海航路第二區又ハ近海航路第一區及同第二區ヲ併セタルモノ		近海航路第一區		沿海航路		平水航路	摘要
	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船	
消防用手桶	一二	八	六	六	四	四	二	總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得
斧	二	二	一	一	｜	｜	｜	
救命浮環	六	四	四	二	二	二	二	總噸數五噸未滿ノ平水航路ノ汽船及總噸數三十噸又ハ積石數三百石未滿ノ帆船ニハ之ヲ一箇ト爲スコトヲ得 平水航路ノ船舶ヲ除クノ外旅客船ニハ本欄ニ掲クルモノノ外二箇以上ヲ增備シ且其ノ總數ヲ端艇ノ數以上ト爲スヘシ
救命焰	四	二	二	｜	二	｜	｜	旅客船ニ非サル沿海航路ノ汽船ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得
號鐘	一	一	一	一	一	一	｜	徑八吋以上ニシテ音響妨ナキ適當ノ場所ニ懸垂スルコトヲ要ス
時計	二	二	二	一	一	一	一	湖川港內ヲ限リ航行スル船舶ニハ檢査官吏ノ見込ニ依リ船長ノ所持品ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得
雙眼鏡	一	一	一	一	一	一	｜	總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得
晴雨計	二	一	一	一	二	一	｜	總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ沿海航路ノ帆船ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得
海水用寒暖計	一	一	｜	｜	｜	｜	｜	
手用測程具	一	一	一	一	一	｜	｜	總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得
砂漏計	二	二	二	一	一	｜	｜	
測程機械	一	一	一	｜	｜	｜	｜	
手用測鉛	二	二	二	二	二	｜	｜	測鉛ノ重量ハ手用測鉛ニ在リテハ七封度以上、深海測鉛ニ在リテハ二十八封度以上ナルコトヲ要ス 測鉛ニ附スル線ノ長ハ手用測鉛ニ在リテハ二十五尋以上、深海測鉛ニ在リテハ百二十尋以上ナルコトヲ要ス
深海測鉛	一	一	一	一	｜	｜	｜	總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船ニハ測鉛ヲ備ヘサルコトヲ得
								旅客船ニ非サル船舶及總噸數八百噸未滿ノ旅客船ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

測深機械	一	｜	一	｜	｜	｜	｜	朝鮮船舶檢査令施行規則第六十七條及第七十條ノ規定ニ依ル旅客ヲ搭載スル爲旅客船ト爲リタルモノニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得
時辰儀	一	一	｜	｜	｜	｜	｜	
六分儀	一	一	｜	｜	｜	｜	｜	
航海暦	一	一	｜	｜	｜	｜	｜	
羅針儀	三	三	三	二	二	二	一	近海航路以上ノ船舶ニ在リテハ一箇ハ天象岬角ヲ測リ得ヘキ器具ヲ備フルコトヲ要ス又沿海航路ノ帆船ニ在リテハ一箇ハ日本形磁石ヲ用ウルコトヲ得湖川港內ヲ限リ航行スル船舶ニシテ檢査官吏ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ羅針儀ヲ備ヘサルコトヲ得
橋燈	二	｜	一	｜	一	｜	一	總噸數四十噸以上ノ汽船ニハ甲種橋燈ヲ備ヘ總噸數四十噸未滿ノ汽船ニハ甲種又ハ乙種橋燈ヲ備フヘシ曳船ニ從事スル汽船ニハ橋燈二箇以上ヲ備フヘシ機關ヲ有スル帆船ニハ汽船ニ準シ橋燈ヲ備フヘシ湖川港內ヲ限リ晝間ノ航行ノミニ使用スル船舶ニハ橋燈ヲ備ヘサルコトヲ得
舷燈	二對	二對	一對	一對	一對	一對	一對	帆船及總噸數四十噸以上ノ汽船ニハ甲種舷燈ヲ備フヘシ總噸數四十噸未滿ノ汽船ニハ甲種又ハ乙種舷燈ヲ備フヘシ但シ甲種兩色燈一箇ヲ以テ代用スルコトヲ得湖川港內ヲ限リ晝間ノ航行ノミニ使用スル船舶ニハ舷燈ヲ備ヘサルコトヲ得
碇泊燈	二	二	一	一	一	一	一	近海航路以下ノ船舶ト雖船ノ長百五十呎以上ナルトキハ二箇ヲ備フヘシ
紅燈	二	二	二	二	二	｜	｜	總噸數四十噸未滿ノ汽船ニハ紅燈及黑球ヲ備フルコトヲ要セス
黑球	二	二	二	二	二	｜	｜	黑球ハ直徑二呎ノ形象ヲ有シ布又ハ其ノ他保存ニ耐ユヘキ材料ヲ用ヰタルモノナルコトヲ要ス
霧中號角	一	一	一	一	一	一	｜	
火箭又ハ榴彈	二	二	六	｜	六	｜	｜	榴彈ヲ備フルトキハ打上筒ハ遠洋航路ノ船舶ニ於テハ二箇ヲ備ヘ船首及船尾ニ於テ一ハ右舷ニ他ハ左舷ニ据付クヘシ又近海航路以下ノ船舶ニ於テハ一箇ヲ備ヘ適當ノ場所ニ据付ヘシ口徑三吋半以上ノ信號砲又ハ口徑五吋半以上ノ臼砲付屬具及十二發以上ノ裝置ヲ備フル船舶ニハ火箭又ハ榴彈ヲ備ヘサルコトヲ得
信號焰管	一二	六	｜	｜	｜	｜	｜	
國旗	二	二	二	一	一	一	一	
信號旗	一組	一組	一組	一組	一組	NC二旗	｜	總噸數百五十噸未滿及石數ヲ以テ積量ヲ表示スル近海航路ノ帆船ニハNC二旗ノミヲ備フルコトヲ得但シNC旗ノミヲ備ヘ若ハ之ヲ備ヘサル船舶ト雖信號符字ノ點附アルモノハ其ノ符字ニ對スル信號旗ヲ備フヘシ
信號書	一	一	一	一	一	｜	｜	總噸數百五十噸未滿及石數ヲ以テ積量ヲ表示スル近海航路ノ帆船ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得
船名錄	一	一	一	一	一	｜	｜	朝鮮船舶檢査令第四條第三號ニ揭クル船舶、總噸數百五十噸未滿及石數ヲ以テ積量ヲ表示スル近海航路ノ帆船ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

第七號表削除

第八號表

機關部屬具表

屬具名稱／航路定限	遠洋航路	近海航路	沿海航路	平水航路	摘要
吸鍔彈環	各吸鍔ニ付一組	同上			同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組ニ止ムルコトヲ得
吸鍔發條	各吸鍔ニ付一組	同上	同上		同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一組ニ止ムルコトヲ得
吸鍔螺釘及母螺	總數ノ四分ノ一	同上	同上		
滑瓣鋲	各滑瓣ニ付一箇宛	同上			同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ一箇ニ止ムルコトヲ得
隔心鋲	一組				
接續鋲上下ノ螺釘及母螺	上下各一組	同上	同上	同上	
接續鋲上下ノ黃銅	上下各一組	同上			
主軸受黃銅	各種一組	同上			「タービン」汽機ナルトキ
減速齒車軸受黃銅	各種一組	同上			
主軸受螺釘及母螺	各種一組	同上			
減速齒車軸受螺釘及母螺	各種一組	同上			
接軸鍔螺釘及母螺	一組	同上			
曲拐軸	一箇				曲拐軸二箇以上ヲ有シ前後相轉用シ得ルトキハ備ヘサルコトヲ得
冷汽管	總數ノ十分ノ三	同上			十本ヲ最少ノ限度トス
冷汽管塡箍	總數ノ十分ノ二	同上			三十箇ヲ最少ノ限度トス木製ナルトキハ塡箍器ヲ添フ
排氣喞筒鋲	一箇	同上			
排氣喞筒瓣	一組	同上	同上	同上	
循環喞筒鋲	一箇	同上			排氣喞筒鋲ト同形ニシテ相轉用シ得ルモノニ在リテハ備ヘサルコトヲ得
循環喞筒瓣	一組	同上	同上	同上	
循環喞筒驅進扇	一箇	同上			遠心喞筒ナルトキ
循環喞筒扇軸	一箇	同上			遠心喞筒ナルトキ
給水喞筒瓣	一組	同上	同上	同上	
制限瓣	一組	同上			汽罐ノ數四箇以上ナルトキハ更ニ汽罐三箇又ハ其ノ未滿每ニ一組ノ割合ヲ以テ增備スヘシ
淦水喞筒瓣	一組	同上	同上	同上	
安全瓣發條	各罐ニ付一箇	同上	一箇		同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ三箇ニ止ムルコトヲ得
火床架	總數ノ四分ノ一	總數ノ五分ノ一	總數ノ十分ノ一	四箇	汽罐ノ數五箇以上ナルトキハ汽罐四箇分ニ止ム又火床架ノ數ハ四箇ヲ最少ノ限度トス
驗水器硝子	各罐ニ付四箇	同上	六箇	三箇	近海航路以上ノ船舶ニ於テハ六箇ヲ最少ノ限度トス
管擴器	一箇	同上	同上		
管塞器	各罐ニ付六箇	各罐ニ付四箇	四箇	二箇	內半數ハ汽罐前面ニ於テ直ニ使用シ得ヘキモノナルコトヲ要ス汽罐ノ數五箇以上ナルトキハ汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得
鞴	一箇	同上			
滑車及綱	二組	一組			
螺旋切道具	一組	同上			
錐孔器	二箇	一箇	同上		
鐵砧	一箇	同上			
据付萬力	二箇	一箇	同上		
鐵板	若干	同上			
鐵棒	若干	同上			
螺釘及母螺	若干	同上	同上	同上	
機關室用小道具	一揃	同上	同上	同上	
消火器	二箇	同上	一箇	同上	燃油裝置ヲ備フル船舶ナルトキ
驗鹽器	二箇	同上	一箇	同上	湖川ヲ限リ航行スル船舶ニハ之ヲ備フルヲ要セス
寒暖計	二箇	同上	一箇	同上	

備考

汽機二臺以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ表中ノ吸鍔彈環乃至淦水喞筒瓣ハ汽機一臺分ノ外之ヲ備ヘサルコトヲ得

隔心鋲ハ明治四十一年一月一日以前ニ製造シタル汽機ニ在リテハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

豫備曲拐軸ハ之ヲ取附ケタル場合ニ於テハ取附後六箇月間其ノ補充ヲ猶豫スルコトヲ得

近海航路以上ノ船舶ニシテ排氣喞筒、給水喞筒及淦水喞筒ニ回轉喞筒ヲ用ウルモノニ在リテハ驅進扇及扇軸各一箇ヲ備フヘシ

第九號表

發動機船機關部屬具表

屬具名稱／航路定限	遠洋航路	近海航路	沿海航路	平水航路	摘要
吸鍔彈環	氣筩二箇又ハ其ノ未滿每ニ一組	同上	氣筩四箇又ハ其ノ未滿每ニ一組		「ヂーゼル」式發動機ノ空氣壓搾機ノ氣筩ニ在リテモ之ヲ備フヘシ

空氣壓搾機ノ壓搾筩吸鍔彈環	氣筩二箇又ハ其ノ未滿毎ニ一組	同上			「ヂーゼル」式發動機ナルトキ
接續鉀上下ノ螺釘及母螺	一組	同上	同上	同上	
接續鉀上下ノ黃銅	一組	同上			
主軸受螺釘及母螺	一組				
接軸鍔螺釘及母螺	一組	同上			
噴油瓣	氣筩二箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇	同上	氣筩四箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇		
吸氣瓣	氣筩二箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇	同上	氣筩四箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇		
排出瓣	氣筩一箇毎ニ一箇	同上	氣筩二箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇		
掃除喞筒瓣	一組	同上			
給油喞筒瓣	給油喞筒一箇毎ニ一組	同上	給油喞筒二箇又ハ其ノ未滿毎ニ一組		
冷筩喞筒瓣	二組	同上	一組	同上	
空氣壓搾機ノ空氣瓣	半組	半組			「ヂーゼル」式發動機ナルトキ
淦水喞筒瓣	一組	同上	同上	同上	
發條	各種一箇	同上	同上		
點火器	氣筩一箇毎ニ一箇	同上	氣筩二箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇	同上	
電池	常用電池一箇毎ニ一箇	同上	常用電池二箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇	同上	
起動用燈	常用ノ外二箇	同上	常用ノ外一箇		
油管	若干	同上			
電線	若干	同上			電氣ヲ以テ點火スルモノナルトキ
滑車及綱	一組				
鞴	一箇				
螺旋切道具	一組	同上			
錐孔器	二箇	一箇			
鐵砧	一箇				
据付萬力	一箇	同上			
鐵板	若干	同上			
鐵棒	若干	同上			
螺釘及母螺	若干	同上	同上	同上	
機關室用小道具	一揃	同上	同上	同上	
消火器	二箇	同上	一箇	同上	瓦斯發動機ヲ備フル船舶及旅客船ニ非サル沿海航路以下ノ船舶ニハ之ヲ備ヘサルコトヲ得
砂及砂箱	二箇	同上	一箇	同上	一箇ノ容積ハ一立方呎以上ナルコトヲ要ス
寒暖計	二箇	一箇	同上	同上	

備考

發動機二臺以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ表中吸鍔彈環乃至點火器ハ發動機一臺分ノ外之ヲ備ヘサルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮鐵鋼船檢査規程及ヒ朝鮮機關檢査規程ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ船舶檢査證書又ハ假證書ヲ受有スル船舶ハ其ノ航行期間滿了迄又現ニ定期檢査ヲ申請セル船舶ハ次回定期檢査ヲ申請スル迄從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ノ船體及ヒ機關ノ構造竝ニ錨量等ヲ定ムル數ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

本令施行ノ際製造中ノ船舶ニ最初ニ備附クヘキ錨、錨鎖、鋼索、操舵鎖及ヒ操舵鋼索ニ付テハ第五十七條第十二號及ヒ第五十九條第五項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

本令施行後最初ニ受クヘキ船底又ハ螺旋軸檢査ノ期日ハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船ニシテ本令施行前六箇年以內ニ發動機ノ氣槽及ヒ油槽、汽罐、正氣管又ハ給水管ノ水壓試驗ヲ執行シタルコトナキモノニ在リテハ本令施行後最初ニ申請スル定期檢査ニ於テ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

本令施行後ト雖檢査官吏ニ於テ本令ノ規定ニ依リ救命胴衣ヲ備フルコトヲ得サル事由アリト認メタルトキハ本令施行後遠洋航路及近海航路（第一區ノミヲ航路定限ト爲ス場合ヲ除ク）ノ船舶ニ在リテハ三年內、近海航路第一區ノ船舶ニ在リテハ四年內、沿海航路ノ船舶ニ在リテハ五年內ニ限リ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

●朝鮮船燈信號器救命具取締規則

大正十一年十一月
總令第百四十八號

朝鮮船燈信號器救命具取締規則左ノ通定ム

朝鮮船燈信號器救命具取締規則

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ船燈ト稱スルハ電氣力ヲ以テ點火スル船燈ヲ除クノ外海上衝突豫防法ニ揭クル各種ノ船燈ヲ謂ヒ信號器ト稱スルハ同法ニ揭クル信號器中機械製霧中號角、星火ヲ發スル榴彈、火箭及朝鮮船舶檢査規程ニ依リ船舶ニ備附クヘキ信號焰管ヲ謂ヒ救命具ト稱スルハ同規程ニ依リ船舶ニ備附クヘキ救命胴衣、救命浮環及救命焰ヲ謂フ

第二條　朝鮮船舶檢査令第四條第三號ニ揭ケタル外國船舶ヲ除クノ外法令ニ依リ船燈、信號器、救命具ヲ船舶ニ備附クヘキ者ハ本令ニ依リ檢印ヲ附シタルモノヲ備附ケ且船燈ニ在リテハ其ノ船名及備附年月日ヲ記載シタル檢定證明書ヲ船內ニ保管シ救命胴衣ニ在リテハ其ノ圖解ヲ附シタル著用法說明書ヲ旅客室每ニ揭示スヘシ

內地、臺灣又ハ關東州ノ管海官廳ニ於テ檢印ヲ附シタル船燈、信號器、救命具ハ本令ノ規定ニ依リ檢印ヲ附シタルモノト看做ス

第三條　船燈、信號器、救命具ノ試驗及檢定ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　本令中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者及朝鮮船舶職員令ノ適用ヲ受ケサル船舶ニ在リテハ船舶指揮者ニ之ヲ適用ス

第二章　製造免許

第五條　船燈、信號器又ハ救命具ヲ製造セムトスル者ハ朝鮮總督ノ免許ヲ受クヘシ

第六條　前條ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ製造品一種每ニ仕樣書、圖面及標本ヲ添ヘ第一號書式ノ申請書ヲ提出スヘシ

大正九年遞信省令第七十五號船用品檢査試驗規則ニ依ル合格證明書又ハ其ノ複本ヲ添ヘテ提出シタル場合ニハ前項ノ仕樣書、圖面及標本ヲ添附スルヲ要セス

星火ヲ發スル榴彈、火箭又ハ信號焰管ニ在リテハ第一項ノ書類、圖面及標本ノ外其ノ製造ニ必要ナル火藥類ニ關スル警察官廳ノ許可證ノ寫ヲ添附スヘシ

第一項ノ標本ハ製造所每ニ一箇、其ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳每ニ一箇ノ割合ヲ以テ之ヲ添附スヘシ

第七條　前條第一項ノ申請アリタルトキハ朝鮮總督ハ試驗官吏ヲシテ標本ヲ試驗セシメ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ之ニ檢印ヲ附シ第二號書式ノ製造免許證書及第三號書式ノ合格證明書ト共ニ之ヲ申請人ニ交付ス

朝鮮總督前條第二項ノ申請ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ第二號書式ノ製造免許證書ヲ申請人ニ交付ス

朝鮮總督ニ於テ標本カ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合セスト認ムルトキハ期間ヲ指定シ之ヲ引取ルヘキコトヲ申請人ニ告知ス

第八條　船燈、信號器又ハ救命具ノ製造免許期間ハ五年トス

第九條　免許製造人ハ第七條第一項ノ規定ニ依リ標本ノ交付ヲ受ケタルトキハ各製造所每ニ各一箇ヲ保管シ且其ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳每ニ各一箇ヲ差出スヘシ

第七條第二項ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ付テハ大正九年遞信省令第七十五號船用品檢査試驗規則ニ依ル合格證明書又ハ其ノ複本ニ該當スル製造品若ハ之ト同型ニシテ別記雛形甲號檢印ヲ受ケタルモノヲ以テ前項ノ標本ト看做ス

第十條　前條ノ規定ハ免許製造人カ製造所ヲ增設シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ同一管海官廳ノ管內ニ製造所ヲ增設シタルトキハ該管海官廳ニ標本ヲ差出スコトヲ要セス

製造所又ハ管海官廳ニ保管スル標本カ滅失又ハ毀損シタルトキハ免許製造人ハ更ニ標本ヲ製造所ニ保管シ又ハ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前二項ニ揭クル標本ノ試驗申請ノ手續ニ付テハ第六條第七條及第九條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　免許製造人ハ其ノ製造所ニ免許製造人タルコトヲ示スヘキ標札ヲ揭クヘシ

第十二條　免許製造人ハ製造品每ニ檢査官吏ノ適當ト認ムル方法ニ依リ左ニ揭クル事項ヲ標示スヘシ

一　製造品ノ名稱及種類
二　製造人ノ氏名又ハ名稱
三　製造年月
四　船燈ニ在リテハ製造番號

前項ノ規定ハ第九條及第十條ノ標本ニ之ヲ準用ス

第十三條　免許製造人製造品ヲ販賣セムトスルトキハ船燈ニ在リテハ一箇每ニ其ノ檢定證明書ヲ、星火ヲ發スル榴彈、火箭及信號焰管ニ在リテハ十二箇又ハ其ノ未滿每ニ、救命焰ニ在リテハ一箇每ニ略圖ヲ附シタル使用法說明書ヲ添附シ且星火ヲ發スル榴彈ニ在リテハ十二箇又ハ其ノ未滿每ニ打上臺一揃ヲ、火箭ニ在リテハ一箇每ニ箭竿ヲ添附スヘシ

前項ノ說明書ノ樣式ニ付テハ朝鮮總督府遞信局ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條　免許製造人ニ限リ製造免許ヲ受ケタル種類ノ船燈、信號器又ハ救命具ヲ修繕スルコトヲ得但シ船舶ノ航行中又ハ本條ノ規定ニ依リ修繕ヲ爲スコトヲ得ル免許製造人ナキ港ニ碇舶中急速ノ修繕ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　免許製造人其ノ住所氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキハ製造免許證書ノ書換ヲ申請スヘシ

第十六條　製造免許證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ免許製造人ハ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

第十七條　免許製造人前二條ノ規定ニ依リ免許證書ノ交付ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊免許證書ヲ返還スヘシ但シ免許證書カ滅失シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人又ハ製造免許證書ノ保管者ニ於テ其ノ事由ヲ具シ製造免許證書ヲ返還スヘシ

一　免許期間滿了ノトキ
二　死亡若ハ廢業シタルトキ又ハ法人カ解散シタルトキ
三　免許ヲ取消サレタルトキ
四　警察官廳ヨリ火藥類ニ關スル許可ヲ取消サレタルトキ

前項ノ規定ニ依リ製造免許證書ヲ返還シタルトキハ管海官廳ハ其ノ標本ヲ還付ス

第十九條　製造免許證書ヲ返還スヘキ場合ニ之ヲ返還セサルトキハ其ノ無效ナルコトヲ朝鮮總督府官報ニ公告ス

第二十條　免許製造人其ノ製造所ヲ移轉、廢止又ハ增設シタルトキハ左ニ揭クル事項ヲ屆出ツヘシ

一　移轉、廢止又ハ增設シタル製造所ノ位置及名稱
二　移轉、廢止又ハ增設シタル製造所ニ於ケル製造品ノ名稱及種類

第二十一條　免許製造人カ死亡又ハ隱居シタルトキハ其ノ相續人ニ限リ其ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ製造ヲ繼續セムトスルモノハ第十八條ノ手續ヲ爲スト共ニ第一號書式ノ申請書ニ相續ヲ證明スル書面ヲ添附シ製造免許證書ノ交付ヲ申請スヘシ

此ノ場合ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ヲ適用セス

第二十二條　免許製造人ハ其ノ製造所每ニ第四號書式ニ依リ每年一月前年中ニ製造シタル船燈、信號器又ハ救命具ノ統計表ヲ調製シ朝鮮總督府遞信局ニ差出スヘシ

第二十三條　第六條、第十條第三項、第十五條、第十六條、第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ申請若ハ屆出ヲ爲シ前條ノ規定ニ依リ統計表ヲ差出シ又ハ第十八條ノ規定ニ依リ製造免許證書ヲ返還スルニハ其ノ製造所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第二十四條　免許製造人本令ノ規定ニ違反シタルトキハ朝鮮總督ハ其ノ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第三章　請賣認可

第二十五條　免許製造人ヨリ船燈、信號器又ハ救命具ヲ請賣セムトスル者ハ朝鮮總督府遞信局長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　前條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ第五號書式ノ申請書ヲ差出スヘシ

星火ヲ發スル榴彈、火箭又ハ信號焰管ニ在

リテハ前項ノ申請書ニ火藥類ノ販賣ニ關スル許可證ノ寫ヲ添附スヘシ

第二十七條　朝鮮總督府遞信局長ニ於テ前條ノ申請ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ第六號書式ノ認可證書ヲ申請人ニ交附ス

第二十八條　第十一條、第十三條及第二十四條ノ規定ハ請賣人ニ之ヲ準用ス

第二十九條　第十五條乃至第十九條ノ規定ハ認可證書ニ之ヲ準用ス

第三十條　請賣人其ノ請賣所ヲ移轉、廢止又ハ增設シタルトキハ左ニ揭クル事項ヲ朝鮮總督府遞信局長ニ屆出ツヘシ

一　移轉、廢止又ハ增設シタル請賣所ノ位置及名稱

二　移轉、廢止又ハ增設シタル請賣所ニ於ケル請賣品ノ名稱、種類竝免許製造人ノ住所及氏名又ハ名稱

請賣人請賣品ノ種類ヲ增減シタルトキ又ハ既ニ請賣セルモノト同種類ノ船燈、信號器若ハ救命具ヲ他ノ免許製造人ヨリ請賣スルトキハ增減シタル請賣品ノ名稱、種類竝免許製造人ノ住所氏名又ハ名稱ヲ請賣所每ニ朝鮮總督府遞信局長ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ增加シタル請賣品ノ種類カ星火ヲ發スル榴彈、火箭又ハ信號焰管ナルトキハ前項ノ屆出ニ火藥類ノ販賣ニ關スル許可證ノ寫ヲ添附スヘシ

第三十一條　第二十一條ノ規定ハ請賣人カ死亡又ハ隱居シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條　請賣人カ第二十六條、第二十九條、第三十條若ハ前條ノ規定ニ依リ申請若ハ屆出ヲ爲シ又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ認可證書ヲ返還スル場合ニハ其ノ請賣所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第三十三條　本章ノ規定ハ遞信省、臺灣總督府又ハ關東廳ニ於テ免許シタル免許製造人ヨリ檢印ヲ附シタル船燈、信號器又ハ救命具ヲ請賣セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ第五號書式ノ申請書ヲ提出シ又ハ第三十條ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲ストキハ船燈ニ付テハ檢定證明書ノ寫ヲ添附スヘシ

第四章　檢定及監督

第三十四條　免許製造人船燈、信號器又ハ救命具ヲ販賣セムトスルトキハ第七號書式ノ檢定申請書ニ現品ヲ添ヘ製造所所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ檢定ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船燈ニ在リテハ一箇每ニ其ノ標本ノ合格證明書ニ附屬セル明細書ノ寫ニ該品ノ製造年月及製造番號ヲ記入シタルモノヲ添附スヘシ

第三十五條　本令ニ依リ檢印ヲ附セサル外國製ノ船燈、信號器又ハ救命具ヲ船舶ニ備附クルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ハ第八號書式ノ申請書ニ現品ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ檢定ヲ申請スヘシ

第三十六條　第三十四條又ハ前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢査官吏ヲシテ現品ヲ檢査セシメ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ檢印ヲ附シ之ヲ申請人ニ交付シ且船燈ニ在リテハ第九號書式ノ檢定證明書ヲ申請人ニ交付ス

第三十七條　船燈信號器又ハ救命具ヲ修繕シタルトキハ免許製造人之ヲ爲シタル場合ニ在リテハ免許製造人、其ノ他ノ場合ニ在リテハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ハ第十號書式ノ修繕檢定申請書ニ修繕品ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ檢定ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船燈ニ在リテハ其ノ檢定證明書ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三十八條　前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢査官吏ヲシテ現品ヲ檢査セシメ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ之ヲ申請人ニ交付シ且船燈ニ在リテハ其ノ檢定證明書ニ修繕檢定年月日及修繕箇所ヲ裏書シ檢査官吏捺印ノ上之ヲ申請人ニ交付ス

前項ノ場合ニ於テ現品カ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合セスト認メタルトキハ檢印ヲ取消シ且船燈ニ在リテハ其ノ檢定證明書ヲ消印シ之ヲ申請人ニ交付ス

第三十九條　船燈ノ檢定證明書ヲ滅失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ第十一號書式ニ依リ最初檢定ヲ受ケタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

第四十條　前條ノ場合ニ於テ第十一號書式ニ依ル記載事項不明其ノ他ノ事由ニ依リ檢定證明書ノ再交付ヲ受クルコト能ハサルトキハ第十二號書式ニ依リ現品ヲ最寄管海官廳ニ差出シ再檢定ヲ申請スヘシ

前條ノ場合ニ於テ滅失又ハ毀損シタル檢定證明書カ內地、臺灣又ハ關東州ノ管海官廳ニ於テ交付ヲ受ケタルモノナルトキハ前項ノ手續ニ依リ再檢定ヲ申請スルコトヲ得

第四十一條　前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢査官吏ヲシテ現品ヲ檢査セシメ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ更ニ之ニ檢印ヲ附シ第九號書式ノ檢定證明書ト共ニ申請人ニ之ヲ交付ス

前項ノ場合ニ於テ現品カ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合セスト認メタルトキハ檢印ヲ取消シ之ヲ申請人ニ交付ス

第四十二條　製造所ニ保管シ又ハ管海官廳ニ差出シタル標本ハ該免許品ノ製造ヲ廢止セムトスル場合ニ於テハ第三十四條及第三十六條ノ規定ニ準シ檢定ヲ受クルコトヲ得

第四十三條　朝鮮總督府遞信局長ハ船燈、信號器、救命具ノ製造所、請賣所又ハ船舶ニ監査官吏ヲ派出シ船燈、信號器又ハ救命具ノ監査ヲ行ハシム

監査官吏船燈、信號器又ハ救命具ヲ監査シ其ノ檢定證明書又ハ標本ノ合格證明書ニ適合セスト認ムルトキハ其ノ檢印ヲ取消スヘシ

第五章　手數料

第四十四條　製造免許證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料二圓ヲ納ムヘシ

第四十五條　認可證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料一圓ヲ納ムヘシ

第四十六條　檢定證明書ノ再交付ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料二十錢ヲ納ムヘシ

第四十七條　船燈、信號器又ハ救命具ノ製造免許又ハ檢定ヲ受クルトキハ一箇ニ付左ノ手數料ヲ納ムヘシ

名稱及種類	第三十四條又ハ第四十二條ノ申請ニ依ル場合	第三十五條又ハ第四十條ノ申請ニ依ル場合	第六條第一項又ハ第十條第三項ノ申請ニ依ル場合
甲種檣燈	五十錢	三圓	七圓
乙種檣燈	三十錢	二圓	五圓
甲種舷燈	五十錢	三圓	七圓
乙種舷燈	三十錢	二圓	五圓
甲種兩色燈	四十錢	三圓	六圓
乙種兩色燈	二十錢	一圓	三圓
碇泊燈	二十錢	一圓	三圓
別種船燈	二十錢	一圓	三圓
機械製霧中號角	二十錢	一圓	三圓
星火ヲ發スル榴彈	五錢	三十錢	二圓
火箭	五錢	三十錢	二圓
信號焰管	五錢	十錢	一圓
救命胴衣	十錢	五十錢	七圓
救命浮環	十錢	五十錢	三圓
救命焰	十錢	二十錢	一圓

第四十八條　前四條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ申請書ニ貼用シタル收入印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スヘキモノトス

第六章　罰則

第四十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シテ檢印ヲ附セサル船燈、信號器、救命具ヲ備附ケタルトキ、船燈ノ檢定證明書ヲ船內ニ保管セサルトキ又ハ救命胴衣ノ著用法說明書ヲ旅客室ニ揭示セサルトキ

二　第五條ノ規定ニ違反シテ免許ヲ受ケスシテ船燈、信號器、救命具ヲ製造シタルトキ

三　第九條ノ規定ニ違反シテ標本ヲ製造所ニ保管セス又ハ之ヲ管轄管海官廳ニ差出ササルトキ

四　第十條ノ規定ニ違反シテ更ニ製造品ノ標本ヲ備ヘス又ハ製造品ノ標本ヲ管海官廳ニ差出ササルトキ

五　第十一條又ハ第二十八條ノ規定ニ違反シテ製造所又ハ請賣所ニ標札ヲ揭ケサルトキ

六　第十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ違反シテ檢定證明書ヲ添附セスシテ船燈ヲ販賣若ハ請賣シ又ハ說明書ヲ添附セスシテ星火ヲ發スル榴彈、火箭、信號焰管、救命胴衣、救命焰ヲ販賣若ハ請賣シタルトキ

七　第十三條又ハ第二十八條ノ場合ニ於テ虛僞ノ書類ヲ製造品又ハ請賣品ニ添附シタルトキ

八　第十五條乃至第十八條、第二十九條又ハ第三十九條ノ規定ニ違反シテ製造免許證書、認可證書又ハ檢定證明書ノ書換若ハ再交付ヲ申請セス又ハ之ヲ返還スヘキ義務ヲ怠リタルトキ

九　第二十條又ハ第三十條ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リタルトキ

十　第二十二條ノ規定ニ依リ統計表ヲ差出ササルトキ

十一　第二十五條ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケスシテ船燈、信號器又ハ救命具ヲ請賣シタルトキ

十二　第三十四條、第三十五條、第三十七條又ハ第四十條ノ規定ニ違反シ船燈、信號器又ハ救命具ノ檢定又ハ再檢定ヲ受ケサルトキ

十三　第四十三條ノ規定ニ依リ臨檢シタル監査官吏ノ監査若ハ檢印ノ取消ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタルトキ

第五十條　本章ノ規定中船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人、免許製造人又ハ請賣人ニ適用スヘキモノハ刑法第三十九條第一項又ハ第四十一條ニ依リ其ノ者ヲ罰スヘカラサル場合ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ適用シ商事會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附則

第五十一條　本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條　大正三年朝鮮總督府令第八十四號朝鮮船燈、信號器、救命具取締規則ハ之ヲ廢止ス

第五十三條　本令施行前舊令ニ依リ爲シタル製造免許ノ申請又ハ請賣認可ノ申請ハ從前ノ例ニ依リ之ヲ處理スルコトヲ得但シ製造免許ノ期間ハ五年トス

第五十四條　舊令ニ依リ交付シタル製造免許證書又ハ認可證書ハ其ノ有效期間內本令ニ依リ交付シタルモノト看做ス但シ救命浮帶ノ製造免許證書ニ在リテハ其ノ有效期間ハ本令施行後五年ヲ以テ限トス

前項ノ製造免許證書ニ記載スル救命浮帶ニ付テハ本令中救命胴衣ニ關スル規定ヲ準用ス

第一項ノ製造免許證書ニ記載スル船燈ニ付檢定ヲ申請スル場合ニ於テハ第三十四條第二項ニ揭クル添附書類ハ從前ノ規定ニ依リ試驗成績書寫ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五十五條　舊令ニ依ル檢印ヲ附シタル船燈、信號器及救命具ハ本令ニ依リ檢印ヲ附シタルモノト看做ス

舊令ニ依リ檢定ヲ受ケタル船燈ノ試驗成績書寫又ハ檢定明細書ハ本令ニ依ル檢定證明書ト看做ス

前項ノ試驗成績書寫ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ該船燈ノ免許製造人ニ之ヲ請求スヘシ若シ免許製造人ヨリ之ヲ得難キ事情アルトキハ朝鮮總督府遞信局ニ其ノ交付ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十九條乃至第四十一條、第四十六條乃至第四十八條ノ規定ヲ準用ス

第五十六條　舊令ニ依リ認可ヲ受ケタル請賣人ハ本令施行後一年內ニ第五號書式ニ準シ認可證書ノ書換ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ手數料ヲ徵收セス

前項ニ依リ請賣人認可證書ノ書換ヲ申請セサルトキハ該證書ハ之ヲ無效トシ遞信局ハ其ノ旨ヲ朝鮮總督府官報ニ公告ス

第一號書式

收入印紙

製造免許申請書

貼付シタル收入印紙ノ額

一　製造品ノ名稱及種類
二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱
三　製造所ノ位置及名稱

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則ニ依リ製造免許申請候也

年　月　日

申請人　何　某印

朝鮮總督宛

第二號書式

第　號

割印

製造免許證書

（住所）

（氏名又ハ名稱）

（名稱、種類）

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則第七條ニ依リ製造ヲ免許ス

年　月　日

朝鮮總督　印

第三號書式

第　號

合格證明書

住所

申請者名

一　檢査試驗品名數量及用途
二　製造者住所及氏名又ハ名稱
三　製造年月
四　檢査試驗ノ成績　別記明細書ノ通

右檢査試驗ノ結果朝鮮船燈信號器救命具取締規則第七條ニ依リ本證ヲ交付ス

年　月　日

朝鮮總督　印

第四號書式

年分（船燈）（信號器）（救命具）製造販賣高統計表

（船燈）（信號器）（救命具）製造免許證書番號製造人氏名

名稱種類	前年繰越高	製造高	販賣高	殘高	一箇ノ代價	
		適合不適合			卸賣	小賣

第五號書式

收入印紙

請賣認可申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　（船燈）（信號器）（救命具）

二　請賣所ノ位置竝請賣人ノ住所及氏名又ハ名稱

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則ニ依リ請賣認可申請候也

年　月　日

申請人　何　某印

朝鮮總督府遞信局長宛

備考　請賣所毎ニ請賣品ノ名稱及種類竝其ノ免許製造人ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ添記シ相續ニ依リ請賣ヲ繼續セムトスルトキハ請賣人ノ住所氏名又ハ名稱ヲ新舊ヲ併記スヘシ

第六號書式

第　號

認可證書

（住所）

（氏名又ハ名稱）

割印

（船燈）（信號器）（救命具）

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則第二十七條ニ依リ請賣ヲ認可ス

年　月　日

朝鮮總督府遞信局長印

第七號書式

收入印紙

免許製造品檢定申請書

貼付シタル收入印紙ノ額

一　製造免許番號製造品ノ名稱、種類及箇數

二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱

三　製造所ノ位置及名稱

四　製造年月

五　船燈ニ在リテハ製造番號

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則第三十四號ニ依リ檢定申請候也

年　月　日

申請人　何　某印

管海官廳宛

第八號書式

收入印紙

外國製造品檢定申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　名稱、種類及箇數

二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱

三　製造所ノ位置及名稱

四　製造年月日

五　備附船舶ノ種類名稱總噸數及所有者

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則第三十五條ニ依リ檢定申請候也

年　月　日

住所

申請人　何　某印

管海官廳宛

第九號書式

檢第　號

（海何）檢定證明書

製造免許第　號、名稱及種類

製造人住所及氏名又ハ名稱

製造所ノ位置及名稱

製造年月

製造番號

檢定ノ成績　別記明細書ノ通

右檢定ノ結果朝鮮船燈信號器救命具試驗檢定規程ニ適合ノモノト認ム

年　月　日

所屬管海官廳名

檢定主任　官　氏　名印

第十號書式

修繕檢定申請書

一　名稱、種類及箇數

二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱

三　修繕箇所

四　修繕年月

五　備附船舶ノ種類、名稱、總噸數及所有者

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則第三十七條ニ依リ別紙檢定證明書（何）通相添檢定申請候也

年　月　日

住所

申請人　何　某印

管海官廳宛

第十一號書式

收入印紙

檢定證明書再交付申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　名稱、種類及製造免許番號

二　製造人ノ氏名又ハ名稱

三　製造年月

四　製造番號

五　檢查官廳名及檢定番號

六　再交附申請理由

右檢定證明書（何）通再交附申請候也

年　月　日

住所

申請人　何　某印

管海官廳宛

第十二號書式

收入印紙

再檢定申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　名稱　種類及箇數

二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱

三　製造所ノ位置及名稱

四　製造年月

五　製造番號

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則第四十條ニ依リ再檢定申請候也

年　月　日

住所

申請人　何　某印

管海官廳宛

●朝鮮船燈信號器救命具試驗檢定規程中改正

大正十一年十一月
總令第百四十九號

朝鮮船燈信號器救命具試驗檢定規程中左ノ通改正ス

第七十八條中「浮器」ヲ「浮環」ニ改ム

第七十九條中「二十四斤」ヲ「三貫八百七十匁」ニ改ム

第八十二條　救命胴衣ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　浮力ヲ附スルニハ檢查官吏ノ適當ト認ムル實體「コルク」若ハ「カポツク」又ハ檢查官吏ニ於テ之ト同一效力アリト認ムルモノヲ用ヒ氣囊又ハ氣室ハ之ヲ用ヒサルコト

二　强靭ナル布類ヲ以テ外裝及紐付スルコト

三　大人及小兒ノ兼用ニ適シ著用法簡易ニシテ前後表裏轉用シ得ヘキコト

四　水中ニ於テ自體ヲ略ホ垂直ノ位置ニ保チ頭部ヲ充分露出セシメ得ヘキコト

五　淡水中ニ於テ一貫八百十匁ノ鐵片ヲ附著シテ四十八時間浮ヒタル後三貫八百七十匁ノ鐵片ヲ附著シ浮ヒ得ヘキコト

第八十三條　削除

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

救命浮帶ノ試驗檢定ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

●朝鮮船鑑札規則中改正

大正十一年十一月
總令第百五十一號

朝鮮船鑑札規則中左ノ通改正ス

第四條ノ二　船鑑札ヲ受有スル船舶ハ船體外部ニ於テ船首兩舷ニ船名、船尾ノ見易キ所ニ船舶ノ所屬道名及船鑑札番號ヲ標示スヘシ

特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ當該官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

前二項ノ標示ハ塗料ノ使用其他久シキニ耐ユル方法ニ依リ高幅共四吋以上ノ文字ヲ以テ明瞭ニ之ヲ現ハシ船名及道名ハ國字船鑑札番號ハ亞剌比亞數字ト爲スヘシ標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其標示ヲ改ムヘシ

第十四條　地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船舶ニ臨視セシメ必要アリト認ムルトキハ積量ノ改測又ハ標示ヲ爲サシムヘシ

第十五條中「船鑑札ヲ受有セス」ノ次ニ「若ハ第四條ノ二ノ規定ニ依ル標示ヲ爲サス」ヲ加フ

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ在リテハ本令施行後六月ヲ限リ仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

●鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於ケル外國船舶ノ出入及運送ニ關スル件

大正十二年一月
總令第十二號

大正三年朝鮮總督府令第六十四號左ノ通改正ス

第一條　外國船舶ハ戎克船又ハ端舟其ノ他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ若ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟ニ限リ道知事ノ許可ヲ受ケ左ニ揭クル場所ニ出入シ又ハ運送ヲ爲スコトヲ得

一　平安北道新義州府ヨリ上流鴨綠江沿岸但シ新義州府ト義州郡九龍浦トノ間ノ沿岸ヲ除ク

二　成鏡北道慶興郡蘆西面土里ヨリ上流豆滿江沿岸

前項ノ許可ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　前條ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　申請者及船舶所有者ノ國籍、住所、氏名及年齡

二　船舶ノ種類、船名、總噸數又ハ積石數

三　船籍地

四　寄港地

五　航行區域

六　航行期間

第三條　第一條ノ許可ヲ與ヘタルトキハ附錄雛形ノ許可證ヲ交付ス

許可證ハ船内見易キ箇所ニ之ヲ標示スヘシ

第四條　第二條第四條乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ道知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二條ノ規定ハ前項ノ許可申請ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ申請書ニ許可證ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條　第二條第一項第一號乃至第三號ノ事項ヲ變更シタルトキハ十日内ニ道知事ニ屆出テ許可證ノ書換ヲ受クヘシ

第六條　道知事許可ヲ受ケタル者法令ニ違反シ又ハ公益上必要アリト認ムルトキハ許可ヲ取消シ又ハ取締上必要ナル指示命令ヲ爲スコトヲ得

第七條　本令ニ依リ道知事ニ提出スル申請書又ハ屆書ハ主タル寄港地ヲ管轄スル警察官署ヲ經由スヘシ

第八條　第三條第二項、第四條第一項、第五條ノ規定若ハ第六條ニ依ル指示命令ニ違反シ又ハ虛僞ノ申請ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年警務總監部令第二號ハ之ヲ廢止ス

許可證雛形（材料木製）

船舶出入（運送）許可證

國籍、住所

氏名

年齡

船種	
船名	（總噸數又ハ積石數）
船籍地名	
寄港地名	

右鴨綠江（又ハ豆滿江）ノ沿岸前記ノ場所ニ出入（運送ニ從事）スルコトヲ許可ス

本許可證ノ有效期間ハ許可ノ日ヨリ　箇月トス

大正　年　月　日

官署名　印

●日本船舶ノ不開港出入ニ關スル件

大正十二年三月
總令第六十三號

船舶法第一條等ノ日本船舶ノ不開港出入ニ關スル件左ノ通定ム

船舶法第一條又ハ臺灣船籍規則第一條ノ日本船舶ハ不開港ニ出入シ又ハ各港ノ間ニ於テ運送ヲ爲スコトヲ得但シ傳染病豫防上必要アリト認メ朝鮮總督ニ於テ其ノ最初ノ寄港地ヲ指定シタル場合ニ於テハ指定地以外ニ寄港スルコトヲ得ス

前項但書ノ規定ニ違反シタルトキハ船長又ハ船長ニ代リテ其ノ職ヲ行フ者ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年朝鮮總督府令第六十三號ハ之ヲ廢止ス

●船舶積量測度互認

大正十一年十月
總令第百三十七號

丁抹國相當官憲ニ於テ千八百九十五年四月一日以後交付シタル船舶積量測度ニ關スル證書ヲ有スル丁抹國船舶ハ朝鮮諸港ニ於テ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル噸數ハ日本船舶ノ噸數ト同一ナリト看做ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●同上

大正十一年十月
總告第二百二十六號

船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト丁抹國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ大正十一年十月一日以後朝鮮ニ船籍港ヲ有スル船舶ニシテ大正三年十月一日以後交付シタル船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ヲ有スルモノハ丁抹國版圖内及其ノ管治スル地域ニ於テ積量ヲ測度セラルルコトナク船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ船鑑札ニ記載スル噸數ヲ丁抹國船舶ノ噸數ト同一ナリト認メラルヘシ

第九款　航行及港灣

●稅關所屬曳船使用規則中改正

大正十一年六月
總令第九十三號

稅關所屬曳船使用規則中左ノ通改正ス

第二條中「五圓」ヲ「四圓」ニ改ム

附　則

本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三章　電氣附瓦斯

●朝鮮電氣測定令

大正十二年四月
制令第十號

朝鮮電氣測定令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮電氣測定令

第一條　電氣ノ測定ニ於テハ電氣抵抗ハ「オーム」、電流ハ「アムペア」、電壓ハ「ヴオルト」、電力ハ「ワツト」、電量ハ「クーロム」、電氣容量ハ「フアラツド」、電氣誘導ハ「ヘンリー」、電氣仕事ハ「ジユール」ヲ以テ單位トス

「オーム」ハ氷ノ融解溫度ニ於テ質量一四・四五二一「グラム」長サ一〇六・三〇〇「センチメートル」ニシテ均一ナル切斷面積ヲ有スル水銀柱ノ不變電流ニ對スル電氣抵抗ヲ謂フ

「アムペア」ハ硝酸銀ノ水溶液ヲ通過シ毎秒〇・〇〇一一一八〇〇「グラム」ノ銀ヲ分離スル不變電流ヲ謂フ

「ヴオルト」ハ一「オーム」ノ電氣抵抗ヲ有スル導體ニ一「アムペア」ノ不變電流ヲ發生セシムル爲要スル不變電壓ヲ謂フ

「ワツト」ハ一「ヴオルト」ノ電壓ニ於テ一「アムペア」ノ不變電流ニ依リ毎秒費サルル電氣勢力ヲ以テ表示スル電力ヲ謂フ

「クーロム」ハ一「アムペア」ノ電流ニ依リ一秒間ニ輸送サルル電量ヲ謂フ

「フアラツド」ハ一「クーロム」ノ電量ニ依リ一「ヴオルト」ノ電位ニ充電サルル蓄電器ノ電氣容量ヲ謂フ

「ヘンリー」ハ毎秒一「アムペア」ノ割合ヲ以テ變化スル電流ニ依リ一「ヴオルト」ノ電壓ヲ發生スル電路ノ電氣誘導ヲ謂フ

「ジユール」ハ一「アムペア」ノ電流一「オーム」ノ電氣抵抗ヲ有スル導體ヲ通過スルトキ一秒間ニ爲ス電氣仕事ヲ謂フ

第二條　不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流、電壓及電力ノ計算方法ハ左ノ如シ

一　不變電流以外ノ場合ニ於ケル實效電流ノ不變電流ニ對スル等價及實效電壓ノ不變電壓ニ對スル等價ハ其ノ瞬時値ノ自乘ノ平均ノ平方根ヲ以テ定ム

二　不變電流一「アムペア」ニ相當スル實效電流ヲ一實效「アムペア」ト稱シ不變電壓一「ヴオルト」ニ相當スル實效電壓ヲ一實效「ヴオルト」ト稱ス

三　電力ハ其ノ瞬時値ノ平均ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱左ノ如シ

「メグオーム」	「オーム」ノ百萬倍
「マイクロオーム」	「オーム」ノ百萬分ノ一
「キロアムペア」	「アムペア」ノ千倍
「ミリアムペア」	「アムペア」ノ千分ノ一
「マイクロアムペア」	「アムペア」ノ百萬分ノ一
「キロヴオルト」	「ヴオルト」ノ千倍
「ミリヴオルト」	「ヴオルト」ノ千分ノ一
「マイクロヴオルト」	「ヴオルト」ノ百萬分ノ一
「キロワツト」	「ワツト」ノ千倍
「マイクロクーロム」	「クーロム」ノ百萬分ノ一
「マイクロフアラツド」	「フアラツド」ノ百萬分ノ一
「ミリヘンリー」	「ヘンリー」ノ千分ノ一
「マイクロヘンリー」	「ヘンリー」ノ百萬分ノ一
「ワツト」時	「ジユール」ノ三千六百倍
「キロワツト」時	「ワツト」時ノ千倍

第四條　本令ニ依ル電氣單位ハ主務官廳ニ保管スル標準器ニ依リ之ヲ現示ス

第五條　電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ハ檢定ヲ受クヘシ

電氣測定法ニ依リ檢定ニ合格シタル電氣計器ハ本令ニ依リ檢定ニ合格シタルモノト看做ス

第六條　電氣計器ノ公差及檢定ニ關スル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第七條　檢定ニ合格セス又ハ檢定ノ效力ヲ失ヒタル電氣計器ヲ電氣ノ取引ニ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　電氣ノ取引ニ於テ其ノ計量ヲ詐ルノ目的ヲ以テ不正ニ電氣計器ヲ使用シタル者ハ罰前條ニ同シ

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行前ヨリ引續キ電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ハ朝鮮總督ノ定ムル期間仍之ヲ使用スルコトヲ得

年別索引

年別索引

輯　頁

明治三十三年

遞信省

令 八九 木船檢查規程…………（一七）一五

明治四十二年

法律

法 三五 種痘法…………（九）二

大正三年

法律

法 二六 戸籍法…………（四）三

大正四年

勅令

勅二一五 請願ニ依ル通信施設ニ關スル件…………（一七）一

大正十年

法律

法 二 船舶滿載吃水線法…………（一七）三
法 五七 公有水面埋立法…………（一〇）二
法 六〇 水產會法…………（一六）七

遞信省

令 五三 特許審判及審查書類特別取扱郵便規則…………（一七）一

大正十一年

皇室令

皇 五 宮內省官制中改正…………（一）三
皇 八 宮內官官等俸給令中改正…………（一）一五
皇 一〇 宮內省官制中改正…………（一）三
皇 一二 宮內官官等俸給令中改正…………（一）一五

法律

法 七一 破產法…………（一四）一
法 七二 和議法…………（一四）一四
法 七五 刑事訴訟法…………（一四）四三

勅令

勅 五 國庫ヨリ俸給ヲ受クル府縣ノ官吏ニ對シ府縣費ヨリ旅費支出ニ關スル件（二）三
勅三一三 高等官官等俸給令中改正…………（三）三
勅三一四 奏任文官特別任用令中改正…………（三）二六
勅三二二 朝鮮總督府濟生院官制中改正…………（三）一〇
勅三二三 朝鮮總督府水產試驗場官制中改正…………（三）二
勅三六七 徵兵事務條例中改正…………（一三）一八
勅三六八 陸軍補充令中改正…………（一三）一六
勅三七二 朝鮮總督府地方官官制中改正…………（三）三
勅三七三 高等官官等俸給令中改正…………（三）三
勅三八七 朝鮮總督府林業試驗場官制…………（三）二
勅三九〇 郵便貯金利子割合ノ件中改正…………（一七）八
勅四一〇 勤勉手當給與令中改正…………（三）二六
勅四一四 高等官官等俸給令中改正…………（三）三
勅四一九 同上…………（三）三
勅四二五 朝鮮總督府視學官特別任用令中改正…………（三）二六
勅四二六 朝鮮總督府事務官等ノ特別任用ニ關スル件中改正…………（三）二六
勅四二七 朝鮮軍人ニ關スル件中改正…………（三）三
勅四二九 朝鮮總督府部內臨時職員設置制中改正…………（三）二
勅四三一 陸軍准士官下士ヲ判任文官ニ任用ノ件…………（三）二七
勅四三二 海軍准士官及下士官ヲ判任文官ニ任用ノ件…………（三）二七
勅四三五 高等官官等俸給令中改正…………（三）三
勅四四〇 監獄官吏ノ功勞記章ニ關スル件…………（四）一
勅四五四 朝鮮總督府稅關官制中改正…………（三）一五
勅四五五 高等官官等俸給令中改正…………（三）一四
勅四五六 奏任文官特別任用令中改正…………（三）二六
勅四五七 朝鮮總督府稅關職員服制中改正…………（三）一
勅四六二 統計局官制…………（三）三
勅四六九 高等官官等俸給令中改正…………（三）一四
勅四七二 軍需調查令中改正…………（一三）一四
勅四七三 文官任用令中改正…………（三）二七
勅四七六 拓殖事務局官制…………（三）三
勅四七七 大正二年勅令第二百六十二號任用分限又ハ官等ノ初敍陞敍ノ規定ヲ適用セサル文官ニ關スル件中改正…………（三）二七
勅四八六 高等官官等俸給令中改正…………（三）一四
勅四九〇 同上…………（三）一四
勅四九九 裁判所構成法中改正法律ノ一部施行期日…………（一三）一
勅五一二 信託業法等施行期日ノ件…………（一二）二
勅五一七 特許登錄令中改正…………（一六）一〇
勅五一八 特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手數料ノ件中改正…………（一六）一〇

內閣

告 二 軍需調查令ノ規定ニ依ル自動車報告規程…………（一三）三

宮內省

令 九 李王職判任官ノ定員中改正…………（三）三
令 一〇 王世子ニ分屬スル李王職員ノ定員中改正…………（三）三
令 一一 宮內省官吏准官吏恩給例施行規則同遺族扶助例施行規則中改正…………（四）一
令 一三 大正六年皇室令第十二號施行ニ關スル件中改正…………（四）二
令 一四 大正九年皇室令第七號施行ニ關スル件中改正…………（四）二

外務省

令 九 外國旅券規則中改正…………（六）一

陸軍省

令 一六 一年志願兵條例施行細則中改正…………（一三）三
令 一八 徵兵事務條例施行細則中改正…………（一三）一八
令 一九 一年現役兵條例施行細則中改正…………（一三）三
令 三五 同上…………（一三）二
令 三六 徵兵事務條例施行細則中改正…………（一三）二〇
令 三七 徵兵檢查規則中改正…………（一三）三

朝鮮師團

一九師召一一三 第十九師團演習召集簡閱點呼事務規程…………（一三）一

海軍省

令 二六 軍港要港規則中改正…………（一三）一

農商務省

令 二九 特許登錄令施行規則中改正…………（一六）一〇
令 三〇 特許法施行規則中改正…………（一六）二
令 三一 實用新案法施行規則中改正…………（一六）二
令 三二 意匠法施行規則中改正…………（一六）二
令 三三 商標法施行規則中改正…………（一六）二

遞信省

令 六 紋寃試驗規程…………（七）三
令 四二 大正十一年法律第十八號ニ依ル增加

令五七　恩給等ノ增加金額支給規則……（四）　一
令六六　外國郵便規則中改正……（一七）　四
外國郵便爲替規則中改正……（一七）　六

會計檢查院

達二一　計算證明規程中改正……（一一）　一三

朝鮮總督府

制八　辯護士規則中改正……（一三）　一
制九　地稅免除ノ期間ニ關スル件……（一一）　二
制一〇　獸疫豫防令中改正……（九）　四
制一一　紅蔘專賣令中改正……（一一）　一〇
制一二　朝鮮總督府裁判所令中改正……（三）　九
制一三　朝鮮民事令中改正……（一四）　一七
制一四　朝鮮刑事令中改正……（一四）　四三
令九〇　一般ノ競爭ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ニ關スル件……（一一）　三
令九一　薩哈嗹州派遣軍司令部所轄軍政部設置ニ係ル普通學校ノ兒童及卒業者ノ入學轉學ニ關スル件……（一五）　一
令九三　稅關所屬曳船使用規則中改正……（一七）　一三
令九四　煙草ノ製造及販賣ニ關スル件中改正……（一一）　一〇
令九五　朝鮮總督府裁判所ノ名稱、位置及管轄區域中改正……（三）　七
令九六　朝鮮總督府地方法院支廳ノ名稱、位置及事務取扱區域中改正……（三）　七
令九七　地方法院出張所ノ名稱、位置及事務取扱區域中改正……（三）　八
令九八　朝鮮總督府供託局ノ名稱及位置中改正……（三）　一〇
令九九　水稻採種畓補助規程……（六）　一
令一〇〇　警察署ノ名稱、位置中改正……（三）　三
令一〇一　大正十一年法律第十八號施行手續……（四）　一
令一〇二　看護婦規則中改正……（九）　一
令一〇三　朝鮮總督府及所屬官署執務時間……（三）　一八
令一〇四　米穀檢查規則……（一六）　一
令一〇五　大豆檢查規則……（一六）　五
令一〇六　林野臺帳規則改正……（一〇）　一
令一〇七　朝鮮總督府稅關監吏ノ特別任用ニ關スル件……（三）　二六
令一〇八　關稅定率法第九條及第十條ノ施行ニ關スル件中改正……（一一）　五

令一〇九　紅蔘專賣令施行規則中改正……（一一）　一〇
令一一〇　公立幼稚園保姆ノ資格、俸給等ニ關スル件……（一五）　一
令一一一　行政執行令施行規則中改正……（九）　九
令一一三　水道上水保護規則中改正……（一〇）　二
令一一四　私立病院取締規則中改正……（九）　九
令一一五　寄附金品募集取締規則中改正……（九）　九
令一一六　教育效績者選奬規程……（一五）　一
令一一七　永代借地料ノ徵收ニ關スル件中改正……（一一）　二
令一一八　證券ヲ以テ納付シ得ル歲入ノ種目及其ノ納付ニ關スル制限中改正……（一一）　三
令一一九　判任官ノ待遇ヲ受クル朝鮮總督府道消防手ノ懲戒ニ關スル件……（一一）　二七
令一二〇　獸疫豫防令施行規則中改正……（九）　四
令一二一　朝鮮總督府行政講習所規程……（三）　一
令一二二　郵便貯金規則中改正……（一七）　八
令一二三　朝鮮醫師會規則……（九）　一
令一二四　面ニ關スル規程中改正……（八）　一
令一二八　金融組合業務監督規程中改正……（一六）　一
令一二九　關稅法、大正九年制令第十九號ノ違犯申告者賞與ニ關スル件……（一一）　五
令一三〇　在外研究員規程施行細則……（一五）　二
令一三一　檢疫委員及獸疫檢疫委員手當及旅費支給規程……（三）　一三
令一三二　朝鮮地方待遇職員ノ加俸及定員……（三）　四
令一三四　煙草賣捌規則中改正……（一一）　一〇
令一三五　本府所屬官署ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル件中改正……（四）　一
令一三六　關稅定率法第七條第十八號ニ依リ輸入稅ヲ免除スヘキ輸出貨物ノ容器指定ノ件中改正……（一一）　五
令一三七　船舶積量測度互認……（一七）　一三
令一三八　朝鮮總督府地方法院支廳ノ名稱、位置及事務取扱區域ノ件中改正……（三）　八
令一三九　電報規則中改正……（七）　九
令一四〇　西比利亞及北滿洲方面ト朝鮮トノ間ニ於テ取扱フ軍事郵便ノ件中改正……（一七）　一
令一四一　朝鮮總督府及所屬官署雇員規程……（三）　一七
令一四二　朝鮮總督府及所屬官署ノ囑託員ニ關シ朝鮮總督府及所屬官署雇員規程準用ノ件……（三）　一八

令一四三　朝鮮艀艘試驗規程……（一七）　一三
令一四四　朝鮮造船規程改正……（一七）　一五
令一四五　朝鮮木船檢查規程改正……（一七）　一五
令一四六　鐵道運輸規程中改正……（一七）　二
令一四七　朝鮮船舶檢查規程中改正……（一七）　三
令一四八　朝鮮船燈信號器救命具取締規則……（一七）　一六
令一四九　朝鮮船燈信號器救命具試驗檢定規程中改正……（一七）　一三
令一五〇　朝鮮船鑑札規則中改正……（一七）　三
令一五一　朝鮮總督府裁判所令中改正ノ件施行期日……（三）　九
令一五二　朝鮮民事令中改正ノ件施行期日……（一四）　一七
令一五四　朝鮮戸籍令……（一四）　一八
令一五五　關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則中改正……（一一）　六
令一五六　朝鮮戸籍手數料規則……（一四）　四二
令一五七　郵便爲替規則中改正……（一七）　七
令一五八　保稅地域間ノ運送通路ニ關スル件中改正……（一一）　六
訓三一　朝鮮總督府判事、檢事ノ朝鮮總督府裁判所內ニ於ケル席次ノ件中改正……（三）　七
訓三三　戸口調查規程……（九）　七
訓三五　臨時恩賜金ノ收支ニ關スル規程中改正……（八）　一
訓三六　月額旅費ヲ支給スヘキ森林保護區ノ件中改正……（三）　一三
訓三七　永代借地料ノ徵收手續中改正……（一一）　二
訓三八　被服代料支給規程……（三）　一七
訓四〇　朝鮮總督府及所屬官署勤勉手當支給規則改正……（三）　一六
訓四一　朝鮮總督府事務分掌規程中改正……（三）　一
訓四二　國稅及國有地小作料竝地方費賦課金交付金額報告ニ關スル件中改正……（一一）　三
訓四五　國有、收用又ハ公用、公共用ノ土地ニ關スル通知ノ件中改正……（一一）　二
訓四七　光濟丸乘組員ニ支給スル食卓料支給ノ件中改正……（三）　一七
訓四九　朝鮮總督府報告例中改正……（五）　一
訓五〇　朝鮮總督府事務分掌規程中改正……（三）　一
訓五一　朝鮮情報委員會規程中改正……（三）　二
訓五二　朝鮮總督府統計事務取扱方中改正……（五）　一

訓五五　警備船取扱規程……（九）　四
訓五七　朝鮮總督府林業試驗場事務分掌規程……（三）　二
訓五八　國稅徵收ニ關スル帳簿……（一一）　一
訓六〇　自動車檢查施行心得……（九）　九
訓六一　自動車運轉手試驗施行心得……（九）　一〇
訓六二　面ノ歲入歲出豫算決算竝財務ニ關スル簿書樣式ノ件中改正……（八）　一
訓六三　出港稅取扱手續中改正……（一一）　五
訓六四　朝鮮史編纂委員會規程……（三）　三
訓六五　外國貨物鐵道運送手續中改正……（一七）　二一
訓六六　古物商取締ニ關スル法令取扱手續……（九）　一〇
訓六七　質屋取締ニ關スル法令取扱手續……（九）　一一
訓六八　朝鮮總督府裁判所及檢事局處務規程中改正……（五）　一
訓六九　郵便物通關手續中改正……（一一）　六
告一四四　電報ノ別使配達料艀船配達料及電報規則第七十八條第二項ノ地域ノ件中改正……（一七）　九
告一五〇　指定金融組合中改正……（一六）　一
告一五二　朝鮮辯護士試驗規則ニ依ル學校認定……（一三）　一
告一五七　輸入郵便物保稅地域搬入手續……（一一）　五
告一五九　林野ニ關スル事務ヲ取扱フ府郡指定……（一〇）　一
告一六六　朝鮮總督府供託局ノ預金取扱店中改正……（三）　一
告一七五　移出牛檢疫規則第十條ノ內地海港中改正……（九）　四
告一八二　指定金融組合中改正……（一六）　一
告一八五　桑風警報信號所設置……（一五）　一四
告一八六　水底電信線路區域……（一七）　九
告一九二　森林保護區、森林保護區域及森林保護員駐在所設置ノ件中改正……（一〇）　二
告一九五　指定金融組合中改正……（一六）　一
告一九六　郵便局所取扱事務中改正……（三）　四
告一九七　森林保護區、森林保護區域及森林保護員駐在所設置ノ件中改正……（一〇）　二
告二〇一　林野ニ關スル事務ヲ取扱フ府郡指定……（一〇）　一
告二〇二　地稅令第八條第一號ノ公共團體指定ノ件中改正……（一一）　二
告二〇六　指定金融組合中改正……（一六）　一

告二〇九　電話加入區域中改正……（一七）　一〇
告二一二　輸入製造煙草ニ貼附スル小形證票……（一一）　一〇
告二一四　指定金融組合中改正……（一六）　一
告二二〇　暴風警報信號所設置……（一五）　一四
告二二三　漁業令第十五條ニ依ル漁業監督官吏指定ノ件中改正……（一六）　六
告二二六　船舶積量測度互認……（一七）　一三
告二三六　軍事郵便ノ取扱開始ノ件中改正……（一七）　一
告二三七　道界ニ於ケル渡船管理廳指定……（一七）　二一
告二四一　西比利亞方面ニ發著スル軍事郵便物ノ取扱廢止……（一七）　一
告二四三　林野ニ關スル事務ヲ取扱フ郡指定……（一〇）　一
告二四八　私立學校教員ノ資格及員數ニ關スル規程ニ依リ私立學校ノ教員タル資格ヲ有スル者指定ノ件中改正……（一五）　二
告二五六　朝鮮總督府商品陳列館觀覽時間改正……（一六）　九
告二五八　朝鮮總督府醫院及道慈惠醫院收價規程中改正……（一一）　一三
告二六〇　森林保護區、森林保護區域及森林保護員駐在所設定ノ件中改正……（一〇）　二
告二六一　漁業令施行規則第三十一條ニ依ル第一種許可漁業船數定限ノ件中改正……（一六）　六
告二六七　煙草元賣捌人等級、割引步合及制限額改正……（一一）　一〇
告二七四　電話加入區域指定地及土地ノ區別中改正……（一七）　一〇
告二七七　林野ニ關スル事務ヲ取扱フ郡指定……（一〇）　一
告二七九　停車場揭示電報ノ揭示ヲ請求シ得ル鐵道停車場名中改正……（一七）　九
專公一五　煙草元賣捌人等級……（一一）　二

大正十二年

皇室令

皇二　宮內官官等俸給令中改正……（三）　一六
皇三　宮內省官制中改正……（三）　一三
皇七　宮內官官等俸給令中改正……（三）　一六
皇八　宮內官任用令中改正……（三）　二七

法律

法八　所得稅法中改正……（一一）　二
法一二　印紙法中改正……（一一）　四
法一四　朝鮮事業公債法中改正……（一一）　一四
法二三　朝鮮私設鐵道補助法中改正……（一七）　一三
法二五　共通法中改正……（一）　一
法二九　所得稅法中改正……（一一）　一三
法四一　同上……（一一）　三
法四五　郵便貯金法中改正……（一七）　八
法四八　恩給法……（四）　二
法四九　大正十年法律第百二號中改正……（四）　一〇
法五一　辯護士法中改正……（三）　一

勅令

勅一六　朝鮮總督府部內臨時職員設置制中改正……（三）　二
勅一七　朝鮮總督府事務官等ノ特別任用ニ關スル件中改正……（三）　一七
勅一八　朝鮮總督府監獄職員服制中改正……（三）　一
勅二三　明治二十九年法律第十三號ニ於テ通算スルコトヲ得ヘキ文官ニ關スル件……（四）　二
勅二四　朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ滿洲ニ在ル陸軍軍人ノ服役事務ニ關スル件中改正……（一三）　一三
勅二五　陸軍召集令中改正……（一三）　一〇
勅三二　巡查看守退隱料及遺族扶助料法施行令中改正……（四）　二
勅三三　混合仲裁裁判所ノ囑託ニ因リ司法裁判所ノ爲ス法律上ノ補助ニ關スル件中改正……（一三）　一
勅三六　高等官官等俸給令中改正……（三）　一四
勅三七　徵兵事務條例中改正……（一三）　一八
勅五八　鎭海要港境域……（一三）　一
勅七七　高等官官等俸給令中改正……（三）　一四
勅八九　陸軍補充令中改正……（一三）　一六
勅九六　高等官官等俸給令中改正……（三）　一四
勅一一〇　同上……（三）　一四
勅一一一　奏任文官特別任用令中改正……（三）　二六
勅一一五　高等官官等俸給令中改正……（三）　一四
勅一二二　同上……（三）　一四
勅一二五　聘用セラレタル官吏及官吏待遇者ニ關スル件中改正……（三）　二七
勅一四七　高等官官等俸給令中改正……（三）　一四
勅一五一　同上……（三）　一五
勅一五五　朝鮮總督府諸學校官制中改正……（三）　一三
勅一九三　高等官官等俸給令中改正……（三）　一五

勅一九四　奏任文官特別任用令中改正……（三）　一六
勅一九五　高等試驗委員及普通試驗委員官制中改正……（三）　一七
勅二〇一　朝鮮總督府監獄官制中改正……（三）　一〇
勅二〇二　朝鮮總督府勸業模範場官制中改正……（三）　二
勅二〇三　朝鮮總督府中央試驗所官制中改正……（三）　二
勅二〇四　朝鮮總督府高等土地調査委員會官制中改正……（三）　一五
勅二〇五　高等官官等俸給令中改正……（三）　一五
勅二〇六　朝鮮總督府監獄醫教誨師及教師ノ官等等級配當ノ件中改正……（三）　一六
勅二〇七　奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄職員給與令中改正……（三）　一六
勅二〇八　朝鮮總督府監獄官吏ノ功勞記章ニ關スル件……（四）　一
勅二一二　高等官官等俸給令中改正……（三）　一五
勅二一四　裁判所構成法中改正法律ノ一部施行期日……（一二）　一
勅二二三　朝鮮總督府獸疫血清製造所官制中改正……（三）　二
勅二三六　印紙ヲ以テスル歳入金納付ニ關スル件中改正……（一二）　三
勅二三七　支那ノ生産ニ係ル物品ノ輸入税率ニ關スル件中改正……（一二）　一〇
勅二四〇　高等官官等俸給令中改正……（三）　一五
勅二四六　同上……（三）　一五
勅二四八　朝鮮總督府專賣局官制中改正……（三）　一五
勅二五〇　朝鮮總督府裁判所職員定員令中改正……（三）　九
勅二五一　朝鮮總督府供託局官制中改正……（三）　一〇
勅二五二　朝鮮總督府諸學校官制中改正……（三）　三
勅二六一　朝鮮總督府中樞院官制中改正……（三）　三
勅二六五　高等官官等俸給令中改正……（三）　一五
勅二七四　朝鮮總督府部内臨時職員設置制中改正……（三）　二
勅二八〇　朝鮮總督府遞信官署官制中改正……（三）　五
勅二八一　朝鮮總督府税關官制中改正……（三）　五
勅二八二　高等官官等俸給令中改正……（三）　一五
勅二八三　勤勉手當給與令中改正……（三）　一六
勅二八四　朝鮮總督府税關職員服制中改正……（三）　一
勅二八七　明治四十四年法律第五十八號施行規則中改正……（一一）　三

內閣
令三　高等試驗令施行細則中改正……（三）　一七

陸軍省
令一　陸軍軍人服役令施行規則中改正……（一二）　一三
令二　陸軍召集令施行細則中改正……（一二）　一〇
令三　朝鮮、臺灣、樺太、關東州、滿洲演習召集簡閱點呼施行規則中改正……（一二）　三
令四　徵兵事務條例施行細則中改正……（一二）　九
令一〇　憲兵隊管區中改正……（三）　三
令一一　陸軍補充令施行規則中改正……（一二）　一七
達一　豫備役後備役上長官士官准士官下士兵卒、歸休兵、補充兵又ハ一年現役兵終末試驗及第者ヲ勤務演習ノ爲ニ召集シタル場合其ノ教育主管者及勤務演習成績ノ報告竝教育課目等ニ關スル件……（一二）　四

海軍省
令三　軍港要港規則中改正……（一二）　一

文部省
令一　朝鮮教育令ニ依リ設置セル學校ノ生徒兒童竝卒業者ノ他ノ學校ヘ入學轉學ニ關スル規程……（一五）　一
告三四　朝鮮教育令ニ依ル中學校、高等普通學校、師範學校、專門學校ヲ文官任用令ニ依リ認定……（一五）　一

遞信省
令二　外國郵便規則中改正……（一七）　四
令九　外國郵便爲替規則中改正……（一七）　六
令一四　外國電報規則中改正……（一七）　九
令一九　同上……（一七）　一〇
令二五　外國郵便規則中改正……（一七）　六
令二九　外國郵便爲替規則中改正……（一七）　七
令三四　外國電報規則中改正……（一七）　一〇
令四三　外國郵便規則中改正……（一七）　六

朝鮮總督府
制一　朝鮮水産會令……（一六）　七
制二　朝鮮出港税令中改正……（一一）　六
制三　砂糖消費税令中改正……（一一）　三
制四　朝鮮公有水面埋立令……（一〇）　二
制五　朝鮮ニ移入スル物品ノ移入税等ニ關スル件中改正……（一一）　七
制六　朝鮮ト内地、臺灣、樺太又ハ南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件……（一一）　七
制七　酒税、煙草消費税等ノ徵收ニ關スル件中改正……（一一）　三
制八　朝鮮間接國税犯則者處分令中改正……（一一）　一〇
制九　朝鮮種痘令……（九）　二
制一〇　朝鮮電氣測定令……（一七）　三四
制一一　印紙税令中改正……（一一）　四
令一　郵便貯金規則中改正……（一七）　八
令三　砂糖消費税令施行規則中改正……（一一）　四
令四　電報規則中改正……（一七）　九
令五　郵便爲替證書、郵便貯金拂戻證書及郵便振替貯金拂出證書ヲ支那トノ約定ニ依ル郵便爲替券ニ組替方ニ關スル件……（一七）　八
令六　朝鮮ト内地、臺灣、樺太及支那間郵便規則中改正……（一七）　六
令七　特許法、實用新案法、意匠法及商標法ノ審査竝審判ニ關スル書類ヲ郵便ニ依リ送達スル場合ノ取扱方……（一七）　一
令八　鑛業ニ關スル技術官派遣規則……（一六）　六
令九　朝鮮鑛業令施行規則中改正……（一六）　六
令一〇　物件賣拂代金延納規則中改正……（一一）　一三
令一一　請願通信施設規則……（一七）　一
令一二　鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於ケル外國船舶ノ出入及運送ニ關スル件……（一七）　一三
令一三　「モルヒネ」、「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル件中改正……（九）　一
令一四　商業登記取扱規則中改正……（一四）　一七
令一五　法人及夫婦財産契約登記取扱規則中改正……（一四）　一八
令一六　金融組合登記取扱規則中改正……（一四）　一八
令一七　電報規則中改正……（一七）　九
令一八　朝鮮總督府巡査、看守退隱料及遺族扶助料取扱ニ關スル件中改正……（四）　二
令二〇　朝鮮總督府判任官以上ノ待遇ヲ受クル囑託員、雇員及傭人外國旅費規程……（二）　二五
令二一　朝鮮總督府判任官以上ノ待遇ヲ受クル囑託員、雇員及傭人、南洋群島關東州南滿洲旅費規程……（二）　二四

令二二　朝鮮官有財産管理規則ニ依ル重要物産及製造業者、造船業者ノ資格ニ關スル件中改正……（一一）　一三
令二三　土地改良事業補助規則中改正……（一〇）　一
令二四　炭疽、鼻疽及牛疫ニ關スル規定準用ノ件改正……（九）　四
令二五　面制施行規則中改正……（八）　四
令二七　朝鮮水産會令施行規則……（一六）　八
令二八　「チノチレカンバ」（檀木）輸移出取締ニ關スル件……（一一）　七
令三〇　朝鮮總督府道消防手服制……（三）　一
令三一　朝鮮總督府道消防手給與品及貸與品規則……（三）　一八
令三二　朝鮮總督府專賣局現業員共濟組合規則中改正……（四）　一
令三四　郵便規則中改正……（一七）　二
令三五　約束郵便取扱承認規則……（一七）　三
令三六　郵便私書函使用規則中改正……（一七）　三
令三七　集金郵便振替貯金拂込規則中改正……（一七）　八
令三八　郵便爲替規則中改正……（一七）　八
令三九　外國郵便、外國郵便爲替、外國電信ノ取扱ニ關スル件中改正……（一七）　六
令四〇　電報規則中改正……（一七）　九
令四一　時間外電報ノ取扱ヲ爲サザル件中改正……（一七）　九
令四二　不動産其ノ他登記簿ノ謄本、抄本ノ請求等ニ關スル手數料及私署證書確定日附ノ手數料ニ關スル件中改正……（一四）　一八
令四三　府尹又ハ面長ノ管掌スル戸籍事務ノ費用負擔ニ關スル件……（一四）　四二
令四四　警察署ノ名稱、位置及管轄區域中改正……（三）　三
令四五　酒税令施行規則中改正……（一一）　三
令四六　砂糖消費税令施行規則中改正……（一一）　四
令四七　大正九年制令第十九號施行ニ關スル件中改正……（一一）　八
令四八　朝鮮ト内地、臺灣、樺太又ハ南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル制令施行規則……（一一）　八
令四九　大正八年制令第十一號施行ニ關スル件中改正……（一一）　三
令五一　朝鮮總督府道慈惠醫院ノ名稱及位置ノ件中改正……（三）　四
令五二　陸接國境ニ於ケル貨物ノ輸出入ニ關スル件中改正……（一一）　八
令五三　植栽又ハ接木用果樹櫻樹竝其ノ枝、幹及根ノ輸移入取締ニ關スル件中改正……（一一）　九
令五四　税關支署ノ名稱、位置及管轄區域……（三）　五
令五五　税關出張所ノ名稱、位置……（三）　六
令五六　税關監視署ノ名稱、位置及管轄區域中改正……（三）　七
令五七　奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄職員定員中改正……（三）　九
令五八　郡管轄區域中變更……（三）　四
令五九　朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査給與品及貸與品規則中改正……（三）　一八
令六一　健康診斷又ハ檢診ノ爲要スル費用負擔ノ件……（九）　一
令六二　監獄及監獄分監ノ名稱、位置中改正……（三）　九
令六三　日本船舶ノ不開港出入ニ關スル件……（一七）　一三
令六四　朝鮮民事令中改正規定施行期日……（一四）　一七
令六五　高等普通學校及女子高等普通學校ノ師範科生徒ニ學資ヲ給與スルノ件……（一五）　一
令六七　小學校及普通學校教員試驗規則中改正……（三）　一七
令六八　地方文廟職員ニ關スル件……（一五）　二
令六九　中等教員委託生規則中改正……（一五）　四
令七〇　朝鮮總督府觀測所及同附屬測候所ノ名稱及位置中改正……（三）　三
令七一　看護婦規則中改正……（九）　一
令七二　監獄及監獄分監ノ名稱、位置ノ件中改正……（三）　一〇
令七三　奏任及判任待遇朝鮮總督府監獄職員定員中改正……（三）　九
令七六　朝鮮種痘令施行規則……（九）　三
令七七　朝鮮總督府營林支廠及營林廠出張所ノ名稱、位置及分掌區域中改正……（三）　一〇
令七八　警察署ノ名稱、位置及管轄區域中改正……（三）　三
訓二　朝鮮總督府及所屬官署會計事務章程中改正……（一一）　二
訓五　朝鮮總督府事務分掌規程中改正……（三）　一
訓六　「モルヒネ」、「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ關スル府令取扱手續中改正……（九）　二
訓七　鮮滿鐵道聯絡輸送貨物通關手續中改正……（一一）　七
訓八　朝鮮總督府會計監査規程中改正……（一一）　一四
訓一〇　朝鮮總督府及所屬官署職員朝鮮語獎勵規程中改正……（三）　一七
訓一一　朝鮮總督府遞信局事務分掌規程中改正……（三）　五
訓一五　朝鮮戸籍令施行手續……（四）　三〇
訓一六　外國貨物鐵道運送手續中改正……（一一）　三
訓一七　鮮滿鐵道聯絡輸送貨物通關手續中改正……（一一）　七
訓一八　郵便物通關手續中改正……（一一）　六
訓一九　警察官署及税關監視署取扱ニ係ル積荷目錄送付方……（一一）　一〇
訓二〇　朝鮮總督府事務分掌規程中改正……（三）　一
訓二一　朝鮮總督府税關事務分掌規程中改正……（三）　七
訓二三　朝鮮總督府勸業模範場事務分掌規程中改正……（三）　二
訓二四　朝鮮總督府巡査及朝鮮總督府道巡査給與品及貸與品規則取扱手續……（三）　一八
訓二七　間島、琿春、安東地方ヘ出張スル者ノ旅費ニ關スル件改正……（三）　二五
訓二八　朝鮮總督府警察官講習所規程中改正……（三）　四
告三　森林保護區、森林保護區域及森林保護員駐在所設定ノ件中改正……（一〇）　二
告七　海藻及水産製品ノ檢査ヲ行フ税關及檢査場ノ位置中改正……（一六）　六
告一三　電話加入區域、指定地及土地ノ區別中改正……（一七）　一〇
告二三　看護婦規則ニ依リ看護婦養成所指定……（九）　一
告二四　林野ニ關スル事務ヲ取扱フ府郡……（一〇）　一
告三四　セブランス聯合醫學專門學校ヲ醫師規則ニ依リ指定……（一五）　一一
告四九　電話加入區域、指定地及土地ノ區別中改正……（一七）　一〇

告五七	朝鮮ヨリ内地、臺灣、樺太及關東廳管內ニ宛テタル郵便物ノ特殊取扱方及現金ノ取立ニ關スル件中改正……	（一七）	四
告五八	郵便規則第三十三條ノ二ニ依リ取扱ヲ爲ササル郵便物ノ特殊取扱ノ範圍……	（一七）	四
告六一	專賣局出張所名稱及位置中改正……	（三）	五
告七八	暴風警報信號所設置……	（一五）	一四
告九三	朝鮮總督府官報ノ發賣竝廣告揭載ニ關スル件……	（五）	一
告九四	教科用圖書等ノ翻刻及發行ニ關スル件……	（一五）	一四
告九七	無線電信機ヲ裝置スル電信局所ノ呼出符號……	（一七）	九
告九八	電話加入區域指定地及土地ノ區別中改正……	（一七）	一二
告九九	電話架設料ノ件中改正……	（一七）	一二
告一〇〇	度量衡器販賣價格……	（一六）	一二
告一〇四	朝鮮美術展覽會規程中改正……	（一五）	一四
告一二一	官立師範學校生徒ノ學資及其ノ支給方法……	（一五）	二
告一二二	朝鮮民曆ノ製造竝販賣ニ關スル件……	（一五）	一四
告一三一	朝鮮美術展覽會規程中改正……	（一五）	一四
告一四〇	市街地稅令ノ市街地追加……	（一一）	二
告一四一	朝鮮總督府簡易氣象觀測規程ニ依リ簡易氣象觀測ヲ施行スヘキ府郡中改正……	（一五）	一四
告一四五	明治四十三年勅令第三百九十六號第五條ニ依ル認定學校追加……	（一五）	一二
告一五四	電話加入區域指定地及土地ノ區別中改正……	（一七）	一二
告一六一	林野ニ關スル事務ヲ取扱フ府郡……	（一〇）	一
專公四	專賣支局、專賣支局出張所派出所位置中改正……	（三）	五

〔朝〕

大正十二年十月二十三日印刷
大正十二年十月二十五日發行

朝鮮總督府

發行者　大谷仁兵衞
東京市京橋區加賀町九、十、十一番地

印刷者　井田耕治
東京市京橋區加賀町九、十、十一番地

印刷所　行政學會印刷所第一工場
東京市外平塚村戸越五百五番地

發行所　帝國地方行政學會
朝鮮京城府長谷川町九十三地番

大正十二年六月二十二日印刷
大正十二年六月二十五日發行

發行所 [illegible]

印刷所 [illegible]

印刷者 [illegible]

發行者 [illegible]

[illegible]會所

14
23

17 3N-1

14,7
231

蔵書